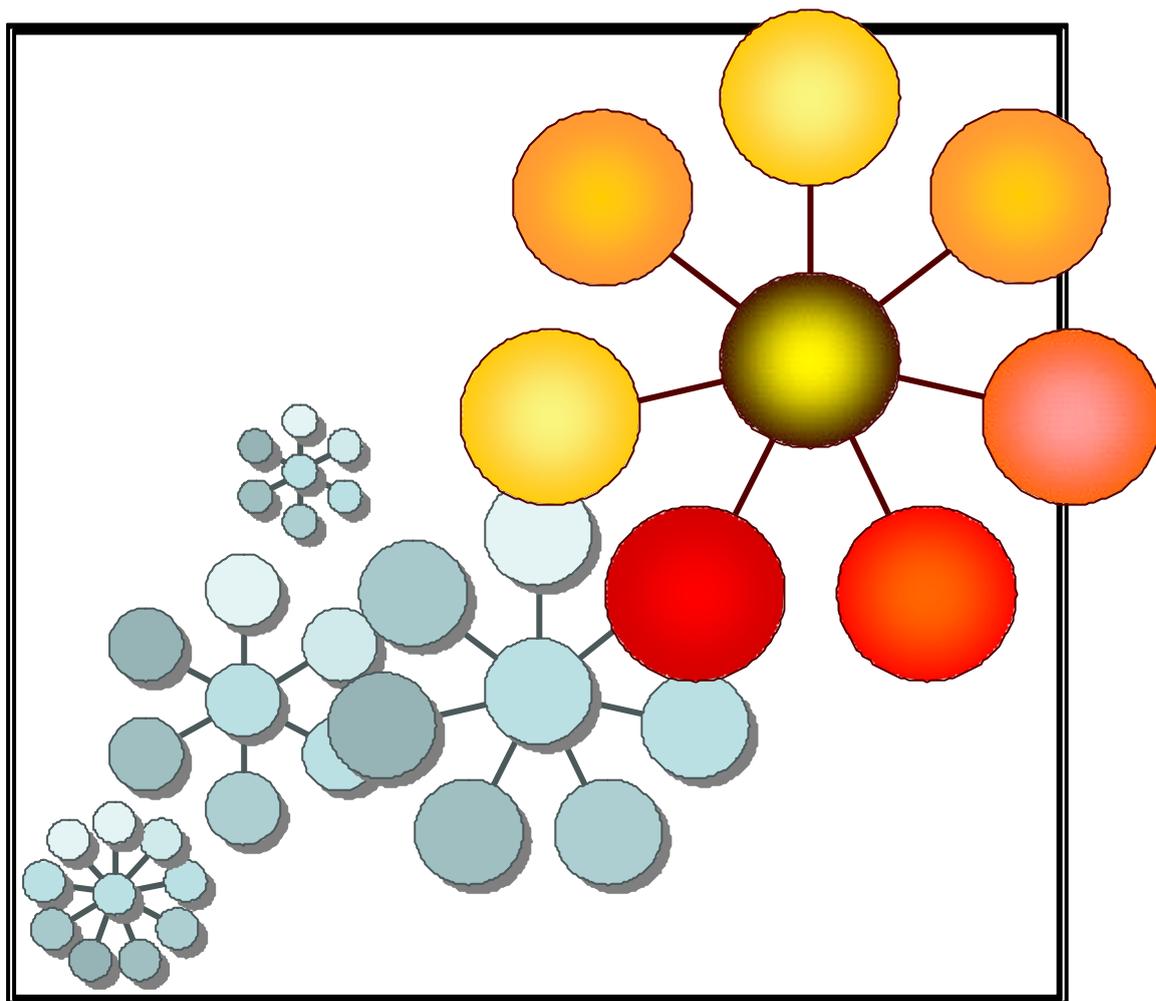


# 平成 14 年工業統計速報



平成 15 年 9 月

経済産業省経済産業政策局調査統計部

# 目 次

## 利用上の注意

## 概 況

|   |    |
|---|----|
| 1. 従業者10人以上の製造事業所の動向                    | 1  |
| 2. 産業別の状況（従業者10人以上の事業所）                 | 2  |
| （1）事業所数                                 | 2  |
| （2）従業者数                                 | 4  |
| （3）製造品出荷額等                              | 5  |
| （4）付加価値額                                | 8  |
| （5）年末在庫額（従業者30人以上の事業所）                  | 10 |
| （6）有形固定資産取得額（建設仮勘定の増減を含む）（従業者30人以上の事業所） | 11 |
| （7）リース契約額及び支払額（従業者30人以上の事業所）            | 12 |
| 3. 都道府県別の状況（従業者10人以上の事業所）               | 13 |
| （1）事業所数                                 | 13 |
| （2）従業者数                                 | 14 |
| （3）製造品出荷額等                              | 15 |
| （4）付加価値額                                | 16 |
| （5）従業者1人当たり現金給与総額                       | 18 |

## <トピックス>

|                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| 事業所の開業・廃業・継続状況（従業者10人以上の事業所）        | 37  |
| 1. 開業等の割合・廃業等の割合、継続事業所の状況           | 37  |
| 2. 継続事業所の出荷額前年比の分布状況                | 39  |
| 我が国製造業の産業集中度の推移と地域別の特徴（従業者4人以上の事業所） | 44  |
| 1. 製造業の産業集中度の推移                     | 44  |
| 2. 産業別の特徴とその動向                      | 45  |
| 3. 産業別の集中度の推移                       | 47  |
| 4. 地域別にみた製造業の動向                     | 52  |
| （1）政令市等、市、町村別の動向                    | 52  |
| 事業所数                                | 52  |
| 従業者数                                | 54  |
| 製造品出荷額等                             | 56  |
| （2）市区町村別の動向                         | 58  |
| 事業所数                                | 58  |
| 従業者数                                | 58  |
| 製造品出荷額等                             | 60  |
| （3）経済産業局別の製造品出荷額等の動向                | 62  |
| 北海道地域                               | 65  |
| 東北地域                                | 66  |
| 関東地域                                | 68  |
| 中部地域                                | 70  |
| 近畿地域                                | 72  |
| 中国地域                                | 74  |
| 四国地域                                | 76  |
| 九州地域                                | 78  |
| 5. 産業中分類別にみた市区町村別の出荷額の動向            | 80  |
| 6. まとめ                              | 106 |

<< 統計表（従業者4人以上の事業所）>>

|      |  |   |
|------|--|---|
| 第1表  | 時系列表（事業所数、従業者数、現金給与総額、原材料使用額等、<br>製造品出荷額等、付加価値額、有形固定資産取得額） | 1 |
| 第2表  | 産業中分類別 事業所数、従業者数（従業者4人以上の事業所）                              | 2 |
| 第3表  | ” 現金給与総額、原材料使用額等（ ” ）                                      | 2 |
| 第4表  | ” 製造品出荷額等、付加価値額（ ” ）                                       | 3 |
| 第5表  | ” 年末在庫合計額、製造品年末在庫額（従業者30人以上の事業所）                           | 3 |
| 第6表  | ” 半製品・仕掛品年末在庫額、原材料・燃料年末在庫額（ ” ）                            | 4 |
| 第7表  | ” 有形固定資産取得額（ ” ）   | 4 |
| 第8表  | 従業者規模別 事業所数、従業者数（従業者4人以上の事業所）                              | 5 |
| 第9表  | ” 現金給与総額、原材料使用額等（ ” ）                                      | 5 |
| 第10表 | ” 製造品出荷額等、付加価値額（ ” ）                                       | 5 |
| 第11表 | ” 有形固定資産取得額（従業者30人以上の事業所）                                  | 5 |
| 第12表 | 都道府県別 事業所数、従業者数（従業者4人以上の事業所）                               | 6 |
| 第13表 | ” 製造品出荷額等、付加価値額（ ” ）                                       | 7 |
| 第14表 | 製造品出荷額等の都道府県別順位及び主要産業の概況（ ” ）                              | 8 |

## 利用上の注意

1. 本速報は、平成14年12月31日現在で実施した工業統計調査甲・乙調査による従業者4人以上の事業所の調査結果のうち、従業者10人以上の製造事業所（以下、「事業所」という）について集計、分析を行ったものである。なお、巻末統計表は従業者4人以上の事業所（在庫額、有形固定資産取得額は従業者30人以上の事業所）である。

2. 各集計項目は、以下のとおり。

従業者数 = 常用労働者数 + 個人事業主及び無給家族従業者数

現金給与総額 = 常用労働者に支払われた給与額 + その他の給与額

原材料使用額等 = 原材料使用額 + 燃料使用額 + 電力使用額 + 委託生産費

製造品出荷額等 = 製造品出荷額 + 加工賃収入額 + 修理料収入額  
+ 製造工程から出たくず及び廃物の出荷額 + その他の収入額

付加価値額 = 製造品出荷額等 + (製造品年末在庫額 - 製造品年初在庫額)  
+ (半製品及び仕掛品年末在庫額 - 半製品及び仕掛品年初在庫額)  
- (内国消費税額 + 推計消費税額) - 原材料使用額等 - 減価償却額

粗付加価値額 = 製造品出荷額等 - (内国消費税額 + 推計消費税額) - 原材料使用額等

有形固定資産取得額 = 土地の取得額 + 有形固定資産（土地を除く）の取得額  
+ 建設仮勘定の年間増減

3. 各項目の金額は、単位未満を四捨五入しているため、積み上げと合計が一致しない場合がある。なお、比率は、小数点以下第2位で四捨五入した。

統計表中、「-」は該当数値なし、「0」は四捨五入による単位未満、「」は数値がマイナスであることを表している。

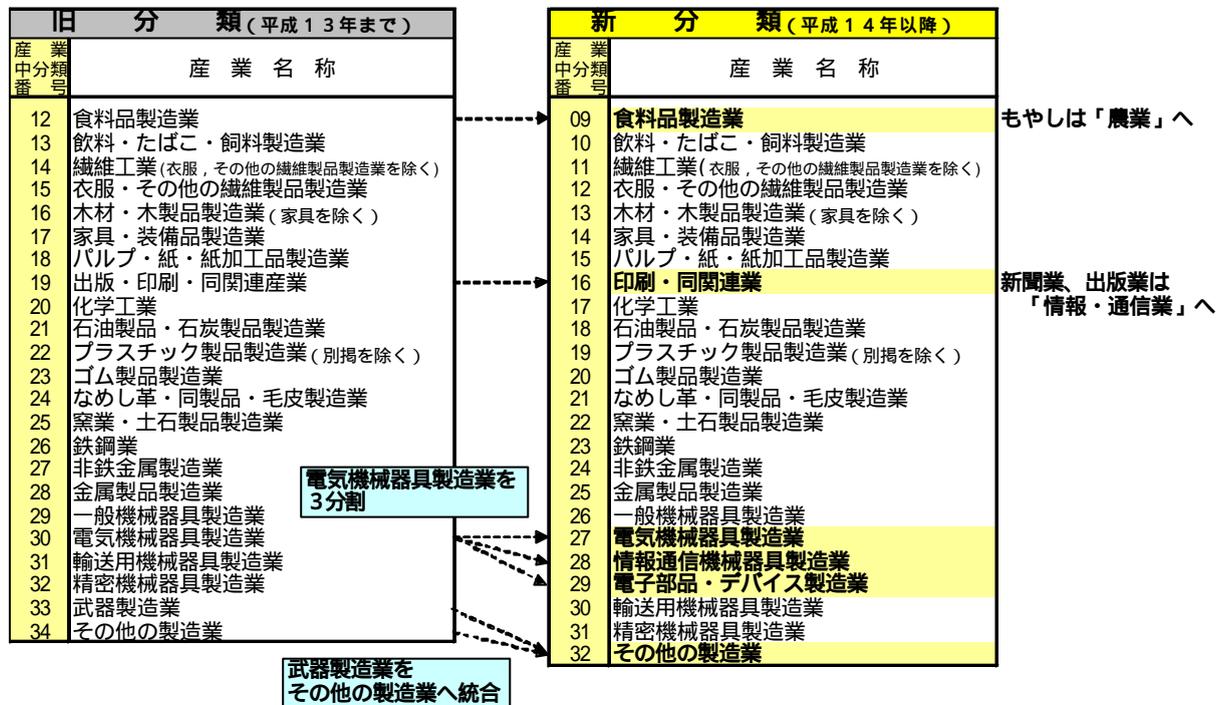
「x」は1又は2の事業所に関する数値で、これをそのまま掲げると個々の申告者の秘密が漏れるおそれがあるため秘匿した箇所であるが、3以上の事業所に関する数値であっても、1又は2の事業所の数値が前後の関係から判明する箇所も同様とした。

4. 平成10年の前年比等については、事業所の捕そくを行ったため、時系列を考慮したもので計算している。

5. 産業分類について、日本標準産業分類の改訂に伴い変更した。

「もやし製造業」は大分類「A - 農業」へ、「新聞業」、「出版業」は、大分類「H - 情報通信業」と、製造業以外に移行した。

また、製造業内では、「電気機械器具製造業」は「電気機械器具製造業」、「情報通信機械器具製造業」、「電子部品・デバイス製造業」へ3分割し、「武器製造業」は「その他の製造業」へ統合している。



6. 表、グラフなどでの産業名の略称は、以下のとおり。

| 産業中分類名                   | 略称 | 産業中分類名            | 略称  |
|--------------------------|----|-------------------|-----|
| 09 食料品製造業                | 食料 | 21 なめし革・同製品・毛皮製造業 | 皮革  |
| 10 飲料・たばこ・飼料製造業          | 飲料 | 22 窯業・土石製品製造業     | 窯業  |
| 11 繊維工業(衣服, その他の繊維製品を除く) | 繊維 | 23 鉄鋼業            | 鉄鋼  |
| 12 衣服・その他の繊維製品製造業        | 衣服 | 24 非鉄金属製造業        | 非鉄  |
| 13 木材・木製品製造業(家具を除く)      | 木材 | 25 金属製品製造業        | 金属  |
| 14 家具・装備品製造業             | 家具 | 26 一般機械器具製造業      | 一般  |
| 15 パルプ・紙・紙加工品製造業         | 紙パ | 27 電気機械器具製造業      | 電気  |
| 16 印刷・同関連産業              | 印刷 | 28 情報通信機械器具製造業    | 情報  |
| 17 化学工業                  | 化学 | 29 電子部品・デバイス製造業   | 電子  |
| 18 石油製品・石炭製品製造業          | 石油 | 30 輸送用機械器具製造業     | 輸送  |
| 19 プラスチック製品製造業(別掲を除く)    | プラ | 31 精密機械器具製造業      | 精密  |
| 20 ゴム製品製造業               | ゴム | 32 その他の製造業        | その他 |

**問い合わせ先** 経済産業省経済産業政策局調査統計部産業統計室  
 電話 03-3501-1511(代表) 内線2892  
 電話 03-3501-9945(直通)

統計アクセス用URL  
<http://www.meti.go.jp/statistics/>

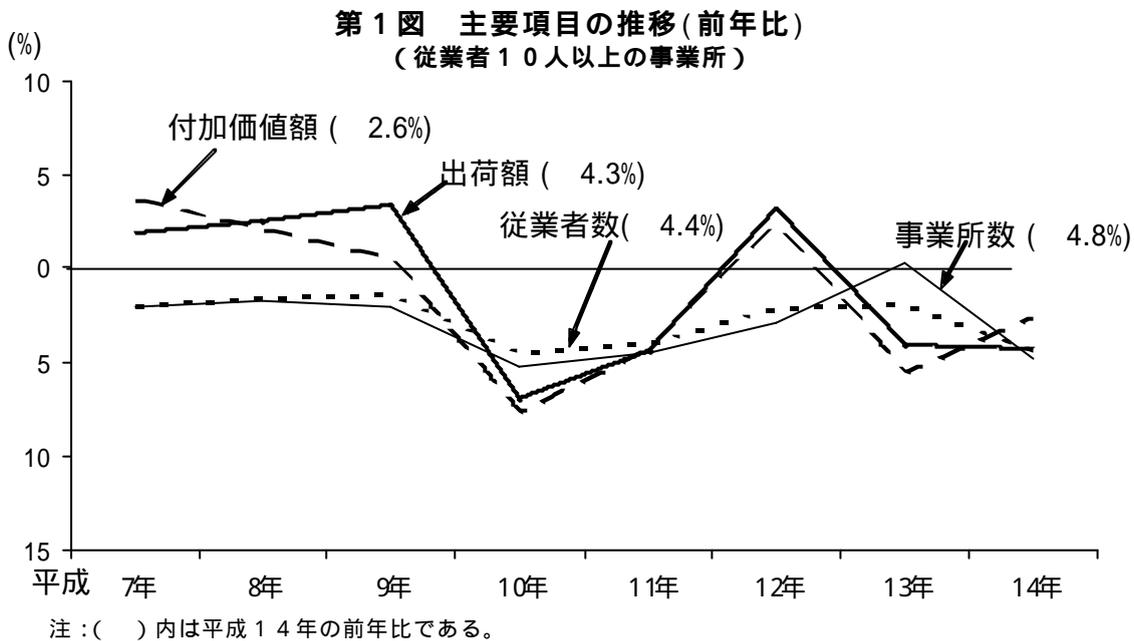
本速報は再生紙を使用しています

# 概 況

## 1. 従業者10人以上の製造事業所の動向

- 出荷額、付加価値額は2年連続の減少、  
従業者数は11年連続の減少 -

平成14年の従業者10人以上の製造事業所数(以下、「事業所数」という)は、14万6512事業所、前年比 4.8%の減、従業者数は、745万4998人、同 4.4%減と平成4年以降11年連続の減少となっている。また、製造品出荷額等(以下、「出荷額」という)は、260兆124億円、同 4.3%減、付加価値額は、92兆6046億円、同 2.6%減と、ともに2年連続の減少となっている(第1表、第1図)。



**第1表 主要項目の推移**  
(従業者10人以上の事業所)

| 年次 | 項目  | 事業所数    |         | 従業者数      |         | 製造品出荷額等   |         | 付加価値額     |         |
|----|-----|---------|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|
|    |     | (人)     | 前年比 (%) | (人)       | 前年比 (%) | (億円)      | 前年比 (%) | (億円)      | 前年比 (%) |
| 平成 | 7年  | 174,418 | 2.1     | 9,048,325 | 2.1     | 2,922,796 | 1.8     | 1,098,820 | 3.8     |
|    | 8年  | 171,201 | 1.8     | 8,903,872 | 1.6     | 2,995,775 | 2.5     | 1,121,407 | 2.1     |
|    | 9年  | 167,606 | 2.1     | 8,781,972 | 1.4     | 3,096,722 | 3.4     | 1,128,015 | 0.6     |
|    | 10年 | 166,905 | 5.3     | 8,606,686 | 4.5     | 2,921,176 | 7.0     | 1,059,131 | 7.7     |
|    | 11年 | 159,346 | 4.5     | 8,258,337 | 4.0     | 2,792,555 | 4.4     | 1,013,726 | 4.3     |
|    | 12年 | 154,723 | 2.9     | 8,073,292 | 2.2     | 2,882,798 | 3.2     | 1,037,118 | 2.3     |
|    | 13年 | 155,182 | 0.3     | 7,908,897 | 2.0     | 2,764,170 | 4.1     | 979,265   | 5.6     |
|    | 14年 | 146,512 | 4.8     | 7,454,998 | 4.4     | 2,600,124 | 4.3     | 926,046   | 2.6     |

注1:平成10年調査において事業所の捕そくを行ったため、前年比については時系列を考慮したもので算出している。  
注2:平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

+++++  
なお、平成14年工業統計調査における従業者4人以上の事業所数は29万725事業所(前年比 7.4%減)、従業者数は831万5138人(同 5.0%減)、出荷額は269兆1164億円(同 4.5%減)、付加価値額は97兆3742億円(同 3.0%減)であった。

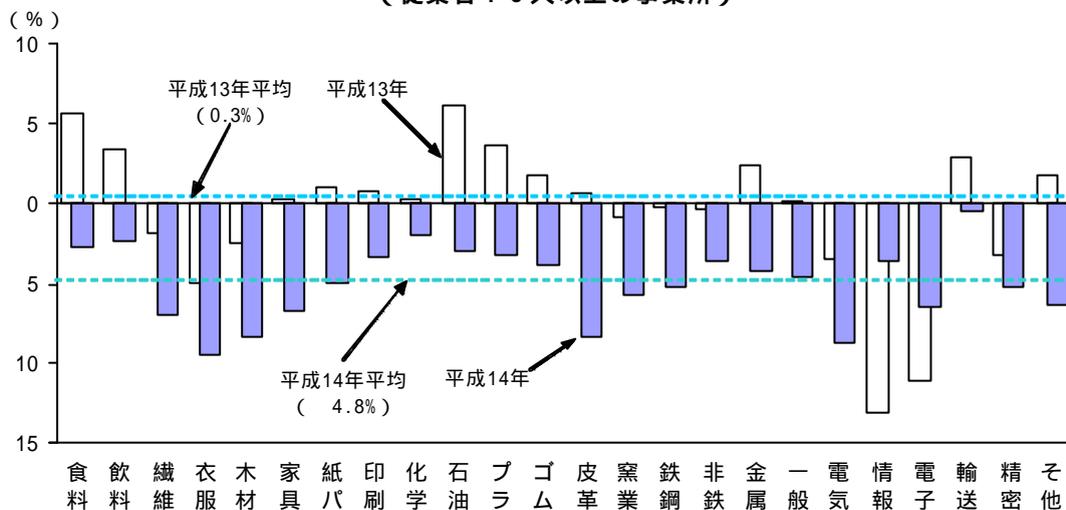
## 2. 産業別の状況（従業者10人以上の事業所）

### (1) 事業所数 - 事業所数は、前年比 4.8%の減少 -

事業所数は、14万6512事業所、前年比 4.8%の減少となった(第1表、第1図)。

事業所数を産業別にみると(第2表、第2図)、衣服・その他の繊維製品製造業(前年比 9.5%減)、一般機械器具製造業(同 4.6%減)、電気機械器具製造業(同 8.7%減)、金属製品製造業(同 4.2%減)、食料品製造業(同 2.8%減)、窯業・土石製品製造業(同 5.7%減)、木材・木製品製造業(同 8.4%減)、プラスチック製品製造業(同 3.2%減)、印刷・同関連業(同 3.3%減)、電子部品・デバイス製造業(同 6.4%減)をはじめ、すべての産業で減少となっている。

第2図 産業別事業所数の前年比  
(従業者10人以上の事業所)



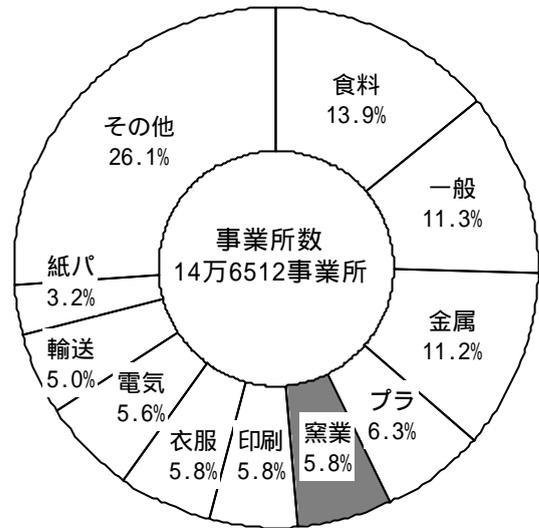
注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

第2表 主要項目の産業別統計表  
(従業者10人以上の事業所)

| 産業                      | 事業所数    |           | 従業者数    |           | 製造品出荷額等 |         | 付加価値額   |  |
|-------------------------|---------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|--|
|                         | 前年比 (%) | (人)       | 前年比 (%) | (億円)      | 前年比 (%) | (億円)    | 前年比 (%) |  |
| 製造業計                    | 4.8     | 7,454,998 | 4.4     | 2,600,124 | 4.3     | 926,046 | 2.6     |  |
| 09 食料品製造業               | 2.8     | 1,042,906 | 1.1     | 221,608   | 1.9     | 84,204  | 2.1     |  |
| 10 飲料・たばこ・飼料製造業         | 2.3     | 94,465    | 1.8     | 103,931   | 2.5     | 32,248  | 1.7     |  |
| 11 繊維工業(衣服,その他の繊維製品を除く) | 7.0     | 122,350   | 8.5     | 21,951    | 9.5     | 9,334   | 9.4     |  |
| 12 衣服・その他の繊維製品製造業       | 9.5     | 248,229   | 10.4    | 22,789    | 11.3    | 10,631  | 11.4    |  |
| 13 木材・木製品製造業(家具を除く)     | 8.4     | 99,817    | 7.6     | 22,177    | 8.7     | 8,210   | 6.9     |  |
| 14 家具・装備品製造業            | 6.8     | 101,153   | 8.0     | 18,795    | 10.9    | 7,944   | 11.8    |  |
| 15 パルプ・紙・紙加工品製造業        | 4.9     | 202,065   | 4.5     | 69,217    | 5.7     | 25,377  | 8.0     |  |
| 16 印刷・同関連業              | 3.3     | 302,566   | 3.5     | 67,409    | 4.5     | 30,751  | 2.9     |  |
| 17 化学工業                 | 2.0     | 345,981   | 3.1     | 224,606   | 2.5     | 108,907 | 2.5     |  |
| 18 石油製品・石炭製品製造業         | 3.0     | 21,169    | 4.5     | 93,455    | 0.3     | 8,327   | 79.5    |  |
| 19 プラスチック製品製造業(別掲を除く)   | 3.2     | 370,881   | 1.9     | 91,583    | 3.3     | 36,669  | 3.2     |  |
| 20 ゴム製品製造業              | 3.8     | 111,673   | 3.0     | 27,941    | 0.4     | 13,197  | 1.6     |  |
| 21 なめし革・同製品・毛皮製造業       | 8.3     | 26,130    | 8.6     | 4,399     | 11.6    | 1,675   | 14.6    |  |
| 22 窯業・土石製品製造業           | 5.7     | 280,699   | 7.6     | 70,263    | 8.9     | 34,493  | 8.2     |  |
| 23 鉄鋼業                  | 5.3     | 198,555   | 6.5     | 107,685   | 2.0     | 36,934  | 4.3     |  |
| 24 非鉄金属製造業              | 3.6     | 126,107   | 0.8     | 55,794    | 2.7     | 14,286  | 11.3    |  |
| 25 金属製品製造業              | 4.2     | 546,753   | 3.4     | 124,214   | 5.1     | 54,450  | 4.2     |  |
| 26 一般機械器具製造業            | 4.6     | 834,636   | 5.2     | 242,229   | 9.7     | 93,101  | 8.0     |  |
| 27 電気機械器具製造業            | 8.7     | 567,927   | 6.9     | 174,739   | 6.6     | 60,887  | 7.0     |  |
| 28 情報通信機械器具製造業          | 3.6     | 224,062   | 17.4    | 122,878   | 23.3    | 29,626  | 19.3    |  |
| 29 電子部品・デバイス製造業         | 6.4     | 485,162   | 6.1     | 158,955   | 7.7     | 53,644  | 4.2     |  |
| 30 輸送用機械器具製造業           | 0.5     | 823,213   | 1.1     | 476,845   | 6.4     | 140,605 | 14.4    |  |
| 31 精密機械器具製造業            | 5.3     | 141,089   | 6.2     | 34,161    | 11.2    | 14,704  | 11.1    |  |
| 32 その他の製造業              | 6.3     | 137,410   | 5.6     | 42,499    | 3.1     | 15,842  | 4.8     |  |

注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

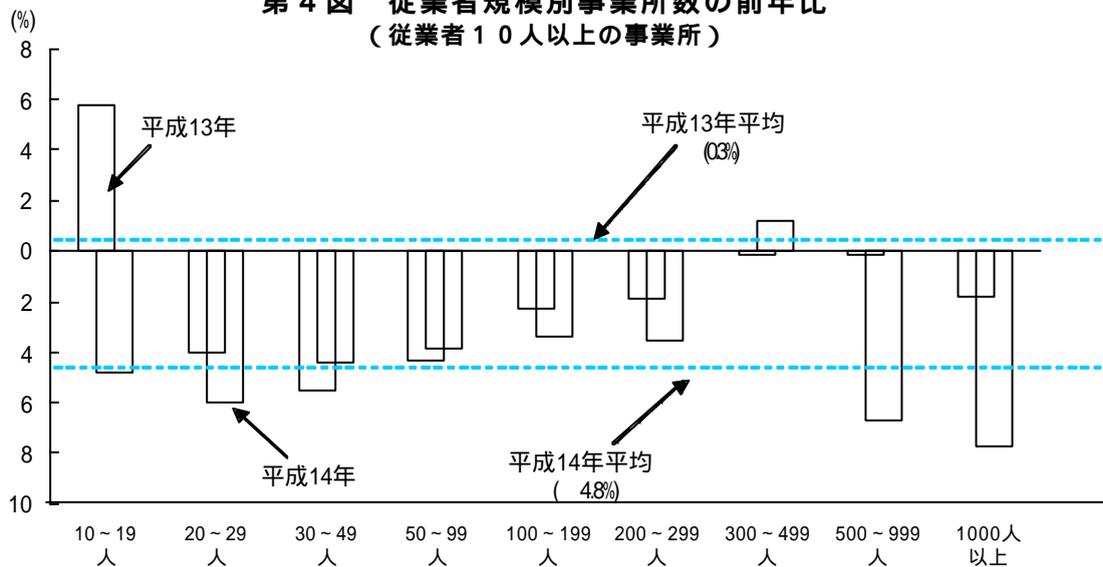
**第3図 産業別事業所数の構成比**  
(従業員10人以上の事業所)



事業所数の産業別構成比をみると(第2表、第3図)、食料品製造業(2万387事業所、構成比13.9%)が最も多く、次いで一般機械器具製造業(1万6525事業所、同11.3%)、金属製品製造業(1万6420事業所、同11.2%)、プラスチック製品製造業(9236事業所、同6.3%)、窯業・土石製品製造業(8566事業所、同5.8%)の順で、これら5産業で全体の5割弱を占めている。以下、印刷・同関連業(8528事業所、同5.8%)、衣服・その他の繊維製品製造業(8428事業所、同5.8%)、電気機械器具製造業(8270事業所、同5.6%)、輸送用機械器具製造業(7385事業所、同5.0%)、パルプ・紙・紙加工品製造業(4728事業所、同3.2%)と続いている。

事業所数を従業員規模別にみると(第4図、巻末統計表第8表)、300~499人規模(前年比1.2%増)でわずかに増加となったほかは、10~19人規模(同4.8%減)、20~29人規模(同6.0%減)、30~49人規模(同4.4%減)、50~99人規模(同3.9%減)など、他のすべての規模で減少となっている。

**第4図 従業員規模別事業所数の前年比**  
(従業員10人以上の事業所)



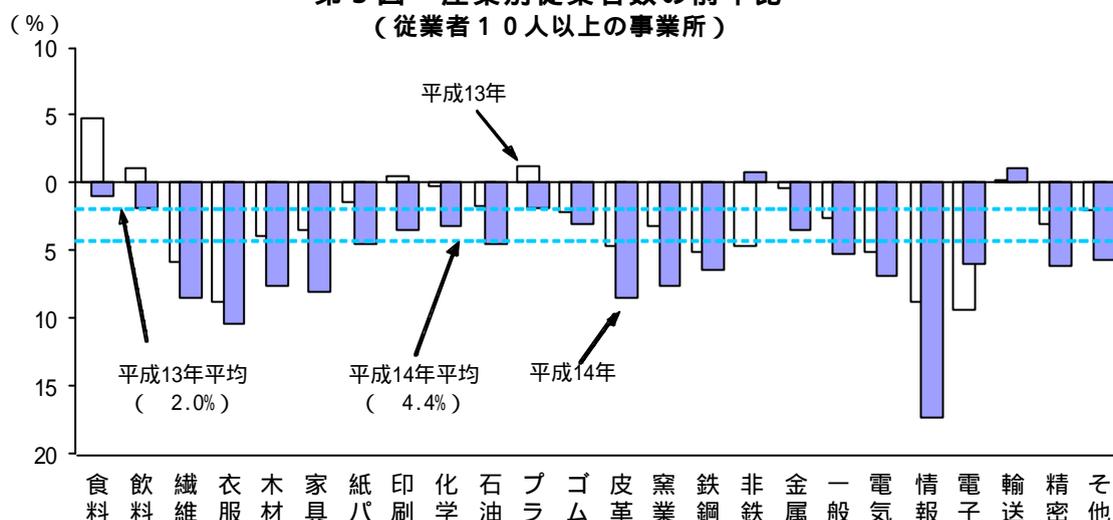
注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

(2) 従業者数 - 減少続く従業者数 -

従業者数は、745万4998人、前年比 4.4%減と、平成4年以降11年連続の減少となった(第1表、第1図)。

従業者数を産業別にみると(第2表、第5図)、24産業中22産業で減少となった。情報通信機械器具製造業(前年比 17.4%減)、一般機械器具製造業(同 5.2%減)、電気機械器具製造業(同 6.9%減)、電子部品・デバイス製造業(同 6.1%減)、衣服・その他の繊維製品製造業(同 10.4%減)、窯業・土石製品製造業(同 7.6%減)、金属製品製造業(同 3.4%減)、鉄鋼業(同 6.5%減)、食料品製造業(同 1.1%減)などが減少し、輸送用機械器具製造業(同1.1%増)、非鉄金属製造業(同0.8%増)が増加となっている。

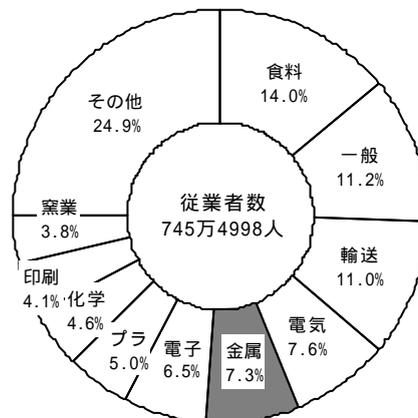
第5図 産業別従業者数の前年比  
(従業者10人以上の事業所)



注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

第6図 産業別従業者数の構成比  
(従業者10人以上の事業所)

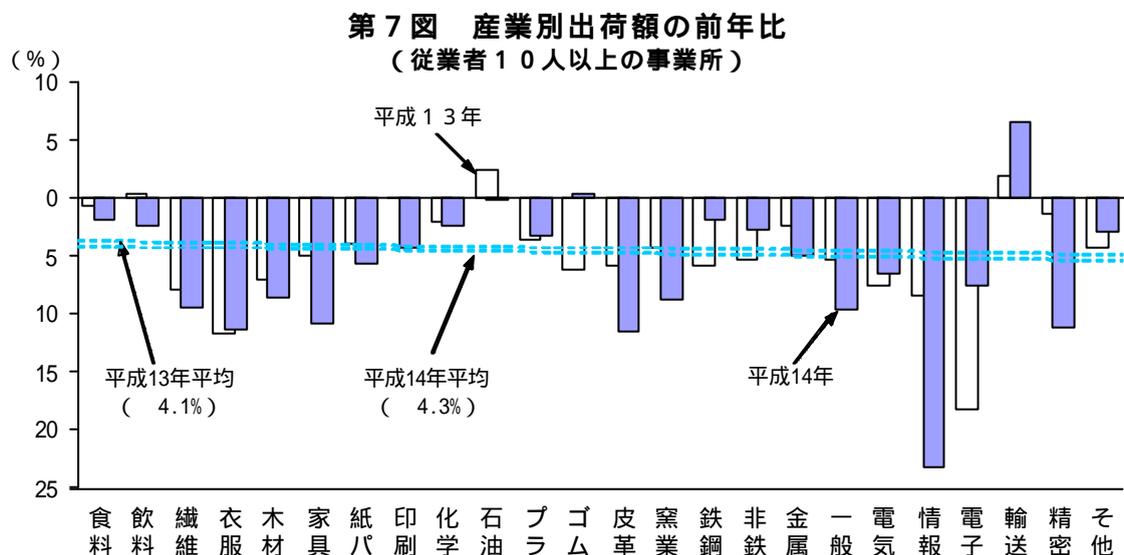
従業者数の産業別構成比をみると(第2表、第6図)、食料品製造業(104万2906人、構成比14.0%)が最も多く、次いで、一般機械器具製造業(83万4636人、同11.2%)、輸送用機械器具製造業(82万3213人、同11.0%)、電気機械器具製造業(56万7927人、同7.6%)、金属製品製造業(54万6753人、同7.3%)となっており、この5産業で全体の約5割を占めている。以下、電子部品・デバイス製造業(48万5162人、同6.5%)、プラスチック製品製造業(37万881人、同5.0%)、化学工業(34万5981人、同4.6%)、印刷・同関連業(30万2566人、同4.1%)、窯業・土石製品製造業(28万699人、同3.8%)の順となっている。



### (3) 製造品出荷額等 - 出荷額は、前年に引き続き減少 -

出荷額は、260兆 124億円、前年比 4.3%減と、前年に引き続き減少となった(第1表、第1図)。

出荷額を産業別にみると(第2表、第7図)、輸送用機械器具製造業(前年比6.4%増)が3年連続、ゴム製品製造業(同0.4%増)が5年ぶりに増加したほかは、22の産業で減少となった。情報通信機械器具製造業(同 23.3%減)、一般機械器具製造業(同 9.7%減)、電子部品・デバイス製造業(同 7.7%減)、電気機械器具製造業(同 6.6%減)、窯業・土石製品製造業(同 8.9%減)は、前年に引き続きそれぞれ2年連続の減少となった。このほか、金属製品製造業(同 5.1%減)、化学工業(同 2.5%減)、精密機械器具製造業(同 11.2%減)、食料品製造業(同 1.9%減)、パルプ・紙・紙加工品製造業(同 5.7%減)などが減少となっている。



注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

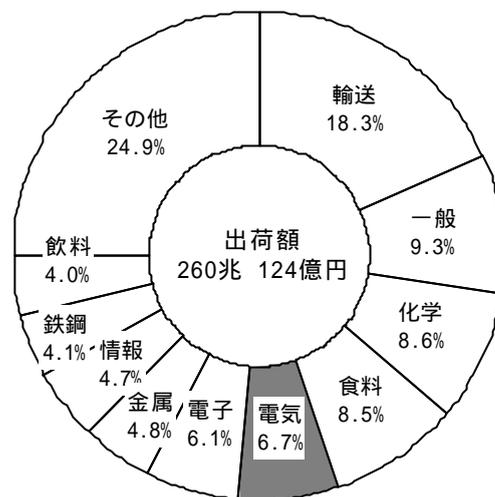
減少した産業のうち、情報通信機械器具製造業は、パソコンの法人向け需要は堅調なもの個人向けが大幅に減少したことなどから大幅に減少した。一般機械器具製造業は、半導体の内外需不振により半導体製造装置の需要が低迷したことに加え、金属工作機械の内需が自動車向けは増加したものの、その他の業種向けが減少したこと、輸出もEU、米国向けが減少したことなどにより減少となった。電子部品・デバイス製造業は、半導体集積回路が携帯電話、パソコン、ゲーム機向けに振るわず減少したこと、アクティブ型液晶素子がデジタルカメラ向けに増加したものの、携帯電話向けは新規需要が一巡したことによる伸び悩みなどから減少となった。電気機械器具製造業は、住宅着工の減少、海外生産へのシフトなどによりセパレート型エアコンディショナが減少したことに加え、電気冷蔵庫、電気洗濯機なども海外生産化が一層進展したことなどにより減少となった。窯業・土石製品製造業は、公共工事、建築着工の減少からセメント・同製品、ガラ

ス・同製品が減少したことなどから減少となった。化学工業は、写真感光材料がデジタルカメラの普及により国内需要が減少し、また、アジア向け、EU向けが減少したことに加え、化粧品、化学肥料、塗料印刷インキなどが減少したことなどから減少した。

他方、輸送用機械器具製造業は、新型車投入効果もあって小型乗用車が増加したことに加え、北米向けの普通乗用車が増加したことなどから増加となった。

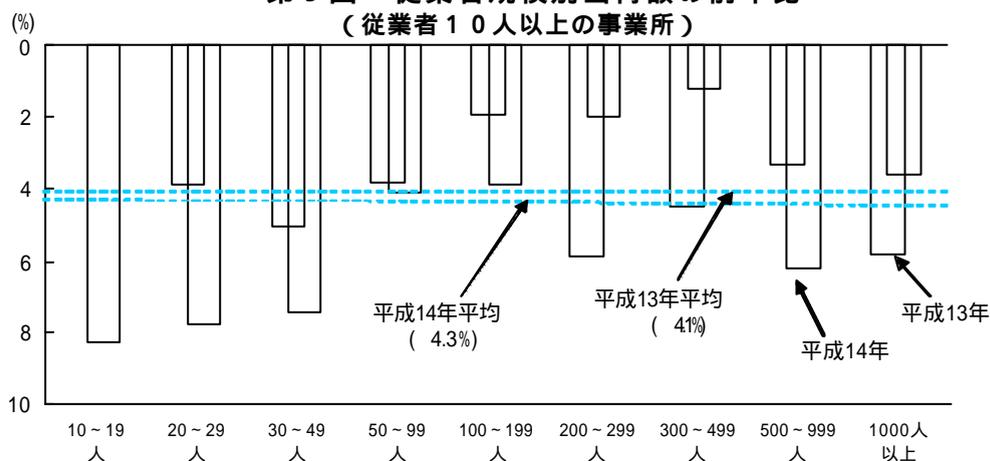
**第8図 産業別出荷額の構成比**  
(従業員10人以上の事業所)

出荷額の産業別構成比をみると(第2表、第8図)、輸送用機械器具製造業(47兆6845億円、構成比18.3%)、一般機械器具製造業(24兆2229億円、同9.3%)、化学工業(22兆4606億円、同8.6%)、食料品製造業(22兆1608億円、同8.5%)、電気機械器具製造業(17兆4739億円、同6.7%)、電子部品・デバイス製造業(15兆8955億円、同6.1%)、金属製品製造業(12兆4214億円、同4.8%)、情報通信機械器具製造業(12兆2878億円、同4.7%)、鉄鋼業(10兆7685億円、同4.1%)、飲料・たばこ・飼料製造業(10兆3931億円、同4.0%)の順となっている。



出荷額を従業員規模別にみると(第9図、巻末統計表第10表)、1000人以上規模(前年比 3.6%減)、500~999人規模(同 6.2%減)、100~199人規模(同 3.9%減)、50~99人規模(同 4.1%減)など全規模で減少となっており、前年比では49人以下の事業所での減少率が大きなものとなっている。

**第9図 従業員規模別出荷額の前年比**  
(従業員10人以上の事業所)



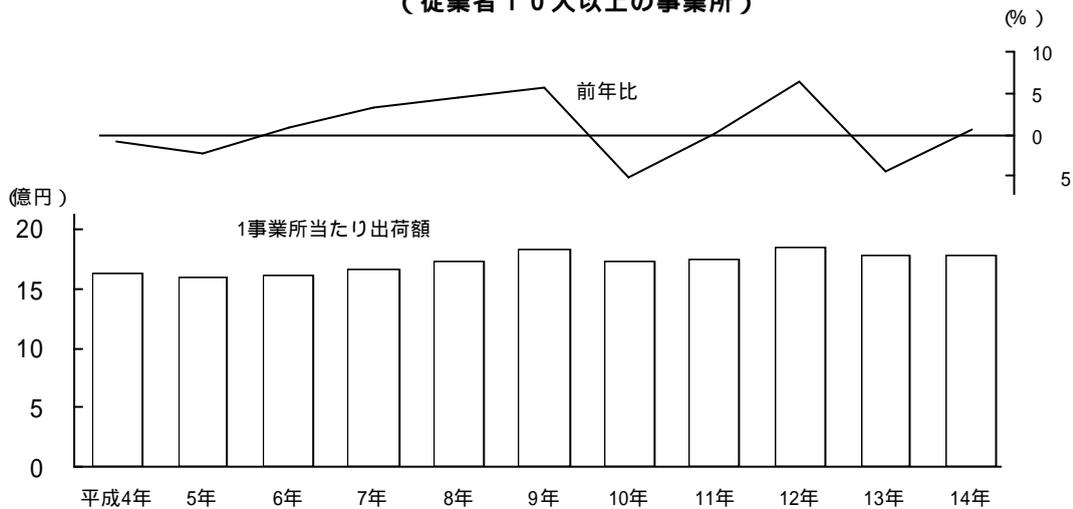
注: 平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

1事業所当たり出荷額は、17億7468万円と高水準で推移している。ちなみに、過去最高は、平成12年の18億4753万円である(注)(第3表、第10図)。

1事業所当たり出荷額を産業別にみると、輸送用機械器具製造業(前年比6.9%増)、ゴム製品製造業(同4.4%増)、鉄鋼業(同3.4%増)など8産業で増加し、情報通信機械器具製造業(同20.5%減)、精密機械器具製造業(同6.2%減)、一般機械器具製造業(同5.3%減)、家具・装備品製造業(同4.4%減)など16産業で減少となっている。

(注)平成14年調査において、日本標準産業分類の変更が行われたため、過去の数値について再計算を行っている。

**第10図 1事業所当たり出荷額の推移**  
(従業員10人以上の事業所)



(注)平成14年調査において、日本標準産業分類の変更が行われたため、過去の数値について再計算を行っている。

**第3表 産業別1事業所当たり出荷額**  
(従業員10人以上の事業所)

| 産業   | 項目                   | 平成13年     | 平成14年     |         |
|------|----------------------|-----------|-----------|---------|
|      |                      | (万円)      | (万円)      | 前年比 (%) |
| 製造業計 |                      | 176,598   | 177,468   | 0.5     |
| 09   | 食料品製造業               | 107,691   | 108,701   | 0.9     |
| 10   | 飲料・たばこ・飼料製造業         | 423,198   | 421,970   | 0.3     |
| 11   | 繊維工業(衣服,その他の繊維製品を除く) | 63,556    | 61,818    | 2.7     |
| 12   | 衣服・その他の繊維製品製造業       | 27,576    | 27,040    | 1.9     |
| 13   | 木材・木製品製造業(家具を除く)     | 55,737    | 55,554    | 0.3     |
| 14   | 家具・装備品製造業            | 59,646    | 57,041    | 4.4     |
| 15   | パルプ・紙・紙加工品製造業        | 147,731   | 146,399   | 0.9     |
| 16   | 印刷・関連業               | 80,029    | 79,045    | 1.2     |
| 17   | 化学工業                 | 572,303   | 569,343   | 0.5     |
| 18   | 石油製品・石炭製品製造業         | 2,169,776 | 2,230,439 | 2.8     |
| 19   | プラスチック製品製造業(別掲を除く)   | 99,236    | 99,158    | 0.1     |
| 20   | ゴム製品製造業              | 137,767   | 143,801   | 4.4     |
| 21   | なめし革・同製品・毛皮製造業       | 43,896    | 42,299    | 3.6     |
| 22   | 窯業・土石製品製造業           | 84,881    | 82,026    | 3.4     |
| 23   | 鉄鋼業                  | 356,256   | 368,531   | 3.4     |
| 24   | 非鉄金属製造業              | 313,688   | 316,650   | 0.9     |
| 25   | 金属製品製造業              | 76,384    | 75,648    | 1.0     |
| 26   | 一般機械器具製造業            | 154,858   | 146,584   | 5.3     |
| 27   | 電気機械器具製造業            | 206,707   | 211,292   | 2.2     |
| 28   | 情報通信機械器具製造業          | 730,979   | 581,260   | 20.5    |
| 29   | 電子部品・デバイス製造業         | 381,482   | 376,225   | 1.4     |
| 30   | 輸送用機械器具製造業           | 604,152   | 645,693   | 6.9     |
| 31   | 精密機械器具製造業            | 151,041   | 141,687   | 6.2     |
| 32   | その他の製造業              | 103,940   | 107,401   | 3.3     |

注:平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

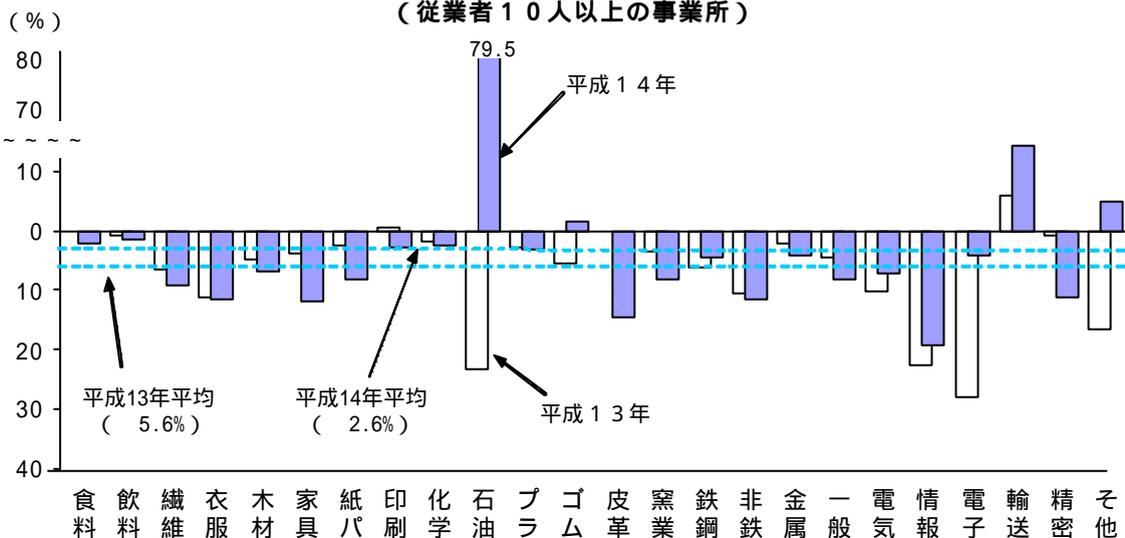
(4) 付加価値額 - 付加価値額は2年連続減少 -

付加価値額は、平成13年に13年ぶりに100兆円を下回った後、14年も引き続き減少し、92兆6046億円、前年比 2.6%の減少となっている(第1表、第1図)。

付加価値額を産業別にみると(第2表、第11図)、一般機械器具製造業(前年比 8.0%減)、情報通信機械器具製造業(同 19.3%減)、電気機械器具製造業(同 7.0%減)、窯業・土石製品製造業(同 8.2%減)、化学工業(同 2.5%減)、金属製品製造業(同 4.2%減)、電子部品・デバイス製造業(同 4.2%減)、パルプ・紙・紙加工品製造業(同 8.0%減)、精密機械器具製造業(同 11.1%減)、非鉄金属製造業(同 11.3%減)、食料品製造業(同 2.1%減)など20産業で減少し、輸送用機械器具製造業(同14.4%増)、石油製品・石炭製品製造業(同79.5%増)など4産業で増加となっている。

増加した産業のうち、輸送用機械器具製造業の増加は、乗用車の出荷が国内・国外向けとも好調だったことによる。

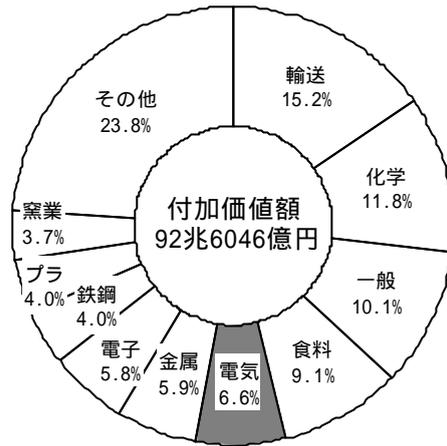
第11図 産業別付加価値額の前年比  
(従業員10人以上の事業所)



注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

付加価値額の産業別構成比をみると(第2表、第12図)、輸送用機械器具製造業(14兆605億円、同15.2%)、化学工業(10兆8907億円、同11.8%)、一般機械器具製造業(9兆3101億円、同10.1%)、食料品製造業(8兆4204億円、同9.1%)、電気機械器具製造業(6兆887億円、同6.6%)の5産業で約5割を占めている。以下、金属製品製造業(5兆4450億円、同5.9%)、電子部品・デバイス製造業(5兆3644億円、同5.8%)、鉄鋼業(3兆6934億円、同4.0%)、プラスチック製品製造業(3兆6669億円、同4.0%)、窯業・土石製品製造業(3兆4493億円、同3.7%)の順となっている。

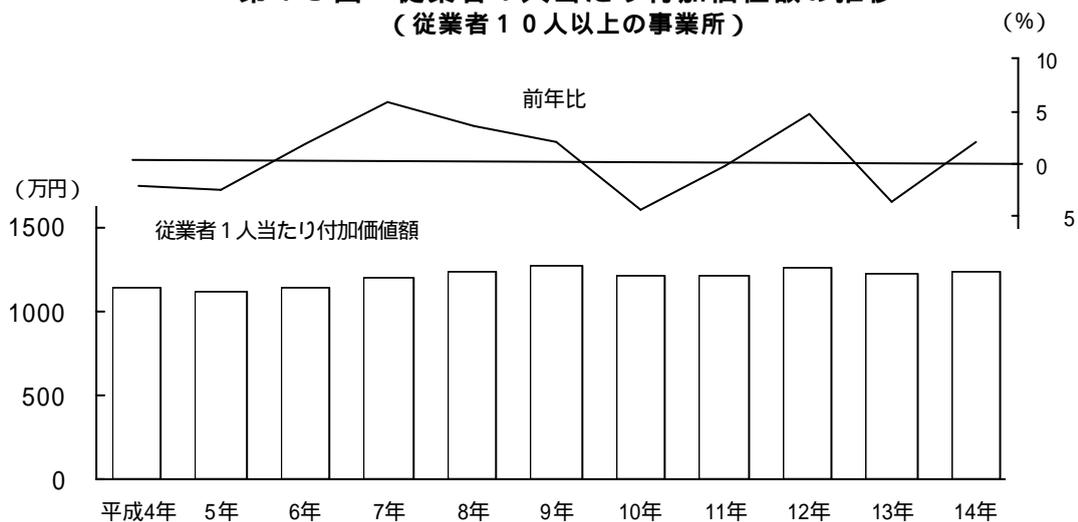
第12図 産業別付加価値額の構成比  
(従業員10人以上の事業所)



従業員1人当たり付加価値額は、製造業平均1242万円、前年比2.0%の増加であった(第4表、第13図)。

従業員1人当たり付加価値額を産業別にみると、石油製品・石炭製品製造業(前年比87.9%増)、輸送用機械器具製造業(同13.2%増)、その他の製造業(同11.1%増)、ゴム製品製造業(同4.8%増)など10産業が増加し、非鉄金属製造業(同12.0%減)、なめし革・同製品・毛皮製造業(同6.6%減)、精密機械器具製造業(同5.3%減)、家具・装備品製造業(同4.3%減)、パルプ・紙・紙加工品製造業(同3.7%減)など14産業で減少となっている。

第13図 従業員1人当たり付加価値額の推移  
(従業員10人以上の事業所)



(注)平成14年調査において、日本標準産業分類の変更が行われたため、過去の数値について再計算を行っている。

**第4表 産業別従業者1人当たり付加価値額**  
(従業者10人以上の事業所)

| 産業   | 項目                   | 平成13年 | 平成14年 |         |
|------|----------------------|-------|-------|---------|
|      |                      | (万円)  | (万円)  | 前年比 (%) |
| 製造業計 |                      | 1,218 | 1,242 | 2.0     |
| 09   | 食料品製造業               | 816   | 807   | 1.1     |
| 10   | 飲料・たばこ・飼料製造業         | 3,410 | 3,414 | 0.1     |
| 11   | 繊維工業(衣服,その他の繊維製品を除く) | 771   | 763   | 1.0     |
| 12   | 衣服・その他の繊維製品製造業       | 433   | 428   | 1.2     |
| 13   | 木材・木製品製造業(家具を除く)     | 816   | 823   | 0.9     |
| 14   | 家具・装備品製造業            | 820   | 785   | 4.3     |
| 15   | パルプ・紙・紙加工品製造業        | 1,304 | 1,256 | 3.7     |
| 16   | 印刷・同関連業              | 1,011 | 1,016 | 0.5     |
| 17   | 化学工業                 | 3,130 | 3,148 | 0.6     |
| 18   | 石油製品・石炭製品製造業         | 2,094 | 3,934 | 87.9    |
| 19   | プラスチック製品製造業(別掲を除く)   | 1,002 | 989   | 1.3     |
| 20   | ゴム製品製造業              | 1,128 | 1,182 | 4.8     |
| 21   | なめし革・同製品・毛皮製造業       | 686   | 641   | 6.6     |
| 22   | 窯業・土石製品製造業           | 1,237 | 1,229 | 0.6     |
| 23   | 鉄鋼業                  | 1,818 | 1,860 | 2.3     |
| 24   | 非鉄金属製造業              | 1,287 | 1,133 | 12.0    |
| 25   | 金属製品製造業              | 1,004 | 996   | 0.8     |
| 26   | 一般機械器具製造業            | 1,149 | 1,115 | 3.0     |
| 27   | 電気機械器具製造業            | 1,074 | 1,072 | 0.2     |
| 28   | 情報通信機械器具製造業          | 1,352 | 1,322 | 2.2     |
| 29   | 電子部品・デバイス製造業         | 1,083 | 1,106 | 2.1     |
| 30   | 輸送用機械器具製造業           | 1,509 | 1,708 | 13.2    |
| 31   | 精密機械器具製造業            | 1,100 | 1,042 | 5.3     |
| 32   | その他の製造業              | 1,038 | 1,153 | 11.1    |

注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

(5) 年末在庫額(従業者30人以上の事業所) - 年末在庫額は5年連続の減少 -

製造品年末在庫額と半製品・仕掛品年末在庫額の計は、17兆9859億円、前年末比 7.4%減と5年連続の減少であった(第5表)。

**第5表 製造品年末在庫額と半製品・仕掛品年末在庫額の推移**  
(従業者30人以上の事業所)

| 年次 | 項目   | 計(製造品と半製品・仕掛品の計) |     |          |      |              |     |
|----|------|------------------|-----|----------|------|--------------|-----|
|    |      | 前年末比             |     | 製造品年末在庫額 |      | 半製品・仕掛品年末在庫額 |     |
|    |      | (億円)             | (%) | (億円)     | (%)  | (億円)         | (%) |
| 平成 | 7年末  | 219,395          | 2.9 | 92,672   | 2.8  | 126,723      | 3.0 |
|    | 8年末  | 223,602          | 1.9 | 93,236   | 0.6  | 130,367      | 2.9 |
|    | 9年末  | 231,791          | 3.7 | 96,812   | 3.8  | 134,980      | 3.5 |
|    | 10年末 | 229,951          | 1.3 | 94,610   | 3.0  | 135,342      | 0.2 |
|    | 11年末 | 212,432          | 7.6 | 84,999   | 10.2 | 127,433      | 5.8 |
|    | 12年末 | 206,619          | 2.7 | 82,377   | 3.1  | 124,242      | 2.5 |
|    | 13年末 | 196,443          | 4.9 | 82,016   | 0.4  | 114,427      | 7.9 |
|    | 14年末 | 179,859          | 7.4 | 73,036   | 9.0  | 106,823      | 6.3 |

注1：平成10年調査において、事業所の補そくを行ったため、前年比については時系列を考慮したもので計算している。

注2：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

これを在庫形態別にみると、

製造品年末在庫額は、7兆3036億円、前年末比 9.0%と5年連続の減少であった(巻末統計表第5表)。

産業別にみると、情報通信機械器具製造業(前年末比 32.2%減)、精密機械器具製造業(同 20.7%減)、家具・装備品製造業(同 19.7%減)、電子部品・デバイス製造業(同 15.9%減)、なめし革・同製品・毛皮製造業(同 14.7%減)、繊維

工業（同 13.7%減）をはじめ、すべての産業で減少となっている。

半製品・仕掛品年末在庫額は、10兆6823億円、前年末比 6.3%と5年連続の減少であった（巻末統計表第6表）。

産業別にみると、情報通信機械器具製造業（前年末比 23.1%減）、家具・装備品製造業（同 16.1%減）、衣服・その他の繊維製品製造業（同 13.8%減）、電気機械器具製造業（同 11.8%減）、電子部品・デバイス製造業（同 11.4%減）など20産業で減少し、その他の製造業（同20.8%増）、非鉄金属製造業（同6.5%増）、食料品製造業（同3.7%増）、飲料・たばこ・飼料製造業（同2.8%増）の4産業で増加となっている。

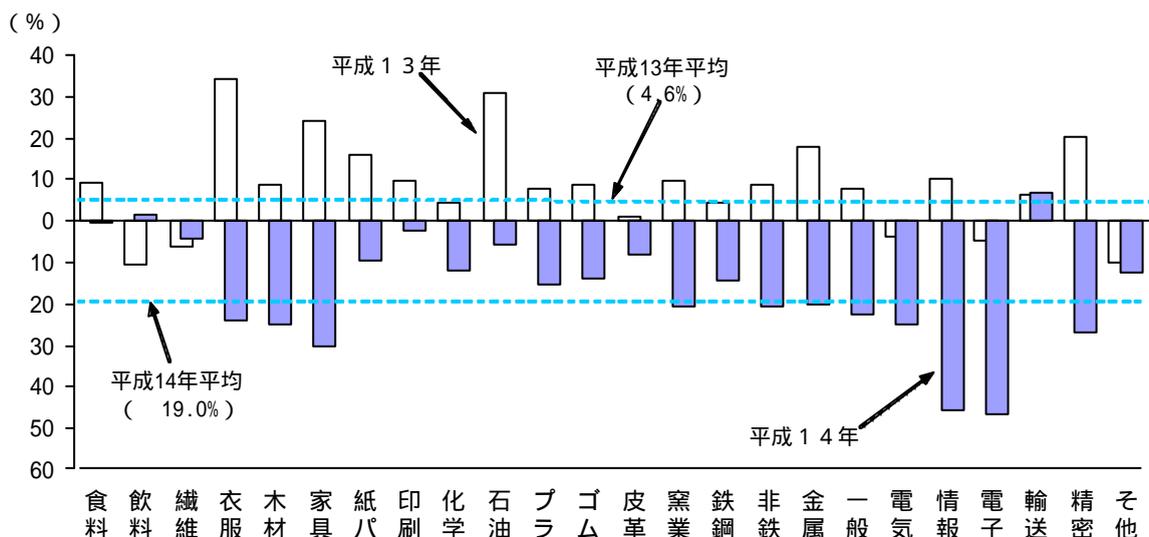
(6) 有形固定資産取得額（建設仮勘定の増減を含む）（従業員30人以上の事業所）

- 有形固定資産取得額は3年ぶりの減少 -

有形固定資産取得額（建設仮勘定の増減を含む）は、9兆4861億円、前年比 19.0%の減少となった（巻末統計表第1、7、11表）。

有形固定資産取得額を産業別にみると（第14図）、輸送用機械器具製造業（前年比6.5%増）と飲料・たばこ・飼料製造業（同1.6%増）の増加を除き、電子部品・デバイス製造業（同 46.8%減）、一般機械器具製造業（同 22.7%減）、情報通信機械器具製造業（同 45.8%減）、電気機械器具製造業（同 25.1%減）、化学工業（同 12.4%減）など残り22産業で減少となっている。

第14図 産業別有形固定資産取得額の前年比  
（従業員30人以上の事業所）



注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

(7) リース契約額及び支払額(従業者30人以上の事業所)

- 支払額は2年連続の減少 -

リース契約額は、1兆417億円、前年比5.7%の増加、リース支払額は、1兆3353億円、同0.2%の減少であった(第6表)。

リース契約額を産業別にみると、電子部品・デバイス製造業(前年比37.5%増)、化学工業(同36.9%増)、窯業・土石製品製造業(同45.3%増)、輸送用機械器具製造業(同3.7%増)、非鉄金属製造業(同29.5%増)、鉄鋼業(同18.6%増)など10産業で増加し、情報通信機械器具製造業(同36.5%減)、金属製品製造業(同32.3%減)、一般機械器具製造業(同10.0%減)、パルプ・紙・紙製品製造業(同25.3%減)、食料品製造業(同4.7%減)など14産業で減少となっている。

リース契約額の産業別構成比をみると、電子部品・デバイス製造業(構成比29.1%)が約3割と最も多く、次いで輸送用機械器具製造業(同14.9%)、一般機械器具製造業(同8.9%)、食料品製造業(同7.7%)、電気機械器具製造業(同6.6%)、プラスチック製品製造業(同4.5%)の順となっている。

第6表 リース契約額及び支払額の前年比及び構成比  
(従業者30人以上の事業所)

| 項目                      | リース契約額        |            |            | リース支払額        |            |            |
|-------------------------|---------------|------------|------------|---------------|------------|------------|
|                         | 平成14年<br>(億円) | 前年比<br>(%) | 構成比<br>(%) | 平成14年<br>(億円) | 前年比<br>(%) | 構成比<br>(%) |
| 製造業計                    | 10,417        | 5.7        | 100.0      | 13,353        | 0.2        | 100.0      |
| 09 食料品製造業               | 804           | 4.7        | 7.7        | 1,163         | 3.1        | 8.7        |
| 10 飲料・たばこ・飼料製造業         | 110           | 25.2       | 1.1        | 258           | 0.4        | 1.9        |
| 11 繊維工業(衣服,その他の繊維製品を除く) | 55            | 10.1       | 0.5        | 109           | 4.2        | 0.8        |
| 12 衣服・その他の繊維製品製造業       | 38            | 34.6       | 0.4        | 96            | 14.1       | 0.7        |
| 13 木材・木製品製造業(家具を除く)     | 51            | 38.1       | 0.5        | 102           | 0.6        | 0.8        |
| 14 家具・装備品製造業            | 64            | 36.2       | 0.6        | 132           | 9.8        | 1.0        |
| 15 パルプ・紙・紙加工品製造業        | 172           | 25.3       | 1.6        | 339           | 6.9        | 2.5        |
| 16 印刷・同関連業              | 427           | 4.3        | 4.1        | 735           | 1.1        | 5.5        |
| 17 化学工業                 | 451           | 36.9       | 4.3        | 550           | 4.8        | 4.1        |
| 18 石油製品・石炭製品製造業         | 41            | 60.8       | 0.4        | 25            | 35.2       | 0.2        |
| 19 プラスチック製品製造業(別掲を除く)   | 473           | 3.4        | 4.5        | 639           | 1.1        | 4.8        |
| 20 ゴム製品製造業              | 39            | 29.1       | 0.4        | 93            | 6.7        | 0.7        |
| 21 なめし革・同製品・毛皮製造業       | 3             | 53.8       | 0.0        | 9             | 11.7       | 0.1        |
| 22 窯業・土石製品製造業           | 323           | 45.3       | 3.1        | 312           | 7.6        | 2.3        |
| 23 鉄鋼業                  | 230           | 18.6       | 2.2        | 412           | 0.8        | 3.1        |
| 24 非鉄金属製造業              | 181           | 29.5       | 1.7        | 248           | 15.9       | 1.9        |
| 25 金属製品製造業              | 295           | 32.3       | 2.8        | 589           | 0.8        | 4.4        |
| 26 一般機械器具製造業            | 924           | 10.0       | 8.9        | 1,305         | 5.0        | 9.8        |
| 27 電気機械器具製造業            | 685           | 2.6        | 6.6        | 846           | 0.2        | 6.3        |
| 28 情報通信機械器具製造業          | 256           | 36.5       | 2.5        | 474           | 16.2       | 3.5        |
| 29 電子部品・デバイス製造業         | 3,036         | 37.5       | 29.1       | 2,516         | 9.2        | 18.8       |
| 30 輸送用機械器具製造業           | 1,555         | 3.7        | 14.9       | 2,027         | 0.6        | 15.2       |
| 31 精密機械器具製造業            | 126           | 24.0       | 1.2        | 217           | 14.4       | 1.6        |
| 32 その他の製造業              | 82            | 7.8        | 0.8        | 157           | 0.9        | 1.2        |

注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

リース支払額を産業別にみると、情報通信機械器具製造業(前年比16.2%減)、一般機械器具製造業(同5.0%減)、精密機械器具製造業(同14.4%減)、化学工業(同4.8%減)、パルプ・紙・紙加工品製造業(同6.9%減)、窯業・土石製品製造業(同7.6%減)など15産業で減少し、電子部品・デバイス製造業(同9.2%増)、食料品製造業(同3.1%増)、非鉄金属製造業(同15.9%増)、家具・装備品製造業(同9.8%増)、プラスチック製品製造業(同1.1%増)など9産業で増加となっている。

リース支払額の構成比をみると、電子部品・デバイス製造業(構成比18.8%)、輸送用機械器具製造業(同15.2%)、一般機械器具製造業(同9.8%)、食料品製造業(同8.7%)、電気機械器具製造業(同6.3%)、印刷・同関連業(同5.5%)の順となっている。

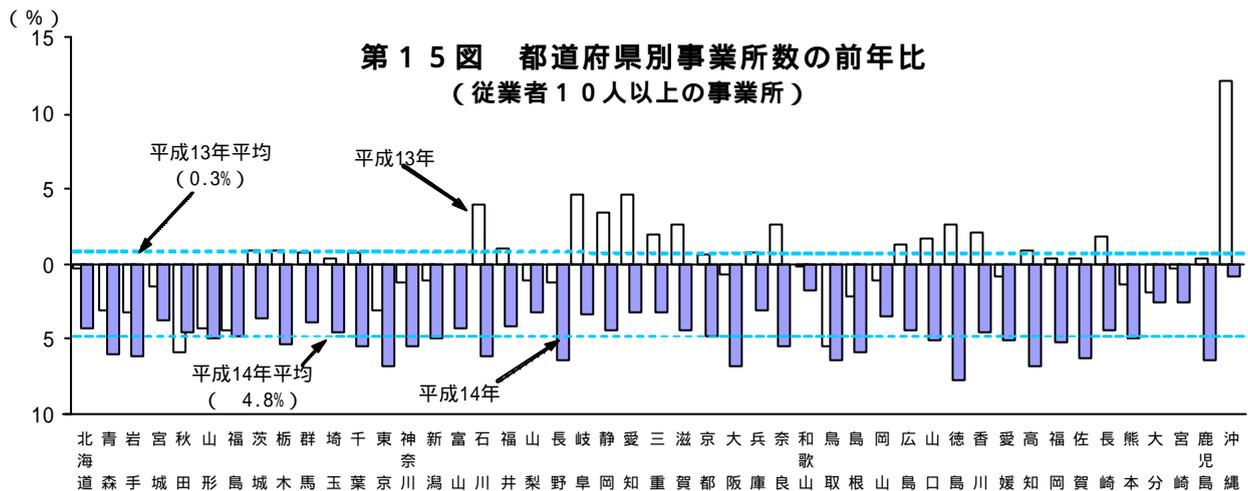


### 3. 都道府県別の状況（従業者10人以上の事業所）

#### (1) 事業所数 - 事業所数は、すべての県で減少 -

事業所数は、14万6512事業所、前年比 4.8%の減少であった(第7、12表)。

都道府県別にみると(第15図)、徳島(前年比 7.6%減)、高知(同 6.8%減)、大阪(同 6.7%減)、東京(同 6.7%減)、長野(同 6.4%減)、鹿児島(同 6.4%減)、鳥取(同 6.4%減)、佐賀(同 6.3%減)、岩手(同 6.1%減)、石川(同 6.0%減)などすべての県で減少となった。



注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

事業所数が多い県は(第7、12表)、大阪(1万1760事業所、構成比8.0%)、愛知(1万1372事業所、同7.8%)、東京(8921事業所、同6.1%)、埼玉(8012事業所、同5.5%)、静岡(7197事業所、同4.9%)、神奈川(同6187事業所、同4.2%)、兵庫(6034事業所、同4.1%)、北海道(4421事業所、同3.0%)、福岡(4137事業所、同2.8%)の順となっている。

**第7表 都道府県別の事業所数**  
(従業者10人以上の事業所)

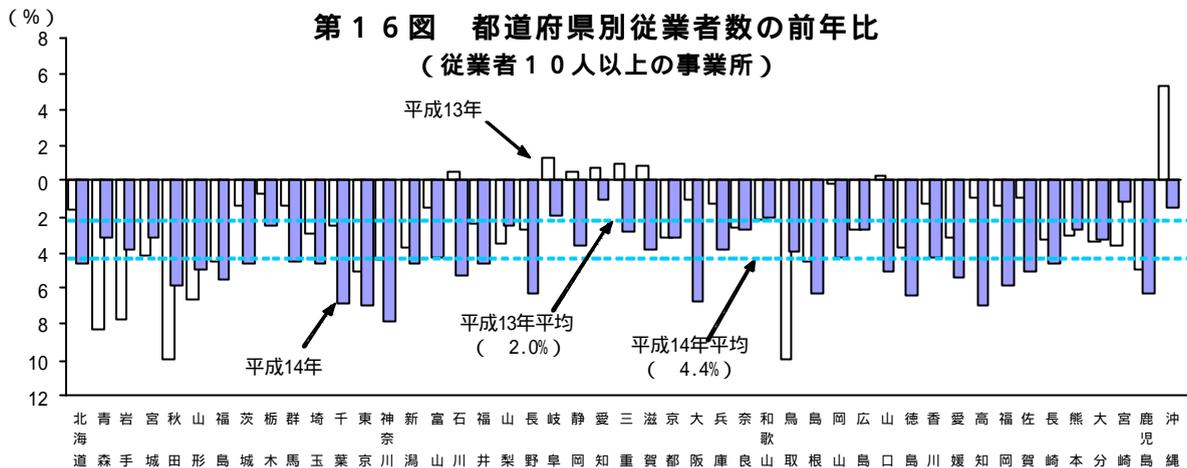
| 項目     | 平成14年   |         |       | 項目     | 平成14年   |         |     |
|--------|---------|---------|-------|--------|---------|---------|-----|
|        | 前年比 (%) | 構成比 (%) | 県     |        | 前年比 (%) | 構成比 (%) | 県   |
| 全国計    | 146,512 | 4.8     | 100.0 | 24 三重  | 2,836   | 3.2     | 1.9 |
| 1 北海道  | 4,421   | 4.3     | 3.0   | 25 滋賀  | 2,000   | 4.4     | 1.4 |
| 2 青森   | 1,251   | 6.0     | 0.9   | 26 京都  | 2,957   | 4.7     | 2.0 |
| 3 岩手   | 1,813   | 6.1     | 1.2   | 27 大阪  | 11,760  | 6.7     | 8.0 |
| 4 宮城   | 2,336   | 3.7     | 1.6   | 28 兵庫  | 6,034   | 3.1     | 4.1 |
| 5 秋田   | 1,592   | 4.6     | 1.1   | 29 奈良  | 1,370   | 5.5     | 0.9 |
| 6 山形   | 1,997   | 5.0     | 1.4   | 30 和歌山 | 1,237   | 1.7     | 0.8 |
| 7 福島   | 3,115   | 4.7     | 2.1   | 31 鳥取  | 734     | 6.4     | 0.5 |
| 8 茨城   | 4,089   | 3.6     | 2.8   | 32 島根  | 955     | 5.8     | 0.7 |
| 9 栃木   | 3,099   | 5.3     | 2.1   | 33 岡山  | 2,670   | 3.5     | 1.8 |
| 10 群馬  | 3,711   | 3.8     | 2.5   | 34 広島  | 3,587   | 4.4     | 2.4 |
| 11 埼玉  | 8,012   | 4.5     | 5.5   | 35 山口  | 1,492   | 5.1     | 1.0 |
| 12 千葉  | 3,937   | 5.5     | 2.7   | 36 徳島  | 1,002   | 7.6     | 0.7 |
| 13 東京  | 8,921   | 6.7     | 6.1   | 37 香川  | 1,415   | 4.5     | 1.0 |
| 14 神奈川 | 6,187   | 5.4     | 4.2   | 38 愛媛  | 1,730   | 5.1     | 1.2 |
| 15 新潟  | 4,019   | 5.0     | 2.7   | 39 高知  | 727     | 6.8     | 0.5 |
| 16 富山  | 2,078   | 4.3     | 1.4   | 40 福岡  | 4,137   | 5.2     | 2.8 |
| 17 石川  | 1,868   | 6.0     | 1.3   | 41 佐賀  | 1,029   | 6.3     | 0.7 |
| 18 福井  | 1,567   | 4.2     | 1.1   | 42 長崎  | 1,186   | 4.4     | 0.8 |
| 19 山梨  | 1,364   | 3.2     | 0.9   | 43 熊本  | 1,579   | 4.9     | 1.1 |
| 20 長野  | 3,706   | 6.4     | 2.5   | 44 大分  | 1,156   | 2.4     | 0.8 |
| 21 岐阜  | 4,079   | 3.4     | 2.8   | 45 宮崎  | 1,121   | 2.5     | 0.8 |
| 22 静岡  | 7,197   | 4.4     | 4.9   | 46 鹿児島 | 1,458   | 6.4     | 1.0 |
| 23 愛知  | 11,372  | 3.2     | 7.8   | 47 沖縄  | 609     | 0.8     | 0.4 |

注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

(2) 従業者数 - 従業者数は、すべての県で減少 -

従業者数は、745万4998人、前年比 4.4%の減少であった（第8表）。

都道府県別にみると（第16図）、神奈川（前年比 7.8%減）、高知（同 7.0%減）、東京（同 7.0%減）、千葉（同 6.8%減）、大阪（同 6.7%減）、徳島（同 6.3%減）、長野（同 6.3%減）、鹿児島（同 6.3%減）、島根（同 6.2%減）などすべての県で減少となっている。



従業者数の多い県は、愛知（71万5417人、構成比9.6%）、大阪（47万593人、同6.3%）、神奈川（40万6346人、同5.5%）、静岡（39万7087人、同5.3%）、埼玉（38万3297人、同5.1%）、東京（34万3341人、同4.6%）、兵庫（33万6383人、同4.5%）、茨城（24万5852人、同3.3%）、千葉（20万8189人、同2.8%）の順となっている。

第8表 都道府県別の従業者数  
(従業者10人以上の事業所)

| 項目     | 平成14年     |         |         | 項目     | 平成14年   |         |         |
|--------|-----------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|
|        | (人)       | 前年比 (%) | 構成比 (%) |        | (人)     | 前年比 (%) | 構成比 (%) |
| 全国計    | 7,454,998 | 4.4     | 100.0   | 24 三重  | 172,771 | 2.8     | 2.3     |
| 1 北海道  | 177,375   | 4.6     | 2.4     | 25 滋賀  | 138,889 | 3.8     | 1.9     |
| 2 青森   | 60,195    | 3.1     | 0.8     | 26 京都  | 139,741 | 3.2     | 1.9     |
| 3 岩手   | 91,736    | 3.9     | 1.2     | 27 大阪  | 470,593 | 6.7     | 6.3     |
| 4 宮城   | 121,067   | 3.1     | 1.6     | 28 兵庫  | 336,383 | 3.8     | 4.5     |
| 5 秋田   | 70,817    | 5.8     | 0.9     | 29 奈良  | 63,491  | 2.8     | 0.9     |
| 6 山形   | 103,781   | 4.9     | 1.4     | 30 和歌山 | 46,880  | 2.1     | 0.6     |
| 7 福島   | 165,311   | 5.5     | 2.2     | 31 鳥取  | 37,032  | 4.0     | 0.5     |
| 8 茨城   | 245,852   | 4.6     | 3.3     | 32 島根  | 41,201  | 6.2     | 0.6     |
| 9 栃木   | 186,230   | 2.5     | 2.5     | 33 岡山  | 142,115 | 4.3     | 1.9     |
| 10 群馬  | 197,509   | 4.5     | 2.6     | 34 広島  | 190,681 | 2.7     | 2.6     |
| 11 埼玉  | 383,297   | 4.6     | 5.1     | 35 山口  | 93,737  | 5.0     | 1.3     |
| 12 千葉  | 208,189   | 6.8     | 2.8     | 36 徳島  | 45,365  | 6.3     | 0.6     |
| 13 東京  | 343,341   | 7.0     | 4.6     | 37 香川  | 62,558  | 4.3     | 0.8     |
| 14 神奈川 | 406,346   | 7.8     | 5.5     | 38 愛媛  | 80,474  | 5.3     | 1.1     |
| 15 新潟  | 184,004   | 4.6     | 2.5     | 39 高知  | 25,145  | 7.0     | 0.3     |
| 16 富山  | 114,689   | 4.3     | 1.5     | 40 福岡  | 207,347 | 5.8     | 2.8     |
| 17 石川  | 83,550    | 5.2     | 1.1     | 41 佐賀  | 53,736  | 5.1     | 0.7     |
| 18 福井  | 68,473    | 4.5     | 0.9     | 42 長崎  | 54,854  | 4.5     | 0.7     |
| 19 山梨  | 68,898    | 2.5     | 0.9     | 43 熊本  | 86,934  | 2.8     | 1.2     |
| 20 長野  | 192,554   | 6.3     | 2.6     | 44 大分  | 60,475  | 3.3     | 0.8     |
| 21 岐阜  | 174,478   | 1.9     | 2.3     | 45 宮崎  | 55,387  | 1.1     | 0.7     |
| 22 静岡  | 397,087   | 3.6     | 5.3     | 46 鹿児島 | 69,757  | 6.3     | 0.9     |
| 23 愛知  | 715,417   | 1.1     | 9.6     | 47 沖縄  | 19,256  | 1.5     | 0.3     |

注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

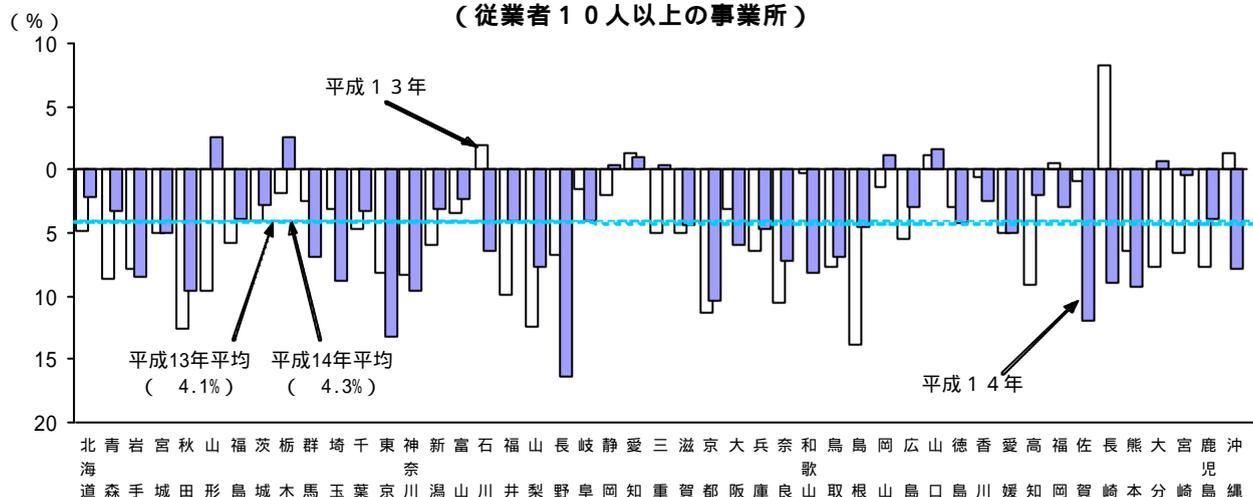
(3) 製造品出荷額等 - 出荷額は、39県で減少、8県で増加 -

出荷額は、260兆124億円、前年比4.3%の減少であった(第9、13表)。

都道府県別にみると(第17図)、長野(前年比16.4%減)、東京(同13.2%減)、佐賀(同11.9%減)、京都(同10.3%減)、神奈川(同9.7%減)、秋田(同9.6%減)、熊本(同9.3%減)、長崎(同9.0%減)、埼玉(同8.8%減)、岩手(同8.5%減)など39県で減少し、山形(同2.6%増)、栃木(同2.6%増)、山口(同1.7%増)、岡山(同1.1%増)、愛知(同0.9%増)など8県で増加となっている。

減少となった県のうち、島根は携帯電話の減、生産移管(国内外)により減少、東京はパソコンの減、佐賀県は清涼飲料の減、京都はIC、シリコントランジスタ等の減、神奈川は半導体集積回路の減によるものとなっている。増加した県のうち、山形はパソコンの増、岡山はICの増、山口、愛知は乗用車の増加によるものとなっている。

第17図 都道府県別出荷額の前年比  
(従業員10人以上の事業所)



注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

出荷額が大きい県は(第9、11、13表)、愛知(33兆6714億円、構成比12.9%)、神奈川(17兆5204億円、同6.7%)、静岡(15兆7215億円、同6.0%)、大阪(14兆6830億円、同5.6%)、埼玉(12兆1549億円、同4.7%)、兵庫(12兆876億円、同4.6%)、東京(10兆8227億円、同4.2%)、千葉(10兆2931億円、同4.0%)、茨城(9兆7880億円、同3.8%)の順となっている。

第9表 都道府県別の出荷額  
(従業者10人以上の事業所)

| 項目<br>県 | 平成14年     |            |            | 項目<br>県 | 平成14年   |            |            |
|---------|-----------|------------|------------|---------|---------|------------|------------|
|         | (億円)      | 前年比<br>(%) | 構成比<br>(%) |         | (億円)    | 前年比<br>(%) | 構成比<br>(%) |
| 全国計     | 2,600,124 | 4.3        | 100.0      | 24 三重   | 75,043  | 0.3        | 2.9        |
| 1 北海道   | 50,424    | 2.1        | 1.9        | 25 滋賀   | 56,972  | 4.4        | 2.2        |
| 2 青森    | 11,453    | 3.2        | 0.4        | 26 京都   | 44,226  | 10.3       | 1.7        |
| 3 岩手    | 19,911    | 8.5        | 0.8        | 27 大阪   | 146,830 | 6.0        | 5.6        |
| 4 宮城    | 33,303    | 5.1        | 1.3        | 28 兵庫   | 120,876 | 4.6        | 4.6        |
| 5 秋田    | 12,807    | 9.6        | 0.5        | 29 奈良   | 18,937  | 7.2        | 0.7        |
| 6 山形    | 26,370    | 2.6        | 1.0        | 30 和歌山  | 19,705  | 8.2        | 0.8        |
| 7 福島    | 50,153    | 3.8        | 1.9        | 31 鳥取   | 9,951   | 6.9        | 0.4        |
| 8 茨城    | 97,880    | 2.7        | 3.8        | 32 島根   | 9,579   | 4.6        | 0.4        |
| 9 栃木    | 74,952    | 2.6        | 2.9        | 33 岡山   | 61,597  | 1.1        | 2.4        |
| 10 群馬   | 70,324    | 6.9        | 2.7        | 34 広島   | 63,593  | 2.9        | 2.4        |
| 11 埼玉   | 121,549   | 8.8        | 4.7        | 35 山口   | 48,835  | 1.7        | 1.9        |
| 12 千葉   | 102,931   | 3.1        | 4.0        | 36 徳島   | 13,240  | 4.2        | 0.5        |
| 13 東京   | 108,227   | 13.2       | 4.2        | 37 香川   | 19,753  | 2.5        | 0.8        |
| 14 神奈川  | 175,204   | 9.7        | 6.7        | 38 愛媛   | 30,175  | 4.9        | 1.2        |
| 15 新潟   | 40,086    | 3.1        | 1.5        | 39 高知   | 5,062   | 2.0        | 0.2        |
| 16 富山   | 31,196    | 2.3        | 1.2        | 40 福岡   | 67,762  | 2.9        | 2.6        |
| 17 石川   | 22,031    | 6.4        | 0.8        | 41 佐賀   | 13,500  | 11.9       | 0.5        |
| 18 福井   | 15,804    | 4.0        | 0.6        | 42 長崎   | 14,250  | 9.0        | 0.5        |
| 19 山梨   | 20,292    | 7.8        | 0.8        | 43 熊本   | 23,043  | 9.3        | 0.9        |
| 20 長野   | 52,134    | 16.4       | 2.0        | 44 大分   | 27,909  | 0.7        | 1.1        |
| 21 岐阜   | 44,558    | 4.1        | 1.7        | 45 宮崎   | 11,698  | 0.4        | 0.4        |
| 22 静岡   | 157,215   | 0.4        | 6.0        | 46 鹿児島  | 16,734  | 3.8        | 0.6        |
| 23 愛知   | 336,714   | 0.9        | 12.9       | 47 沖縄   | 5,336   | 7.9        | 0.2        |

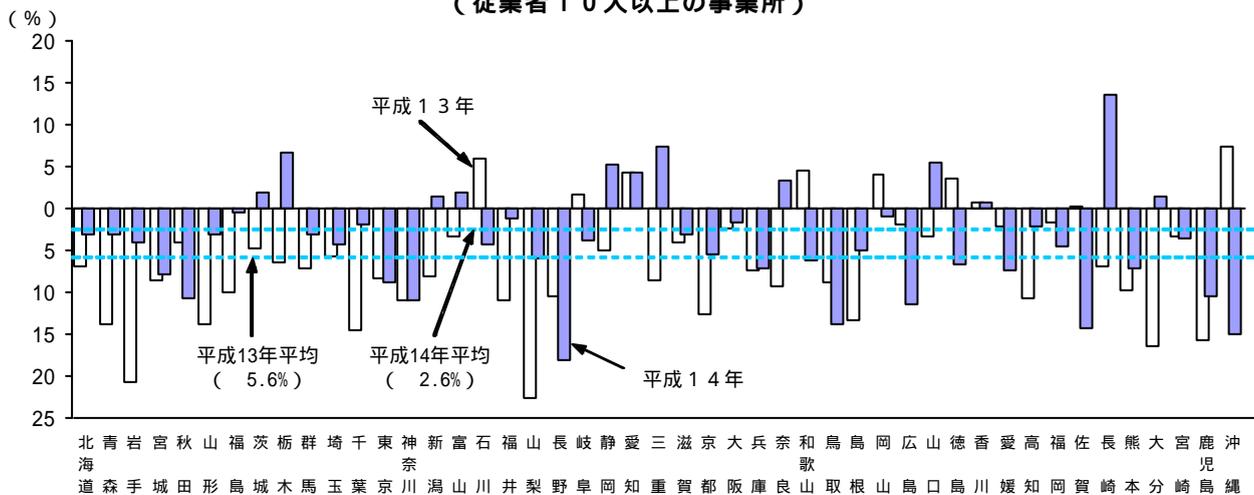
注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

(4) 付加価値額 - 付加価値額は、35県で減少、12県で増加 -

付加価値額は、92兆6046億円、前年比 2.6%の減少であった(第10、14表)。

都道府県別にみると(第18図)、長野(前年比 18.1%減)、沖縄(同 15.0%減)、佐賀(同 14.4%減)、鳥取(同 13.9%減)、広島(同 11.4%減)など35県で減少し、長崎(同13.6%増)、三重(同7.3%増)、栃木(同6.6%増)、山口(同5.5%増)、静岡(同5.3%増)、愛知(同4.2%増)など12県で増加となっている。

第18図 都道府県別付加価値額の前年比  
(従業者10人以上の事業所)



注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

付加価値額が大きい県は（第10、14表）愛知（10兆7161億円、構成比11.6%）、大阪（5兆9983億円、同6.5%）、静岡（5兆9147億円、同6.4%）、神奈川（5兆8005億円、同6.3%）、埼玉（4兆5272億円、同4.9%）、兵庫（4兆3990億円、同4.8%）、東京（4兆2291億円、同4.6%）、茨城（3兆5256億円、同3.8%）、千葉（3兆2202億円、同3.5%）、栃木（2兆6828億円、同2.9%）の順となっている。

第10表 都道府県別の付加価値額  
（従業者10人以上の事業所）

| 項目<br>県 | 平成14年   |            |            | 項目<br>県 | 平成14年  |            |            |
|---------|---------|------------|------------|---------|--------|------------|------------|
|         | (億円)    | 前年比<br>(%) | 構成比<br>(%) |         | (億円)   | 前年比<br>(%) | 構成比<br>(%) |
| 全国計     | 926,046 | 2.6        | 100.0      | 24 三重   | 25,239 | 7.3        | 2.7        |
| 1 北海道   | 16,612  | 3.0        | 1.8        | 25 滋賀   | 23,293 | 3.0        | 2.5        |
| 2 青森    | 3,410   | 3.0        | 0.4        | 26 京都   | 18,001 | 5.5        | 1.9        |
| 3 岩手    | 6,380   | 4.1        | 0.7        | 27 大阪   | 59,983 | 1.5        | 6.5        |
| 4 宮城    | 10,630  | 7.8        | 1.1        | 28 兵庫   | 43,990 | 7.1        | 4.8        |
| 5 秋田    | 4,885   | 10.6       | 0.5        | 29 奈良   | 8,045  | 3.4        | 0.9        |
| 6 山形    | 8,418   | 2.9        | 0.9        | 30 和歌山  | 7,612  | 6.1        | 0.8        |
| 7 福島    | 19,083  | 0.4        | 2.1        | 31 鳥取   | 2,789  | 13.9       | 0.3        |
| 8 茨城    | 35,256  | 2.0        | 3.8        | 32 島根   | 3,238  | 5.0        | 0.3        |
| 9 栃木    | 26,828  | 6.6        | 2.9        | 33 岡山   | 19,965 | 1.0        | 2.2        |
| 10 群馬   | 24,582  | 3.0        | 2.7        | 34 広島   | 22,341 | 11.4       | 2.4        |
| 11 埼玉   | 45,272  | 4.3        | 4.9        | 35 山口   | 16,918 | 5.5        | 1.8        |
| 12 千葉   | 32,202  | 1.9        | 3.5        | 36 徳島   | 5,693  | 6.6        | 0.6        |
| 13 東京   | 42,291  | 8.9        | 4.6        | 37 香川   | 6,419  | 0.6        | 0.7        |
| 14 神奈川  | 58,005  | 10.8       | 6.3        | 38 愛媛   | 9,470  | 7.5        | 1.0        |
| 15 新潟   | 16,899  | 1.5        | 1.8        | 39 高知   | 2,355  | 2.1        | 0.3        |
| 16 富山   | 13,638  | 1.8        | 1.5        | 40 福岡   | 23,514 | 4.6        | 2.5        |
| 17 石川   | 8,394   | 4.2        | 0.9        | 41 佐賀   | 5,086  | 14.4       | 0.5        |
| 18 福井   | 6,457   | 1.2        | 0.7        | 42 長崎   | 4,863  | 13.6       | 0.5        |
| 19 山梨   | 7,151   | 5.8        | 0.8        | 43 熊本   | 8,224  | 7.1        | 0.9        |
| 20 長野   | 18,786  | 18.1       | 2.0        | 44 大分   | 8,959  | 1.5        | 1.0        |
| 21 岐阜   | 17,326  | 3.9        | 1.9        | 45 宮崎   | 4,245  | 3.5        | 0.5        |
| 22 静岡   | 59,147  | 5.3        | 6.4        | 46 鹿児島  | 5,685  | 10.5       | 0.6        |
| 23 愛知   | 107,161 | 4.2        | 11.6       | 47 沖縄   | 1,305  | 15.0       | 0.1        |

注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

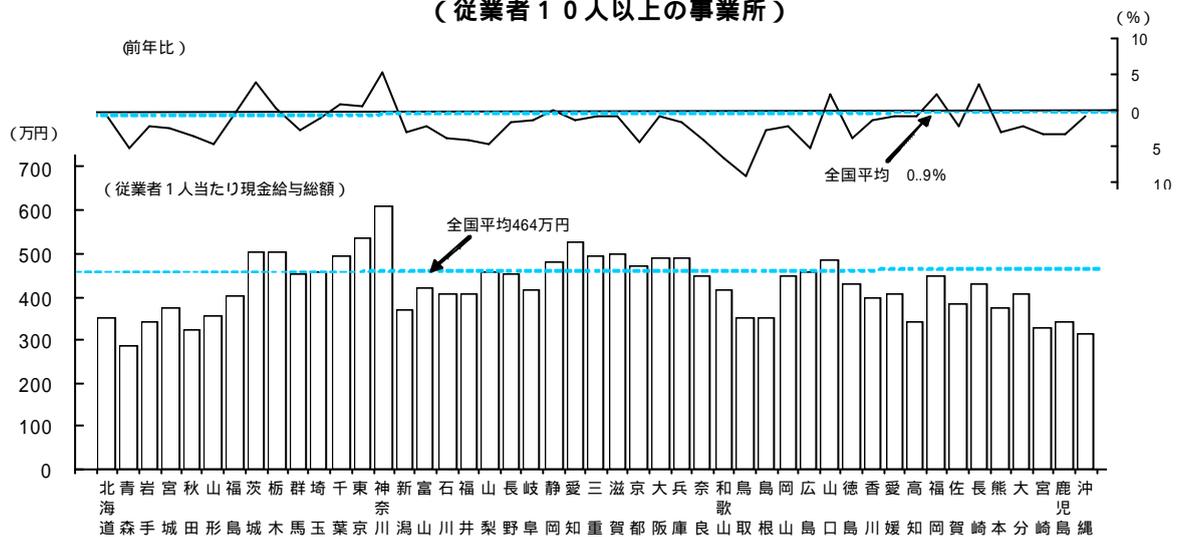
## (5) 従業者1人当たり現金給与総額

従業者1人当たり現金給与総額は、464万円、前年比 0.9%の減少であった(第19図)。

都道府県別にみると、鳥取(前年比 9.2%減)、和歌山(同 6.5%減)、広島(同 5.3%減)、青森(同 5.3%減)、山形、山梨(ともに同 4.8%減)など39県で減少し、神奈川(同5.1%増)、茨城(同3.9%増)、長崎(同3.6%増)、山口(同2.1%増)、福岡(同2.1%増)など8県で増加となっている。

従業者1人当たり現金給与総額が高い県は、神奈川(611万円)、東京(536万円)、愛知(527万円)、茨城(504万円)、栃木(503万円)、滋賀(500万円)、千葉、三重(ともに494万円)、兵庫(491万円)、大阪(490万円)の順となっている。

第19図 都道府県別の従業者1人当たり現金給与総額  
(従業者10人以上の事業所)



注：平成14年調査において、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年比については平成13年の分類を組み替えて計算している。

# <トピックス>

事業所の開業・廃業・継続状況(従業者10人以上の事業所)

1. 開業等の割合・廃業等の割合、継続事業所の状況
2. 継続事業所の出荷額前年比の分布状況

我が国製造業の産業集中度の推移と地域別の特徴(従業者4人以上の事業所)

1. 製造業の産業集中度の推移
2. 産業別の特徴とその動向
3. 産業別の集中度の推移
4. 地域別にみた製造業の動向
  - (1) 政令市等、市、町村別の動向
    - 事業所数
    - 従業者数
    - 製造品出荷額等
  - (2) 市区町村別の動向
    - 事業所数
    - 従業者数
    - 製造品出荷額等
  - (3) 経済産業局別の製造品出荷額等の動向
    - 北海道地域
    - 東北地域
    - 関東地域
    - 中部地域
    - 近畿地域
    - 中国地域
    - 四国地域
    - 九州地域
5. 産業中分類別にみた市区町村別の出荷額の動向
6. まとめ

## ＜トピックス＞

### 事業所の開業・廃業・継続状況（従業者10人以上の事業所）

#### 1. 開業等の割合・廃業等の割合、継続事業所の状況

平成14年調査結果を開業、廃業、継続事業所別にみると、平成13年、14年と継続して存在した事業所は13万5486事業所で、平成14年の従業者10人以上の事業所のうち92.5%が継続して活動を行っている。開業等の事業所は1603事業所、開業等の割合は1.1%、廃業等の事業所は6110事業所、廃業等の割合は4.0%であった。

出荷額ベースでみると、継続事業所の割合は、平成14年では97.1%とその割合は事業所数の割合より大きい。また、開業等の割合は1.4%、廃業等の割合は3.2%であった。

#### 従業者10人以上の事業所の状況

##### 【事業所数】

|               | 平成11年   |        | 平成12年   |        | 平成13年   |        | 平成14年   |        |
|---------------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
|               | 事業所数    | 構成比(%) | 事業所数    | 構成比(%) | 事業所数    | 構成比(%) | 事業所数    | 構成比(%) |
| 合 計           | 159,346 | 100.0  | 154,723 | 100.0  | 155,182 | 100.0  | 146,512 | 100.0  |
| 開業等（転入、転業を含む） | 1,506   | 0.9    | 1,712   | 1.1    | 1,961   | 1.3    | 1,603   | 1.1    |
| 規模上がり等        | 8,999   | 5.6    | 9,315   | 6.0    | 15,546  | 10.0   | 9,423   | 6.4    |
| 継続            | 148,841 | 93.4   | 143,696 | 92.9   | 137,675 | 88.7   | 135,486 | 92.5   |
| 規模下がり等        | 12,642  | -      | 10,582  | -      | 11,105  | -      | 13,586  | -      |
| 廃業等（転出、転業を含む） | 5,422   | 3.2    | 5,068   | 3.2    | 5,943   | 3.8    | 6,110   | 4.0    |

##### 【出荷額】

|               | 平成11年     |        | 平成12年     |        | 平成13年     |        | 平成14年     |        |
|---------------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|
|               | 億円        | 構成比(%) | 億円        | 構成比(%) | 億円        | 構成比(%) | 億円        | 構成比(%) |
| 合 計           | 2,792,555 | 100.0  | 2,882,798 | 100.0  | 2,764,170 | 100.0  | 2,600,124 | 100.0  |
| 開業等（転入、転業を含む） | 20,978    | 0.8    | 16,037    | 0.6    | 27,189    | 1.0    | 37,371    | 1.4    |
| 規模上がり等        | 30,458    | 1.1    | 33,561    | 1.2    | 41,790    | 1.5    | 37,455    | 1.4    |
| 継続            | 2,741,120 | 98.2   | 2,833,199 | 98.3   | 2,695,191 | 97.5   | 2,525,299 | 97.1   |
| 規模下がり等        | 38,903    | -      | 32,413    | -      | 39,812    | -      | 35,110    | -      |
| 廃業等（転出、転業を含む） | 50,510    | 1.7    | 43,324    | 1.6    | 58,510    | 2.0    | 87,181    | 3.2    |

注：開業等の割合 = 「開設・転入」、「転業」の事業所数 / 当年事業所数 × 100  
 廃業等の割合 = 「廃業・転出」、「転業」の事業所数 / 前年事業所数 × 100  
 （廃業等の割合は、日本標準産業分類の改訂が行われたため、前年事業所数は平成14年分類に組み替えて計算している）

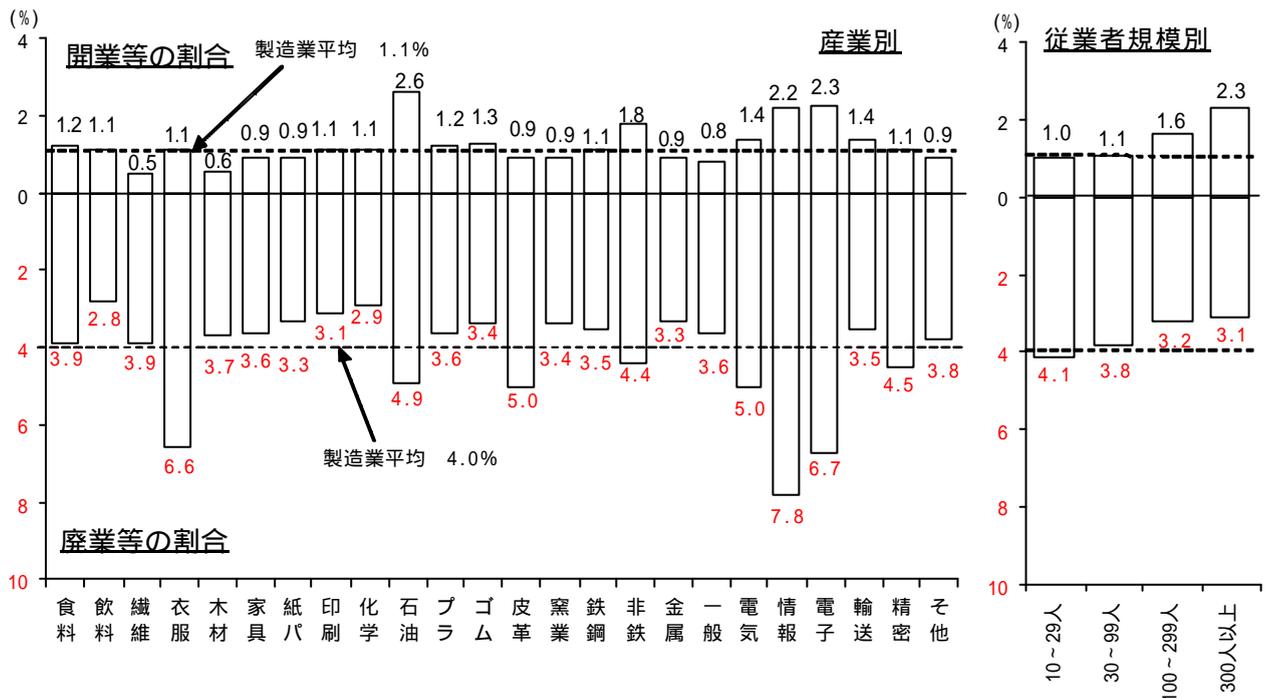
開業等の割合をみると、製造業計で1.1%、前年に比べ 0.2ポイントの縮小であった。

開業等の割合が高いものを産業別にみると、石油製品・石炭製品製造業(開業等の割合2.6%)、電子部品・デバイス製造業(同2.3%)、情報通信機械器具製造業(同2.2%)、非鉄金属製造業(同1.8%)の順となっている。また、従業者規模別にみると、300人以上規模(同2.3%)、100~299人規模(同1.6%)、30~99人規模(同1.1%)、10~29人規模(同1.0%)の順となっている。

廃業等の割合をみると、製造業計で4.0%、前年比0.2ポイントの増加となっている。

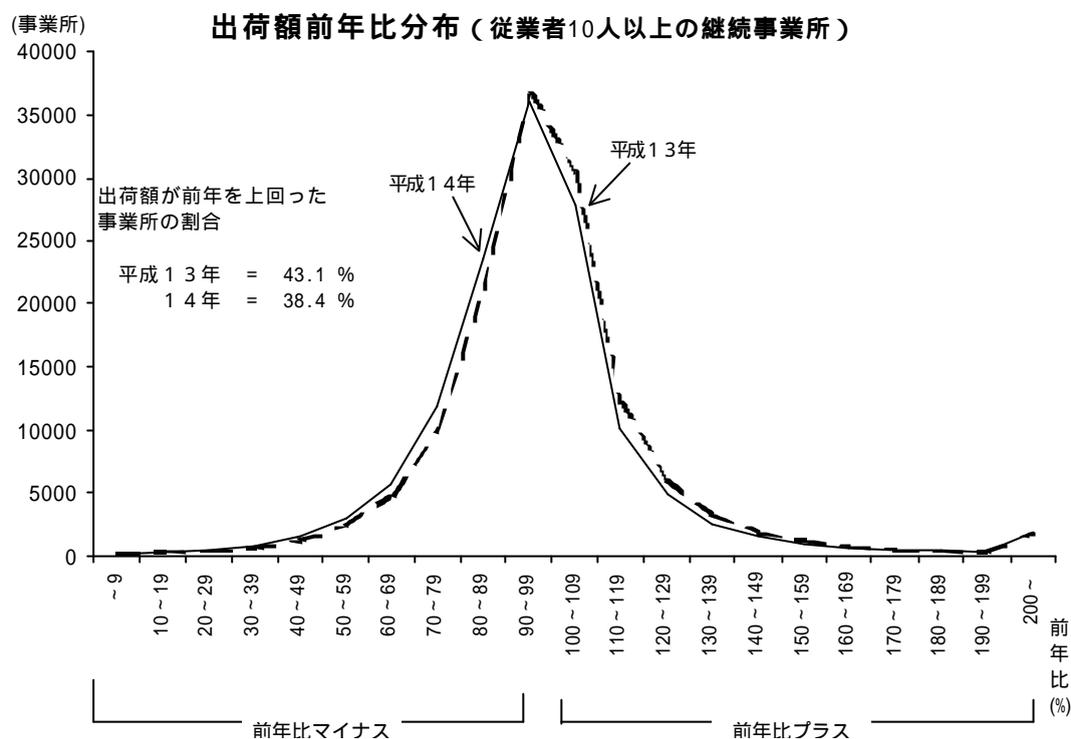
廃業等の割合の高いものを産業別にみると、情報通信機械器具製造業(廃業等の割合7.8%)、電子部品・デバイス製造業(同6.7%)、衣服・その他の繊維製品製造業(同6.6%)、電気機械器具製造業(同5.0%)、なめし革・同製品・毛皮製造業(同5.0%)の順となっており、電気機械関連の産業で廃業等の割合が高い。また、従業者規模別にみると、300人以上規模(同3.1%)、100~299人規模(同3.2%)、30~99人規模(同3.8%)、10~29人規模(同4.1%)の順となっており、規模が小さくなるにつれ廃業等の割合は高くなっている。

産業中分類別、従業者規模別の開業等、廃業等の割合

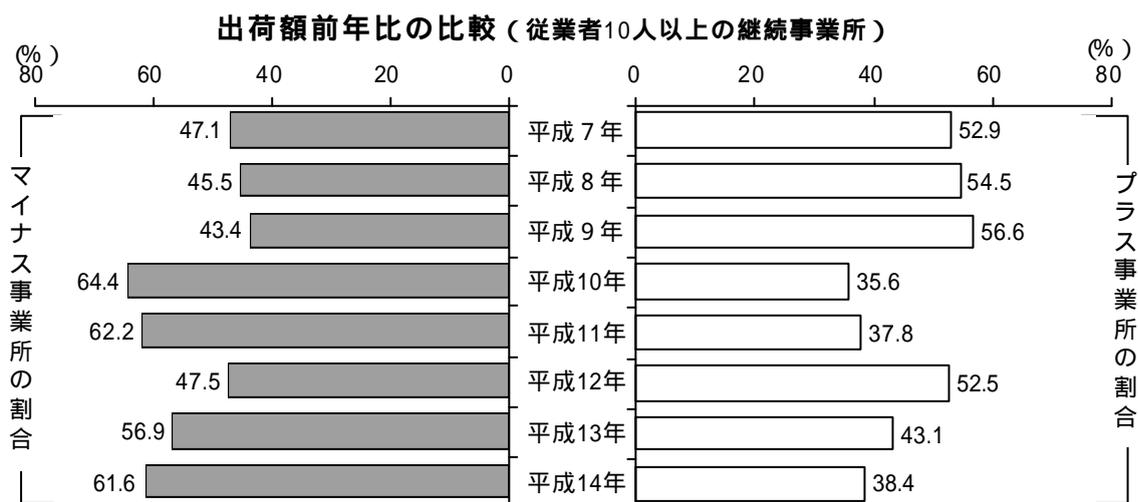


## 2. 継続事業所の出荷額前年比の分布状況

平成13年から平成14年にかけて継続した事業所(13万5486事業所)の出荷額前年比分布をみると、平成13年に比べ若干左寄りの形状となっている。



出荷額が前年比プラスになった事業所の割合は、平成13年の43.1%から平成14年は38.4%と、4.7ポイント減、平成12年(同52.5%)、13年(同43.1%)に比べると前年比プラスの事業所の割合は低いものとなっている。



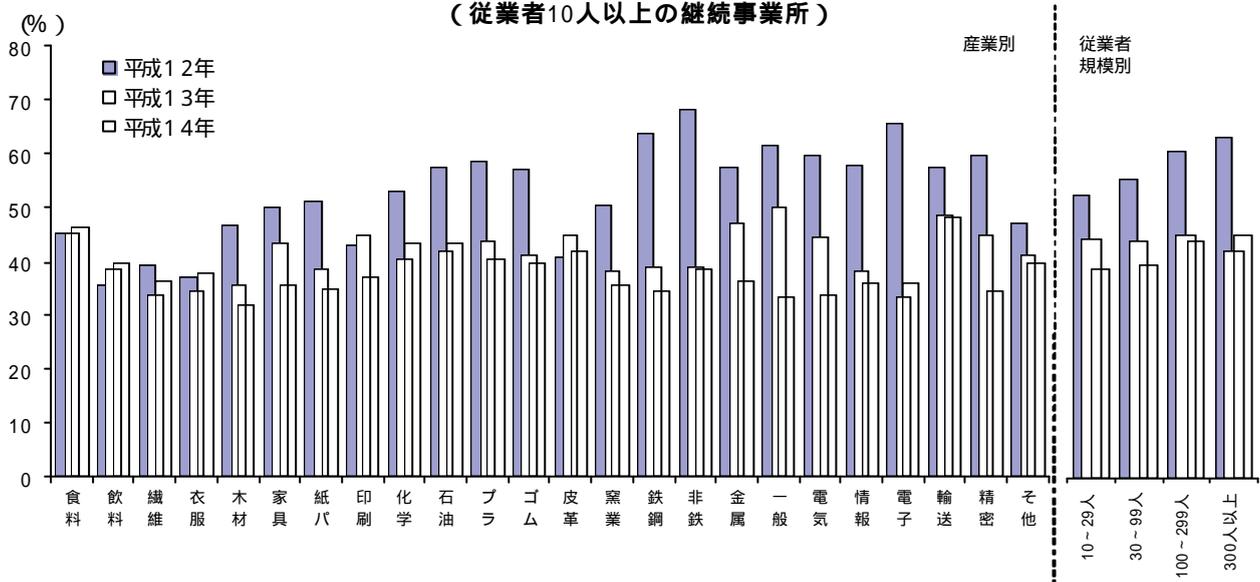
注：出荷額前年比について、平成14年より産業分類が変更されたため、過去の値については平成14年分類に組み替えている。以下、同じ。

出荷額前年比プラス事業所の割合を産業別にみると、一般機械器具製造業、金属製品製造業、精密機械器具製造業、電気機械器具製造業をはじめとして17産業で縮小、衣服・その他の繊維製品製造業、化学工業、繊維工業、電子部品・デバイス製造業等の7産業で拡大している。

また、出荷額前年比プラス事業所の割合が高い産業は、輸送用機械器具製造業、食料品製造業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業の順となっている。

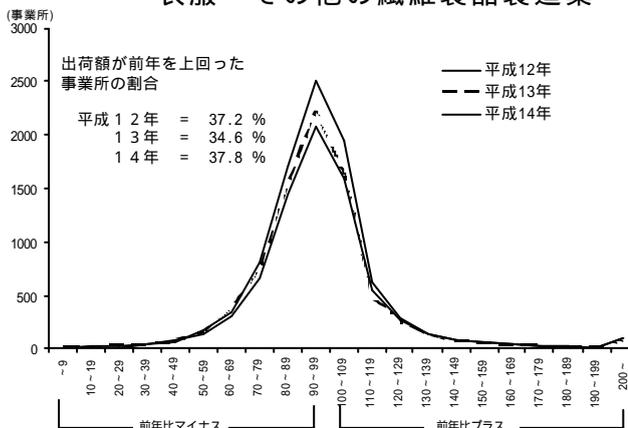
従業者規模別にみると、300人以上規模で出荷額前年比プラス事業所の割合が増大したが、他の規模では従業者規模が小さくなるほど出荷額前年比プラス事業所の割合の低下幅が大きくなっている。

産業別、従業者規模別 出荷額前年比プラス事業所の割合  
(従業者10人以上の継続事業所)

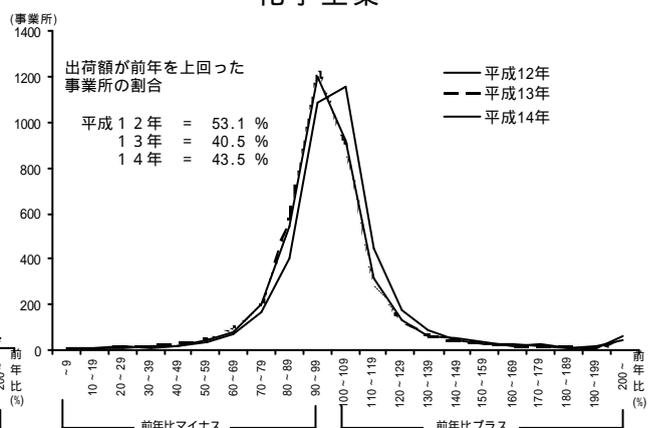


== 出荷額前年比プラスの割合が増加した産業の分布 (抜粋) ==

衣服・その他の繊維製品製造業

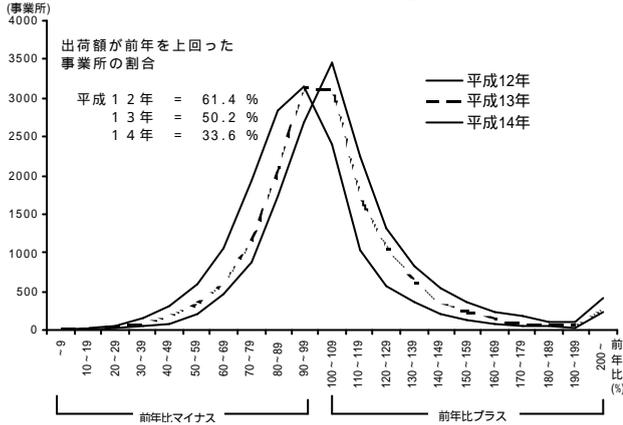


化学工業

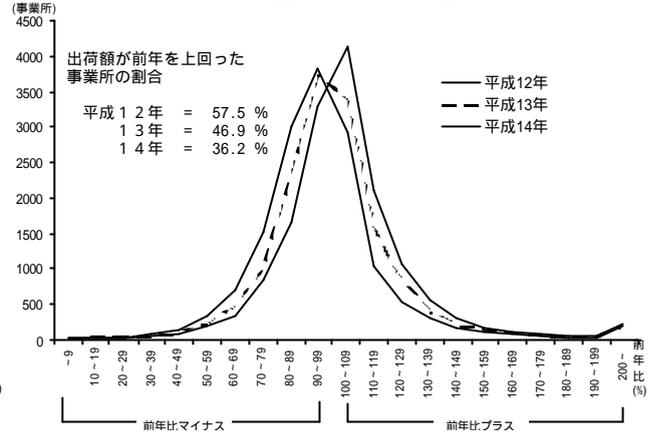


== 出荷額前年比プラスの割合が減少した産業の分布（抜粋） ==

一般機械器具製造業

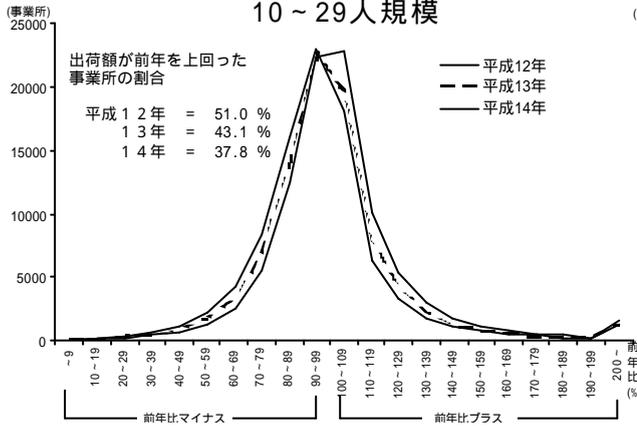


金属製品製造業

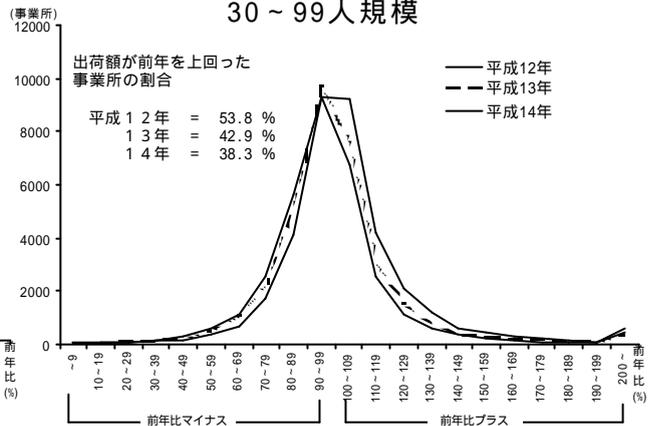


== 従業者規模別 出荷額前年比分布 ==

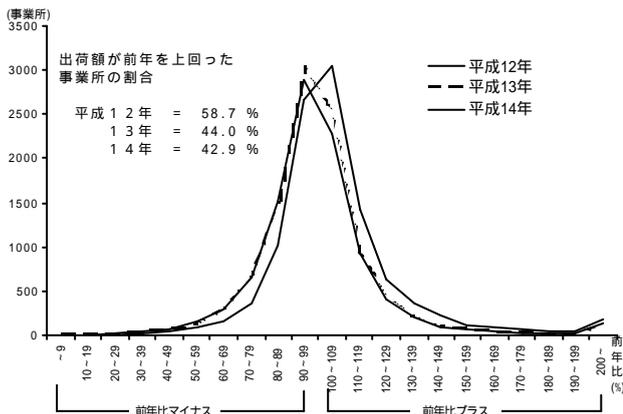
10～29人規模



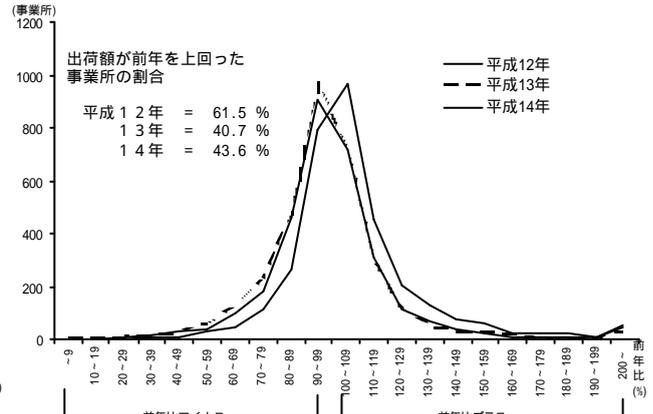
30～99人規模



100～299人規模



300人以上規模



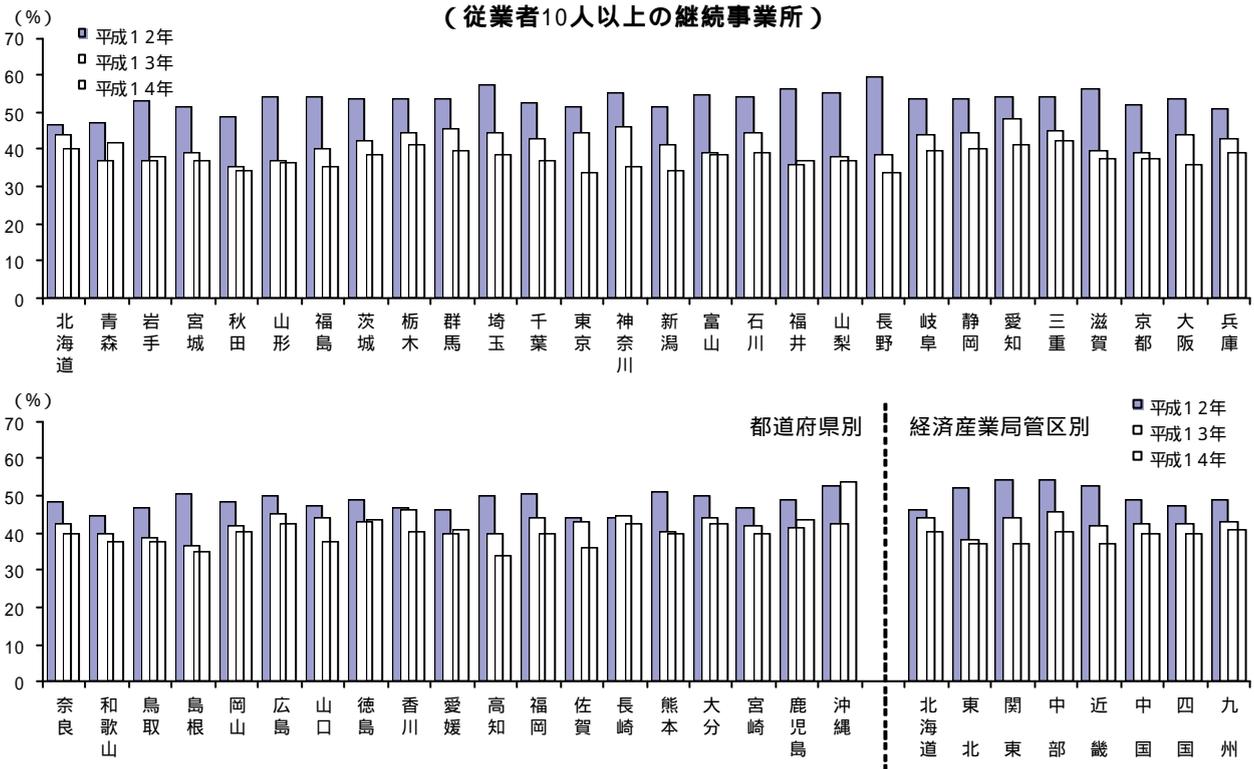
都道府県別にみると、沖縄、青森、鹿児島、岩手等の7県で出荷額プラスの事業所の割合は上昇となったものの、東京、神奈川、大阪、新潟、愛知、佐賀、群馬等の40県で出荷額プラス事業所の割合は低下している。

また、前年比プラス事業所の割合が高い県は、沖縄、鹿児島、徳島、広島、青森、長崎、大分、三重の順となっている。

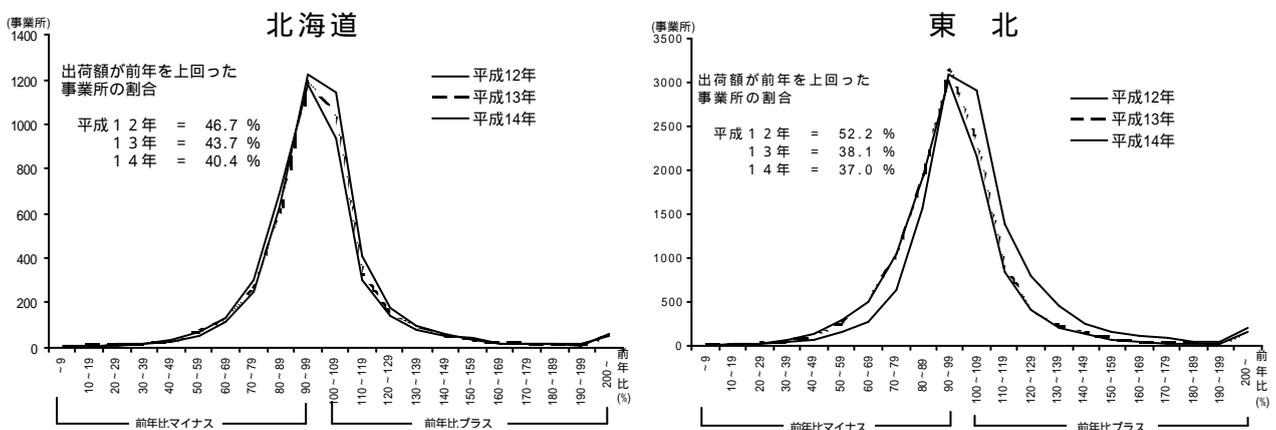
地域（経済産業局管区）別では、全地域で出荷額プラスの事業所の割合は低下となっている。低下幅が大きいのは、関東、中部、近畿などであった。

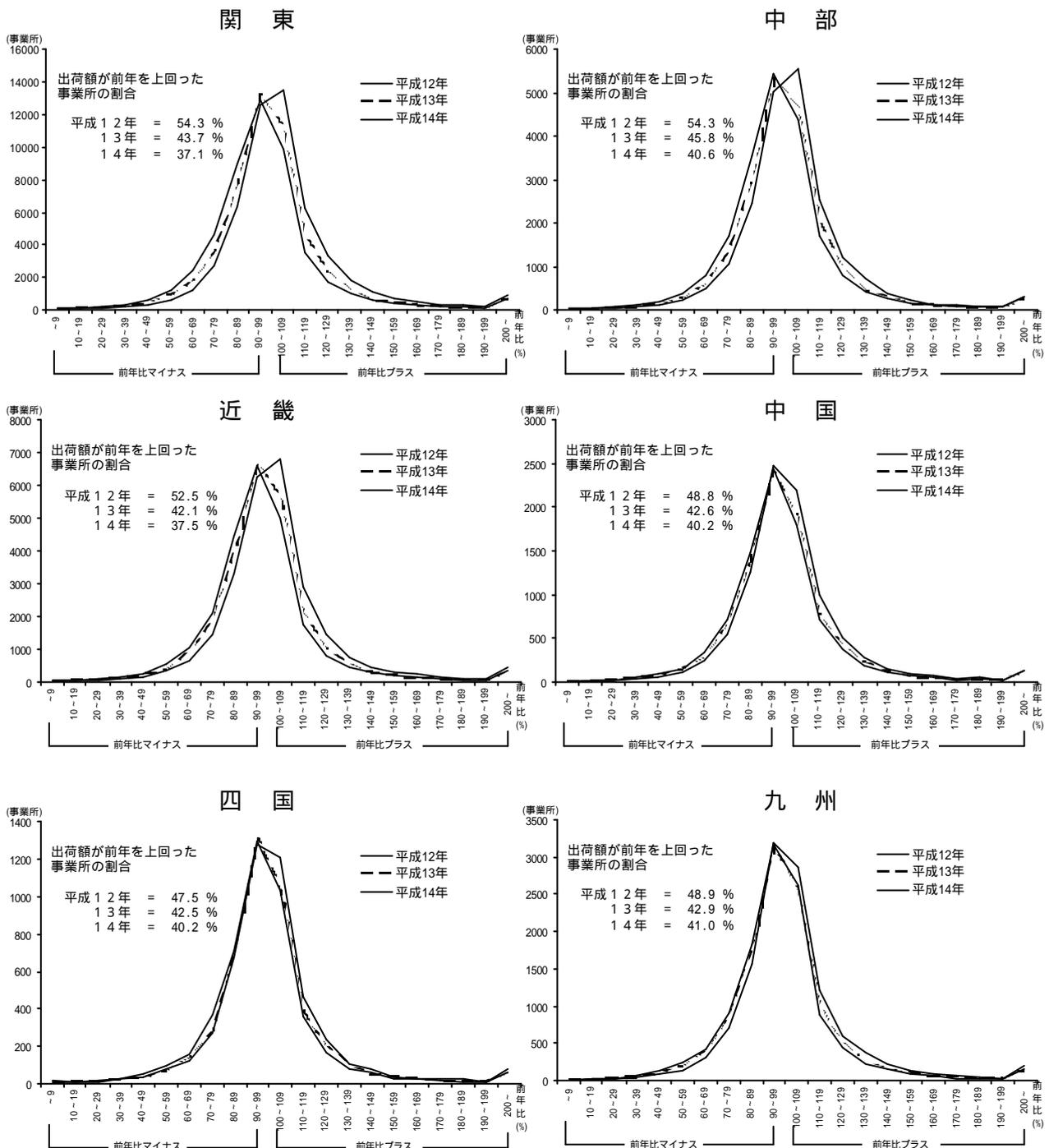
また、前年比プラス事業所の割合が高い地域は、九州、中部、北海道、中国、四国となっている。

都道府県別、地域別出荷額前年比プラス事業所の割合  
(従業員10人以上の継続事業所)



== 地域別（経済産業局管区）別出荷額前年比分布 ==





経済産業局管区の都道府県は以下のとおり。

| 経済産業局管区 | 都道府県                              |
|---------|-----------------------------------|
| 北海道     | 北海道                               |
| 東北      | 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島                 |
| 関東      | 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡 |
| 中部      | 富山、石川、岐阜、愛知、三重                    |
| 近畿      | 福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山             |
| 中国      | 鳥取、島根、岡山、広島、山口                    |
| 四国      | 徳島、香川、愛媛、高知                       |
| 九州      | 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄          |

## 我が国製造業の産業集中度の推移と地域別の特徴（従業者 4人以上の事業所）

我が国の製造業は、戦後の復興期以降、高度成長期、2度のオイルショック、バブル景気、バブル崩壊を通じてダイナミックに構造を変化し、成長してきた。この間、製造業は、人口の集中した都市やその周辺への集中、空港、高速道路網の充実を背景とした企業誘致などによる地域への展開、労働コスト削減などを目的とした海外への移転など、経済成長の各局面によってその地域展開の特性を変化させてきた。

### 1. 製造業の産業集中度の推移 ～長期的視点から～

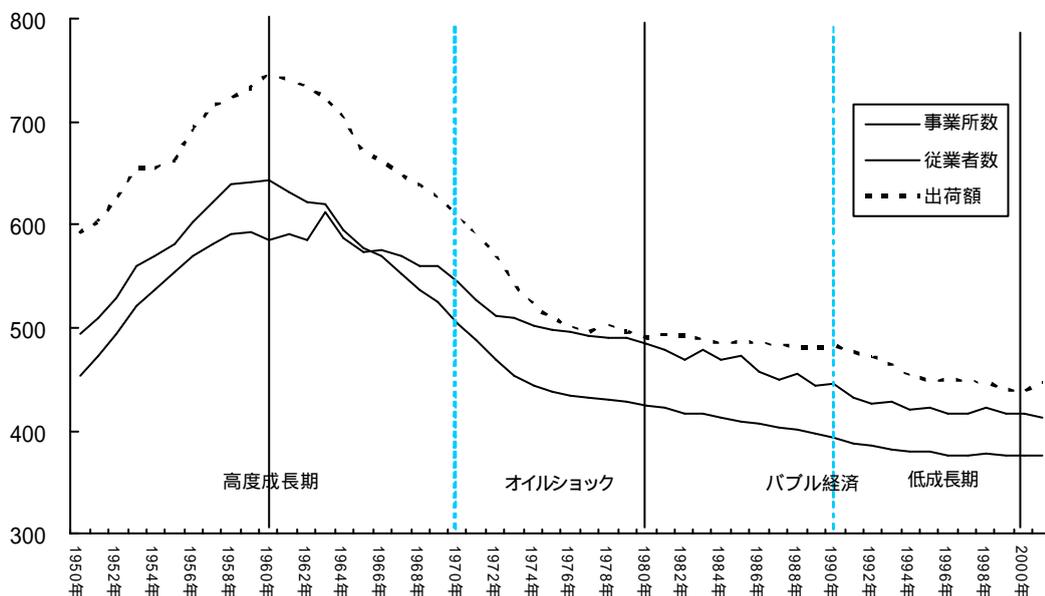
長期間の傾向変動を分析するために、都道府県ごとの事業所数、従業者数、出荷額を使って、年ごとの産業集中度を「ハーフィンダール指数」(以下、「HI」という)でみると、

高度成長期の前半(50年代)は、事業所数、従業者数、出荷額ともに指数が上昇傾向を示しており、産業の特定地域への集中度が高まっていることが読み取れる。これは、労働力が多く、同時に消費地に近い大都市あるいはその周辺地域に製造事業所が集中したことを表している。

高度成長期後半(60年代)には、HIは一転して低下傾向を示している。これは、公害問題などの人口、産業の集中により発生する社会問題を背景として、工場団地など地域の産業誘致への動きが活発になって、製造事業所の都市、周辺地域から地方への移転、新規立地が起こったことを表していると思われる。

70年代は、2度のオイルショックを経験しているが、産業集中、分散という視点でみる限りは60年代と同じ傾向を示している。背景には、空港や高速道路網の整備、充実などがあったと考えられる。

ハーフィンダール指数の推移



注1) 都道府県への集中度合をハーフィンダール指数でみることにする。本指数は、各都道府県の全国に占めるシェア(%)の2乗の合計で算出される。本指数数値が大きいほど、製造活動が特定の都道府県により集中していることを示す。特定の都道府県への集中が全くみられない場合、すなわち、すべての都道府県の数値が同一である場合、本指数は最小値の約213をとる。逆に最も集中している場合、すなわち一つの都道府県のみ数値があり、他のすべての都道府県の数値がゼロである場合は本指数は最大値10000をとる。例えば10の都道府県が同一の値をとり、他の都道府県は数値がゼロである場合(上位10県に均等に集中している場合)は本指数は1000となる。同様に上位5県に均等に集中している場合は本指数は2000となる。したがって、本指数の値が、1000に近くなれば、かなりの程度集中がみられるといえる。

$$\text{ハーフィンダール指数 (HI)} = \left( \sum (X_i / X \times 100) \right)^2$$

注2) 本稿の分析については、長期系列での分析となるため、「出版・印刷・関連産業」、「電気機械器具製造業」など日分類を使用した。

80年代の前半は安定成長期で、後半がバブル景気につながったが、製造業全体の集中度はなだらかな低下傾向を示している。この時期は、高度成長期が終焉して国内の経済成長に限界があるという見方が蔓延し、産業の集中という点では大きな変化はなかった。80年代後半は、バブル経済に移行し、海外への投資が活発化した。80年代後半から90年代にかけての、生産拠点の海外への移転の動きは、産地の生産能力の減少という形で集中度の低下に寄与した可能性がある。

90年代にバブル経済が崩壊し、その後の10年間はマクロ的には低成長が続いており、HIでみる集中度がなだらかな低下傾向にある。

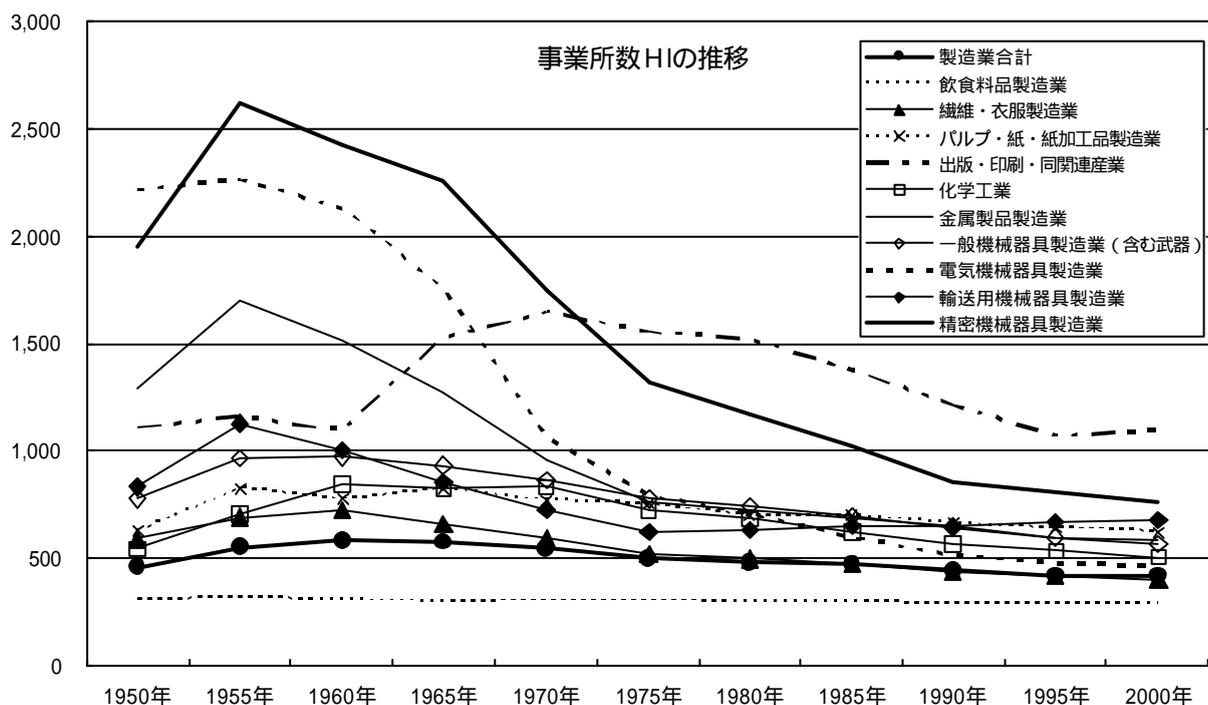
## 2. 産業別の特徴とその動向

事業所数の集中度の推移を産業別にみると、50年代、60年代は電気機械器具製造業、精密機械器具製造業、金属製品製造業、出版・印刷・同関連産業が指数値1000を超えており、これらの産業が特定の地域に集中していたことが伺われる。

特に、精密機械器具製造業は、ピークの55年には指数値が2500を超えており、非常に集中度が高かったことがわかる。高度成長期に分散化が進み、集中度は低下したものの、80年になお指数値が1000を超えている。直近の2000年でも指数値は800近くあり、出版・印刷・同関連産業に続き集中度が高い産業となっている。

一方、電気機械器具製造業は、ピークの55年には指数値が2000を超えており、非常に集中度が高かったことがわかるが、高度成長期に分散化が急速に進み、それ以降も集中度の低下が続いたため、2000年には指数値が500を切り、むしろ相対的に集中度が低い産業となっている。

金属製品製造業は、ピークの55年には指数値が1500を超え、その後分散化が進んだものの、2000年で指数値は600程度となっている。

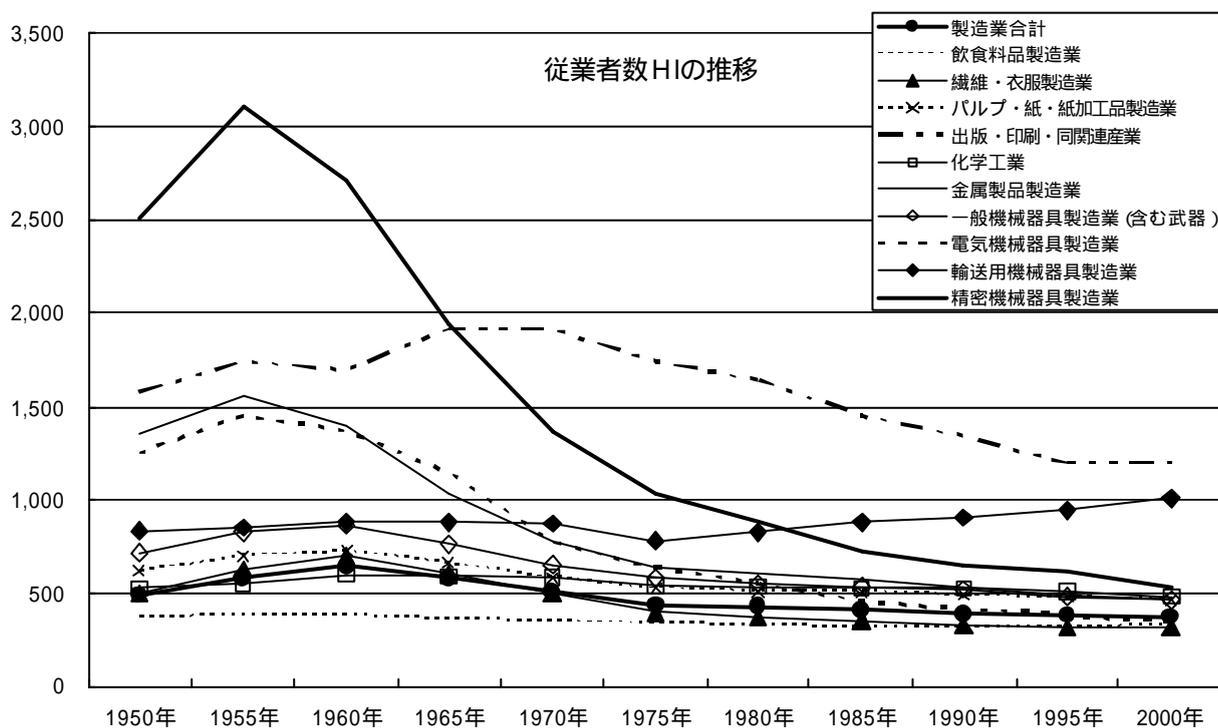


出版・印刷・同関連産業は、他の産業と全く異なる動きをしている。50年代は指数値が1000を超える水準で推移していたが、60年代には指数値が上昇し、70年には指数値が1500を超えている。その後、緩やかに分散化が進んだが、2000年でも指数値が1000を超えている。出版・印刷・同関連産業は、期間中ずっと指数値が1000を超えている唯一の産業である。このような動きの理由としては、出版・印刷・同関連産業が典型的な都市型産業であり、事業所が大都市に集中しているためと考えられる。ちなみに、出版・印刷・同関連産業の2000年の東京のシェアは28.6%であった。

また、ほとんどの産業において分散化が進む中で、輸送用機械器具製造業については、75年以降、集中度が高まる傾向を示している。

一方、集中度が低い産業についてみると、飲食料製造業は、一貫して指数値300前後で推移している。これは、飲食料製造業は消費地に密着した産業であり、特定の都道府県に事業所が集中する要素があまりないためと考えられる。

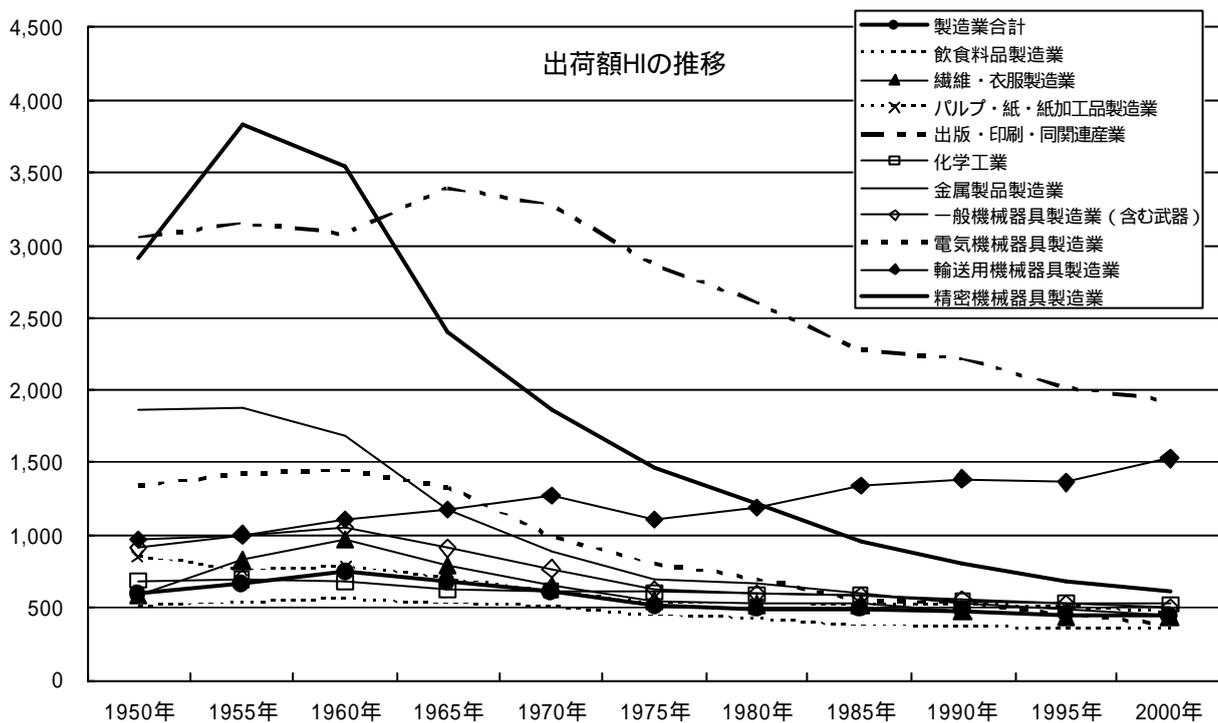
従業者数の集中度をみると、事業所数と同様に50年代、60年代は精密機械器具製造業、出版・印刷・同関連産業、金属製品製造業、電気機械器具製造業が指数値1000を超えていた。飛び抜けて集中度の高い精密機械器具製造業の55年の東京のシェアは53.2%と高いものとなっている。ちなみに同製造業の2000年の東京のシェアは12.0%となっている。出版・印刷・同関連産業は、2000年においても事業所数同様に全産業中、もっとも集中度が高い。輸送用機械器具製造業は、他の産業が高度成長期をピークに地方分散化が進んでいるにもかかわらず、なだらかな集中傾向を示しており、2000年には、指数が1000を超えている。



出荷額の集中度をみると、全期間を通じて出版・印刷・同関連産業が高い値を示している。出版・印刷・同関連産業は、典型的な都市型産業であり、情報の集中する大都市での生産が多いため、2000年においても指数値は2000に近い値となっている。精密機械器具製造業は急速に地域への分散化が進んだことがわかる。

50年代には、出荷額シェアの高かったカメラ、時計が東京に集中していたことから、指数値が3500を超え高く表れている。精密機械器具では経済の高成長により製造現場で使われる計測器、測定器、試験器などの需要が高まるとともに、出荷額シェアが高まった。これらの製品の生産は、カメラや時計のように生産地域が集中していないことから、集中度が急速に低下したものと思われる。輸送用機械器具製造業は、製品の性格上、最終組み立て事業所の周辺に部品供給を行う事業所が立地しており、集中度が高まる傾向にある。事業所数での集中度よりも、出荷額の集中度のほうが高いのは、最終組み立て事業所の1事業所当たりの出荷額が相対的に大きいためである。

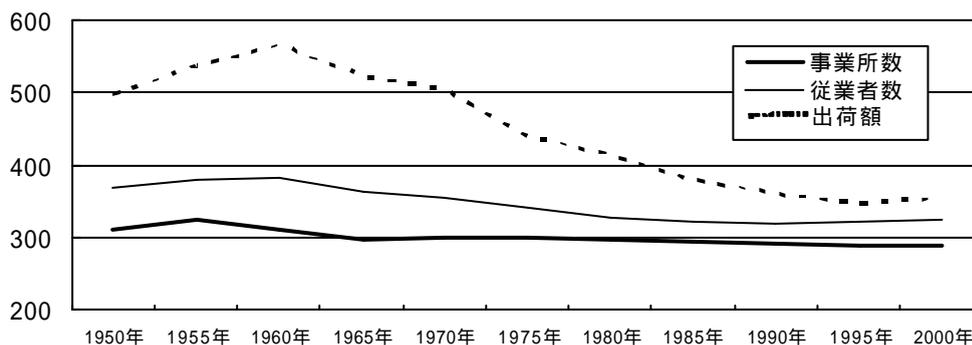
以上のように、この50年間をみると、都市への集中から分散へという動きがみられ、ほぼ全産業で地域へ分散化傾向にある中、輸送用機械器具製造業だけが、なだらかな集中傾向を示していることがわかる。



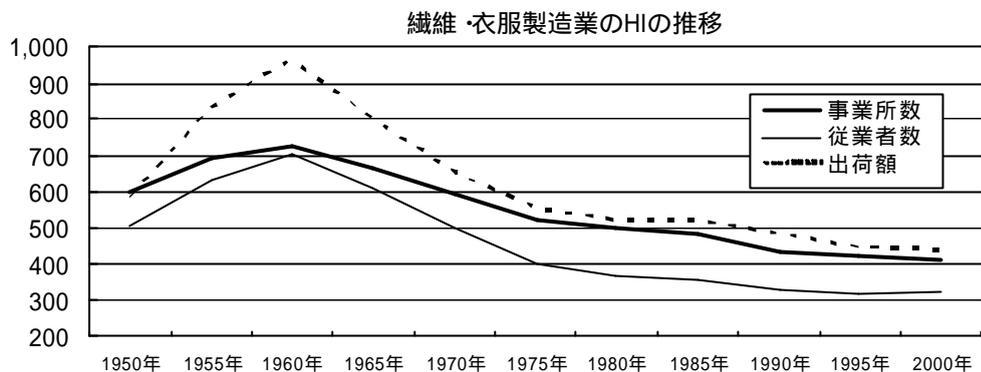
### 3. 産業別の集中度の推移

主な産業の集中度の推移を5年ごとにHIでみると、「飲食料品製造業」は、生活、地域密着型産業であり、出荷額については50年代に集中傾向を強めたことが伺えるものの、事業所数や従業者数でみると、目立った集中傾向はみられず、全国に広く分布していることがわかる。

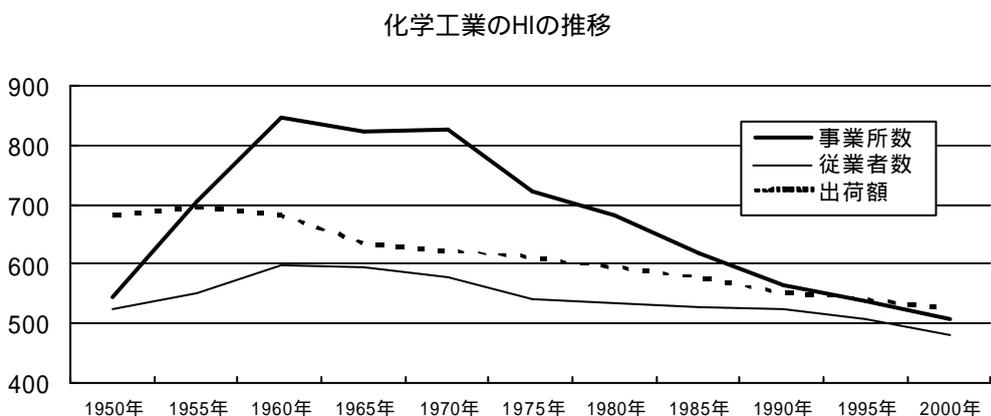
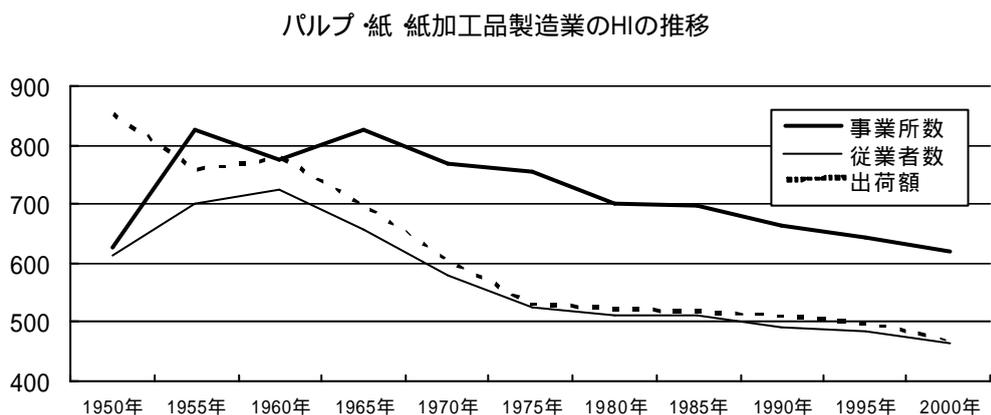
飲食料品製造業のHIの推移



「繊維・衣服製造業」は、出荷額に加えて、事業所数、従業者数についても50年代には集中化傾向がみられるが、その後集中度はなだらかに低下傾向にある。

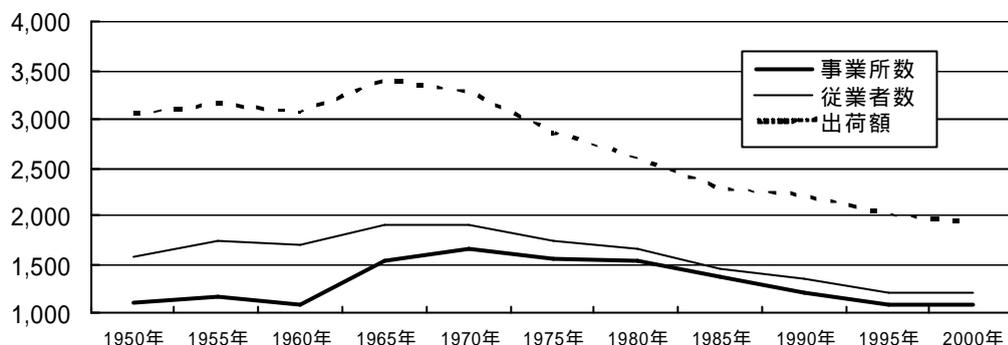


パルプ・紙・紙加工品製造業と化学工業は、工業地帯での立地が多く、50年代に事業所の集中がみられた。石油・石炭製品工業、鉄鋼業はもっと歴史が古く、50年代以降には、集中度が急激に高まる山はみられない。



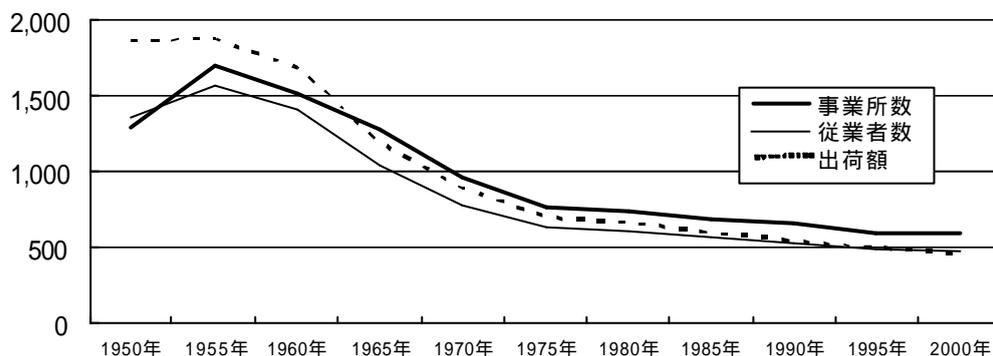
出版・印刷・同関連産業は、他の産業に比べてHIが高いことが特徴である。これは、需要地である大都市に集中していることによる。特に出荷額にはその傾向がみられる。事業所数、従業者数については中小規模の事業所がそれぞれの需要地周辺に立地していることを表していると考えられる。

出版・印刷・同関連産業のHIの推移

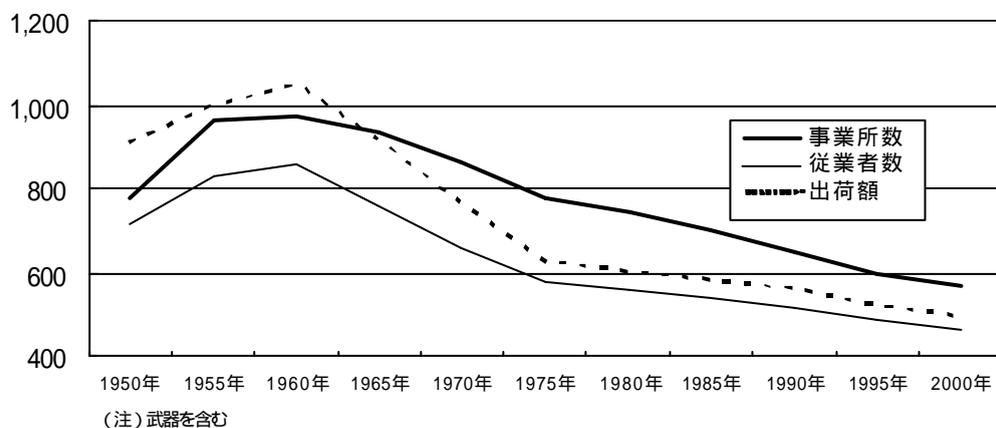


金属製品製造業と一般機械器具製造業は、ともに50年代に集中度がたかまり、その後なだらかな低下傾向を示している。これは、50年代には東京と大阪などに事業所が集中していたものの、経済の高成長にしたがって埼玉、神奈川、兵庫など周辺の地域へ分散していったことを表していると考えられる。

金属製品製造業のHIの推移

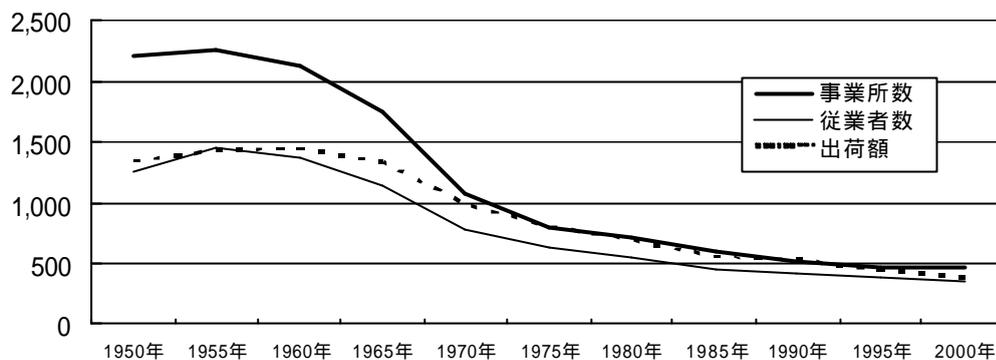


一般機械器具製造業のHIの推移



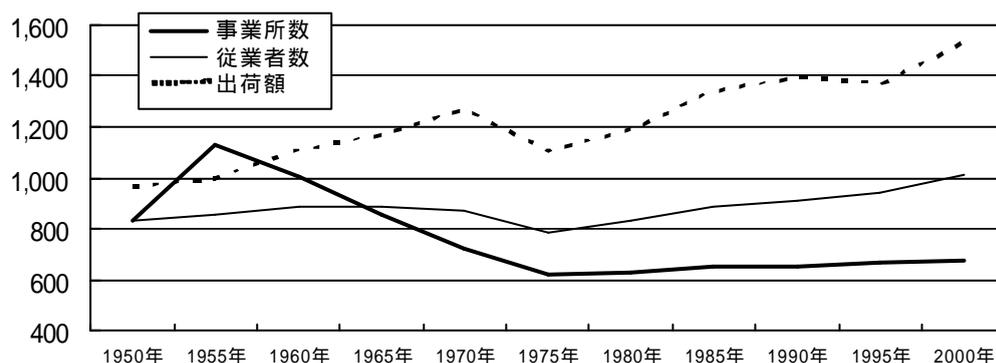
電気機械器具製造業と輸送機械器具製造業は、大企業とその下請け企業が周辺地区に立地しているという面で似ている。しかし、集中度を計算すると、両者は大きく異なっている。電気機械器具製造業は、高度成長期には、産業集中度が非常に高く、事業所の集中度が60年代まで高水準を維持していた。しかし、その後、工場の移転などを経て急速に全国に分散していったことが伺われる。

電気機械器具製造業のH<sub>1</sub>の推移

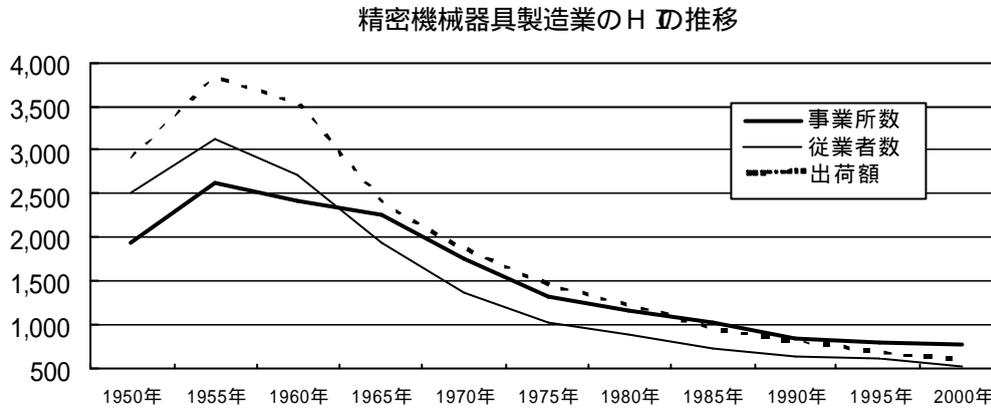


一方で、輸送機械器具製造業の製造拠点は、容易に移動することができず、集中度指数はそれほど大きな変化は示していない。しかし、90年代以降の企業、事業所の再編などを経て、事業所の集中度は若干ではあるが、高まる傾向にある。また、出荷額は、最終的な組み立てラインが立地する地域に集中する傾向があるため、事業所数や従業者数よりも集中度が高くなっている。

輸送用機械器具製造業のH<sub>1</sub>の推移



精密機械器具製造業は、地場産業のように、製品ごとに地域が絞られているケースが多く、50年代、60年代は集中度指数がきわめて高かった。しかし、高度成長期後半以降は、生産の合理化などに伴い、生産拠点が全国に分散したことが伺われる。



以上、H Iを用いて産業集中度の推移を産業別にマクロ的に概観した。この結果、輸送機械器具製造業のみが、近年産業集中度が高まっており、その他業種では、程度の差はあるが、産業集中度が低下していることが伺われる。

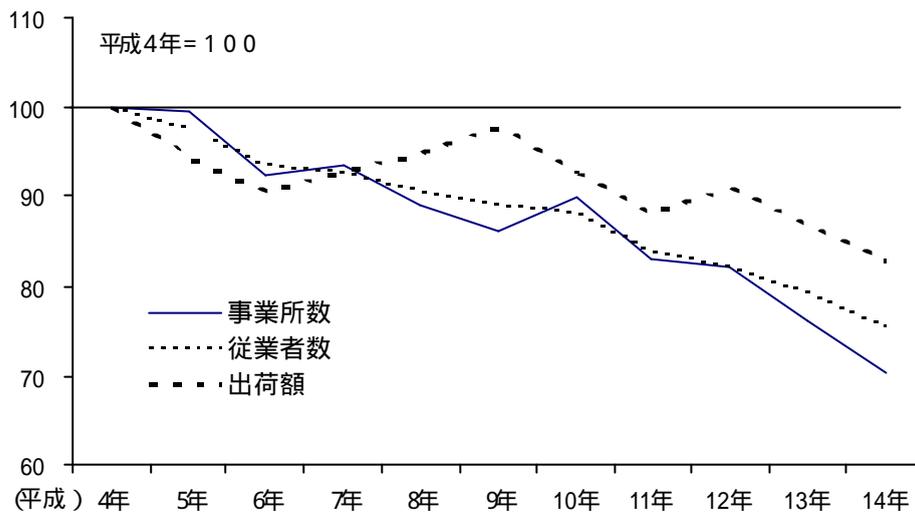
次に、最近10年間の変動について、政令市等、市、町村ごとに産業の変化を詳細にみることにする。

## 4. 地域別にみた製造業の動向

～ この10年間でほとんどの地域において政令市等の出荷額が大きく減少 ～

従業者4人以上の全国の製造業について、平成4年から14年までの過去10年間の事業所数、従業者数、出荷額の推移をみると、いずれも低下傾向で推移している。10年前の平成4年と比較すると、平成14年事業所数は7割近い水準まで低下、従業者数、出荷額も7割から8割の水準となっている。そこで、政令指定都市と東京都特別区（以下、「政令市等」という）市、町村別、または市区町村別の地域別に従業者4人以上の製造業の動向についてみることにする。

事業所数、従業者数、出荷額の推移



### (1) 政令市等、市、町村別の動向

#### 事業所数

全国の平成14年の事業所数は、29万1千事業所であった。これを10年前の平成4年と比べると、12万2千事業所の減少、対平成4年比（以下「対4年比」という）29.5%減となっている。このうち、政令市等は同37.2%と4割近くの減少、事業所数全体の過半を占める市は同28.7%減、町村は同25.0%減となっている。事業所数の推移をみると、政令市等、市、町村いずれも平成4年の水準を10年連続して下回っており、なかでも政令市等において大幅な低下となっている。この結果、構成

#### 注意点

- ・ここでの政令指定都市とは、札幌市、仙台市、千葉市、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市をいう。
- ・さいたま市は、平成15年4月1日に政令指定都市となったため、今回の分析の政令指定都市には含めていない。
- ・東京都特別区とは東京都23区である。
- ・東京都特別区以外の区については、市に統合している。
- ・データを比較できるようにするため、平成13年以前のデータについて、産業分類は平成14年の産業分類で再集計、また、統廃合等のあった市区町村についても平成14年の市区町村で再集計している。このため、過去の統計表と数値が異なる場合がある。

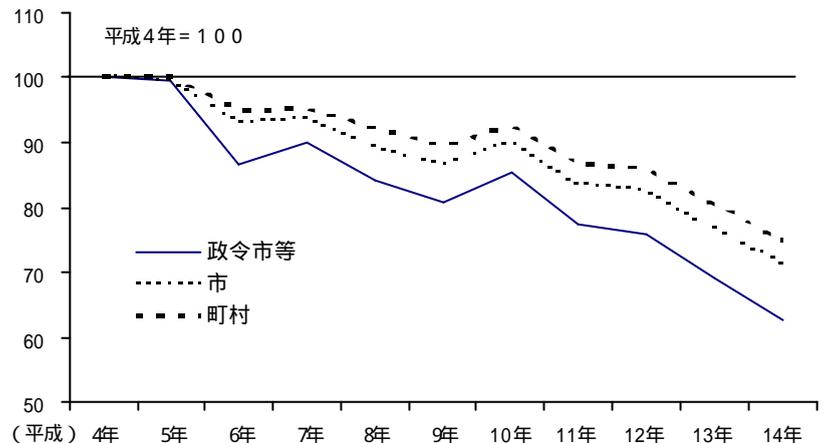
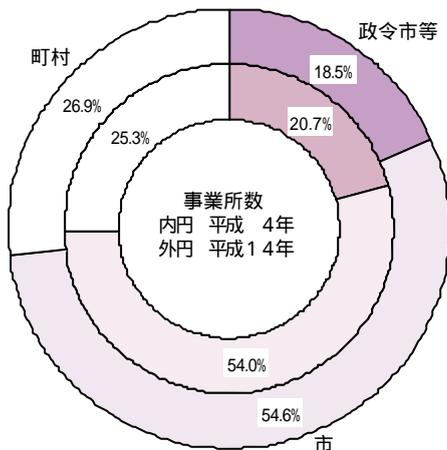
比は、政令市等が平成4年に比べ2.2ポイント減（平成4年20.7% 14年18.5%）と縮小、一方、市は同0.6ポイント増（同54.0% 54.6%）、町村は同1.6ポイント増（同25.3% 26.9%）と拡大している。

産業別にみると、平成4年に比べ事業所数の減少が大きいのは、政令市等では金属、印刷、一般、衣服、市では衣服、金属、繊維、一般、町村では衣服、繊維、木材、電気の順となっている。

政令市等、市、町村別の事業所数及び構成比

|                  | 事業所数(万事業所) |      |      |      | 構成比(%) |      |      |      |
|------------------|------------|------|------|------|--------|------|------|------|
|                  | 計          | 計    |      |      | 計      | 計    |      |      |
|                  |            | 政令市等 | 市    | 町村   |        | 政令市等 | 市    | 町村   |
| 4年               | 41.3       | 8.6  | 22.3 | 10.4 | 100.0  | 20.7 | 54.0 | 25.3 |
| 5年               | 41.1       | 8.5  | 22.2 | 10.4 | 100.0  | 20.7 | 53.9 | 25.4 |
| 6年               | 38.1       | 7.4  | 20.7 | 9.9  | 100.0  | 19.5 | 54.5 | 26.1 |
| 7年               | 38.5       | 7.7  | 20.9 | 10.0 | 100.0  | 20.0 | 54.2 | 25.8 |
| 8年               | 36.7       | 7.2  | 19.9 | 9.6  | 100.0  | 19.6 | 54.2 | 26.2 |
| 9年               | 35.6       | 6.9  | 19.3 | 9.4  | 100.0  | 19.4 | 54.3 | 26.3 |
| 10年              | 37.1       | 7.3  | 20.1 | 9.7  | 100.0  | 19.7 | 54.2 | 26.1 |
| 11年              | 34.3       | 6.6  | 18.6 | 9.1  | 100.0  | 19.3 | 54.3 | 26.5 |
| 12年              | 33.9       | 6.5  | 18.4 | 9.0  | 100.0  | 19.2 | 54.3 | 26.5 |
| 13年              | 31.4       | 5.9  | 17.1 | 8.4  | 100.0  | 18.8 | 54.4 | 26.8 |
| 14年              | 29.1       | 5.4  | 15.9 | 7.8  | 100.0  | 18.5 | 54.6 | 26.9 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 29.5       | 37.2 | 28.7 | 25.0 | -      | 2.2  | 0.6  | 1.6  |

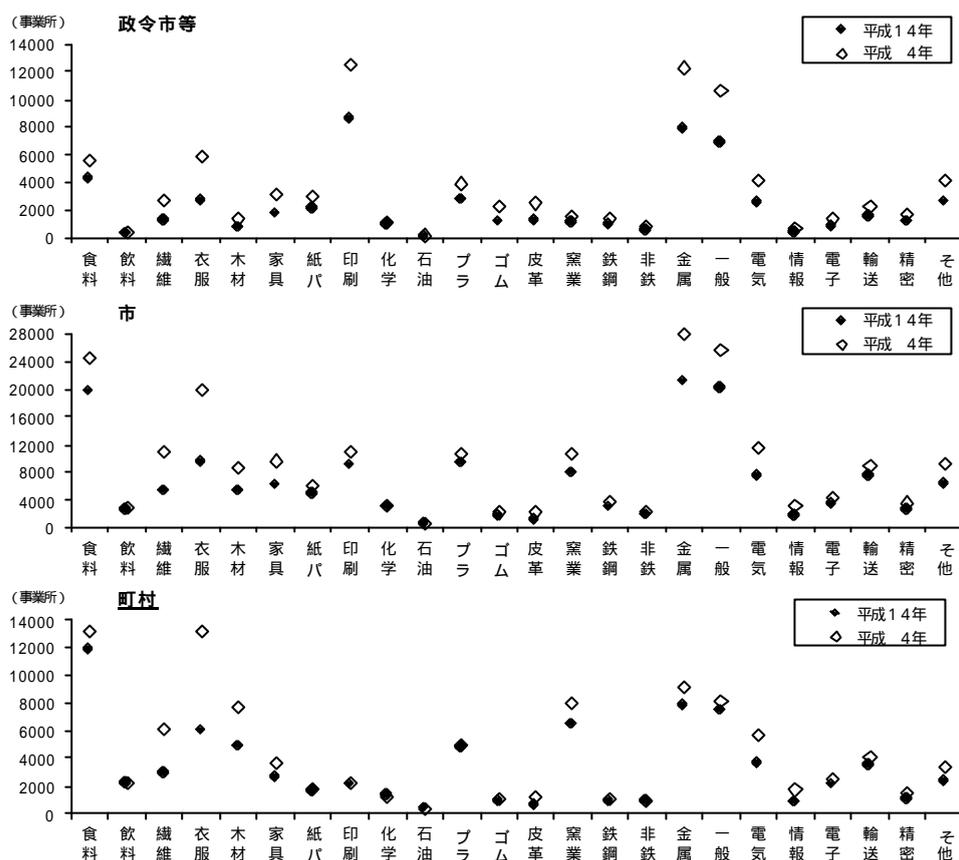
政令市等、市、町村別の事業所数構成比及び事業所数推移



・産業名については、略称を用いている。

| 産業中分類名                  | 略称 | 産業中分類名            | 略称  |
|-------------------------|----|-------------------|-----|
| 09 食料品製造業               | 食料 | 21 なめし革・同製品・毛皮製造業 | 皮革  |
| 10 飲料・たばこ・飼料製造業         | 飲料 | 22 窯業・土石製品製造業     | 窯業  |
| 11 繊維工業（衣服，その他の繊維製品を除く） | 繊維 | 23 鉄鋼業            | 鉄鋼  |
| 12 衣服・その他の繊維製品製造業       | 衣服 | 24 非鉄金属製造業        | 非鉄  |
| 13 木材・木製品製造業（家具を除く）     | 木材 | 25 金属製品製造業        | 金属  |
| 14 家具・装備品製造業            | 家具 | 26 一般機械器具製造業      | 一般  |
| 15 パルプ・紙・紙加工品製造業        | 紙パ | 27 電気機械器具製造業      | 電気  |
| 16 印刷・同関連業              | 印刷 | 28 情報通信機械器具製造業    | 情報  |
| 17 化学工業                 | 化学 | 29 電子部品・デバイス製造業   | 電子  |
| 18 石油製品・石炭製品製造業         | 石油 | 30 輸送用機械器具製造業     | 輸送  |
| 19 プラスチック製品製造業（別掲を除く）   | プラ | 31 精密機械器具製造業      | 精密  |
| 20 ゴム製品製造業              | ゴム | 32 その他の製造業        | その他 |

### 政令市等、市、町村別の事業所数の変化



### 従業者数

全国の平成14年の従業者数は、831万5千人であった。これを平成4年と比べると、271万8千人の減少、対4年比 24.6%減となっている。このうち、政令市等では同 38.0%と事業所数同様大幅な減少、市は同 24.0%減、町村は同 17.5%減となっている。

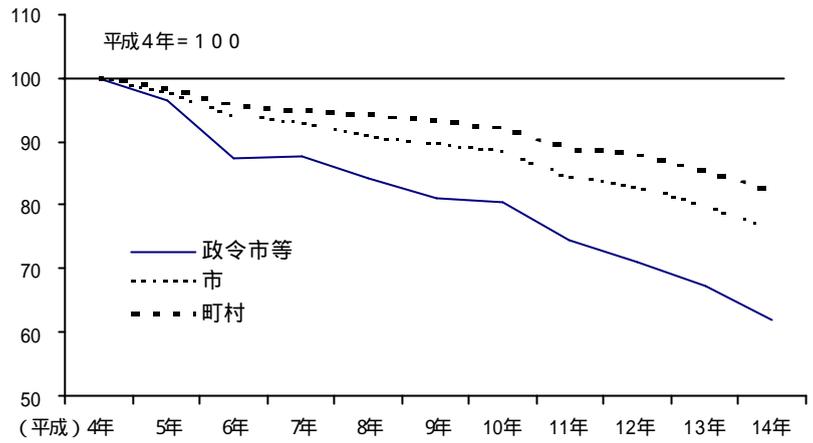
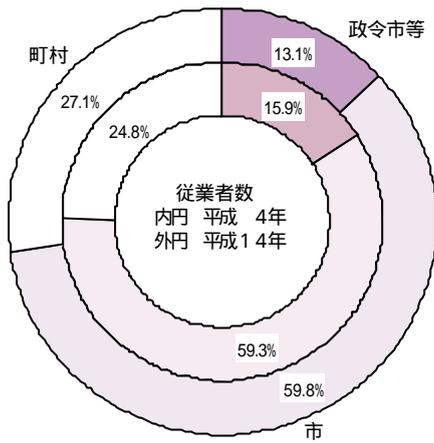
従業者数の推移をみると、政令市等、市、町村いずれも低下傾向が続いており、事業所数同様、政令市等での大幅な低下がみとれる。従業者数構成比は、政令市等が平成4年に比べ 2.8ポイント減(平成4年15.9% 14年13.1%)と縮小、一方、市は同0.5ポイント増(同59.3% 59.8%)、町村は同2.3ポイント増(同24.8% 27.1%)と拡大している。

産業別にみると、平成4年に比べ従業者数の減少が大きいのは、政令市等では一般、金属、電気、印刷、市では衣服、電気、一般、情報、町村では衣服、電気、繊維、情報の順となっている。

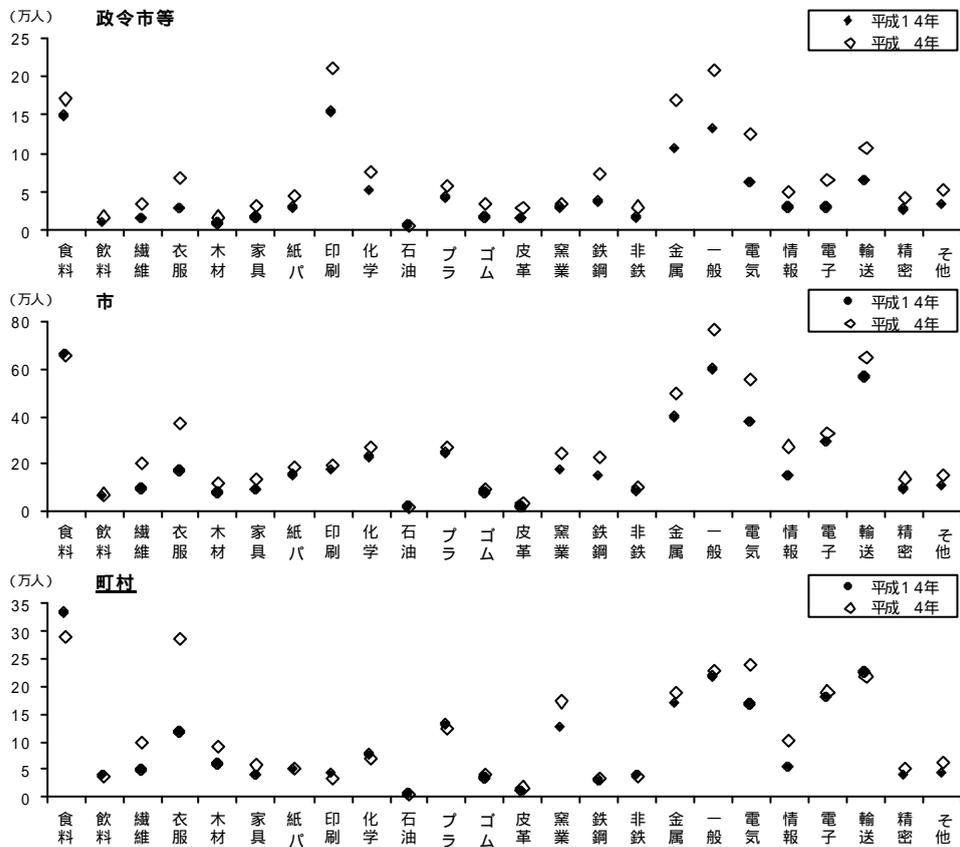
### 政令市等、市、町村別の従業者数及び構成比

|                  | 従業者数(万人) |       |       |       | 構成比(%) |      |      |      |
|------------------|----------|-------|-------|-------|--------|------|------|------|
|                  | 計        | 政令市等  | 市     | 町村    | 計      | 政令市等 | 市    | 町村   |
| 4年               | 1,103.3  | 175.4 | 654.4 | 273.4 | 100.0  | 15.9 | 59.3 | 24.8 |
| 5年               | 1,076.4  | 169.2 | 638.3 | 268.9 | 100.0  | 15.7 | 59.3 | 25.0 |
| 6年               | 1,030.1  | 153.0 | 615.8 | 261.4 | 100.0  | 14.9 | 59.8 | 25.4 |
| 7年               | 1,020.6  | 153.9 | 607.1 | 259.6 | 100.0  | 15.1 | 59.5 | 25.4 |
| 8年               | 998.9    | 147.3 | 593.8 | 257.7 | 100.0  | 14.7 | 59.5 | 25.8 |
| 9年               | 982.1    | 142.2 | 584.8 | 255.1 | 100.0  | 14.5 | 59.6 | 26.0 |
| 10年              | 971.8    | 141.1 | 578.9 | 251.7 | 100.0  | 14.5 | 59.6 | 25.9 |
| 11年              | 926.1    | 130.9 | 551.9 | 243.3 | 100.0  | 14.1 | 59.6 | 26.3 |
| 12年              | 907.2    | 124.7 | 541.4 | 241.2 | 100.0  | 13.7 | 59.7 | 26.6 |
| 13年              | 875.2    | 118.1 | 523.3 | 233.8 | 100.0  | 13.5 | 59.8 | 26.7 |
| 14年              | 831.5    | 108.8 | 497.2 | 225.6 | 100.0  | 13.1 | 59.8 | 27.1 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 24.6     | 38.0  | 24.0  | 17.5  | -      | 2.8  | 0.5  | 2.3  |

## 政令市等、市、町村別の従業者数構成比及び従業者数推移



## 政令市等、市、町村別の従業者数の変化



## 製造品出荷額等

全国の平成14年の製造品出荷額等（以下、「出荷額」という）は、269兆1千億円、対4年比17.2%減となっている。このうち、政令市等は、同39.0%と4割近い減少となっており、事業所数、従業者数に比べ減少幅が大きい。市は同16.7%減、町村は同1.7%の減少にとどまっている。この結果、出荷額構成比は、政令市等が平成4年に比べ4.2ポイント減（平成4年15.8% 14年11.6%）と縮小する一方、市では同0.4ポイント増（同63.9% 64.3%）、町村は同3.8ポイント増（同20.3% 24.1%）とその割合は年々拡大している。

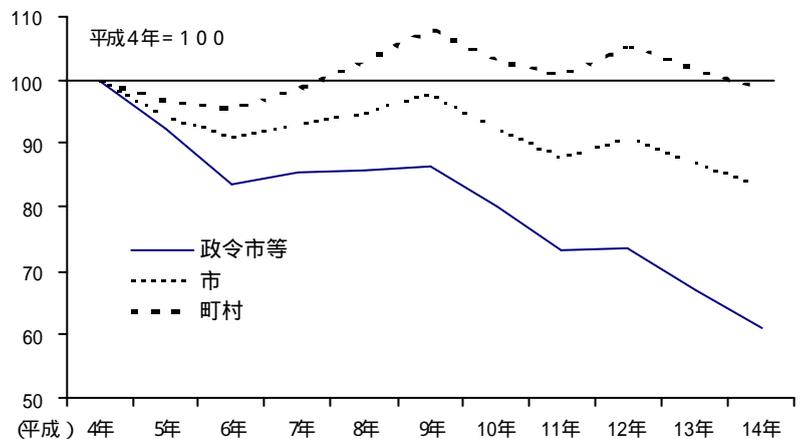
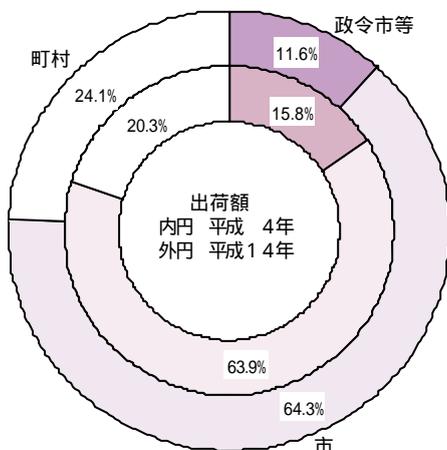
出荷額の推移をみると、政令市等、市ともに低下傾向にあり、なかでも政令市等では平成4年水準の6割近くまで低下している。町村では、平成8年から13年まで4年を上回る水準となっており、大きな低下はみられない。これは、電子の大幅な増加をはじめ、輸送、化学、食料、飲料などが4年を上回る水準で安定して推移したことによる。

産業別にみると、平成4年に比べ出荷額の減少が大きいのは、政令市等では輸送、一般、電気、金属、市では一般、電気、鉄鋼、金属の順となっている。町村では衣服、金属、窯業の減少が大きい。ウエイトが高い輸送や電子などは4年を上回る水準となっている。

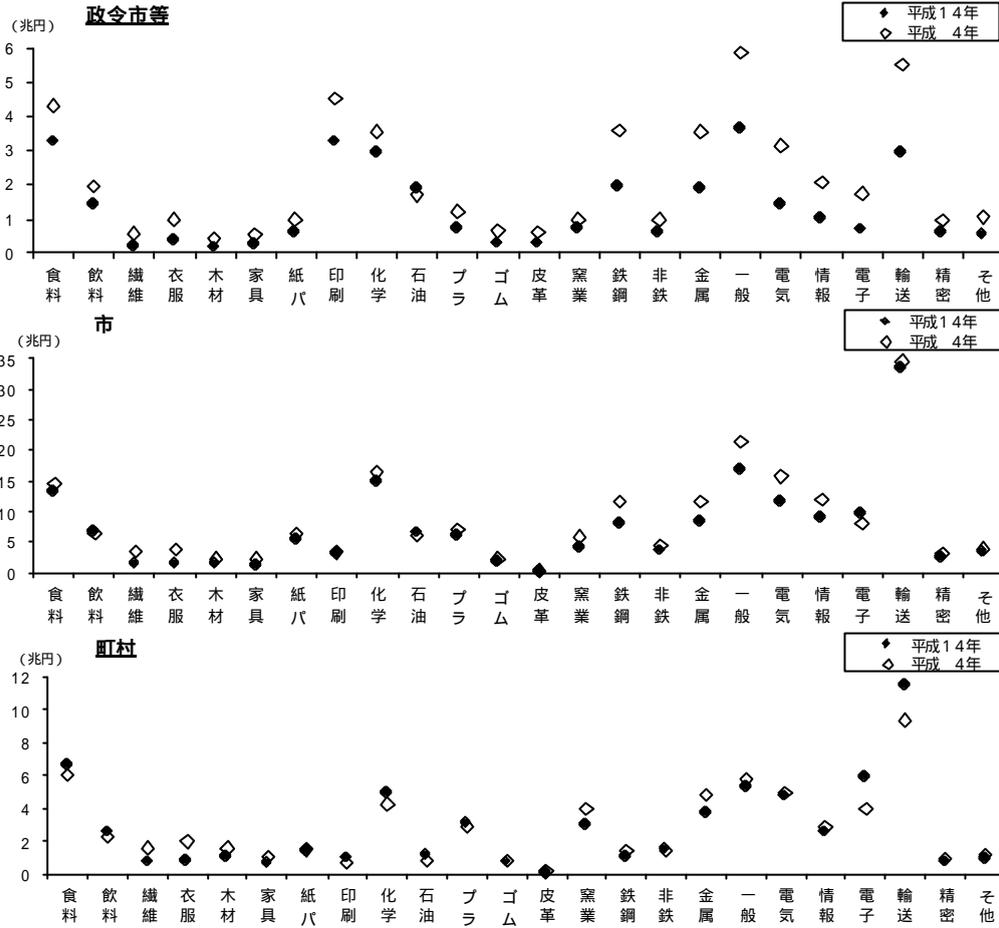
政令市等、市、町村別の出荷額及び構成比

|                  | 出 荷 額 (億円) |         |           |         | 構 成 比 (%) |      |      |      |     |
|------------------|------------|---------|-----------|---------|-----------|------|------|------|-----|
|                  | 計          | 政令市等    | 市         | 町村      | 計         | 政令市等 | 市    | 町村   |     |
| 4年               | 3,249,166  | 513,180 | 2,077,245 | 658,741 | 100.0     | 15.8 | 63.9 | 20.3 |     |
| 5年               | 3,064,994  | 473,656 | 1,954,246 | 637,093 | 100.0     | 15.5 | 63.8 | 20.8 |     |
| 6年               | 2,944,060  | 428,789 | 1,887,517 | 627,753 | 100.0     | 14.6 | 64.1 | 21.3 |     |
| 7年               | 3,011,939  | 437,676 | 1,924,709 | 649,554 | 100.0     | 14.5 | 63.9 | 21.6 |     |
| 8年               | 3,080,345  | 440,198 | 1,963,497 | 676,650 | 100.0     | 14.3 | 63.7 | 22.0 |     |
| 9年               | 3,179,786  | 443,344 | 2,025,819 | 710,623 | 100.0     | 13.9 | 63.7 | 22.3 |     |
| 10年              | 3,006,838  | 411,868 | 1,915,995 | 678,976 | 100.0     | 13.7 | 63.7 | 22.6 |     |
| 11年              | 2,864,865  | 376,287 | 1,824,536 | 664,042 | 100.0     | 13.1 | 63.7 | 23.2 |     |
| 12年              | 2,955,867  | 377,761 | 1,884,933 | 693,173 | 100.0     | 12.8 | 63.8 | 23.5 |     |
| 13年              | 2,818,986  | 343,977 | 1,803,745 | 671,264 | 100.0     | 12.2 | 64.0 | 23.8 |     |
| 14年              | 2,691,164  | 312,976 | 1,730,760 | 647,428 | 100.0     | 11.6 | 64.3 | 24.1 |     |
| 平成4年比<br>(構成比は差) |            | 17.2    | 39.0      | 16.7    |           | -    | 4.2  | 0.4  | 3.8 |

政令市等、市、町村別出荷額構成比及び出荷額推移



## 政令市等、市、町村別の出荷額の変化



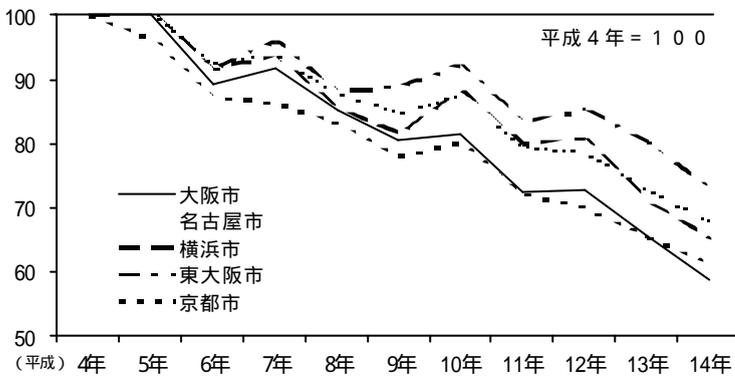
(2) 市区町村別の動向

事業所数

平成14年の市区町村別事業所数をみると、最も多いのは大阪市(9698事業所)、以下、名古屋市(6706事業所)、横浜市(3745事業所)、東大阪市(3733事業所)と、人口の多さに比例して大都市の事業所数が多くなっている。

上位5市区町村の事業所数の推移をみると、いずれも減少傾向で推移している。なかでも大阪市は、引き続き事業所数が最も多いものの、10年前の事業所数の6割程度にまで減少している。

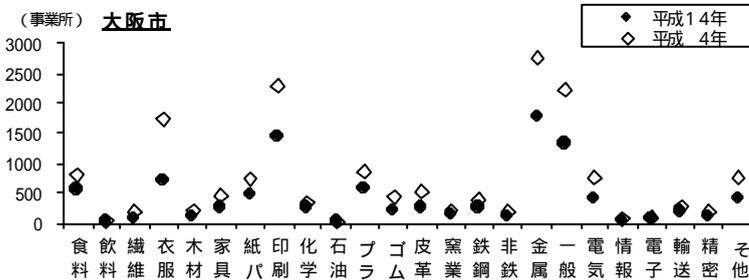
平成14年事業所数上位5市区町村の推移



大阪市

産業別に事業所数をみると、平成4年に比べ全産業で減少しており、なかでも、衣服、金属、一般などの減少が大きい。

大阪市の事業所数の変化



産業別構成比をみると、平成14年では金属、印刷、一般の割合が高く、これら3産業で5割近くの事業所数を占めている。10年前の平成4年と比較すると、上位産業の順位に変動はみられない。衣服、皮革が縮小、金属、印刷は構成比を拡大させている。

平成14年 事業所数の状況

| 順位      | 市区町村       | 事業所数  | 対平成4年増減数 |
|---------|------------|-------|----------|
| 1 (1)   | 大阪市 (大阪)   | 9,698 | 6,818    |
| 2 (2)   | 名古屋市 (愛知)  | 6,706 | 3,206    |
| 3 (4)   | 横浜市 (神奈川)  | 3,745 | 1,989    |
| 4 (5)   | 東大阪市 (大阪)  | 3,733 | 1,380    |
| 5 (3)   | 京都市 (京都)   | 3,630 | 2,304    |
| 6 (7)   | 大田区 (東京)   | 2,422 | 1,364    |
| 7 (6)   | 神戸市 (兵庫)   | 2,382 | 1,941    |
| 8 (9)   | 浜松市 (静岡)   | 2,220 | 827      |
| 9 (13)  | 八尾市 (大阪)   | 2,031 | 525      |
| 10 (8)  | 川口市 (埼玉)   | 2,028 | 1,180    |
| 11 (10) | 川崎市 (神奈川)  | 1,953 | 963      |
| 12 (14) | 堺市 (大阪)    | 1,785 | 742      |
| 13 (12) | 墨田区 (東京)   | 1,580 | 1,007    |
| 14 (18) | 広島市 (広島)   | 1,538 | 645      |
| 15 (15) | 葛飾区 (東京)   | 1,509 | 1,017    |
| 16 (16) | 江戸川区 (東京)  | 1,491 | 882      |
| 17 (11) | 足立区 (東京)   | 1,470 | 1,152    |
| 18 (17) | 静岡市 (静岡)   | 1,397 | 825      |
| 19 (19) | 板橋区 (東京)   | 1,373 | 725      |
| 20 (27) | 札幌市 (北海道)  | 1,352 | 390      |
| 21 (21) | 北九州市 (福岡)  | 1,327 | 536      |
| 22 (29) | 姫路市 (兵庫)   | 1,283 | 429      |
| 23 (22) | 福山市 (広島)   | 1,243 | 526      |
| 24 (28) | 福岡市 (福岡)   | 1,223 | 517      |
| 25 (24) | 江東区 (東京)   | 1,160 | 594      |
| 26 (25) | 金沢市 (石川)   | 1,138 | 613      |
| 27 (23) | 尼崎市 (兵庫)   | 1,091 | 673      |
| 28 (30) | 荒川区 (東京)   | 1,090 | 606      |
| 29 (40) | 相模原市 (神奈川) | 1,089 | 242      |
| 30 (20) | 岐阜市 (岐阜)   | 1,082 | 791      |
| 31 (41) | 富士市 (静岡)   | 1,072 | 222      |
| 32 (36) | 豊橋市 (愛知)   | 1,036 | 347      |
| 33 (37) | 倉敷市 (岡山)   | 1,023 | 357      |
| 34 (39) | 岡崎市 (愛知)   | 1,017 | 315      |
| 35 (32) | 台東区 (東京)   | 999   | 531      |
| 36 (31) | さいたま市 (埼玉) | 998   | 562      |
| 37 (42) | 春日井市 (愛知)  | 983   | 291      |
| 38 (33) | 岡山市 (岡山)   | 979   | 469      |
| 39 (35) | 和歌山市 (和歌山) | 945   | 452      |
| 40 (26) | 一宮市 (愛知)   | 923   | 825      |
| 41 (53) | 豊田市 (愛知)   | 912   | 151      |
| 42 (38) | 足利市 (栃木)   | 891   | 475      |
| 43 (46) | 八潮市 (埼玉)   | 863   | 290      |
| 44 (34) | 品川区 (東京)   | 862   | 561      |
| 45 (58) | 八王子市 (東京)  | 819   | 206      |
| 46 (47) | いわき市 (福島)  | 811   | 327      |
| 47 (43) | 沼津市 (静岡)   | 797   | 381      |
| 48 (45) | 四日市市 (三重)  | 769   | 386      |
| 49 (48) | 福井市 (福井)   | 761   | 369      |
| 50 (54) | 新潟市 (新潟)   | 759   | 294      |

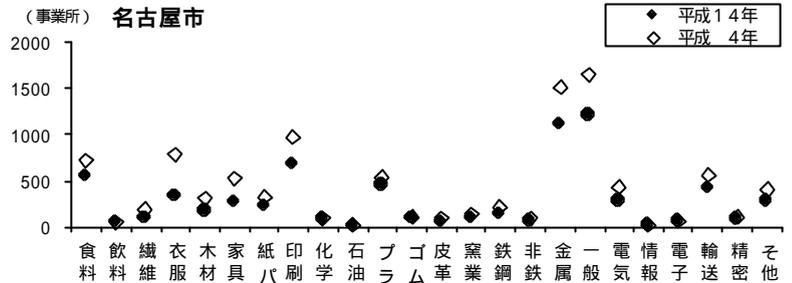
## 大阪市の事業所数構成比



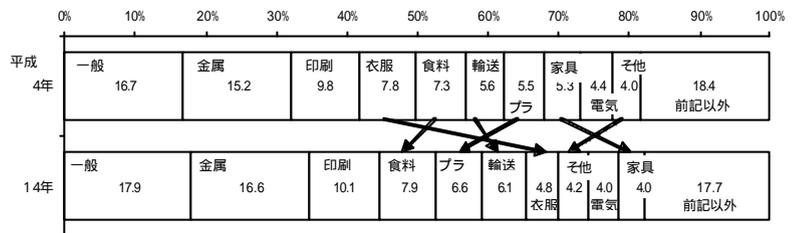
### 名古屋市

産業別に事業所数をみると、平成4年に比べ全産業で減少しており、なかでも、衣服、一般、金属などが大きく減少している。

## 名古屋市の事業所数の変化



## 名古屋市の事業所数構成比

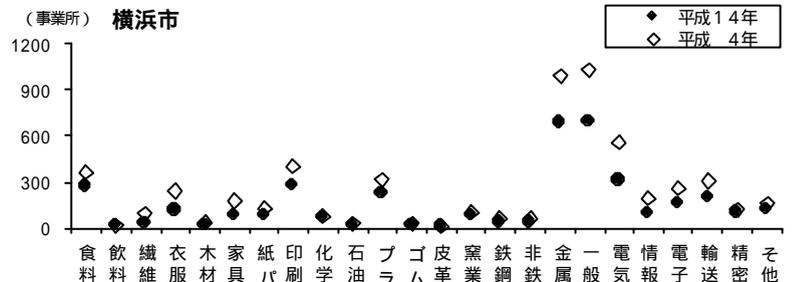


産業別構成比をみると、平成14年では一般、金属、印刷の事業所割合が高くなっている。平成4年と比較すると、上位3産業の順位に変動はみられないが、その割合は拡大している。また、プラ、食料の割合が拡大、衣服、家具は縮小している。

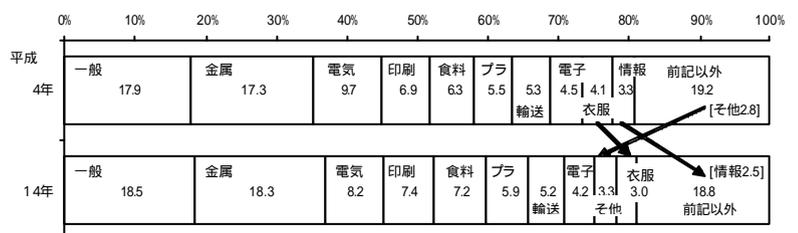
### 横浜市

産業別に事業所数をみると、平成4年に比べ一般、金属、電気などが大きく減少したのはじめ、飲料の横ばいを除くすべての産業で減少となっている。

## 横浜市の事業所数の変化



## 横浜市の事業所数構成比



産業別構成比をみると、平成14年では一般、金属、電気の割合が高い。平成4年と比較すると、事業所数が減少する中、上位8産業の構成比に順位の変動はみられない。

## 従業者数

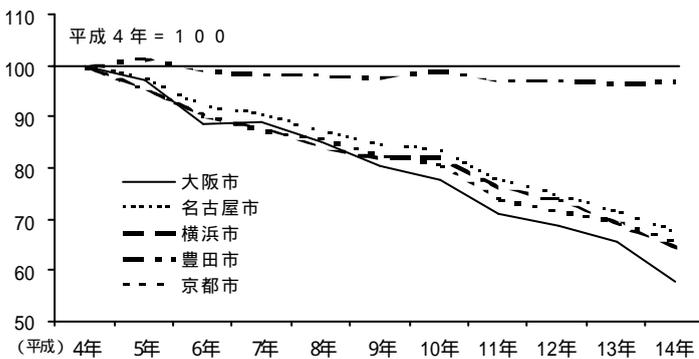
平成14年の市区町村別従業者数をみると、最も多いのは大阪市(16.4万人)、以下、名古屋市(12.8万人)、横浜市(11.8万人)、豊田市(8.7万人)、京都市(7.6万人)の順となっている。

ほとんどの市区町村で従業者数が減少している中、豊田市、刈谷市、岡崎市、小牧市、西尾市など愛知県の市区町村では、他県に比べて減少幅が小さいのが特徴的である。

従業者数の増減をみると、10年前に比べ大阪市(対平成4年増減数 12.1万人減)が10万人を超える減少となったのをはじめ、川崎市(同 6.8万人減)、横浜市(同 6.6万人減)、名古屋市( 6.2万人減)、京都市(同 4万人減)などの減少が大きい。

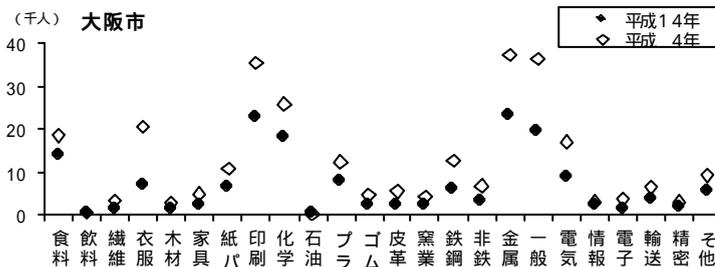
上位5市区町村の従業者数の推移をみると、豊田市では平成4年の水準を下回っているものの、ほぼ横ばいで推移している。一方、大阪市、名古屋市、横浜市、京都市では低下傾向が続いており、平成4年の水準を大きく下回っている。

平成14年従業者数上位5市区町村の推移



## 大阪市

大阪市の従業者数の変化

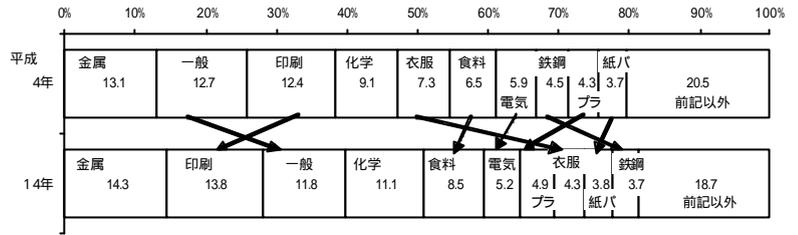


| 順位        | 市区町村       | 従業者数 (人) | 対平成4年増減率 | 対平成4年増減数 (人) |
|-----------|------------|----------|----------|--------------|
| 1 ( 1 )   | 大阪市 (大阪)   | 163,915  | 42.4     | 120,683      |
| 2 ( 2 )   | 名古屋市 (愛知)  | 128,278  | 32.5     | 61,769       |
| 3 ( 3 )   | 横浜市 (神奈川)  | 117,528  | 35.8     | 65,647       |
| 4 ( 7 )   | 豊田市 (愛知)   | 87,459   | 3.1      | 2,816        |
| 5 ( 5 )   | 京都市 (京都)   | 76,017   | 34.5     | 40,044       |
| 6 ( 6 )   | 神戸市 (兵庫)   | 69,918   | 35.0     | 37,659       |
| 7 ( 10 )  | 浜松市 (静岡)   | 64,667   | 17.8     | 13,979       |
| 8 ( 4 )   | 川崎市 (神奈川)  | 61,557   | 52.4     | 67,859       |
| 9 ( 8 )   | 東大阪市 (大阪)  | 55,613   | 30.9     | 24,854       |
| 10 ( 9 )  | 北九州市 (福岡)  | 53,067   | 33.5     | 26,703       |
| 11 ( 11 ) | 広島市 (広島)   | 49,442   | 26.4     | 17,706       |
| 12 ( 12 ) | 堺市 (大阪)    | 45,420   | 30.1     | 19,596       |
| 13 ( 18 ) | 刈谷市 (愛知)   | 43,919   | 10.7     | 5,240        |
| 14 ( 16 ) | 姫路市 (兵庫)   | 41,816   | 20.3     | 10,654       |
| 15 ( 15 ) | 倉敷市 (岡山)   | 38,323   | 29.7     | 16,227       |
| 16 ( 19 ) | 富士市 (静岡)   | 38,098   | 21.6     | 10,527       |
| 17 ( 14 ) | 尼崎市 (兵庫)   | 37,541   | 38.7     | 23,695       |
| 18 ( 21 ) | 八尾市 (大阪)   | 36,336   | 21.3     | 9,856        |
| 19 ( 13 ) | 大田区 (東京)   | 36,165   | 42.0     | 26,192       |
| 20 ( 17 ) | 相模原市 (神奈川) | 35,890   | 28.8     | 14,525       |
| 21 ( 20 ) | 福山市 (広島)   | 34,992   | 26.8     | 12,812       |
| 22 ( 23 ) | 安城市 (愛知)   | 34,829   | 18.7     | 8,016        |
| 23 ( 27 ) | 札幌市 (北海道)  | 33,069   | 18.5     | 7,519        |
| 24 ( 37 ) | 岡崎市 (愛知)   | 32,780   | 5.6      | 1,936        |
| 25 ( 38 ) | 小牧市 (愛知)   | 32,601   | 3.6      | 1,222        |
| 26 ( 33 ) | 豊橋市 (愛知)   | 31,296   | 18.1     | 6,900        |
| 27 ( 30 ) | 宇都宮市 (栃木)  | 29,462   | 25.1     | 9,893        |
| 28 ( 28 ) | 四日市市 (三重)  | 29,316   | 27.2     | 10,967       |
| 29 ( 22 ) | 川口市 (埼玉)   | 29,231   | 36.1     | 16,518       |
| 30 ( 25 ) | 板橋区 (東京)   | 28,091   | 32.8     | 13,727       |
| 31 ( 24 ) | 日立市 (茨城)   | 27,864   | 34.1     | 14,434       |
| 32 ( 35 ) | いわき市 (福島)  | 27,101   | 28.3     | 10,687       |
| 33 ( 34 ) | 岡山市 (岡山)   | 26,962   | 29.1     | 11,071       |
| 34 ( 29 ) | 福岡市 (福岡)   | 26,093   | 33.9     | 13,386       |
| 35 ( 26 ) | 藤沢市 (神奈川)  | 25,966   | 36.2     | 14,744       |
| 36 ( 39 ) | 平塚市 (神奈川)  | 25,643   | 23.3     | 7,771        |
| 37 ( 42 ) | 富山市 (富山)   | 25,237   | 21.9     | 7,069        |
| 38 ( 32 ) | さいたま市 (埼玉) | 25,148   | 35.1     | 13,604       |
| 39 ( 44 ) | 春日井市 (愛知)  | 25,129   | 20.5     | 6,485        |
| 40 ( 31 ) | 静岡市 (静岡)   | 25,011   | 35.5     | 13,747       |
| 41 ( 40 ) | 和歌山市 (和歌山) | 24,526   | 26.4     | 8,785        |
| 42 ( 47 ) | 清水市 (静岡)   | 24,416   | 20.4     | 6,254        |
| 43 ( 73 ) | 西尾市 (愛知)   | 23,154   | 6.4      | 1,584        |
| 44 ( 50 ) | 八王子市 (東京)  | 22,493   | 25.7     | 7,783        |
| 45 ( 63 ) | 門真市 (大阪)   | 22,430   | 17.4     | 4,732        |
| 46 ( 54 ) | 川越市 (埼玉)   | 22,375   | 21.8     | 6,235        |
| 47 ( 41 ) | 金沢市 (石川)   | 22,318   | 31.2     | 10,113       |
| 48 ( 68 ) | 太田市 (群馬)   | 22,139   | 15.7     | 4,119        |
| 49 ( 64 ) | 鈴鹿市 (三重)   | 21,711   | 18.4     | 4,908        |
| 50 ( 52 ) | 明石市 (兵庫)   | 21,483   | 28.2     | 8,458        |

産業別従業者数を平成4年と比べると、事業所数同様全産業で減少しており、なかでも一般、金属、衣服などが大きく減少している。

### 大阪市の従業者数構成比

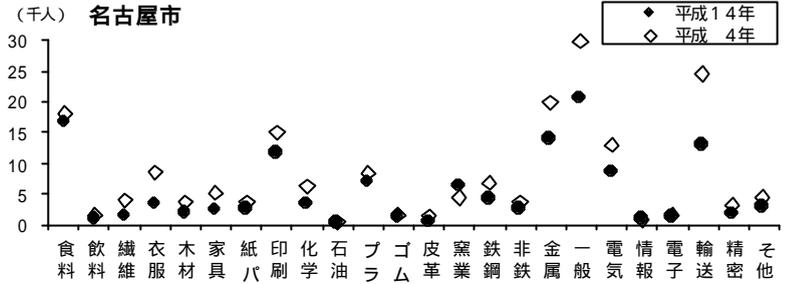
産業別構成比をみると、平成14年には金属、印刷、一般の割合が高くなっている。平成4年と比較すると、衣服、一般、鉄鋼が縮小、食料、化学、印刷の割合は拡大している。



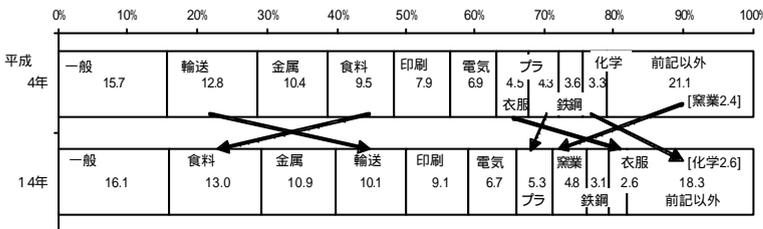
### 名古屋市

産業別にみると、平成4年に比べ輸送、一般、金属などが大きく減少している。一方、窯業、情報の2産業では増加となっている。

### 名古屋市の従業者数の変化



### 名古屋市の従業者数構成比

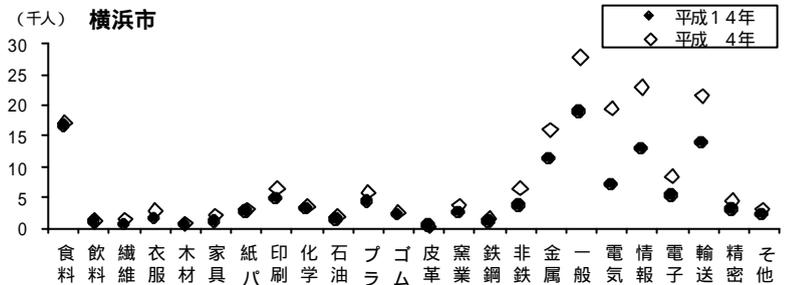


産業別構成比をみると、平成14年には一般、食料、金属の割合が高くなっている。平成4年と比較すると、食料、窯業、印刷が拡大、輸送、衣服、化学の割合は縮小している。

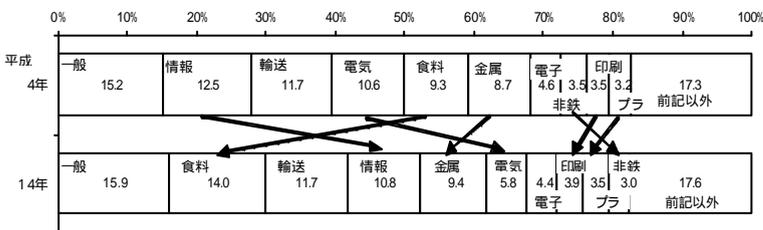
### 横浜市

産業別にみると、平成4年に比較し全産業で減少しており、なかでも電気、情報、一般など機械工業の減少が大きい。

### 横浜市の従業者数の変化



### 横浜市の従業者数構成比



産業別構成比をみると、平成14年には一般、食料、輸送の従業者割合が高い。平成4年と比較すると、電気、情報、非鉄が縮小、食料、一般、金属の割合は拡大している。

なお、豊田市では、平成4年に比べ15産業(全24産業中)で従業者数が減少しているものの、輸送、情報、電気などの下支えから、刈谷市では、平成4年に比べ電子、食料、一般などが減少する一方、輸送、情報など半数の産業(全22産業中)が増加していることから、従業者数は小幅な減少にとどまっている。

## 製造品出荷額等

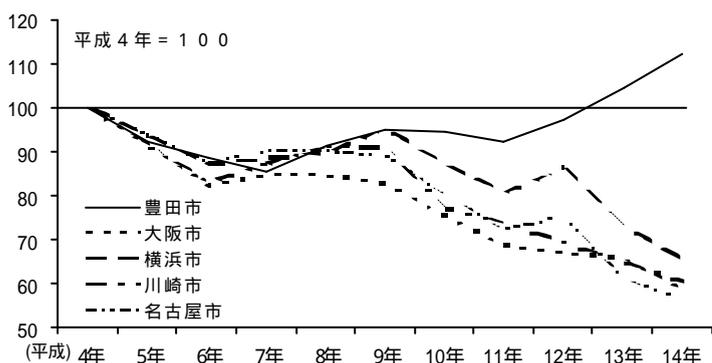
平成14年の市区町村別出荷額をみると、最も多いのは豊田市(9兆7千億円)、以下、大阪市(4兆3千億円)、横浜市(4兆円)、川崎市(3兆6千億円)、名古屋市(3兆4千億円)の順となっている。

出荷額の増減をみると、事業所数、従業者数はともに大幅に減少している市区町村が多いものの、出荷額では増減にばらつきがみられる。10年前と比較すると、大阪市(対平成4年増減率 41.2%減)、名古屋市(同 43.0%減)、川崎市(同 39.6%減)、横浜市(同 34.4%減)など政令市等での減少が大きい一方、豊田市(同12.3%増)、幸田町(同166.6%増)、磐田市(同61.7%増)など平成4年を上回る市区町村もみられる。

上位5市区町村の出荷額の推移をみると、政令市等では平成4年の水準を10年連続して下回っており低下傾向が続いている。

一方、豊田市では、平成7年をボトムに上昇傾向にあり、平成13年以降は平成4年の水準を上回って推移している。

平成14年出荷額上位5市区町村の推移



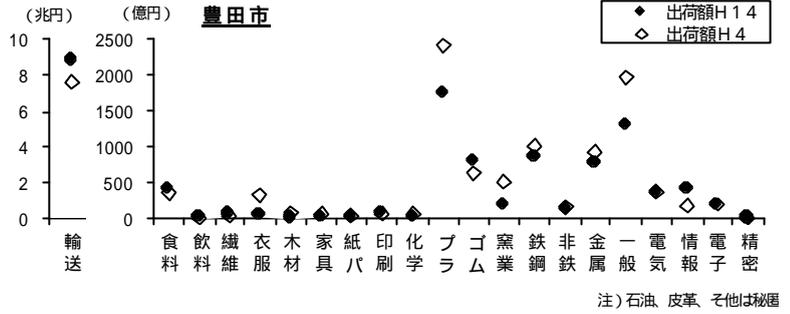
平成14年 出荷額の状況

| 順位         | 市区町村       | 出荷額<br>(億円) | 対平成4年<br>増減率 | 対平成4年<br>増減額(億円) |
|------------|------------|-------------|--------------|------------------|
| 1 ( 1 )    | 豊田市 (愛知)   | 96,591      | 12.3         | 10,604           |
| 2 ( 2 )    | 大阪市 (大阪)   | 42,875      | 41.2         | 30,054           |
| 3 ( 3 )    | 横浜市 (神奈川)  | 40,243      | 34.4         | 21,126           |
| 4 ( 5 )    | 川崎市 (神奈川)  | 35,505      | 39.6         | 23,269           |
| 5 ( 4 )    | 名古屋市 (愛知)  | 33,822      | 43.0         | 25,496           |
| 6 ( 6 )    | 倉敷市 (岡山)   | 30,942      | 15.9         | 5,829            |
| 7 ( 9 )    | 市原市 (千葉)   | 29,462      | 3.2          | 917              |
| 8 ( 7 )    | 神戸市 (兵庫)   | 24,788      | 25.5         | 8,467            |
| 9 ( 8 )    | 京都市 (京都)   | 20,232      | 36.8         | 11,795           |
| 10 ( 11 )  | 堺市 (大阪)    | 20,175      | 24.3         | 6,491            |
| 11 ( 14 )  | 浜松市 (静岡)   | 19,274      | 8.9          | 1,889            |
| 12 ( 19 )  | 四日市市 (三重)  | 17,355      | 5.9          | 1,086            |
| 13 ( 35 )  | 田原町 (愛知)   | 16,568      | 33.2         | 4,134            |
| 14 ( 17 )  | 姫路市 (兵庫)   | 16,442      | 15.2         | 2,945            |
| 15 ( 10 )  | 広島市 (広島)   | 16,415      | 40.0         | 10,960           |
| 16 ( 51 )  | 磐田市 (静岡)   | 16,288      | 61.7         | 6,218            |
| 17 ( 12 )  | 北九州市 (福岡)  | 15,605      | 37.8         | 9,464            |
| 18 ( 23 )  | 鈴鹿市 (三重)   | 14,761      | 8.2          | 1,314            |
| 19 ( 26 )  | 刈谷市 (愛知)   | 14,309      | 4.0          | 593              |
| 20 ( 30 )  | 大分市 (大分)   | 14,019      | 1.0          | 140              |
| 21 ( 33 )  | 横須賀市 (神奈川) | 13,911      | 8.3          | 1,067            |
| 22 ( 29 )  | 宇都宮市 (栃木)  | 13,887      | 4.6          | 662              |
| 23 ( 28 )  | 狭山市 (埼玉)   | 13,590      | 8.2          | 1,209            |
| 24 ( 20 )  | 富士市 (静岡)   | 12,721      | 24.4         | 4,113            |
| 25 ( 32 )  | 太田市 (群馬)   | 12,657      | 3.3          | 432              |
| 26 ( 36 )  | 平塚市 (神奈川)  | 12,513      | 1.1          | 138              |
| 27 ( 25 )  | 安城市 (愛知)   | 12,120      | 18.8         | 2,798            |
| 28 ( 50 )  | 湖西市 (静岡)   | 12,114      | 20.1         | 2,027            |
| 29 ( 27 )  | 福山市 (広島)   | 11,938      | 19.4         | 2,871            |
| 30 ( 46 )  | 神栖町 (茨城)   | 11,913      | 12.4         | 1,315            |
| 31 ( 15 )  | 尼崎市 (兵庫)   | 11,862      | 42.0         | 8,607            |
| 32 ( 13 )  | 藤沢市 (神奈川)  | 11,698      | 51.6         | 12,488           |
| 33 ( 37 )  | 岡崎市 (愛知)   | 11,604      | 5.8          | 712              |
| 34 ( 21 )  | 日立市 (茨城)   | 11,493      | 30.6         | 5,079            |
| 35 ( 171 ) | 幸田町 (愛知)   | 11,479      | 166.6        | 7,173            |
| 36 ( 16 )  | 相模原市 (神奈川) | 11,221      | 43.6         | 8,664            |
| 37 ( 18 )  | 東大阪市 (大阪)  | 11,122      | 41.4         | 7,855            |
| 38 ( 58 )  | 苅田町 (福岡)   | 10,928      | 14.7         | 1,401            |
| 39 ( 34 )  | 小牧市 (愛知)   | 10,603      | 14.7         | 1,831            |
| 40 ( 67 )  | いわき市 (福島)  | 10,549      | 19.3         | 1,706            |
| 41 ( 31 )  | 八尾市 (大阪)   | 10,454      | 21.2         | 2,807            |
| 42 ( 54 )  | 西尾市 (愛知)   | 10,126      | 1.8          | 174              |
| 43 ( 42 )  | 豊橋市 (愛知)   | 9,886       | 12.6         | 1,421            |
| 44 ( 44 )  | 小田原市 (神奈川) | 9,471       | 11.9         | 1,276            |
| 45 ( 22 )  | 府中市 (東京)   | 9,447       | 42.3         | 6,929            |
| 46 ( 40 )  | 和歌山市 (和歌山) | 9,180       | 19.2         | 2,185            |
| 47 ( 63 )  | 防府市 (山口)   | 8,989       | 0.4          | 33               |
| 48 ( 41 )  | 東海市 (愛知)   | 8,821       | 22.1         | 2,502            |
| 49 ( 39 )  | 明石市 (兵庫)   | 8,779       | 25.3         | 2,970            |
| 50 ( 68 )  | 日野市 (東京)   | 8,475       | 4.0          | 350              |

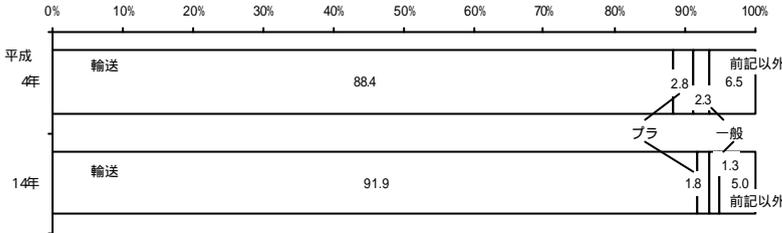
## 豊田市の出荷額の変化

### 豊田市

平成4年の出荷額を上回っている豊田市では、ウエイトの大きい輸送をはじめ、情報、ゴムなどが増加している。産業別構成比をみると、平成14年では9割を輸送が占めており、4年に比べその割合は拡大している。



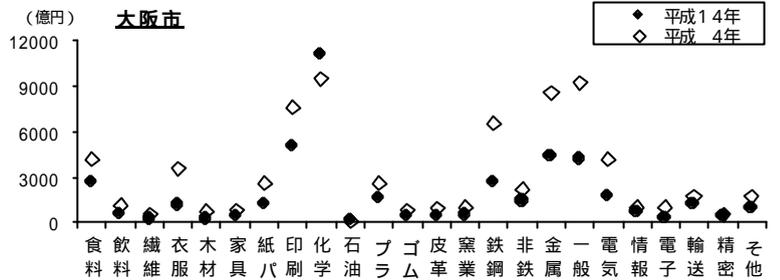
### 豊田市の出荷額構成比



## 大阪市の出荷額の変化

### 大阪市

平成4年に比べると、化学の増加を除き残りすべての産業で減少となっており、なかでも一般、金属、鉄鋼の減少が大きい。



### 大阪市の出荷額構成比

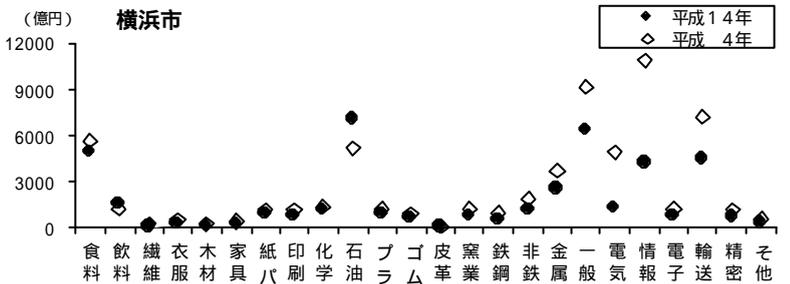


産業別構成比をみると、平成14年には化学、印刷、金属の出荷額割合が高い。平成4年と比較すると、化学が大幅に拡大、一般、鉄鋼は縮小している。

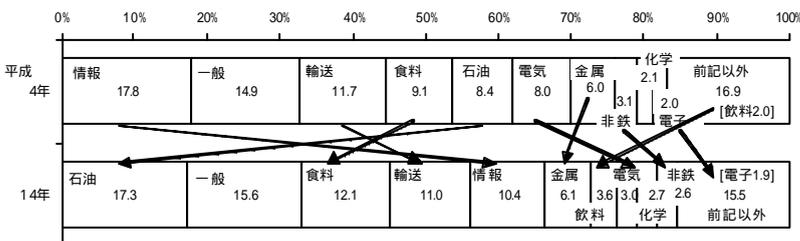
## 横浜市の出荷額の変化

### 横浜市

平成4年に比べると、石油、飲料の増加を除き残りすべての産業で減少となっている。なかでも、情報、電気、一般など機械工業の減少が大きい。



### 横浜市の出荷額構成比

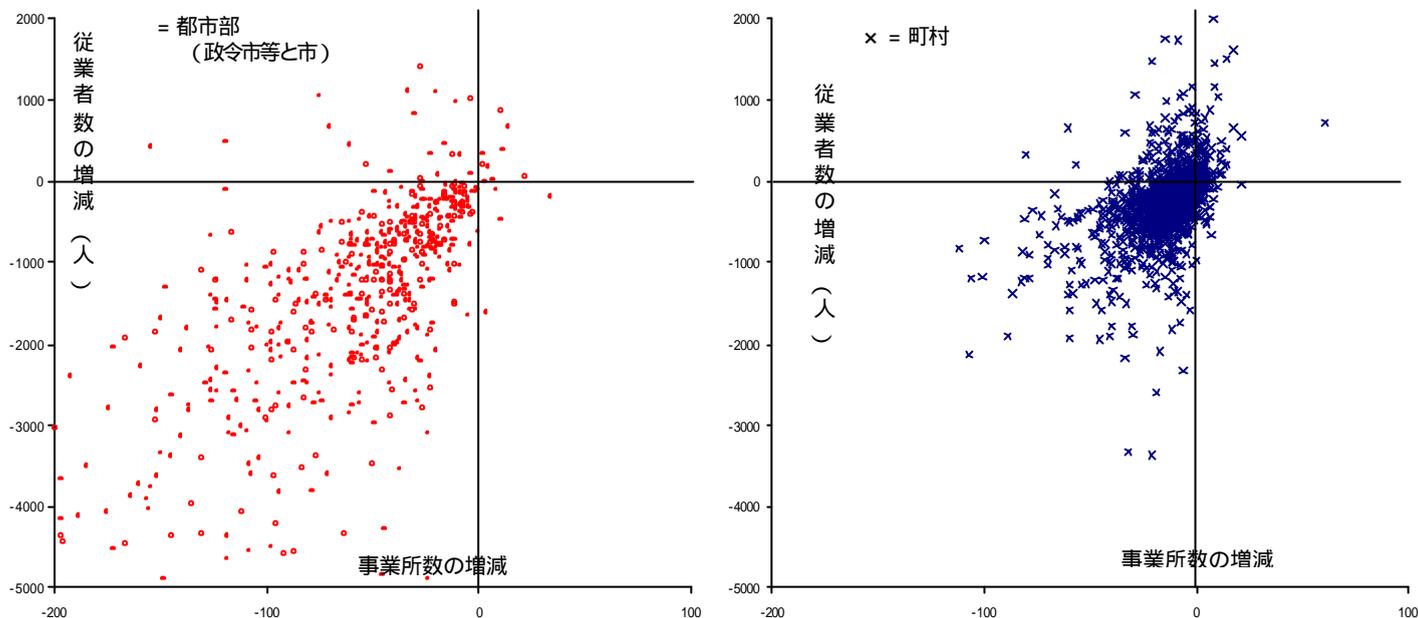


産業別構成比をみると、平成14年には石油、一般、食料の割合が高くなっている。平成4年と比較すると、情報、電気が縮小、石油、食料が拡大したのをはじめ、産業構造が大きく変化している。

また、事業所数と従業者数の増減、従業者数と出荷額の増減についてみると、

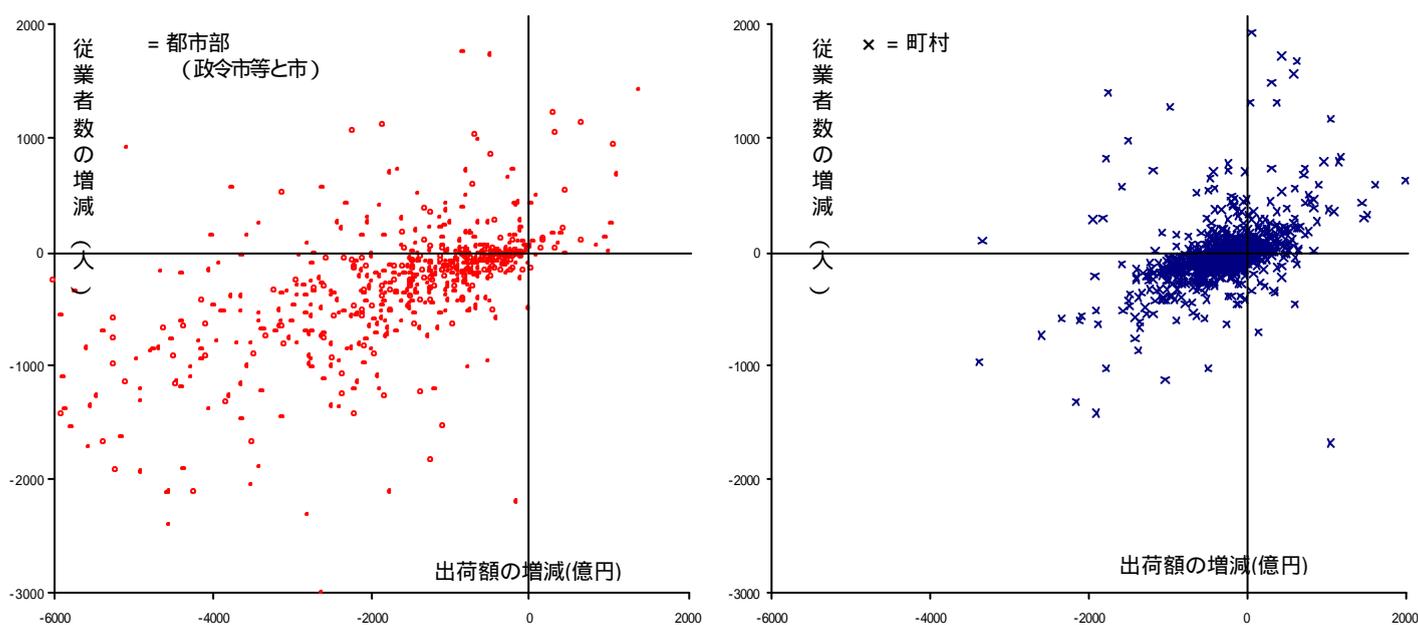
事業所数と従業者数の増減の相関図をみると、政令市等と市の計(注)(ここでは「都市部」という)では事業所数が増加したのはわずかで、また、事業所数と従業者数の減少が比較的まばらで左下方向に散らばるような分布となっているのに対し、町村では形としてはほぼ同様であるが、都市部より散らばっていないことがみてとれる(注:ここでは政令市等の数が少ないため、市と合算して比較している)

事業所数と従業者数の都市部、町村別増減(平成4年 14年)



また、従業者数と出荷額の増減の相関においても、都市部では散らばっているのに対し、町村では集中している分布となっている。

従業者数と出荷額の都市部、町村別増減(平成4年 14年)



### (3) 経済産業局別の製造品出荷額等の動向

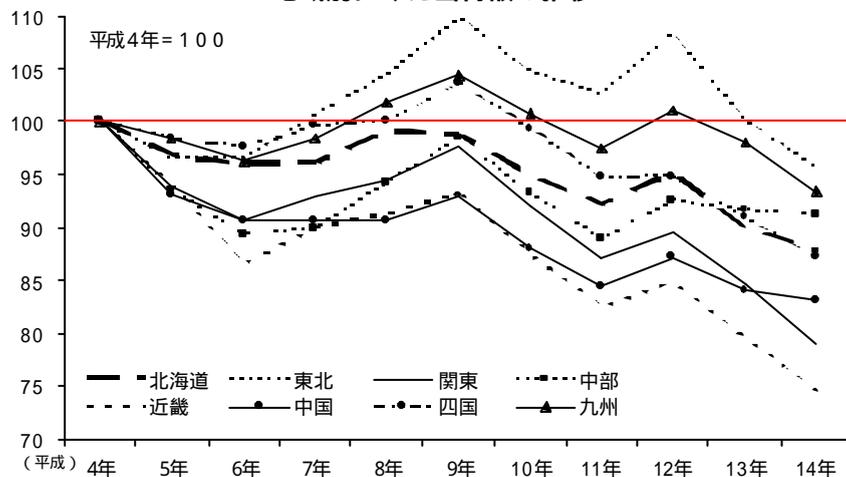
地域別（経済産業局管区別<sup>(注)</sup>）にみると、近畿地域（対4年比 25.4%減）、関東地域（同 20.9%）、平成4年に比べ2割超の減少となったのをはじめ、中国地域（同 16.8%）四国地域（同 12.8%減）、北海道地域（同 12.2%）、中部地域（同 8.8%）、九州地域（同 6.6%）、東北地域（同 4.3%）とすべての地域で減少している。出荷額の推移をみると、北海道地域、関東地域、中部地域、近畿地域、中国地域では10年前を下回る水準が続いており、なかでも近畿地域、関東地域、中国地域で出荷額が大幅に低下している。東北地域、九州地域では電気機械関連の増加もあって、東北地域が平成7年～13年にかけて、九州地域が8年～10年及び12年に100を上回る推移となっており、低下も小幅なものにとどまっている。この結果、地域別出荷額構成比は、関東地域（対4年差 1.9ポイント減）、近畿地域（同 1.8ポイント減）で縮小、中部地域（同1.8ポイント増）、九州地域（同0.8ポイント増）、東北地域（同0.8ポイント増）など残りすべての地域で拡大している。

（注）経済産業局管区内の都道府県は、43ページを参照。

地域別出荷額及び構成比

|       | 出荷額（億円）   |        |         |           |         |         |         |        |         |
|-------|-----------|--------|---------|-----------|---------|---------|---------|--------|---------|
|       | 計         | 北海道    | 東北      | 関東        | 中部      | 近畿      | 中国      | 四国     | 九州      |
| 4年    | 3,249,166 | 60,928 | 165,868 | 1,334,782 | 575,023 | 593,912 | 238,211 | 81,089 | 199,353 |
| 5年    | 3,064,994 | 59,019 | 160,015 | 1,253,194 | 537,933 | 557,021 | 221,686 | 79,858 | 196,267 |
| 6年    | 2,944,060 | 58,505 | 160,263 | 1,209,401 | 514,352 | 514,360 | 216,048 | 79,156 | 191,976 |
| 7年    | 3,011,939 | 58,529 | 166,846 | 1,240,842 | 517,447 | 535,212 | 216,078 | 80,786 | 196,200 |
| 8年    | 3,080,345 | 60,417 | 173,215 | 1,261,680 | 542,408 | 542,455 | 216,175 | 81,161 | 202,836 |
| 9年    | 3,179,786 | 60,198 | 182,080 | 1,303,994 | 565,537 | 554,254 | 221,541 | 84,011 | 208,170 |
| 10年   | 3,006,838 | 57,774 | 173,619 | 1,228,788 | 536,041 | 519,515 | 209,604 | 80,533 | 200,965 |
| 11年   | 2,864,866 | 56,116 | 170,366 | 1,164,464 | 511,109 | 490,625 | 201,190 | 76,781 | 194,215 |
| 12年   | 2,955,867 | 57,979 | 179,516 | 1,196,482 | 531,718 | 504,019 | 207,804 | 76,913 | 201,437 |
| 13年   | 2,818,986 | 54,856 | 165,897 | 1,129,591 | 527,004 | 472,373 | 200,212 | 73,731 | 195,322 |
| 14年   | 2,691,164 | 53,472 | 158,787 | 1,055,988 | 524,463 | 443,298 | 198,175 | 70,729 | 186,251 |
| 平成4年比 | 17.2      | 12.2   | 4.3     | 20.9      | 8.8     | 25.4    | 16.8    | 12.8   | 6.6     |
|       | 構成比（%）    |        |         |           |         |         |         |        |         |
|       | 計         | 北海道    | 東北      | 関東        | 中部      | 近畿      | 中国      | 四国     | 九州      |
| 4年    | 100.0     | 1.9    | 5.1     | 41.1      | 17.7    | 18.3    | 7.3     | 2.5    | 6.1     |
| 5年    | 100.0     | 1.9    | 5.2     | 40.9      | 17.6    | 18.2    | 7.2     | 2.6    | 6.4     |
| 6年    | 100.0     | 2.0    | 5.4     | 41.1      | 17.5    | 17.5    | 7.3     | 2.7    | 6.5     |
| 7年    | 100.0     | 1.9    | 5.5     | 41.2      | 17.2    | 17.8    | 7.2     | 2.7    | 6.5     |
| 8年    | 100.0     | 2.0    | 5.6     | 41.0      | 17.6    | 17.6    | 7.0     | 2.6    | 6.6     |
| 9年    | 100.0     | 1.9    | 5.7     | 41.0      | 17.8    | 17.4    | 7.0     | 2.6    | 6.5     |
| 10年   | 100.0     | 1.9    | 5.8     | 40.9      | 17.8    | 17.3    | 7.0     | 2.7    | 6.7     |
| 11年   | 100.0     | 2.0    | 5.9     | 40.6      | 17.8    | 17.1    | 7.0     | 2.7    | 6.8     |
| 12年   | 100.0     | 2.0    | 6.1     | 40.5      | 18.0    | 17.1    | 7.0     | 2.6    | 6.8     |
| 13年   | 100.0     | 1.9    | 5.9     | 40.1      | 18.7    | 16.8    | 7.1     | 2.6    | 6.9     |
| 14年   | 100.0     | 2.0    | 5.9     | 39.2      | 19.5    | 16.5    | 7.4     | 2.6    | 6.9     |
| 平成4年差 | -         | 0.1    | 0.8     | 1.9       | 1.8     | 1.8     | 0.1     | 0.1    | 0.8     |

地域別にみた出荷額の推移



以下、地域別の出荷額について、政令市等、市、町村別にみていくこととする。

## 北海道地域

北海道地域の平成14年の出荷額は、5兆3千億円、対4年比 12.2%減であった。このうち、政令市等（札幌市）は同 26.7%と3割近い減少、出荷額の約6割を占める市は同 6.9%減、町村は同 17.1%減となっている。

出荷額構成比をみると、市（対4年差3.6ポイント増）が拡大、政令市等（同 2.2ポイント減）、町村（同 1.5ポイント減）は縮小している。

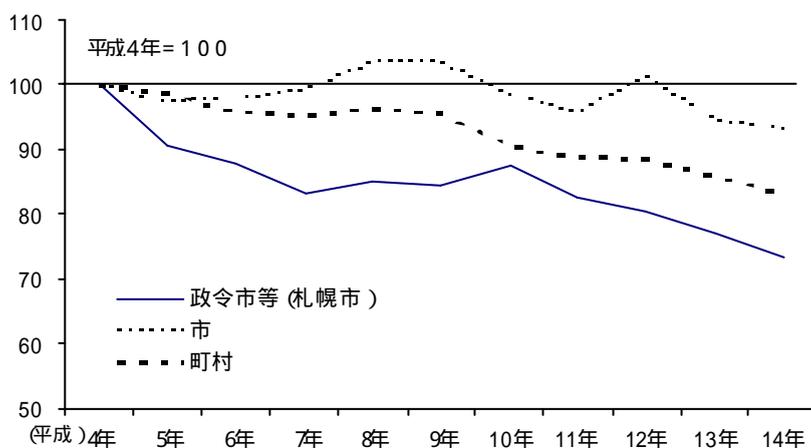
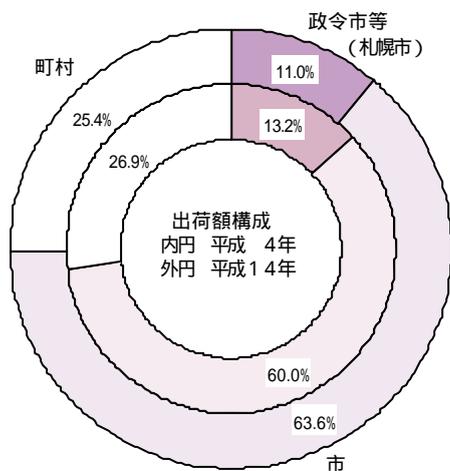
出荷額の推移をみると、政令市等、市、町村いずれも緩やかな低下傾向となっているが、市では100を上回る年もみられ、低下幅は小さい。

産業別にみると、平成4年に比較し政令市等では情報を除く食料、金属、紙パなどすべての産業で減少している。市ではシェアが大きい食料をはじめ、紙パ、金属など16産業で減少、一方、情報、輸送、石油など8産業では平成4年を上回る水準となっている。町村では、木材、食料、窯業などの減少が大きい。

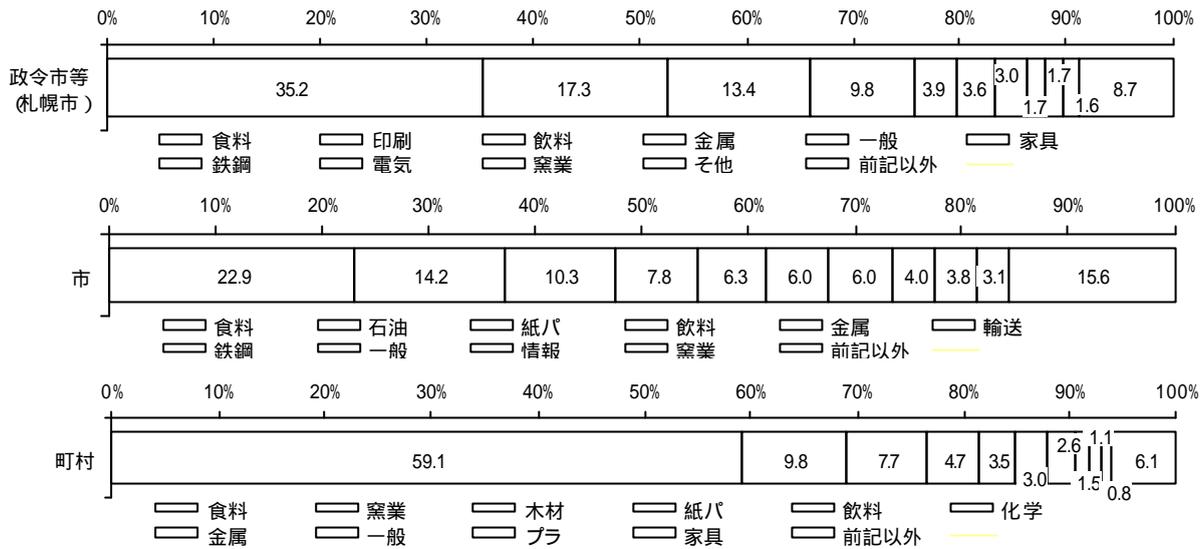
### 北海道地域の出荷額及び構成比

| 北海道              | 出 荷 額（億円） |               |        |        | 構 成 比（％） |               |      |      |
|------------------|-----------|---------------|--------|--------|----------|---------------|------|------|
|                  | 計         | 政令市等<br>（札幌市） | 市      | 町村     | 計        | 政令市等<br>（札幌市） | 市    | 町村   |
| 4年               | 60,928    | 8,019         | 36,542 | 16,367 | 100.0    | 13.2          | 60.0 | 26.9 |
| 5年               | 59,019    | 7,255         | 35,606 | 16,158 | 100.0    | 12.3          | 60.3 | 27.4 |
| 6年               | 58,505    | 7,039         | 35,780 | 15,686 | 100.0    | 12.0          | 61.2 | 26.8 |
| 7年               | 58,529    | 6,682         | 36,261 | 15,586 | 100.0    | 11.4          | 62.0 | 26.6 |
| 8年               | 60,417    | 6,821         | 37,829 | 15,767 | 100.0    | 11.3          | 62.6 | 26.1 |
| 9年               | 60,198    | 6,769         | 37,833 | 15,595 | 100.0    | 11.2          | 62.8 | 25.9 |
| 10年              | 57,774    | 7,017         | 35,949 | 14,808 | 100.0    | 12.1          | 62.2 | 25.6 |
| 11年              | 56,116    | 6,610         | 34,991 | 14,515 | 100.0    | 11.8          | 62.4 | 25.9 |
| 12年              | 57,979    | 6,453         | 37,058 | 14,468 | 100.0    | 11.1          | 63.9 | 25.0 |
| 13年              | 54,856    | 6,173         | 34,619 | 14,064 | 100.0    | 11.3          | 63.1 | 25.6 |
| 14年              | 53,472    | 5,877         | 34,027 | 13,568 | 100.0    | 11.0          | 63.6 | 25.4 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 12.2      | 26.7          | 6.9    | 17.1   | -        | 2.2           | 3.6  | 1.5  |

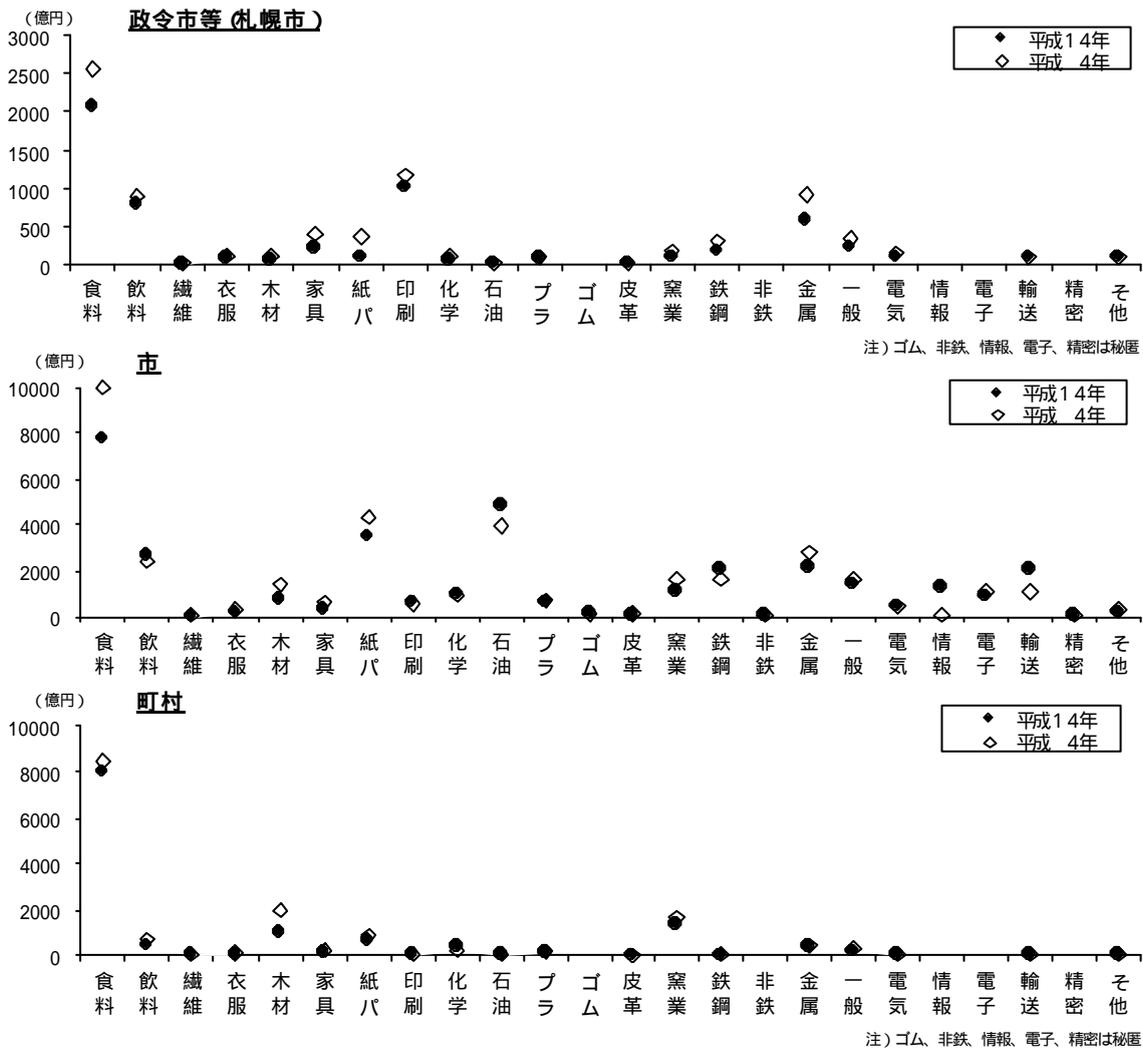
### 北海道地域の政令市等、市、町村別出荷額構成比及び出荷額推移



### 北海道地域の産業別出荷額の構成比（平成14年）



### 北海道地域の産業別出荷額の変動



## 東北地域

東北地域の平成14年の出荷額は、15兆9千億円、対4年比 4.3%減であった。このうち、政令市等（仙台市）は同 19.3%と2割近い減少、出荷額の約6割を占める市は同 4.9%減、町村は同 0.4%減となっている。

出荷額構成比をみると、政令市等(対4年差 0.9ポイント減)は平成5年をピークに縮小傾向、市(0.4ポイント減)も縮小している。一方、町村(同1.3ポイント増)は拡大傾向にある。

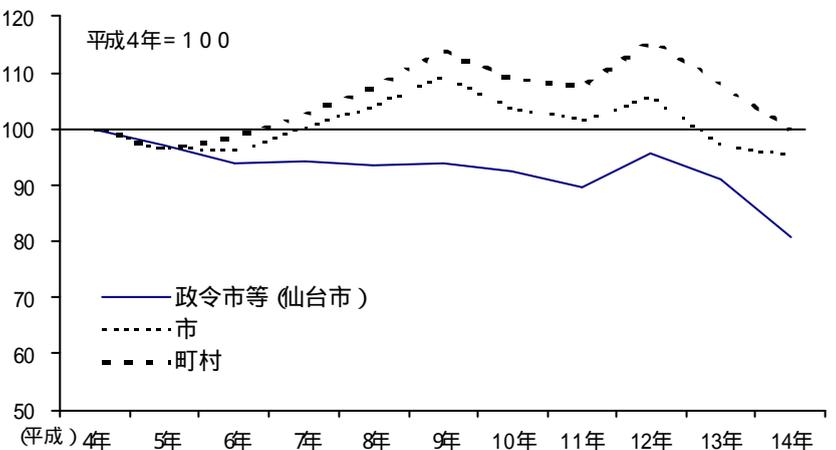
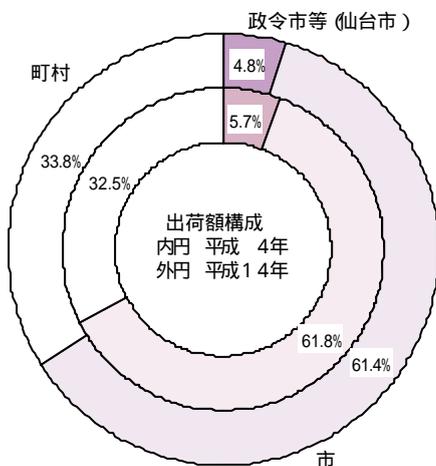
出荷額の推移をみると、政令市等はほぼ横ばいで推移していたものの、平成14年は石油の大幅な減少もあって急激な低下となっている。市、町村は上昇傾向にあったが、13年以降、ともに低下に転じている。

産業別にみると、平成4年に比較し政令市等では飲料、鉄鋼、電気など石油、化学を除くすべての産業で減少している。市では食料、電気、衣服など17産業で減少しているものの情報、電子、輸送などでは平成4年を大きく上回っており、市における出荷額を下支えしている。町村では衣服、情報、窯業などでは減少しているものの、輸送、飲料、電気など半数の産業では平成4年を上回る水準となっている。

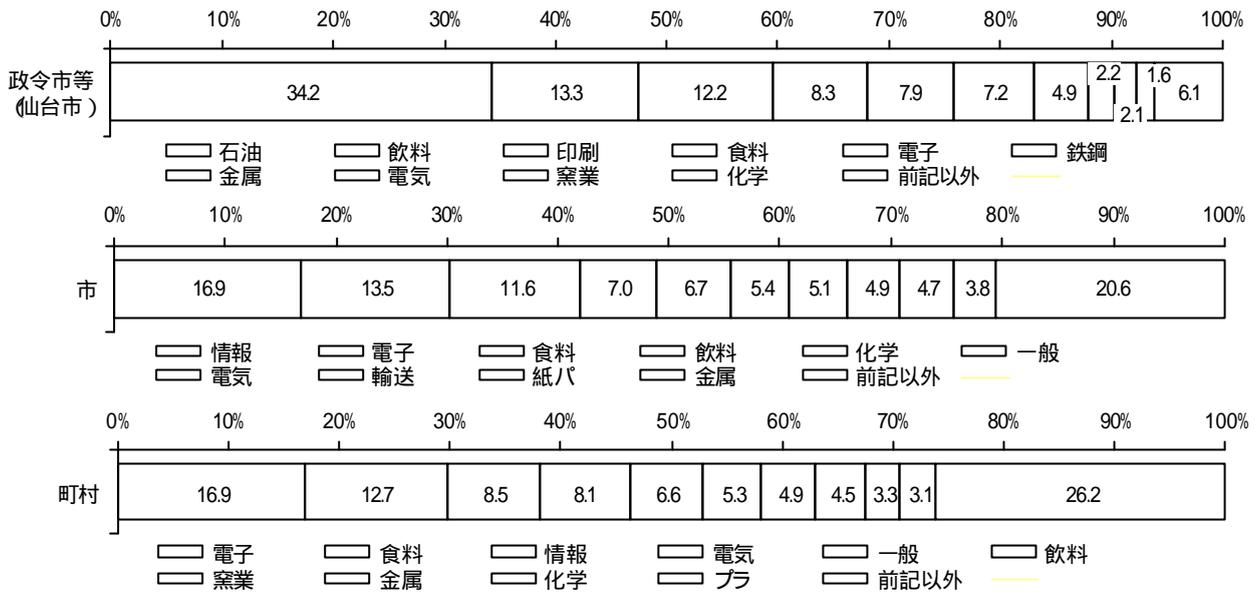
東北地域の出荷額及び構成比

| 東北               | 出 荷 額 (億円) |               |         |        | 構 成 比 (%) |               |      |      |
|------------------|------------|---------------|---------|--------|-----------|---------------|------|------|
|                  | 計          | 政令市等<br>(仙台市) | 市       | 町村     | 計         | 政令市等<br>(仙台市) | 市    | 町村   |
| 4年               | 165,868    | 9,529         | 102,469 | 53,870 | 100.0     | 5.7           | 61.8 | 32.5 |
| 5年               | 160,015    | 9,273         | 98,714  | 52,028 | 100.0     | 5.8           | 61.7 | 32.5 |
| 6年               | 160,263    | 8,947         | 98,302  | 53,014 | 100.0     | 5.6           | 61.3 | 33.1 |
| 7年               | 166,846    | 8,996         | 102,527 | 55,322 | 100.0     | 5.4           | 61.5 | 33.2 |
| 8年               | 173,215    | 8,896         | 106,535 | 57,783 | 100.0     | 5.1           | 61.5 | 33.4 |
| 9年               | 182,080    | 8,924         | 111,750 | 61,406 | 100.0     | 4.9           | 61.4 | 33.7 |
| 10年              | 173,619    | 8,822         | 106,209 | 58,588 | 100.0     | 5.1           | 61.2 | 33.7 |
| 11年              | 170,366    | 8,550         | 103,949 | 57,868 | 100.0     | 5.0           | 61.0 | 34.0 |
| 12年              | 179,516    | 9,106         | 108,027 | 62,382 | 100.0     | 5.1           | 60.2 | 34.8 |
| 13年              | 165,897    | 8,692         | 99,260  | 57,945 | 100.0     | 5.2           | 59.8 | 34.9 |
| 14年              | 158,787    | 7,692         | 97,463  | 53,632 | 100.0     | 4.8           | 61.4 | 33.8 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 4.3        | 19.3          | 4.9     | 0.4    | -         | 0.9           | 0.4  | 1.3  |

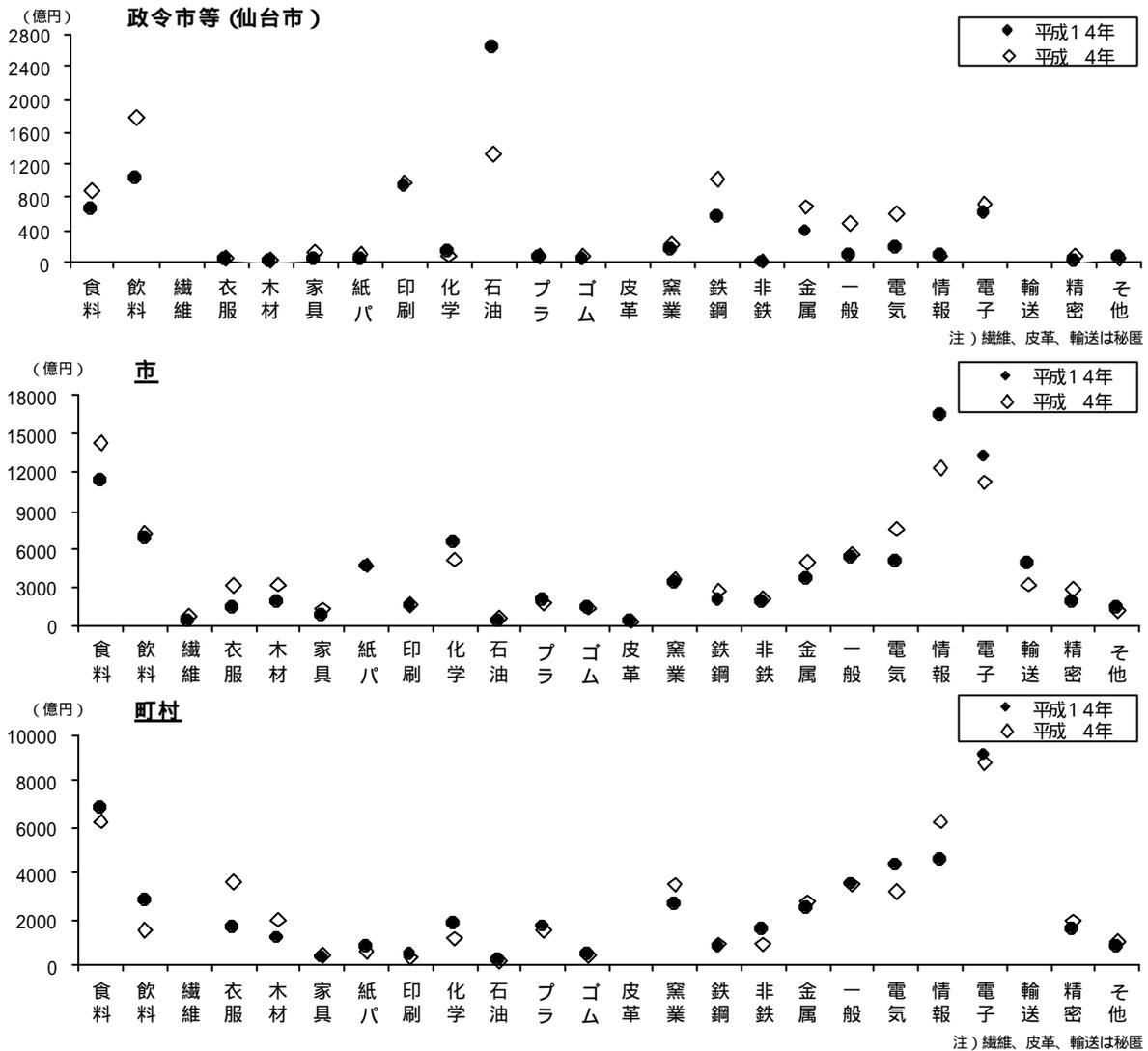
東北地域の政令市等、市、町村別出荷額構成及び出荷額推移



### 東北地域の産業別出荷額の構成比（平成14年）



### 東北地域の産業別出荷額の変動



## 関東地域

関東地域の平成14年の出荷額は、105兆6千億円、対4年比 20.9%減と、近畿地域に次ぐ大幅な減少となっている。このうち、政令市等（千葉市、東京都23区、横浜市、川崎市）は同 41.1%の大幅な減少、市は同 20.5%減、町村は同 2.6%の減少にとどまっている。

出荷額構成比をみると、政令市等（対4年差 4.5ポイント減）は平成4年をピークに縮小が続く一方、町村（同4.2ポイント増）は拡大傾向、市（同0.3ポイント増）もわずかながら拡大している。

出荷額の推移をみると、政令市等、市、町村いずれも上昇、低下については同様の動きとなっているが、水準は、町村で平成8年から13年にかけて100を上回る一方、政令市等では10年前の6割程度まで出荷額が落ち込んでいる。

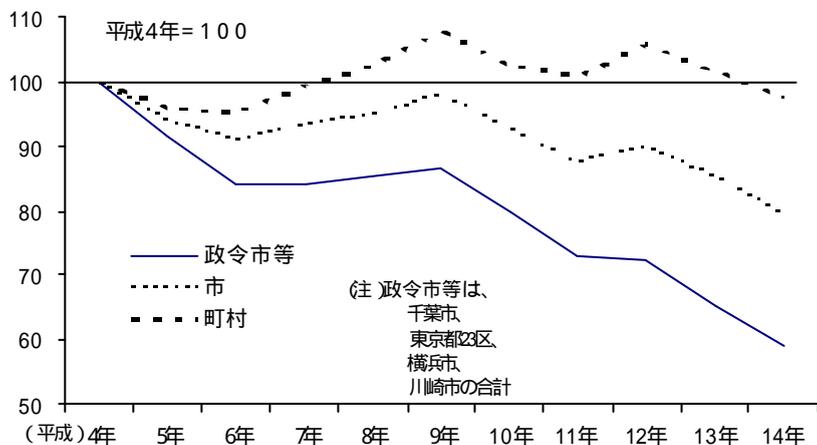
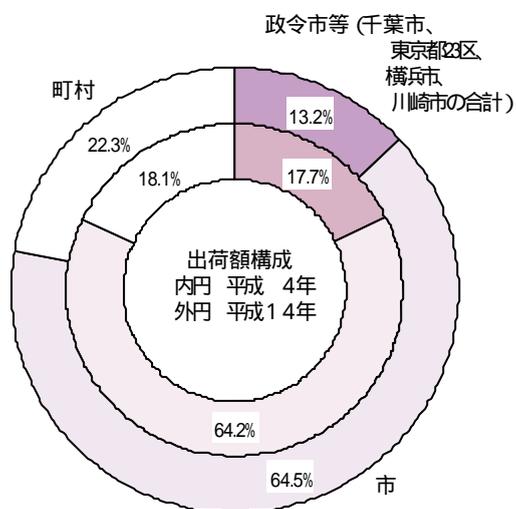
産業別にみると、政令市等では情報、一般、電子をはじめ、石油を除くすべての産業で平成4年の出荷額を下回っている。市では平成4年に比較し情報、電気、輸送などの減少が大きい。町村では電気、金属、窯業などでは減少しているものの、電子、食料、飲料など8産業では平成4年を上回る水準となっている。

### 関東地域の出荷額及び構成比

| 関東               | 出 荷 額（億円） |             |         |         | 構 成 比（%） |             |      |      |     |
|------------------|-----------|-------------|---------|---------|----------|-------------|------|------|-----|
|                  | 計         | 政令市等<br>(注) | 市       | 町村      | 計        | 政令市等<br>(注) | 市    | 町村   |     |
| 4年               | 1,334,782 | 236,642     | 856,833 | 241,307 | 100.0    | 17.7        | 64.2 | 18.1 |     |
| 5年               | 1,253,194 | 216,550     | 805,431 | 231,214 | 100.0    | 17.3        | 64.3 | 18.4 |     |
| 6年               | 1,209,401 | 198,971     | 780,990 | 229,439 | 100.0    | 16.5        | 64.6 | 19.0 |     |
| 7年               | 1,240,842 | 199,602     | 801,133 | 240,108 | 100.0    | 16.1        | 64.6 | 19.4 |     |
| 8年               | 1,261,680 | 201,644     | 813,224 | 246,812 | 100.0    | 16.0        | 64.5 | 19.6 |     |
| 9年               | 1,303,994 | 204,603     | 839,594 | 259,797 | 100.0    | 15.7        | 64.4 | 19.9 |     |
| 10年              | 1,228,788 | 189,176     | 792,782 | 246,830 | 100.0    | 15.4        | 64.5 | 20.1 |     |
| 11年              | 1,164,464 | 172,835     | 748,460 | 243,168 | 100.0    | 14.8        | 64.3 | 20.9 |     |
| 12年              | 1,196,481 | 170,912     | 770,520 | 255,050 | 100.0    | 14.3        | 64.4 | 21.3 |     |
| 13年              | 1,129,591 | 154,453     | 729,975 | 245,163 | 100.0    | 13.7        | 64.6 | 21.7 |     |
| 14年              | 1,055,988 | 139,311     | 681,585 | 235,092 | 100.0    | 13.2        | 64.5 | 22.3 |     |
| 平成4年比<br>(構成比は差) |           | 20.9        | 41.1    | 20.5    | 2.6      | -           | 4.5  | 0.3  | 4.2 |

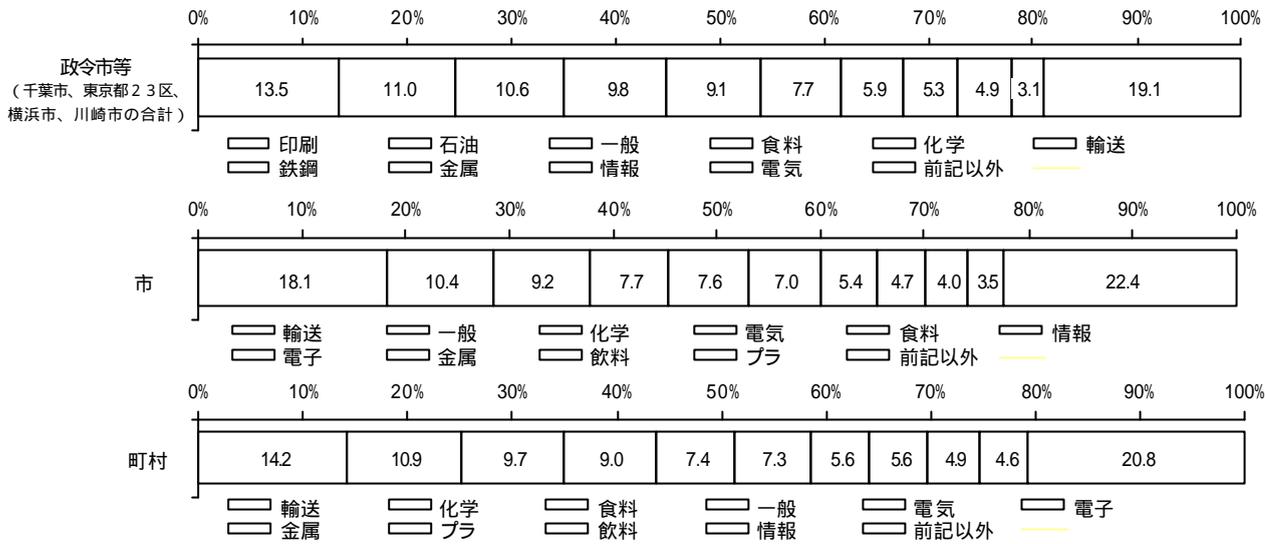
(注) 政令市等は、千葉市、東京都23区、横浜市、川崎市の合計

### 関東地域の政令市等、市、町村別出荷額構成比及び出荷額推移

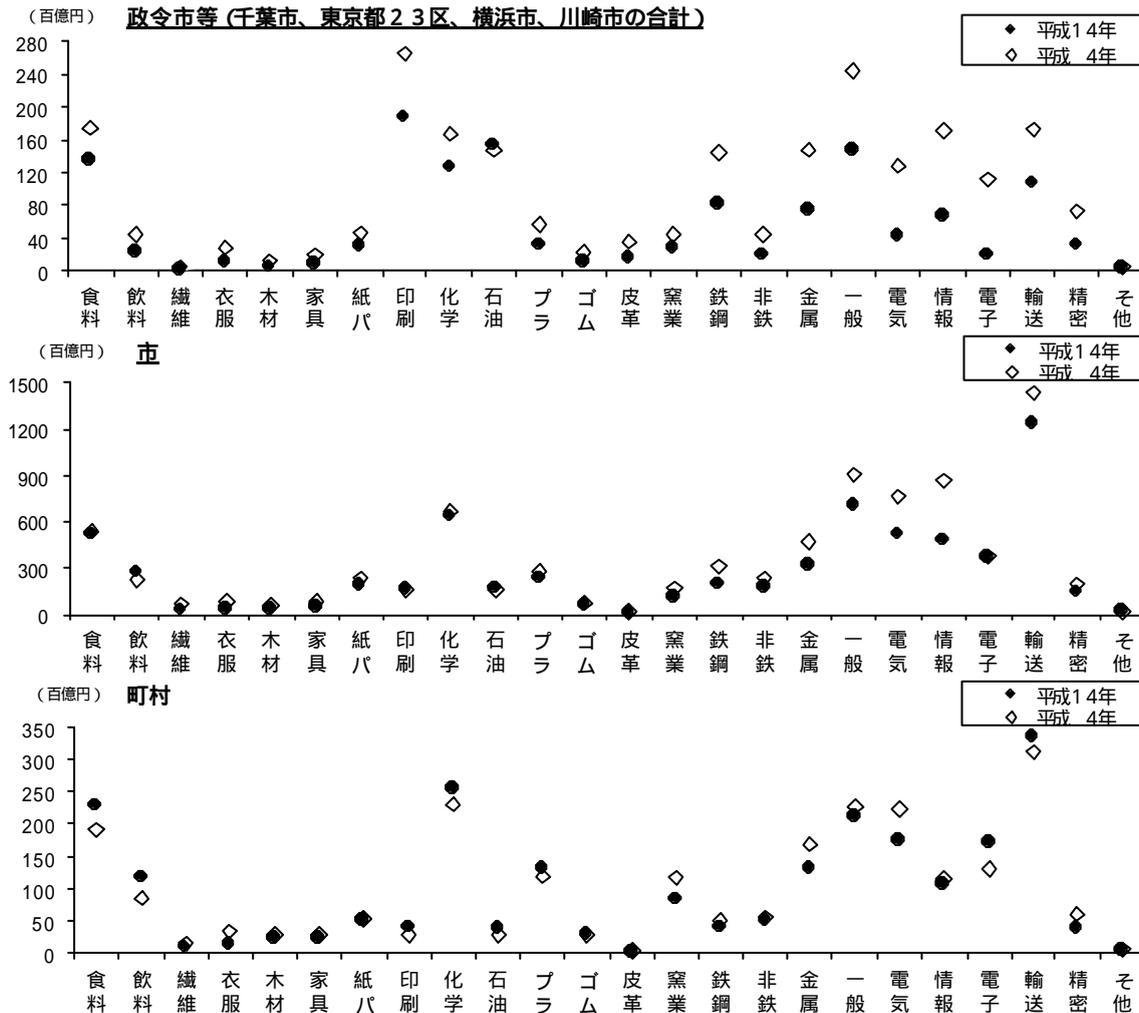


(注) 政令市等は、千葉市、東京都23区、横浜市、川崎市の合計

### 関東地域の産業別出荷額の構成比（平成14年）



### 関東地域の産業別出荷額の変化



## 中部地域

中部地域の平成14年の出荷額は、52兆4千億円、対4年比 8.8%の減少であった。このうち、政令市等（名古屋市）は同 43.0%と4割超の減少、市は同 7.3%の減少、町村では同3.0%の増加となっている。

出荷額構成比をみると、政令市等（対4年差 3.9ポイント減）は平成8年以降縮小が続く一方、町村（同2.7ポイント増）、市（1.2ポイント増）は拡大している。

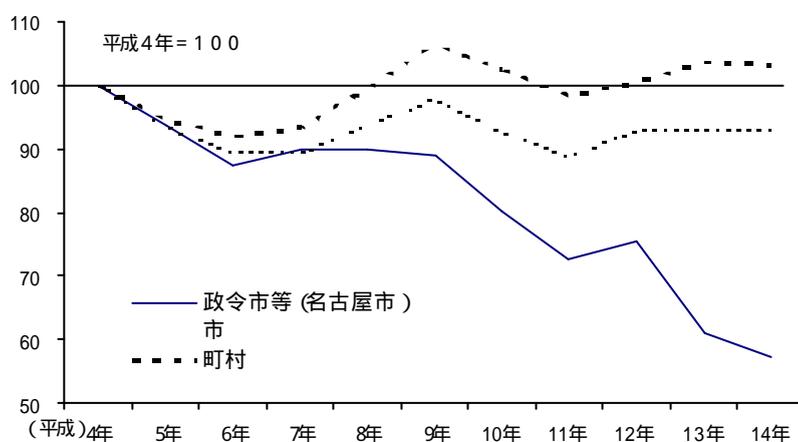
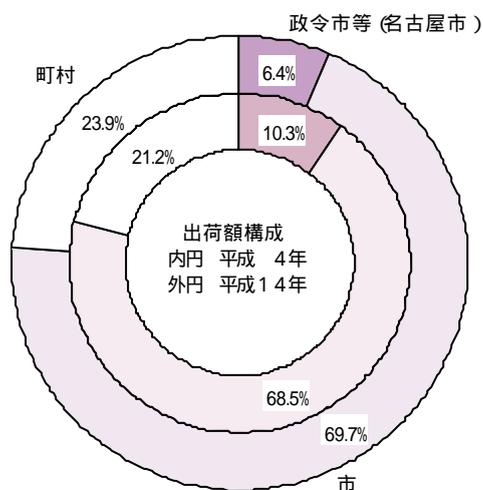
出荷額の推移をみると、町村では平成9年以降、100を上回る年もみられるが、政令市等は関東地域同様、10年前の6割程度の水準まで落ち込んでいる。

産業別にみると、平成4年に比較し、政令市等では輸送、電気、一般など窯業を除くすべての産業で減少している。市では一般、繊維、鉄鋼などが減少しているものの、輸送、情報、電子など7産業では4年を上回る出荷額となっている。唯一4年の水準を上回っている町村では、シェアの大きい輸送をはじめ、電子、化学など9産業で増加している。

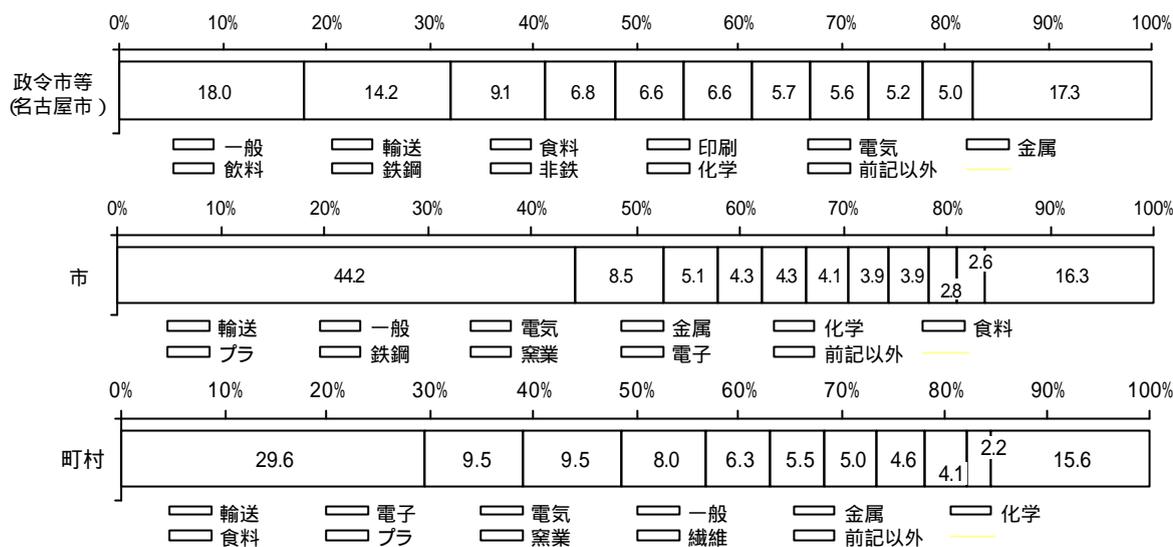
### 中部地域の出荷額及び構成比

| 中部               | 出 荷 額 (億円) |                |         |         | 構 成 比 (%) |                |      |      |
|------------------|------------|----------------|---------|---------|-----------|----------------|------|------|
|                  | 計          | 政令市等<br>(名古屋市) | 市       | 町村      | 計         | 政令市等<br>(名古屋市) | 市    | 町村   |
| 4年               | 575,023    | 59,318         | 393,995 | 121,709 | 100.0     | 10.3           | 68.5 | 21.2 |
| 5年               | 537,933    | 55,649         | 367,217 | 115,068 | 100.0     | 10.3           | 68.3 | 21.4 |
| 6年               | 514,352    | 51,771         | 351,021 | 111,560 | 100.0     | 10.1           | 68.2 | 21.7 |
| 7年               | 517,447    | 53,283         | 350,563 | 113,601 | 100.0     | 10.3           | 67.7 | 22.0 |
| 8年               | 542,408    | 53,367         | 368,046 | 120,994 | 100.0     | 9.8            | 67.9 | 22.3 |
| 9年               | 565,537    | 52,690         | 383,710 | 129,137 | 100.0     | 9.3            | 67.8 | 22.8 |
| 10年              | 536,041    | 47,539         | 363,696 | 124,805 | 100.0     | 8.9            | 67.8 | 23.3 |
| 11年              | 511,109    | 42,938         | 348,561 | 119,610 | 100.0     | 8.4            | 68.2 | 23.4 |
| 12年              | 531,718    | 44,614         | 364,871 | 122,233 | 100.0     | 8.4            | 68.6 | 23.0 |
| 13年              | 527,004    | 36,051         | 365,080 | 125,873 | 100.0     | 6.8            | 69.3 | 23.9 |
| 14年              | 524,463    | 33,822         | 365,290 | 125,351 | 100.0     | 6.4            | 69.7 | 23.9 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 8.8        | 43.0           | 7.3     | 3.0     | -         | 3.9            | 1.2  | 2.7  |

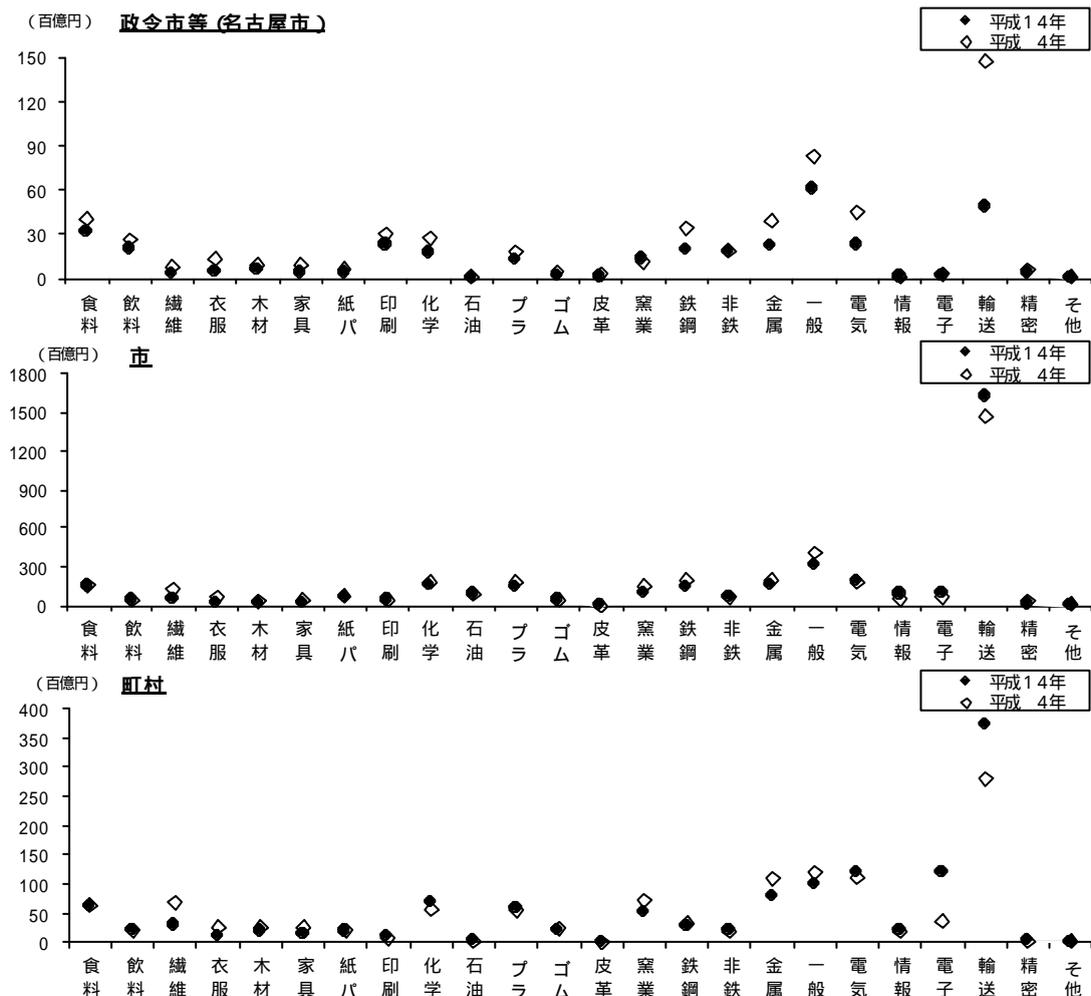
### 中部地域の政令市等、市、町村別出荷額構成比及び出荷額推移



### 中部地域の産業別出荷額の構成比（平成14年）



### 中部地域の産業別出荷額の変化



## 近畿地域

近畿地域の平成14年の出荷額は、44兆3千億円、対4年比 25.4%と全8地域のうち最も大幅な減少となっている。このうち、政令市等（京都市、大阪市、神戸市）が同 36.4%減、市が同 25.0%減とともに2桁の減少、町村は同 9.1%減となっている。

出荷額構成比をみると、政令市等（対4年差 3.5ポイント減）は平成4年をピークに縮小傾向にあり、町村（同3.1ポイント増）、市（0.3ポイント増）が拡大している。

出荷額の推移をみると、いずれも低下傾向にあるが、町村の低下幅は小さい。

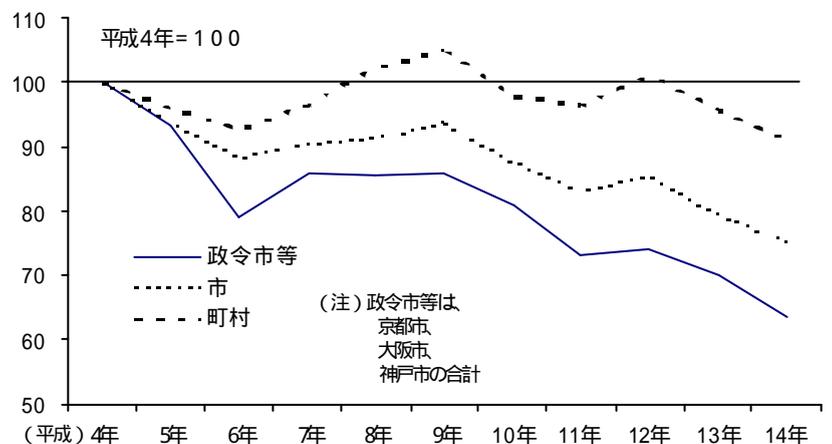
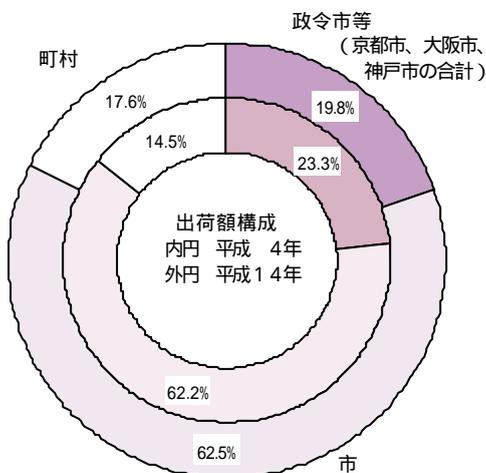
産業別にみると、政令市等では一般、金属、鉄鋼をはじめ、化学、精密を除くすべての産業で平成4年の出荷額を下回っており、このうち7産業では4年の水準の半減以上の大幅な減少となっている。市では石油、電子、情報の増加を除き、一般、鉄鋼、電気など残りすべての産業で4年の出荷額を下回っている。一方、町村では、繊維、情報、金属など17産業で減少しているものの、電子、輸送、化学など4年の出荷額を上回る産業もみられる。

近畿地域の出荷額及び構成比

| 近畿               | 出 荷 額（億円） |             |         |        | 構 成 比（%） |             |      |      |
|------------------|-----------|-------------|---------|--------|----------|-------------|------|------|
|                  | 計         | 政令市等<br>(注) | 市       | 町村     | 計        | 政令市等<br>(注) | 市    | 町村   |
| 4年               | 593,912   | 138,210     | 369,687 | 86,015 | 100.0    | 23.3        | 62.2 | 14.5 |
| 5年               | 557,021   | 128,724     | 345,750 | 82,547 | 100.0    | 23.1        | 62.1 | 14.8 |
| 6年               | 514,360   | 109,349     | 325,331 | 79,679 | 100.0    | 21.3        | 63.2 | 15.5 |
| 7年               | 535,212   | 118,729     | 333,568 | 82,914 | 100.0    | 22.2        | 62.3 | 15.5 |
| 8年               | 542,455   | 118,281     | 336,399 | 87,775 | 100.0    | 21.8        | 62.0 | 16.2 |
| 9年               | 554,254   | 118,770     | 345,227 | 90,257 | 100.0    | 21.4        | 62.3 | 16.3 |
| 10年              | 519,515   | 112,008     | 323,508 | 83,999 | 100.0    | 21.6        | 62.3 | 16.2 |
| 11年              | 490,625   | 101,212     | 306,446 | 82,967 | 100.0    | 20.6        | 62.5 | 16.9 |
| 12年              | 504,019   | 102,524     | 314,603 | 86,892 | 100.0    | 20.3        | 62.4 | 17.2 |
| 13年              | 472,373   | 97,066      | 293,145 | 82,162 | 100.0    | 20.5        | 62.1 | 17.4 |
| 14年              | 443,298   | 87,895      | 277,176 | 78,226 | 100.0    | 19.8        | 62.5 | 17.6 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 25.4      | 36.4        | 25.0    | 9.1    | -        | 3.5         | 0.3  | 3.1  |

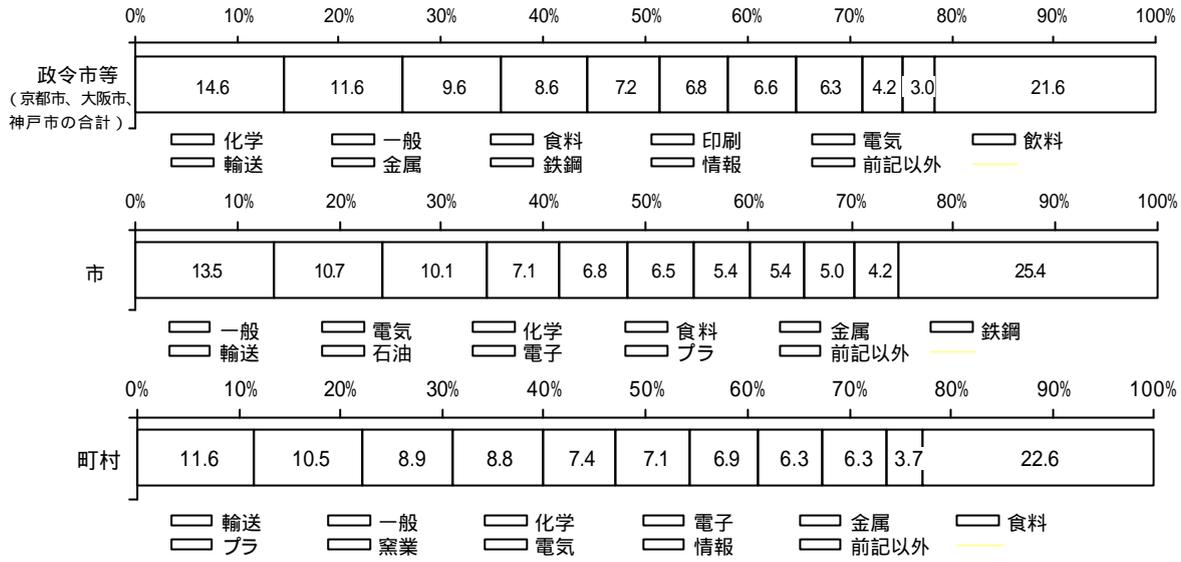
(注) 政令市等は、京都市、大阪市、神戸市の合計

近畿の政令市等、市、町村別出荷額構成比と出荷額推移

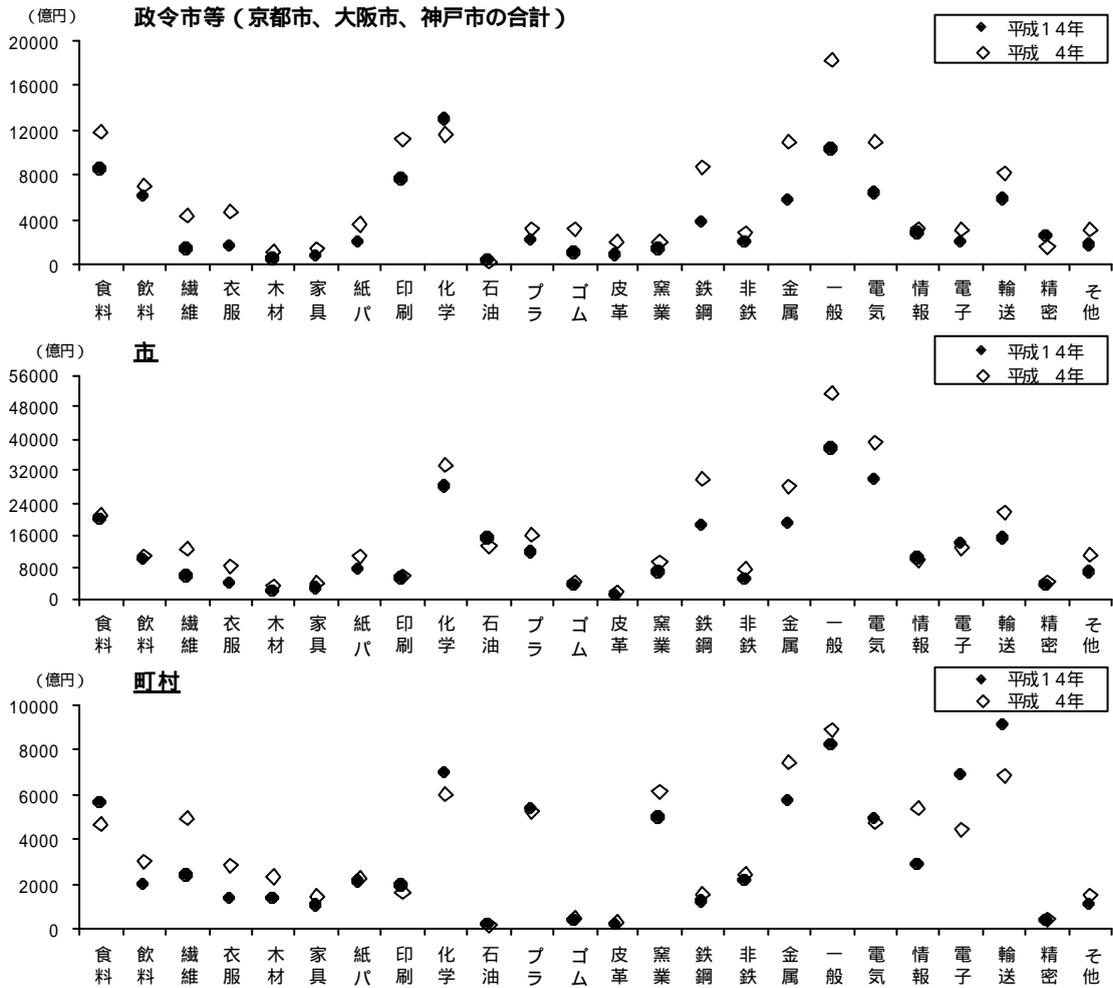


注：平成6年の減少は、阪神・淡路大震災の発生により調査票の回収が困難になったことによる。

### 近畿地域の産業別出荷額の構成比（平成14年）



### 近畿地域の産業別出荷額の変化



## 中国地域

中国地域の平成14年の出荷額は、19兆8千億円、対4年比16.8%の減少となっている。このうち、政令市等（広島市）が同40.0%の減少、出荷額全体の7割を占める市が同14.5%減、町村が同11.3%減といずれも2桁の減少となっている。出荷額構成比をみると、政令市等（対4年差3.2ポイント減）は4年をピークに縮小傾向にあり、市（同1.9ポイント増）、町村（1.2ポイント増）が拡大している。

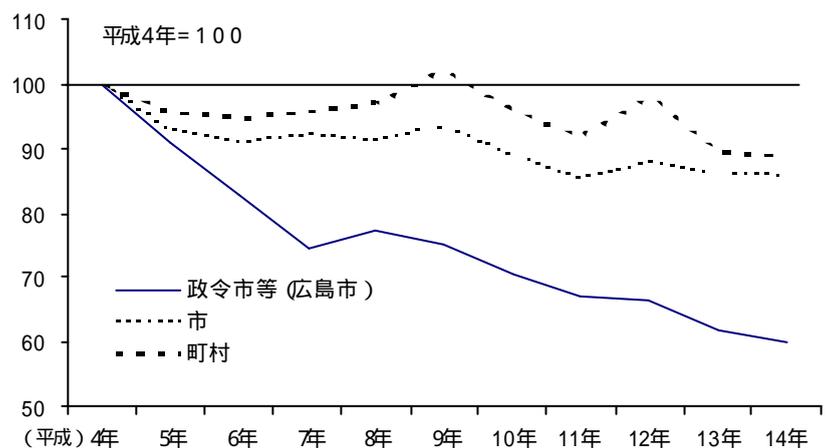
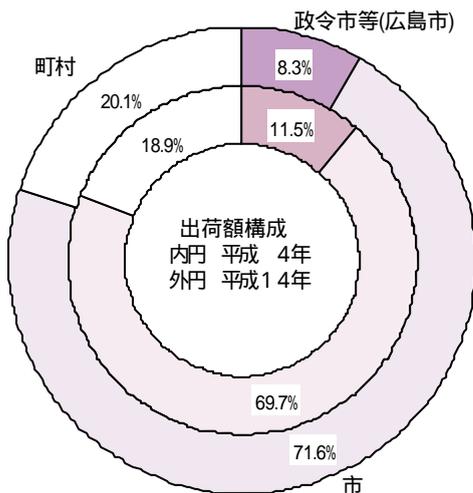
出荷額の推移をみると、市、町村では緩やかな低下、政令市等では大幅に低下している。

産業別にみると、政令市等ではシェアの大きい輸送が4年出荷額の半減に近いのをはじめ、その他、金属などが半減以上の大幅な減少となっている。市では電子、石油、情報で4年の出荷額を上回っているものの、鉄鋼、電気、一般など残りすべての産業では4年出荷額を下回っている。町村では、輸送、衣服、飲料などで減少が大きいものの、電子、情報、石油など4年を上回る産業がみられる。

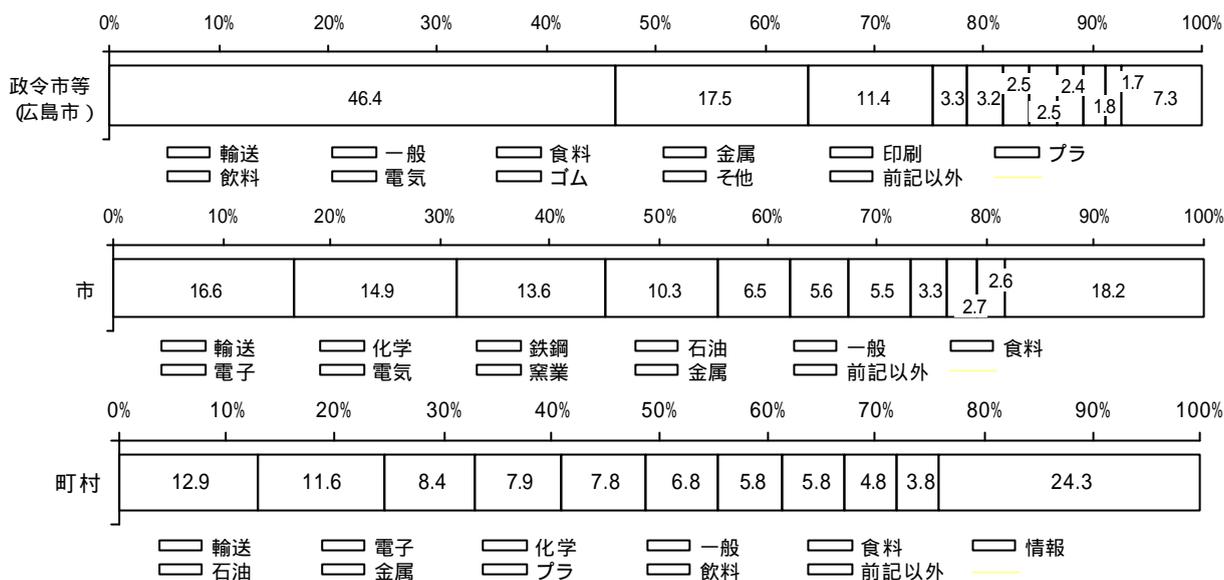
中国地域の出荷額及び構成比

| 中国               | 出 荷 額 (億円) |               |         |        | 構 成 比 (%) |               |      |      |
|------------------|------------|---------------|---------|--------|-----------|---------------|------|------|
|                  | 計          | 政令市等<br>(広島市) | 市       | 町村     | 計         | 政令市等<br>(広島市) | 市    | 町村   |
| 4年               | 238,211    | 27,374        | 165,925 | 44,912 | 100.0     | 11.5          | 69.7 | 18.9 |
| 5年               | 221,686    | 24,897        | 153,891 | 42,899 | 100.0     | 11.2          | 69.4 | 19.4 |
| 6年               | 216,048    | 22,671        | 150,888 | 42,489 | 100.0     | 10.5          | 69.8 | 19.7 |
| 7年               | 216,078    | 20,400        | 152,677 | 43,001 | 100.0     | 9.4           | 70.7 | 19.9 |
| 8年               | 216,175    | 21,209        | 151,359 | 43,606 | 100.0     | 9.8           | 70.0 | 20.2 |
| 9年               | 221,541    | 20,504        | 155,177 | 45,861 | 100.0     | 9.3           | 70.0 | 20.7 |
| 10年              | 209,604    | 19,272        | 147,298 | 43,033 | 100.0     | 9.2           | 70.3 | 20.5 |
| 11年              | 201,190    | 18,364        | 141,581 | 41,245 | 100.0     | 9.1           | 70.4 | 20.5 |
| 12年              | 207,804    | 18,214        | 145,598 | 43,993 | 100.0     | 8.8           | 70.1 | 21.2 |
| 13年              | 200,212    | 16,961        | 143,033 | 40,218 | 100.0     | 8.5           | 71.4 | 20.1 |
| 14年              | 198,175    | 16,415        | 141,904 | 39,856 | 100.0     | 8.3           | 71.6 | 20.1 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 16.8       | 40.0          | 14.5    | 11.3   | -         | 3.2           | 1.9  | 1.2  |

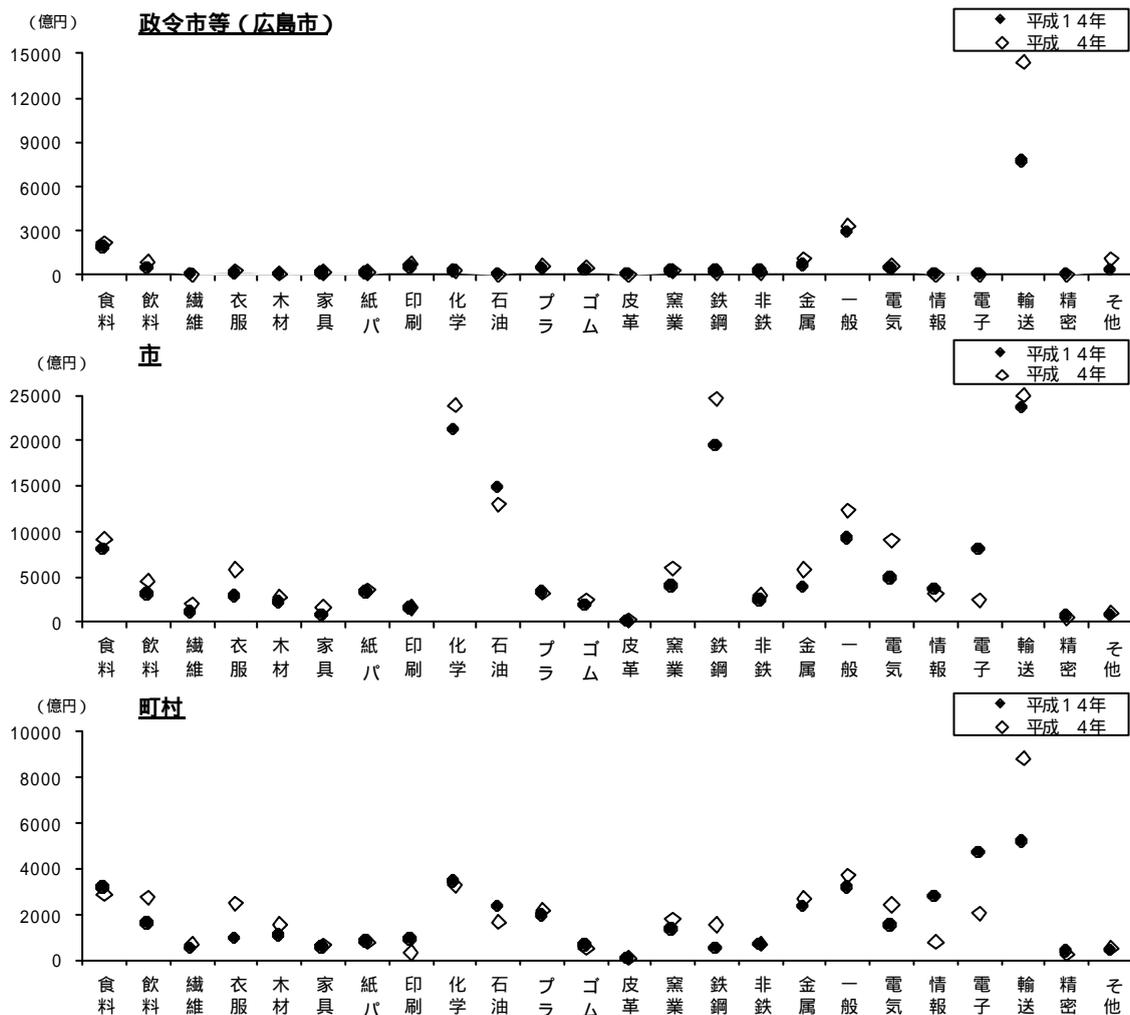
中国地域の政令市等、市、町村別出荷額構成比及び出荷額推移



### 中国地域の産業別出荷額の構成比（平成14年）



### 中国地域の産業別出荷額の変化



## 四国地域

四国地域の平成14年の出荷額は、7兆1千億円、対4年比 12.8%減、このうち、市が同 13.2%減、町村が同 11.9%減となっている。

出荷額構成比をみると、市（対4年差 0.3ポイント減）が縮小、町村（同0.3ポイント増）は拡大している。

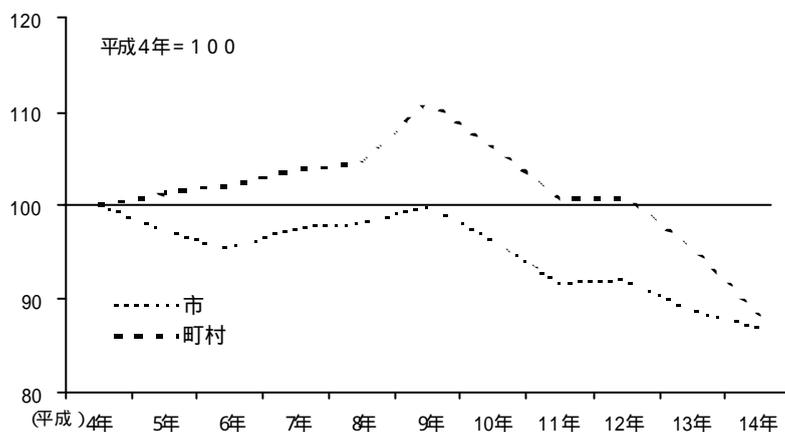
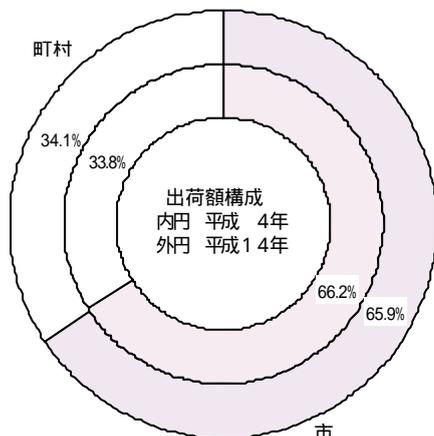
出荷額の推移をみると、市は平成10年以降低下傾向にある。町村では12年まで100を上回る水準で推移していたものの、9年をピークに低下に転じ、13年、14年と急激に低下している。

産業別にみると、平成4年に比較し市では一般、衣服、飲料などの減少が大きいものの、電子、非鉄、化学などでは4年の出荷額を上回っている。町村では、衣服、情報、電気などの減少が大きい。

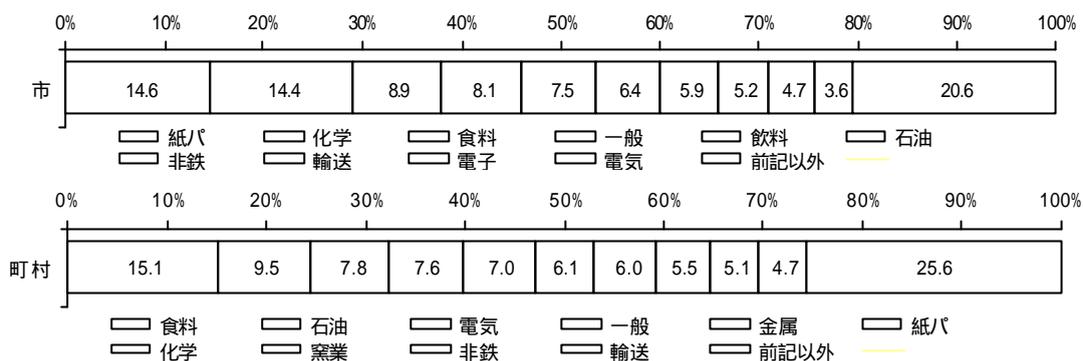
### 四国地域の出荷額及び構成比

| 四国               | 出 荷 額 (億円) |      |        |        | 構 成 比 (%) |      |      |      |
|------------------|------------|------|--------|--------|-----------|------|------|------|
|                  | 計          | 政令市等 | 市      | 町村     | 計         | 政令市等 | 市    | 町村   |
|                  |            |      |        |        |           |      |      |      |
| 4年               | 81,089     | -    | 53,719 | 27,370 | 100.0     | -    | 66.2 | 33.8 |
| 5年               | 79,858     | -    | 52,139 | 27,719 | 100.0     | -    | 65.3 | 34.7 |
| 6年               | 79,156     | -    | 51,182 | 27,973 | 100.0     | -    | 64.7 | 35.3 |
| 7年               | 80,786     | -    | 52,375 | 28,411 | 100.0     | -    | 64.8 | 35.2 |
| 8年               | 81,160     | -    | 52,547 | 28,613 | 100.0     | -    | 64.7 | 35.3 |
| 9年               | 84,011     | -    | 53,634 | 30,376 | 100.0     | -    | 63.8 | 36.2 |
| 10年              | 80,533     | -    | 51,553 | 28,980 | 100.0     | -    | 64.0 | 36.0 |
| 11年              | 76,780     | -    | 49,230 | 27,550 | 100.0     | -    | 64.1 | 35.9 |
| 12年              | 76,912     | -    | 49,358 | 27,555 | 100.0     | -    | 64.2 | 35.8 |
| 13年              | 73,731     | -    | 47,656 | 26,075 | 100.0     | -    | 64.6 | 35.4 |
| 14年              | 70,729     | -    | 46,621 | 24,108 | 100.0     | -    | 65.9 | 34.1 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 12.8       | -    | 13.2   | 11.9   | -         | -    | 0.3  | 0.3  |

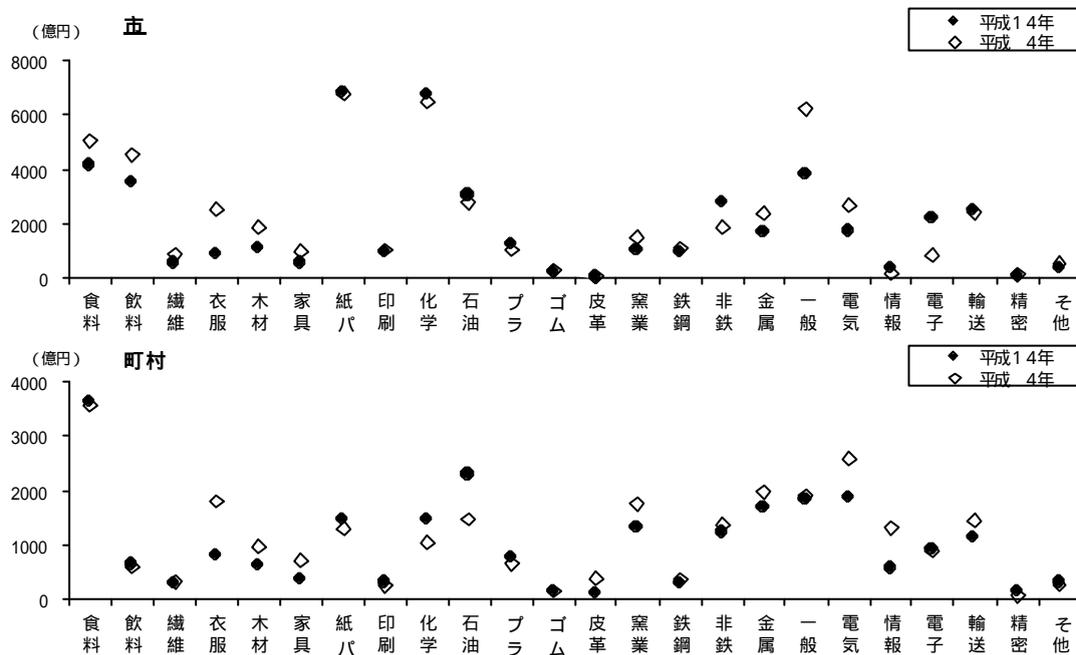
### 四国の市、町村別出荷額構成比及び出荷額推移



### 四国地域の産業別出荷額の構成比（平成14年）



### 四国地域の産業別出荷額の変化



## 九州地域(沖縄を含む)

九州地域の平成14年の出荷額は、18兆6千億円、対4年比 6.6%の減少となっている。このうち、政令市等(北九州市、福岡市)が同 35.6%減、市が同 11.6%減の一方、出荷額全体の4割を占める町村では同15.5%と大幅な増加となっている。

出荷額構成比をみると、政令市等(対4年差 5.3ポイント減)、市(同 2.7ポイント減)がともに縮小、平成4年に3割強にすぎなかった町村(同8.0ポイント増)の出荷額は、14年では4割強と、その割合は年々拡大している。

出荷額の推移をみると、町村では100を上回る水準で推移しており上昇傾向にある。一方、市では緩やかに低下、政令市等は低下傾向にある。

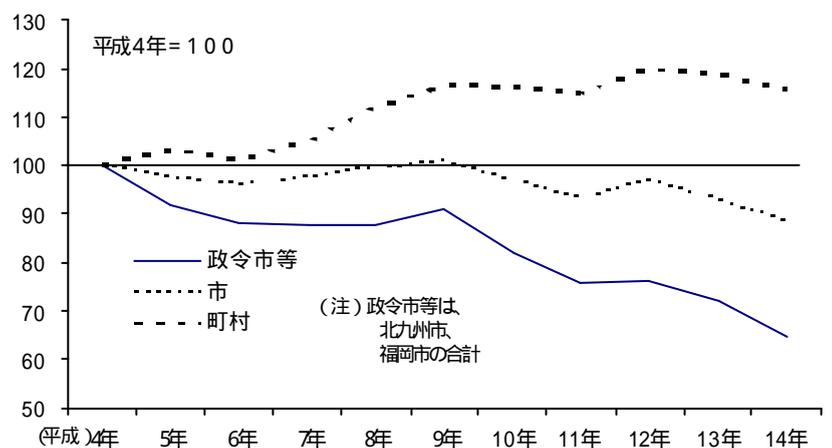
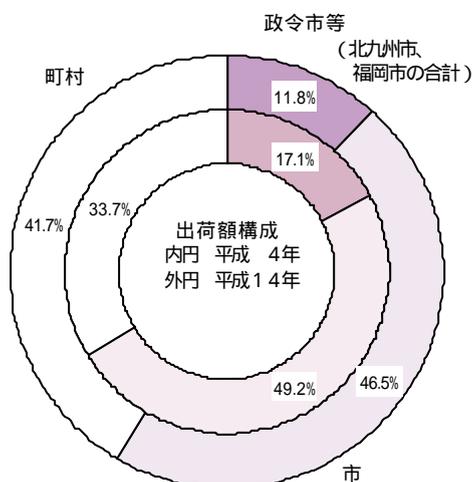
産業別にみると、平成4年に比較し政令市等では出荷額のシェアが大きい鉄鋼をはじめ、化学、一般などの減少が大きい。市では情報、化学、衣服などの減少が大きいものの、電子、石油、精密など4年の出荷額を上回る産業がみられる。4年の出荷額を唯一上回っている町村では、出荷額のシェアが大きい輸送をはじめ、電気、電子といった機械工業の増加が大きく寄与しており、11産業で4年の出荷額を上回っているが、衣服、窯業、金属など半数以上の13産業では4年出荷額を下回っている。

### 九州地域の出荷額及び構成比

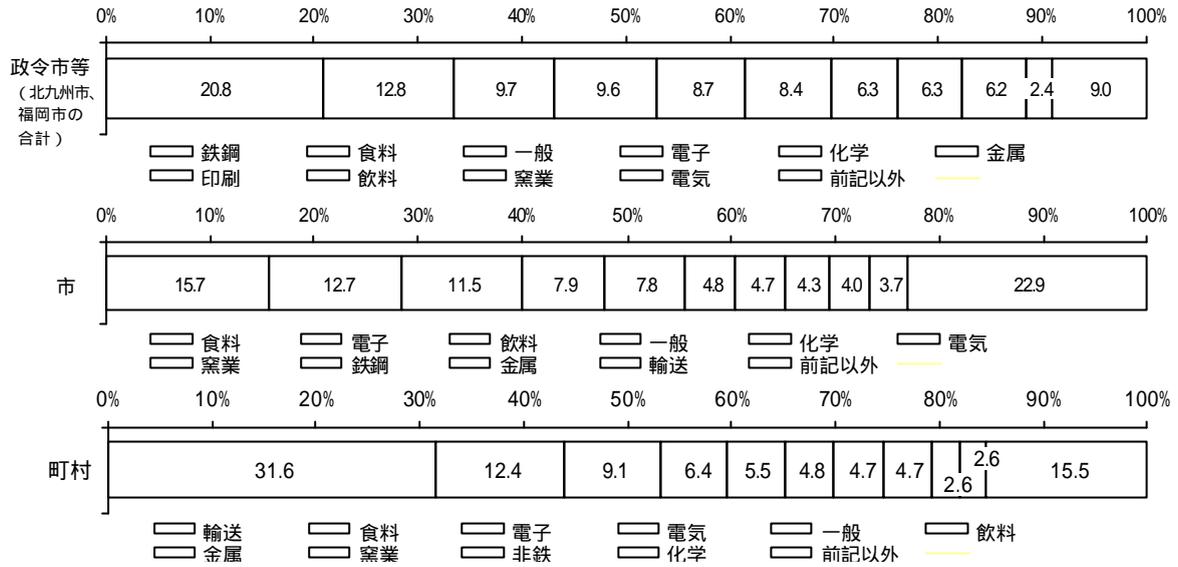
| 九州               | 出 荷 額 (億円) |             |        |        | 構 成 比 (%) |             |      |      |
|------------------|------------|-------------|--------|--------|-----------|-------------|------|------|
|                  | 計          | 政令市等<br>(注) | 市      | 町村     | 計         | 政令市等<br>(注) | 市    | 町村   |
| 4年               | 199,353    | 34,088      | 98,074 | 67,191 | 100.0     | 17.1        | 49.2 | 33.7 |
| 5年               | 196,267    | 31,308      | 95,498 | 69,460 | 100.0     | 16.0        | 48.7 | 35.4 |
| 6年               | 191,976    | 30,043      | 94,021 | 67,912 | 100.0     | 15.6        | 49.0 | 35.4 |
| 7年               | 196,200    | 29,984      | 95,605 | 70,611 | 100.0     | 15.3        | 48.7 | 36.0 |
| 8年               | 202,836    | 29,979      | 97,558 | 75,299 | 100.0     | 14.8        | 48.1 | 37.1 |
| 9年               | 208,170    | 31,084      | 98,892 | 78,194 | 100.0     | 14.9        | 47.5 | 37.6 |
| 10年              | 200,965    | 28,034      | 94,998 | 77,934 | 100.0     | 13.9        | 47.3 | 38.8 |
| 11年              | 194,215    | 25,779      | 91,318 | 77,119 | 100.0     | 13.3        | 47.0 | 39.7 |
| 12年              | 201,437    | 25,937      | 94,899 | 80,601 | 100.0     | 12.9        | 47.1 | 40.0 |
| 13年              | 195,322    | 24,582      | 90,976 | 79,764 | 100.0     | 12.6        | 46.6 | 40.8 |
| 14年              | 186,251    | 21,964      | 86,693 | 77,594 | 100.0     | 11.8        | 46.5 | 41.7 |
| 平成4年比<br>(構成比は差) | 6.6        | 35.6        | 11.6   | 15.5   | -         | 5.3         | 2.7  | 8.0  |

(注) 政令市等は、北九州市、福岡市の合計

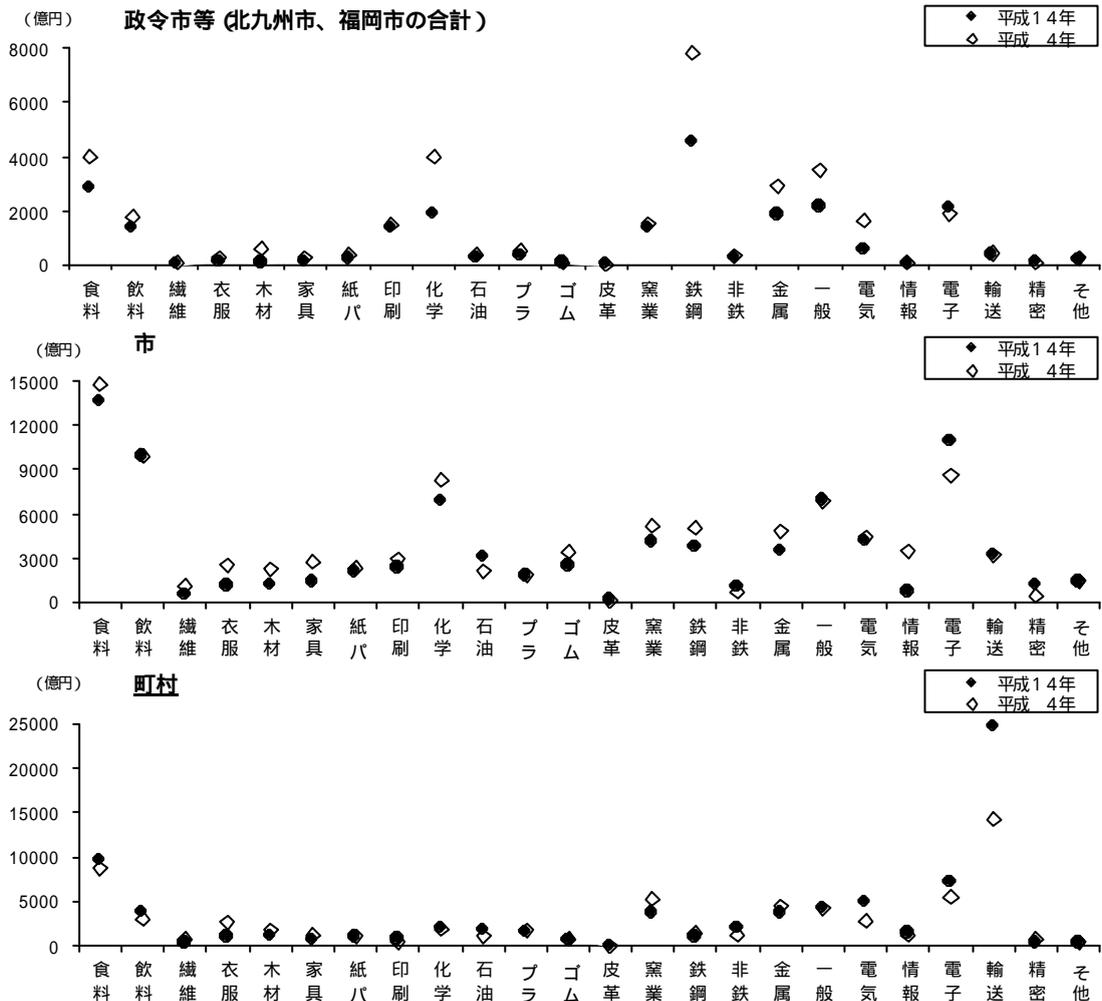
### 九州地域の政令市等、市、町村別出荷額構成比及び出荷額推移



### 九州地域の産業別出荷額の構成比（平成14年）



### 九州地域の産業別出荷額の変化

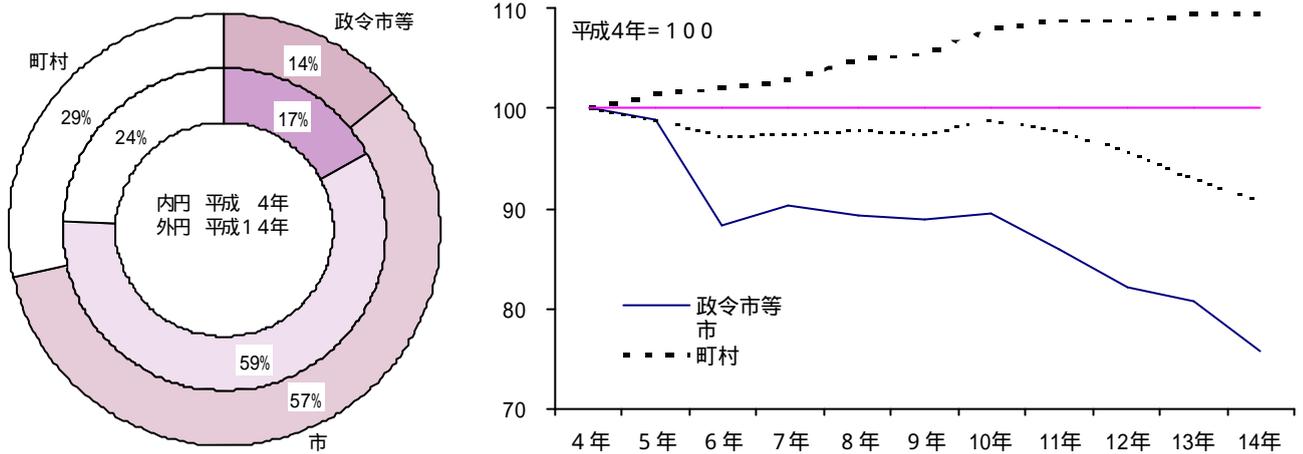


## 5. 産業中分類別にみた市区町村別の出荷額の動向

### (1) 食料品製造業

構成比をみると、政令市等は17% 14%、市は59% 57%と縮小、町村では24% 29%と拡大している。時系列でみると、町村がゆるやかな上昇傾向であるのに対し、政令市等では大きく低下している。

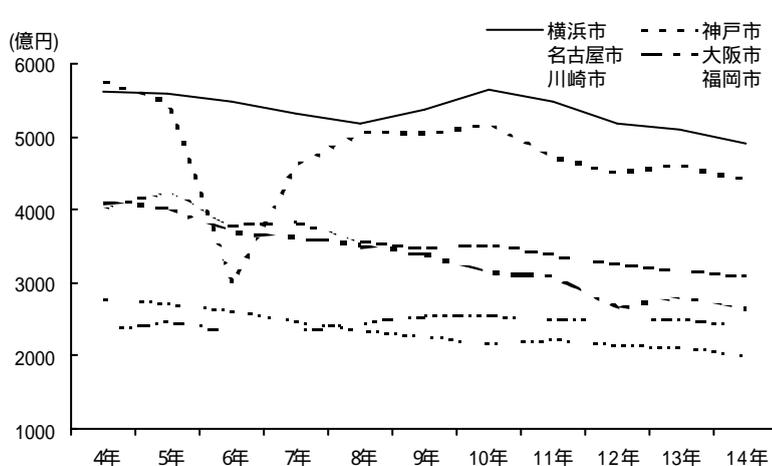
食料品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、横浜市、神戸市、名古屋市、大阪市、川崎市の順となっている。

上位のいずれの市も、製粉、製油、調味料、パンなどの基本食品が大きなウエイトを占めており、また、人口集積地域またはその近隣都市や水産加工のウエイトが大きな都市となっている。

食料品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況



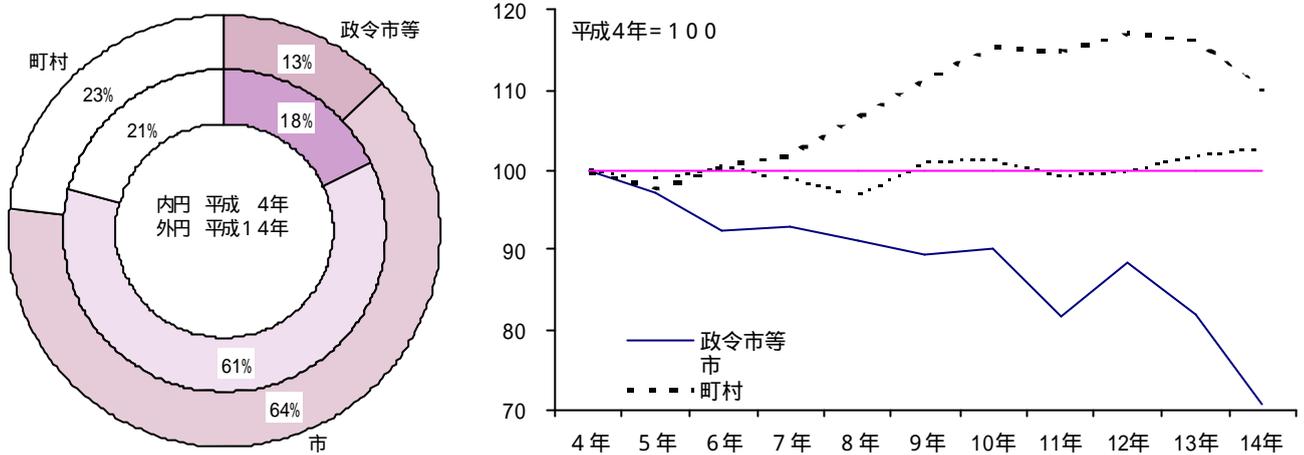
| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村        |
|-----------------|-------------|
| 1 ( 2 )         | 横浜市 (神奈川県)  |
| 2 ( 1 )         | 神戸市 (兵庫県)   |
| 3 ( 4 )         | 名古屋市 (愛知県)  |
| 4 ( 3 )         | 大阪市 (大阪府)   |
| 5 ( 9 )         | 川崎市 (神奈川県)  |
| 6 ( 8 )         | 千葉市 (千葉県)   |
| 7 ( 6 )         | 札幌市 (北海道)   |
| 8 ( 5 )         | 福岡市 (福岡県)   |
| 9 ( 10 )        | 広島市 (広島県)   |
| 10 ( 7 )        | 西宮市 (兵庫県)   |
| 11 ( 15 )       | 銚子市 (千葉県)   |
| 12 ( 13 )       | 清水市 (静岡県)   |
| 13 ( 14 )       | 船橋市 (千葉県)   |
| 14 ( 11 )       | 京都市 (京都府)   |
| 15 ( 50 )       | 神栖町 (茨城県)   |
| 16 ( 18 )       | 焼津市 (静岡県)   |
| 17 ( 19 )       | 泉佐野市 (大阪府)  |
| 18 ( 20 )       | 鹿児島市 (鹿児島県) |
| 19 ( 32 )       | 大和郡山市 (奈良県) |
| 20 ( 12 )       | 八戸市 (青森県)   |

注：平成6年の神戸市の減少は、阪神・淡路大震災の発生により調査票の回収が困難となったことによる。

(2) 飲料・飼料・たばこ製造業

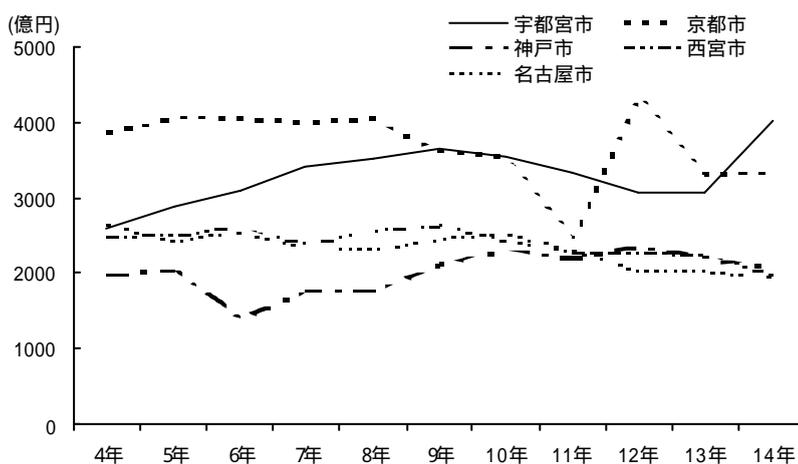
構成比をみると、政令市等は18% 13%と縮小、市は61% 64%、町村では21% 23%と拡大している。時系列でみると、市がほぼ横ばいで推移しているのに対し、町村は上昇傾向、政令市等では平成14年に大きく低下している。

飲料・たばこ・飼料製造業の  
政令市等、市、町村別出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、宇都宮市、京都市、磐田市、神戸市、西宮市の順となっている。宇都宮市、磐田市はたばこ、神戸市、西宮市ではビール、日本酒等の酒類のウエイトが高い。京都市はたばこと日本酒のウエイトが高い。

飲料・たばこ・飼料製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

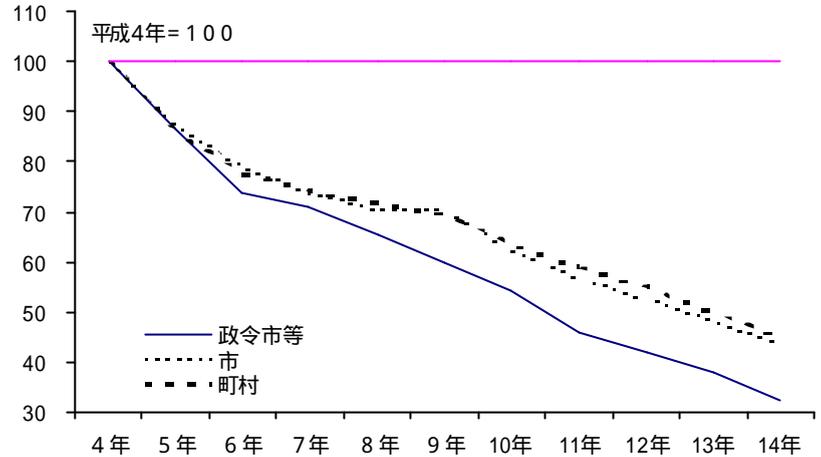
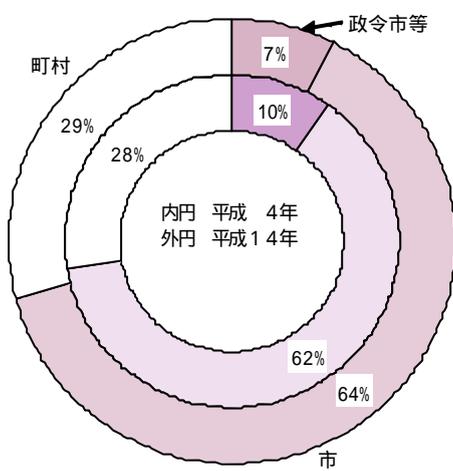


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村        |
|-----------------|-------------|
| 1 ( 3 )         | 宇都宮市 (栃木県)  |
| 2 ( 1 )         | 京都市 (京都府)   |
| 3 ( 14 )        | 磐田市 (静岡県)   |
| 4 ( 5 )         | 神戸市 (兵庫県)   |
| 5 ( 4 )         | 西宮市 (兵庫県)   |
| 6 ( 2 )         | 名古屋市 (愛知県)  |
| 7 ( 35 )        | 本宮町 (福島県)   |
| 8 ( 8 )         | 鹿児島市 (鹿児島県) |
| 9 ( 7 )         | 郡山市 (福島県)   |
| 10 ( 6 )        | 筑紫野市 (福岡県)  |
| 11 ( 43 )       | 守谷市 (茨城県)   |
| 12 ( 12 )       | 守山市 (滋賀県)   |
| 13 ( 53 )       | 金沢市 (石川県)   |
| 14 ( 18 )       | 盛岡市 (岩手県)   |
| 15 ( 17 )       | 横浜市 (神奈川県)  |
| 16 ( 15 )       | 甘木市 (福岡県)   |
| 17 ( 72 )       | 相良町 (静岡県)   |
| 18 ( 13 )       | 高松市 (香川県)   |
| 19 ( 25 )       | 吹田市 (大阪府)   |
| 20 ( 24 )       | 福岡市 (福岡県)   |

### (3) 繊維工業

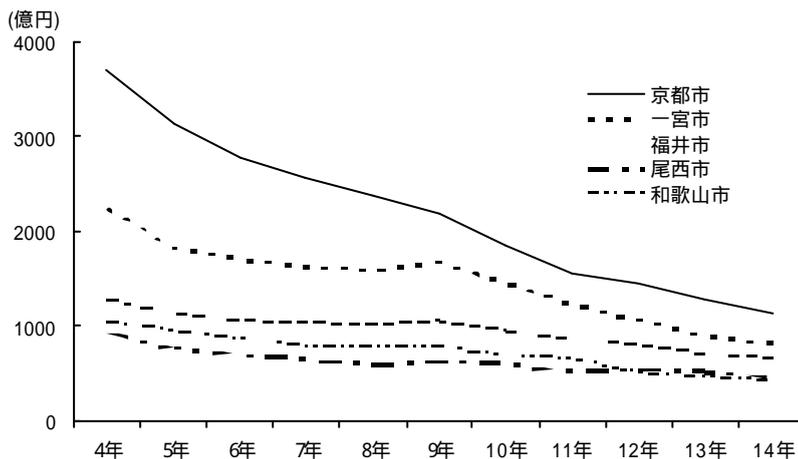
構成比をみると、政令市等は10% 7%と縮小、市は62% 64%、町村では28% 29%と若干拡大している。時系列でみると、他の産業ほど地域による格差はなく、全体的に低下傾向にある。

繊維工業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、京都市、一宮市、福井市、尾西市、和歌山市の順となっている。京都市は織物、染色、一宮市は毛織物、福井市は化学繊維の紡績等、尾西市は毛織物、紡績、和歌山市は染色整理等のウエイトが高い。

繊維工業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

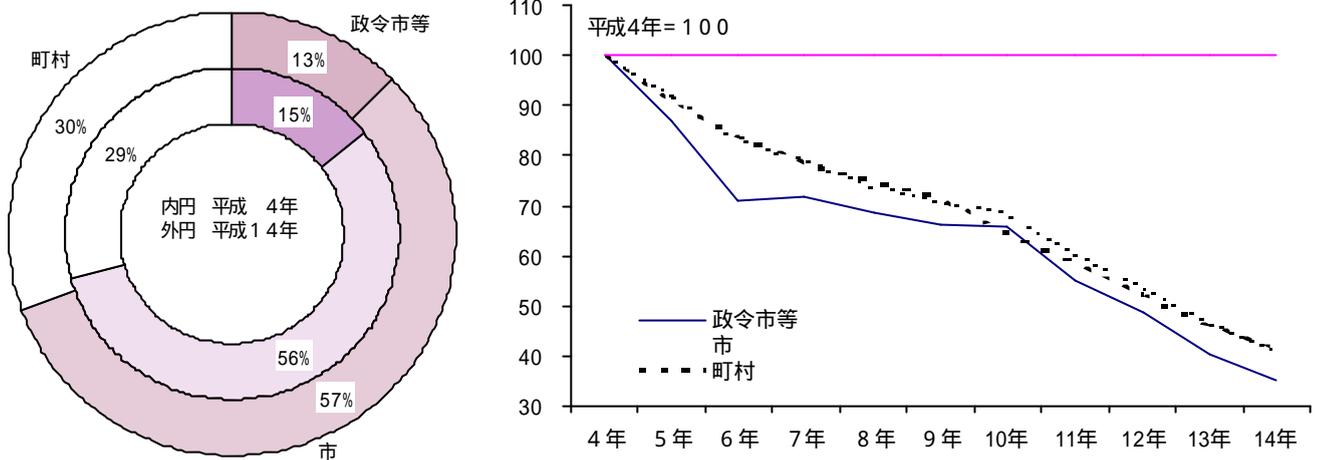


| 順位        | 市区町村        |
|-----------|-------------|
| 1 ( 1 )   | 京都市 (京都府)   |
| 2 ( 2 )   | 一宮市 (愛知県)   |
| 3 ( 3 )   | 福井市 (福井県)   |
| 4 ( 5 )   | 尾西市 (愛知県)   |
| 5 ( 4 )   | 和歌山市 (和歌山県) |
| 6 ( 7 )   | 岡崎市 (愛知県)   |
| 7 ( 9 )   | 浜松市 (静岡県)   |
| 8 ( 11 )  | 泉大津市 (大阪府)  |
| 9 ( 13 )  | 鯖江市 (福井県)   |
| 10 ( 21 ) | 根上町 (石川県)   |
| 11 ( 16 ) | 和泉市 (大阪府)   |
| 12 ( 20 ) | 小松市 (石川県)   |
| 13 ( 8 )  | 名古屋市 (愛知県)  |
| 14 ( 15 ) | 蒲郡市 (愛知県)   |
| 15 ( 12 ) | 羽島市 (岐阜県)   |
| 16 ( 31 ) | 倉敷市 (岡山県)   |
| 17 ( 17 ) | 堺市 (大阪府)    |
| 18 ( 24 ) | 桐生市 (群馬県)   |
| 19 ( 6 )  | 大垣市 (岐阜県)   |
| 20 ( 30 ) | 忠岡町 (大阪府)   |

(4) 衣服・その他の繊維製品製造業

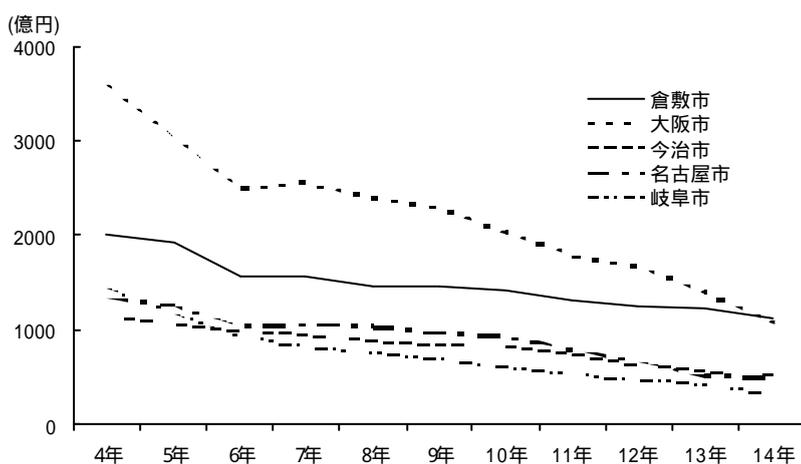
構成比をみると、政令市等は15% 13%と縮小、市は56% 57%、町村は29% 30%と若干拡大している。時系列でみると、他の産業ほど地域による格差はなく、繊維工業と同様に全体的に低下傾向にある。

衣服・その他の繊維製品製造業の  
政令市等、市、町村別の出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、倉敷市、大阪市、今治市、名古屋市、岐阜市の順となっている。倉敷市は学生服、事務用服、作業用服等、大阪市は婦人服、下着類を始め各種衣類、今治市はタオル、岐阜市は紳士服、女性用の服等のウエイトが高い。

衣服・その他の繊維製品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

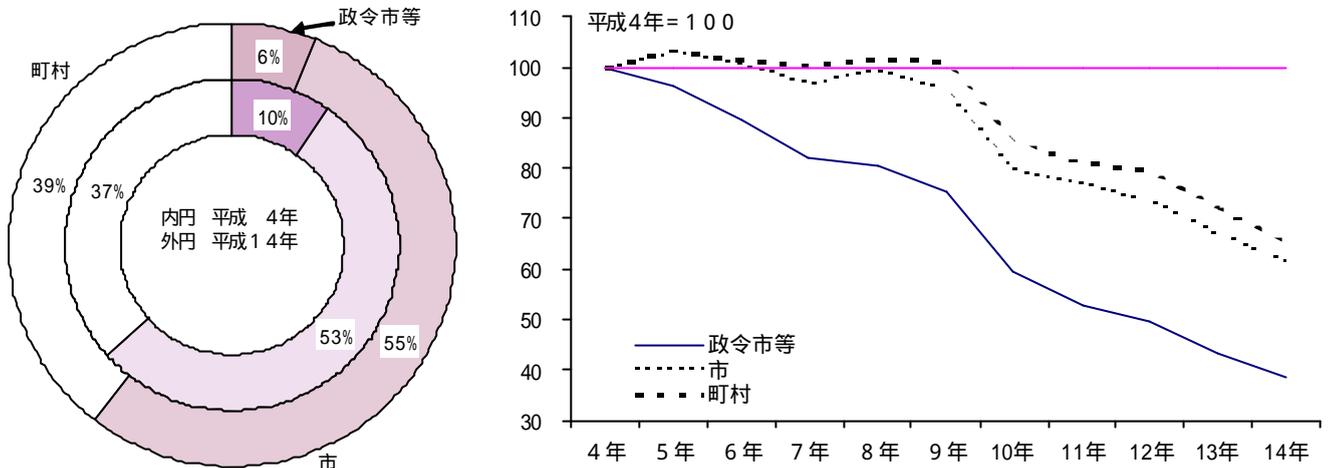


| 順位      | 市区町村        |
|---------|-------------|
| 1 ( 2)  | 倉敷市 (岡山県)   |
| 2 ( 1)  | 大阪市 (大阪府)   |
| 3 ( 5)  | 今治市 (愛媛県)   |
| 4 ( 4)  | 名古屋市 (愛知県)  |
| 5 ( 3)  | 岐阜市 (岐阜県)   |
| 6 ( 7)  | 京都市 (京都府)   |
| 7 ( 6)  | 福山市 (広島県)   |
| 8 ( 9)  | 五泉市 (新潟県)   |
| 9 (11)  | 浜松市 (静岡県)   |
| 10 (36) | 福井市 (福井県)   |
| 11 (10) | 岡山市 (岡山県)   |
| 12 (13) | 泉大津市 (大阪府)  |
| 13 (19) | 府中市 (広島県)   |
| 14 (27) | 武生市 (福井県)   |
| 15 ( 8) | 墨田区 (東京都)   |
| 16 (18) | 大和高田市 (奈良県) |
| 17 (21) | 桐生市 (群馬県)   |
| 18 (17) | 横浜市 (神奈川県)  |
| 19 (86) | 白鳥町 (香川県)   |
| 20 (24) | 井原市 (岡山県)   |

(5) 木材・木製品製造業

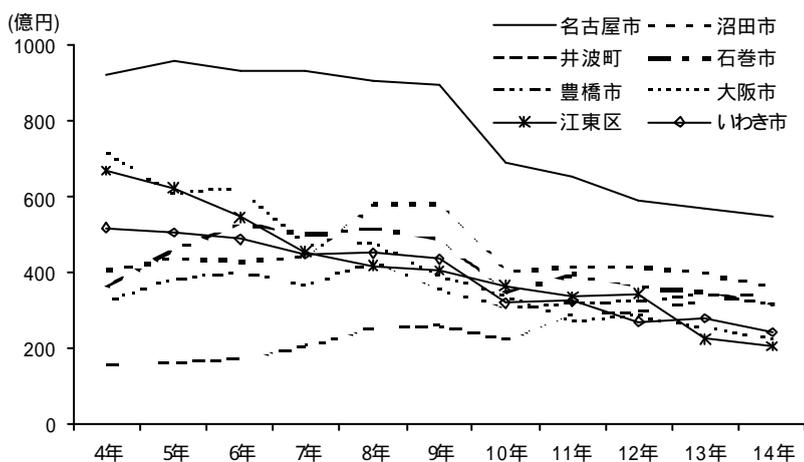
構成比をみると、政令市等は10% 6%と縮小、市は53% 55%、町村は37% 39%と若干拡大している。時系列でみると、市町村は平成9年までほぼ横ばいで推移していたものの、10年以降は政令市等と同様低下傾向にある。

木材・木製品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、名古屋市、呉市、沼田市、井波町、石巻市の順となっている。名古屋市は床板、造作材・合板・建築用組立材料等、沼田市は床板、一般製材等、井波町は造作材・合板・建築用組立材料等、石巻市は合板のウエイトが高い。

木材・木製品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

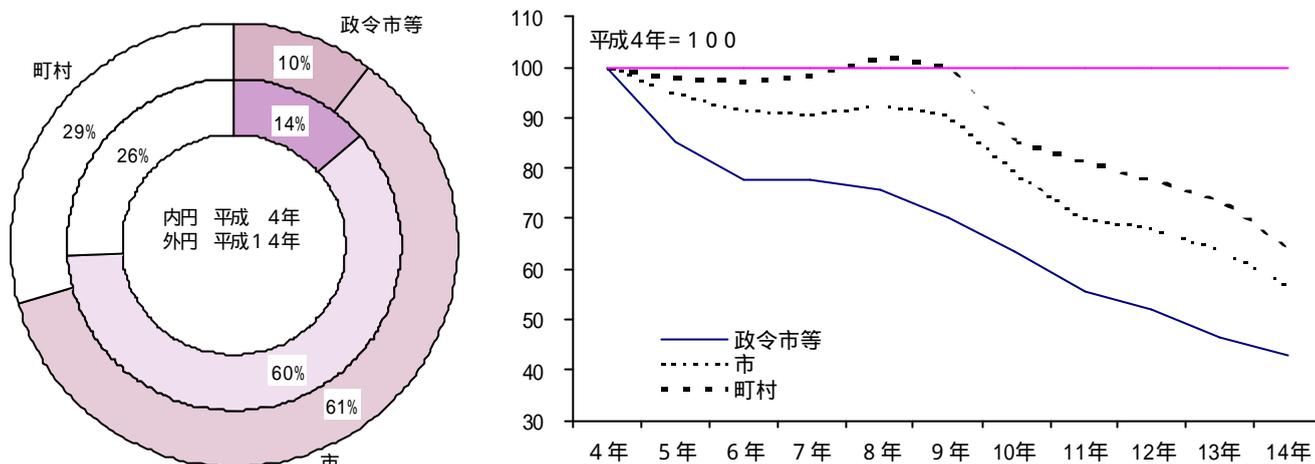


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村       |
|-----------------|------------|
| 1 ( 1 )         | 名古屋市 (愛知県) |
| 2 ( 199 )       | 呉市 (広島県)   |
| 3 ( 6 )         | 沼田市 (群馬県)  |
| 4 ( 47 )        | 井波町 (富山県)  |
| 5 ( 10 )        | 石巻市 (宮城県)  |
| 6 ( 18 )        | 豊橋市 (愛知県)  |
| 7 ( 9 )         | 清水市 (静岡県)  |
| 8 ( 8 )         | 廿日市市 (広島県) |
| 9 ( 7 )         | 秋田市 (秋田県)  |
| 10 ( 4 )        | いわき市 (福島県) |
| 11 ( 20 )       | 丸亀市 (香川県)  |
| 12 ( 2 )        | 大阪市 (大阪府)  |
| 13 ( 12 )       | 忠岡町 (大阪府)  |
| 14 ( 21 )       | 富士川町 (静岡県) |
| 15 ( 14 )       | 福山市 (広島県)  |
| 16 ( 3 )        | 江東区 (東京都)  |
| 17 ( 25 )       | 平生町 (山口県)  |
| 18 ( 24 )       | 美原町 (大阪府)  |
| 19 ( 39 )       | 新湊市 (富山県)  |
| 20 ( 17 )       | 徳島市 (徳島県)  |

(6) 家具・装備品製造業

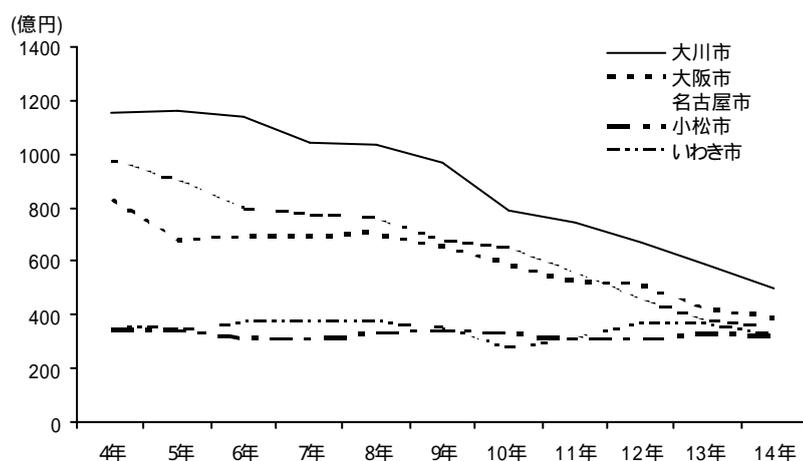
構成比をみると、政令市等は14% 10%と縮小、市は60% 61%と若干拡大、町村は26% 29%と拡大している。時系列でみると、市町村は平成9年までほぼ横ばいで推移していたものの、10年以降は低下に転じている。

家具・装備品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、大川市、大阪市、名古屋市、小松市、いわき市の順となっている。大川市、名古屋市は木製家具、建具、大阪市は金属製・木製家具、小松市は事務用・店舗用装備品、いわき市は木製机・テーブル・流し台等等のウエイトが高い。

家具・装備品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

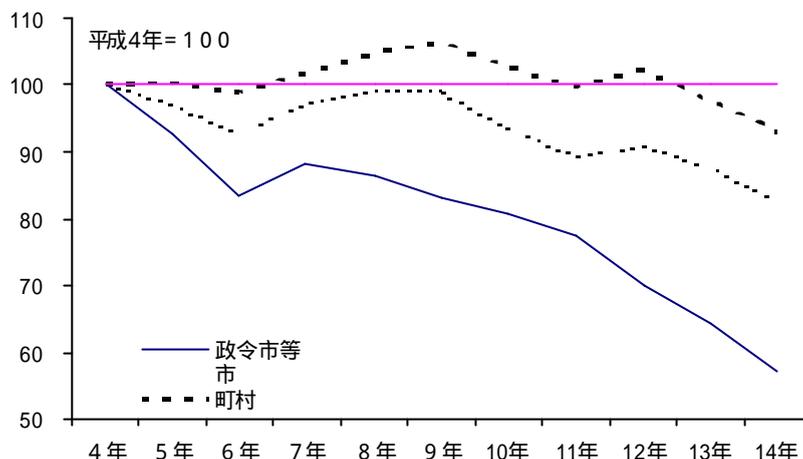
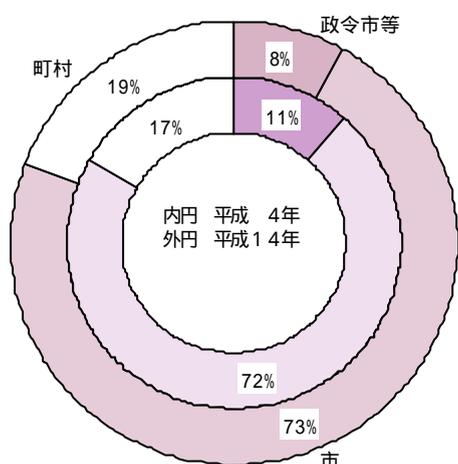


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村        |
|-----------------|-------------|
| 1 ( 1 )         | 大川市 (福岡県)   |
| 2 ( 3 )         | 大阪市 (大阪府)   |
| 3 ( 2 )         | 名古屋市 (愛知県)  |
| 4 ( 14 )        | 小松市 (石川県)   |
| 5 ( 13 )        | いわき市 (福島県)  |
| 6 ( 151 )       | 守口市 (大阪府)   |
| 7 ( 5 )         | 東大阪市 (大阪府)  |
| 8 ( 42 )        | 常滑市 (愛知県)   |
| 9 ( 28 )        | 深谷市 (埼玉県)   |
| 10 ( 233 )      | 成東町 (千葉県)   |
| 11 ( 17 )       | 前橋市 (群馬県)   |
| 12 ( 21 )       | 水海道市 (茨城県)  |
| 13 ( 10 )       | 札幌市 (北海道)   |
| 14 ( 27 )       | 愛川町 (神奈川県)  |
| 15 ( 63 )       | 立川市 (東京都)   |
| 16 ( 6 )        | 静岡市 (静岡県)   |
| 17 ( 22 )       | 和歌山市 (和歌山県) |
| 18 ( 12 )       | 鹿沼市 (栃木県)   |
| 19 ( 16 )       | 浜松市 (静岡県)   |
| 20 ( 8 )        | 徳島市 (徳島県)   |

(7) パルプ・紙・紙加工品製造業

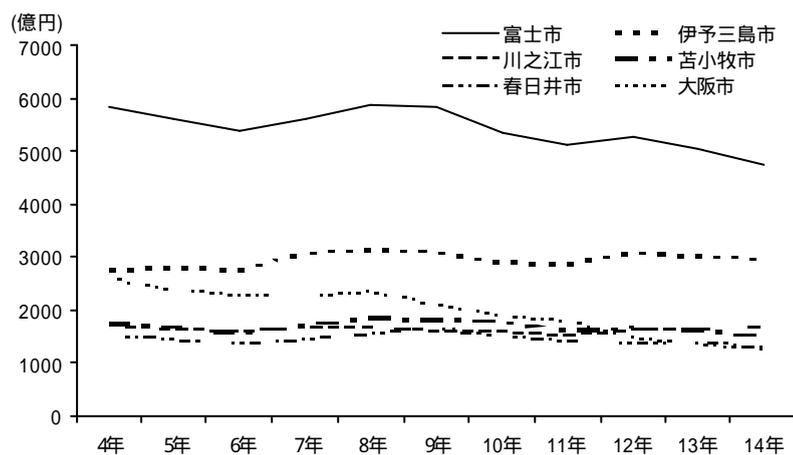
構成比をみると、政令市等は11% 8%と縮小、市は72% 73%、町村は17% 19%と若干拡大している。時系列でみると、政令市等は一貫して低下傾向にあり、市町村はゆるやかな低下傾向にある。

パルプ・紙・紙加工品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、富士市、伊予三島市、川之江市、苫小牧市、春日井市の順となっている。上位市区町村は、大規模製紙工場の立地している市区町村で、パルプから各種紙製品を製造しているメーカーを有する市区町村となっている。

パルプ・紙・紙加工品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

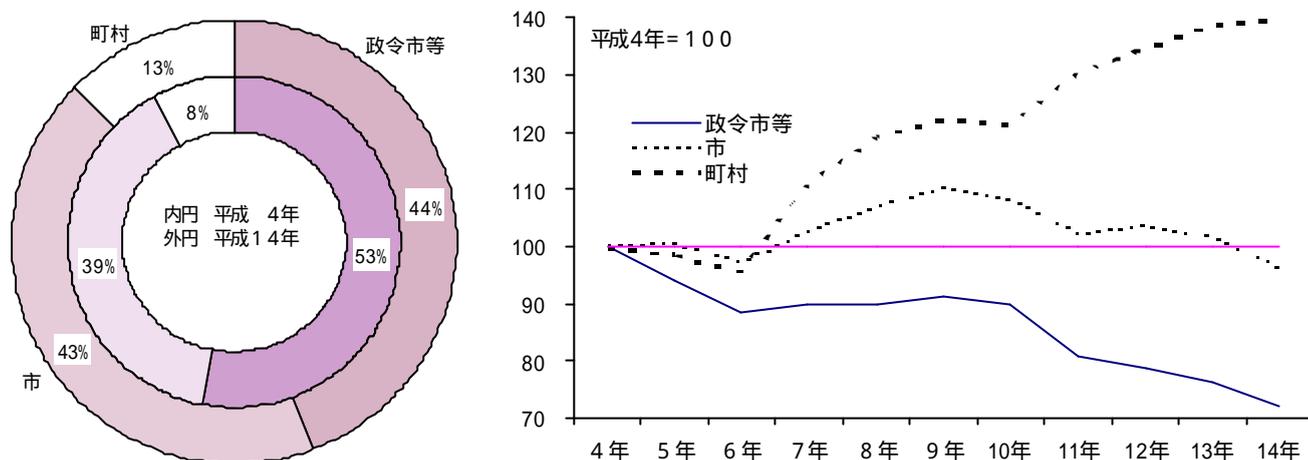


| 順位        | 市区町村        |
|-----------|-------------|
| 1 ( 1 )   | 富士市 (静岡県)   |
| 2 ( 2 )   | 伊予三島市 (愛媛県) |
| 3 ( 5 )   | 川之江市 (愛媛県)  |
| 4 ( 4 )   | 苫小牧市 (北海道)  |
| 5 ( 6 )   | 春日井市 (愛知県)  |
| 6 ( 3 )   | 大阪市 (大阪府)   |
| 7 ( 16 )  | 新潟市 (新潟県)   |
| 8 ( 7 )   | 釧路市 (北海道)   |
| 9 ( 15 )  | 八戸市 (青森県)   |
| 10 ( 11 ) | 高岡市 (富山県)   |
| 11 ( 10 ) | 横浜市 (神奈川県)  |
| 12 ( 14 ) | 石巻市 (宮城県)   |
| 13 ( 22 ) | 阿南市 (徳島県)   |
| 14 ( 18 ) | 岩沼市 (宮城県)   |
| 15 ( 8 )  | 尼崎市 (兵庫県)   |
| 16 ( 17 ) | 富士宮市 (静岡県)  |
| 17 ( 25 ) | 岩国市 (山口県)   |
| 18 ( 19 ) | 島田市 (静岡県)   |
| 19 ( 40 ) | 市貝町 (栃木県)   |
| 20 ( 20 ) | 東大阪市 (大阪府)  |

(8) 印刷・同関連業

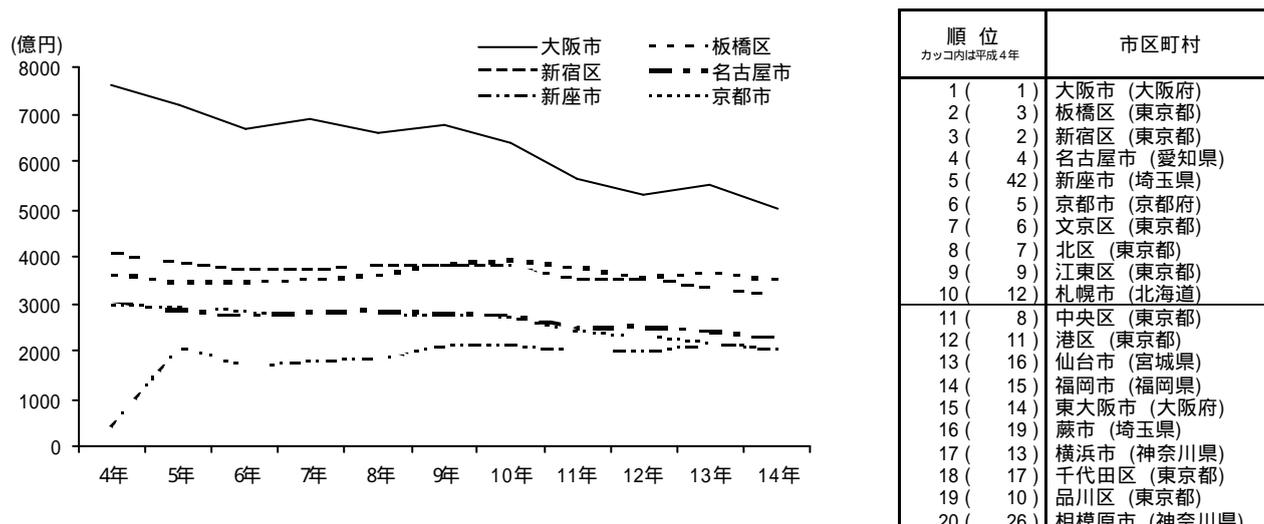
構成比をみると、政令市等は53% 44%と縮小、市は39% 43%、町村は8% 13%と拡大している。印刷・同関連業は、ほぼ半分を政令市等が占めることが特徴。時系列でみると政令市等、市では平成12年以降低下傾向にあるものの、町村では上昇傾向にある。

印刷・同関連業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、大阪市、板橋区、新宿区、名古屋市、新座市、京都市の順となっている。3大都市圏の市区町村等、企業数の多い都市が上位を占めている。

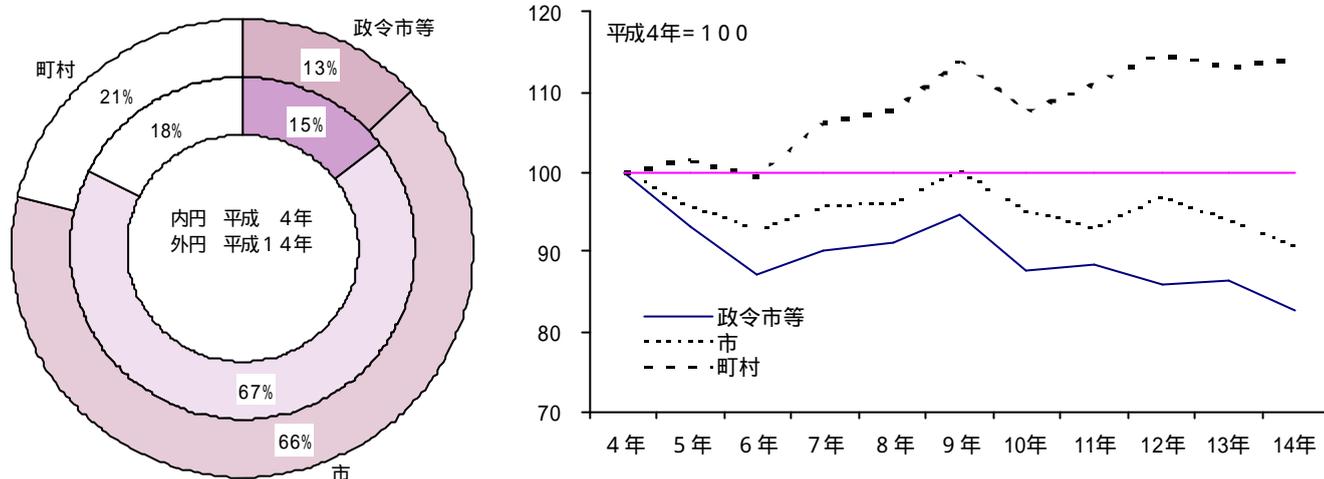
印刷・同関連業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況



## (9) 化学工業

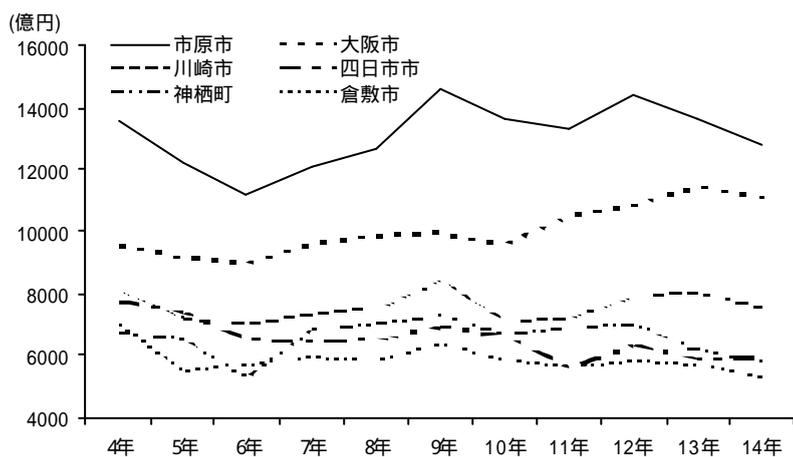
構成比をみると、政令市等は15% 13%、市は67% 66%と縮小、町村は18% 21%と拡大している。時系列でみると政令市等、市では平成4年水準をほとんど上回ることなく推移しているものの、町村では上昇傾向で推移している。

化学工業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、市原市、大阪市、川崎市、四日市市、神栖町の順となっている。市原市、川崎市、四日市市、神栖町は大規模石油化学コンビナートによるエチレン、プラスチック等の割合が高く、大阪市は医薬品の割合が高い。

化学工業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

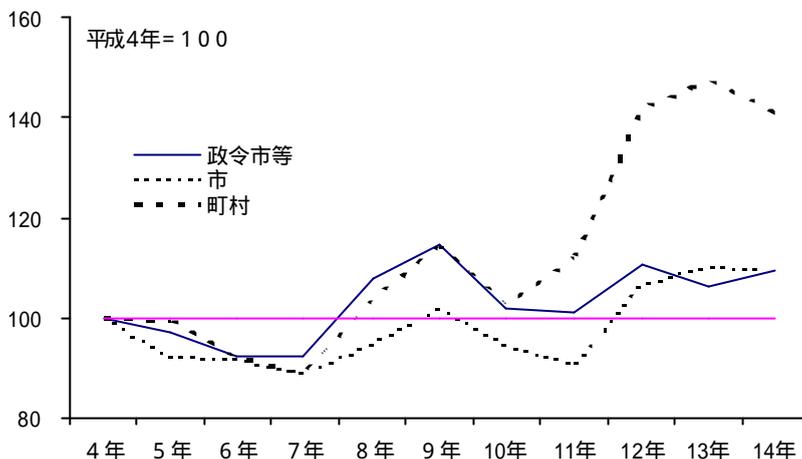
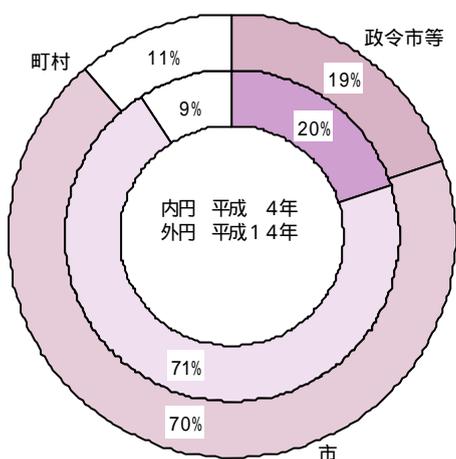


| 順位        | 市区町村        |
|-----------|-------------|
| 1 ( 1 )   | 市原市 (千葉県)   |
| 2 ( 2 )   | 大阪市 (大阪府)   |
| 3 ( 3 )   | 川崎市 (神奈川県)  |
| 4 ( 4 )   | 四日市市 (三重県)  |
| 5 ( 5 )   | 神栖町 (茨城県)   |
| 6 ( 5 )   | 倉敷市 (岡山県)   |
| 7 ( 8 )   | 徳山市 (山口県)   |
| 8 ( 14 )  | 平塚市 (神奈川県)  |
| 9 ( 16 )  | 和歌山市 (和歌山県) |
| 10 ( 13 ) | 袖ヶ浦市 (千葉県)  |
| 11 ( 12 ) | 大分市 (大分県)   |
| 12 ( 11 ) | 高石市 (大阪府)   |
| 13 ( 10 ) | 南足柄市 (神奈川県) |
| 14 ( 19 ) | 富士宮市 (静岡県)  |
| 15 ( 23 ) | 新南陽市 (山口県)  |
| 16 ( 27 ) | いわき市 (福島県)  |
| 17 ( 7 )  | 小田原市 (神奈川県) |
| 18 ( 20 ) | さいたま市 (埼玉県) |
| 19 ( 44 ) | 徳島市 (徳島県)   |
| 20 ( 25 ) | 富士市 (静岡県)   |

(10) 石油製品・石炭製品製造業

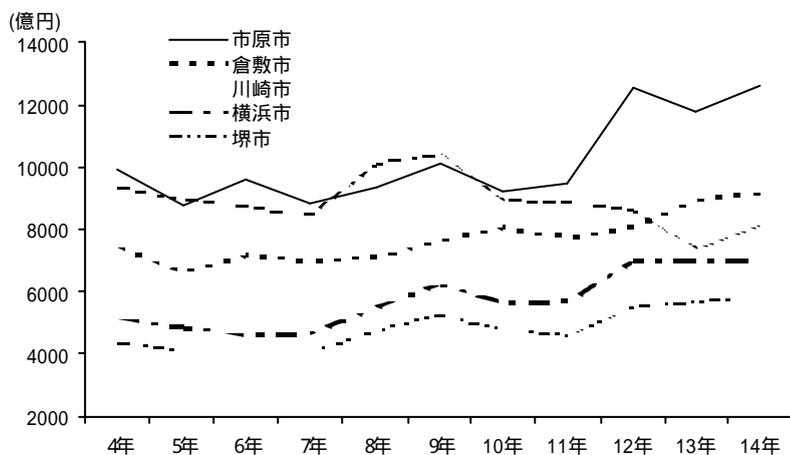
構成比をみると、政令市等は20% 19%、市は71% 70%と若干縮小、町村は9% 11%と拡大している。時系列でみると、町村が平成11～13年に大幅に上昇、ウエイトの大きい市は平成12年以降、平成4年水準を上回って推移している。

石油製品・石炭製品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、市原市、倉敷市、川崎市、横浜市、堺市の順となっている。上位5市とも化学工業と同様に石油化学コンビナートを形成している都市で、重油、ガソリン、軽油、灯油等のウエイトが高く、平成12年～13年の増加は原油価格の上昇の影響が大きい。

石油製品・石炭製品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

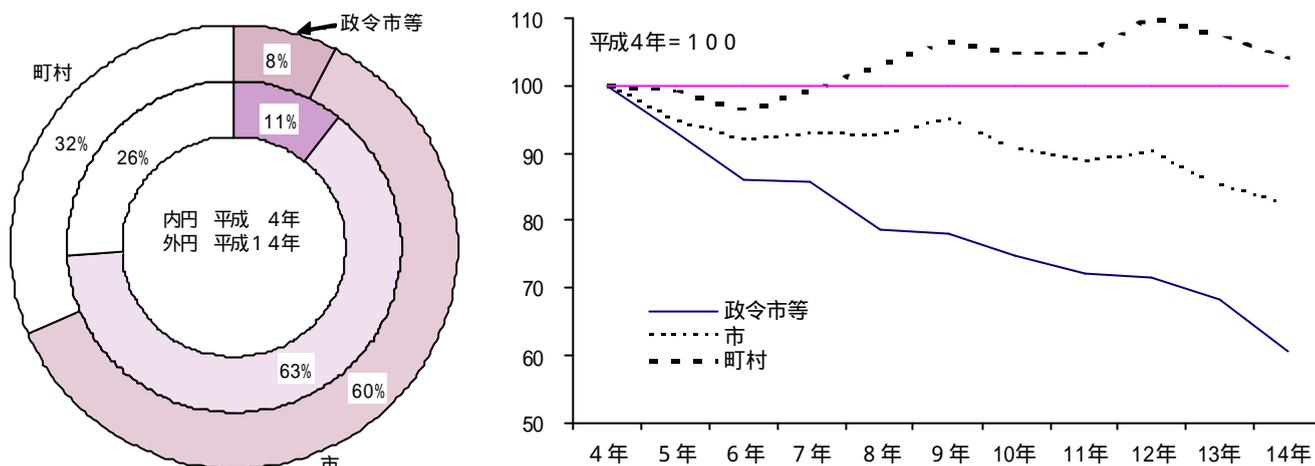


| 順位        | 市区町村       |
|-----------|------------|
| 1 ( 1 )   | 市原市 (千葉県)  |
| 2 ( 3 )   | 倉敷市 (岡山県)  |
| 3 ( 2 )   | 川崎市 (神奈川県) |
| 4 ( 4 )   | 横浜市 (神奈川県) |
| 5 ( 6 )   | 堺市 (大阪府)   |
| 6 ( 7 )   | 有田市 (和歌山県) |
| 7 ( 9 )   | 四日市市 (三重県) |
| 8 ( 5 )   | 知多市 (愛知県)  |
| 9 ( 13 )  | 神栖町 (茨城県)  |
| 10 ( 8 )  | 徳山市 (山口県)  |
| 11 ( 11 ) | 坂出市 (香川県)  |
| 12 ( 16 ) | 大分市 (大分県)  |
| 13 ( 21 ) | 仙台市 (宮城県)  |
| 14 ( 15 ) | 室蘭市 (北海道)  |
| 15 ( 14 ) | 袖ヶ浦市 (千葉県) |
| 16 ( 10 ) | 姫路市 (兵庫県)  |
| 17 ( 17 ) | 苫小牧市 (北海道) |
| 18 ( 12 ) | 小野田市 (山口県) |
| 19 ( 20 ) | 菊間町 (愛媛県)  |
| 20 ( 18 ) | 和木町 (山口県)  |

(11) プラスチック製品製造業

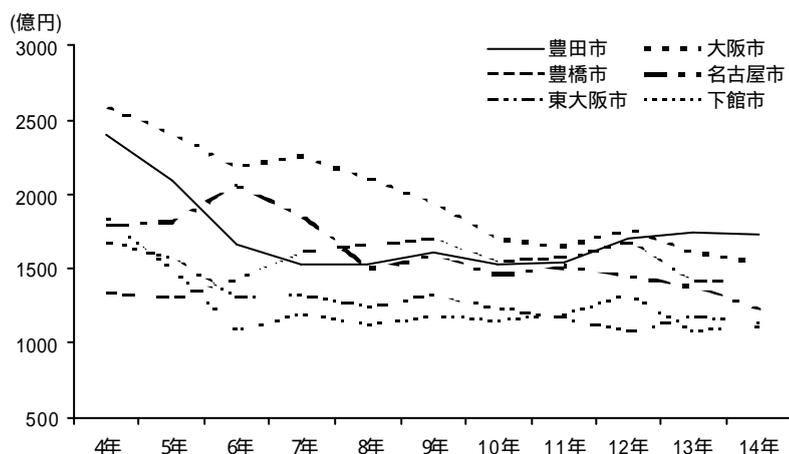
構成比をみると、政令市等は11% 8%、市は63% 60%と縮小、町村は26% 32%と拡大している。時系列でみると、町村は平成8年以降、4年水準を上回って推移しているものの、政令市等、市においては低下傾向で推移している。

プラスチック製品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、豊田市、大阪市、豊橋市、名古屋市、東大阪市の順となっている。豊田市は工業用(自動車用)プラスチック製品、大阪市は工業用プラスチック製品やプラスチックシートの割合が高い。

プラスチック製品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

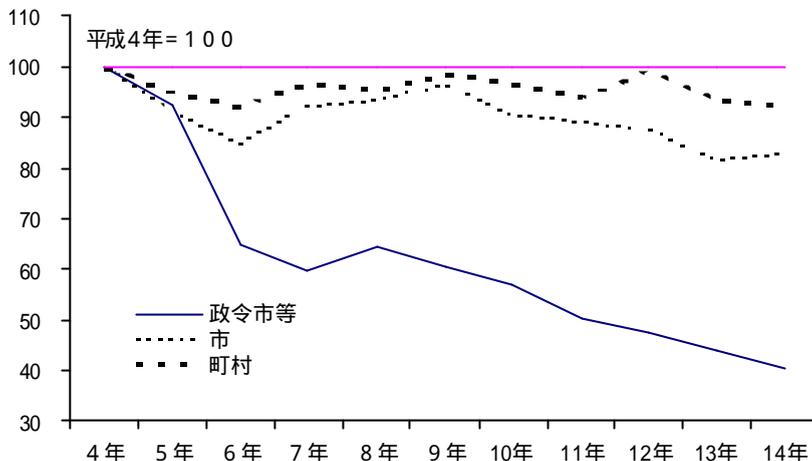
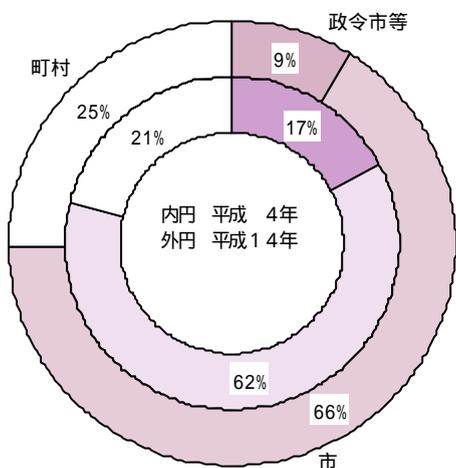


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村       |
|-----------------|------------|
| 1 ( 2)          | 豊田市 (愛知県)  |
| 2 ( 1)          | 大阪市 (大阪府)  |
| 3 ( 7)          | 豊橋市 (愛知県)  |
| 4 ( 4)          | 名古屋市 (愛知県) |
| 5 ( 6)          | 東大阪市 (大阪府) |
| 6 ( 3)          | 下館市 (茨城県)  |
| 7 (19)          | 犬山市 (愛知県)  |
| 8 ( 8)          | 足利市 (栃木県)  |
| 9 (11)          | 安城市 (愛知県)  |
| 10 ( 9)         | 横浜市 (神奈川県) |
| 11 (320)        | 尾道市 (広島県)  |
| 12 (10)         | 稲沢市 (愛知県)  |
| 13 (26)         | 平塚市 (神奈川県) |
| 14 (139)        | 阿見町 (茨城県)  |
| 15 (17)         | 小牧市 (愛知県)  |
| 16 (14)         | 八尾市 (大阪府)  |
| 17 ( 5)         | 鈴鹿市 (三重県)  |
| 18 (13)         | 粟東市 (滋賀県)  |
| 19 (18)         | 総和町 (茨城県)  |
| 20 (43)         | 郡山市 (福島県)  |

(12) ゴム製品製造業

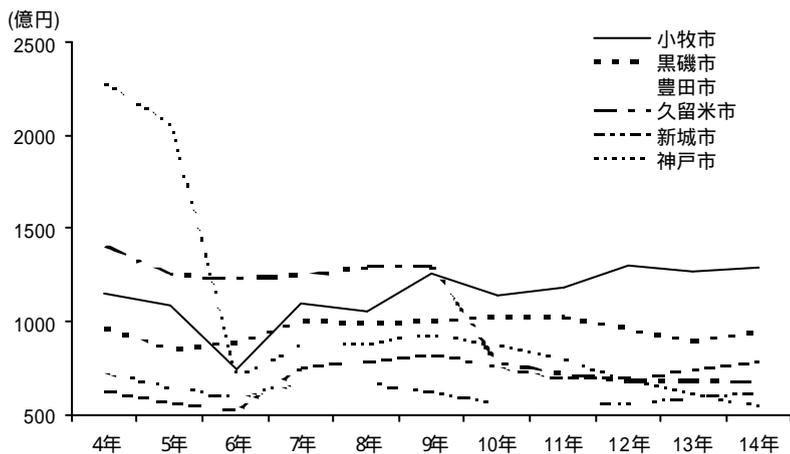
構成比をみると、政令市等は17% 9%と縮小、市は62% 66%、町村は21% 25%と拡大している。時系列でみると、市町村は緩やかな低下傾向、政令市等は神戸市の減少により低下している。

ゴム製品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、小牧市、黒磯市、豊田市、白河市、彦根市、久留米市の順となっている。小牧市は工業用ゴム製品、黒磯市、豊田市は自動車用タイヤ、工業用ゴム製品、久留米市は自動車用タイヤ、靴、工業用ゴム製品、新城市は自動車用タイヤ、神戸市は靴、工業用ゴム製品の割合が高い。

ゴム製品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況



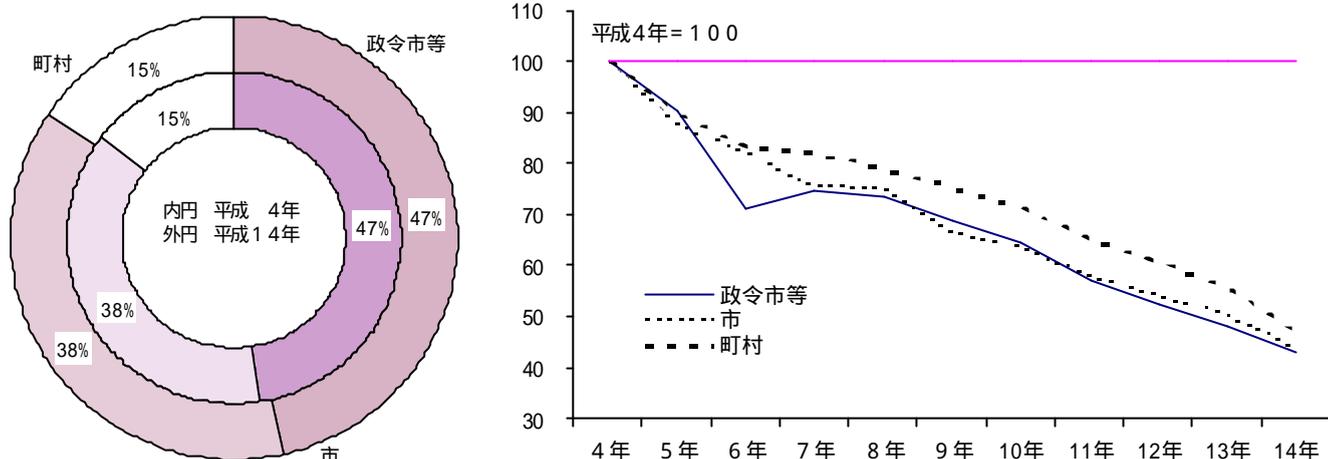
| 順位        | 市区町村        |
|-----------|-------------|
| 1 ( 3 )   | 小牧市 (愛知県)   |
| 2 ( 4 )   | 黒磯市 (栃木県)   |
| 3 ( 12 )  | 豊田市 (愛知県)   |
| 4 ( 9 )   | 白河市 (福島県)   |
| 5 ( 8 )   | 彦根市 (滋賀県)   |
| 6 ( 2 )   | 久留米市 (福岡県)  |
| 7 ( 13 )  | 甘木市 (福岡県)   |
| 8 ( 10 )  | 小平市 (東京都)   |
| 9 ( 7 )   | 新城市 (愛知県)   |
| 10 ( 11 ) | 御園村 (三重県)   |
| 11 ( 6 )  | 横浜市 (神奈川県)  |
| 12 ( 1 )  | 神戸市 (兵庫県)   |
| 13 ( 19 ) | 大和郡山市 (奈良県) |
| 14 ( 18 ) | 森町 (静岡県)    |
| 15 ( 24 ) | 防府市 (山口県)   |
| 16 ( 14 ) | 鳥栖市 (佐賀県)   |
| 17 ( 27 ) | 下関市 (山口県)   |
| 18 ( 20 ) | 三島市 (静岡県)   |
| 19 ( 5 )  | 大阪市 (大阪府)   |
| 20 ( 26 ) | 都城市 (宮崎県)   |

注：平成6年の神戸市の減少は、阪神・淡路大震災の発生により調査票の回収が困難となったことによる。

(13) なめし革・同製品・毛皮製造業

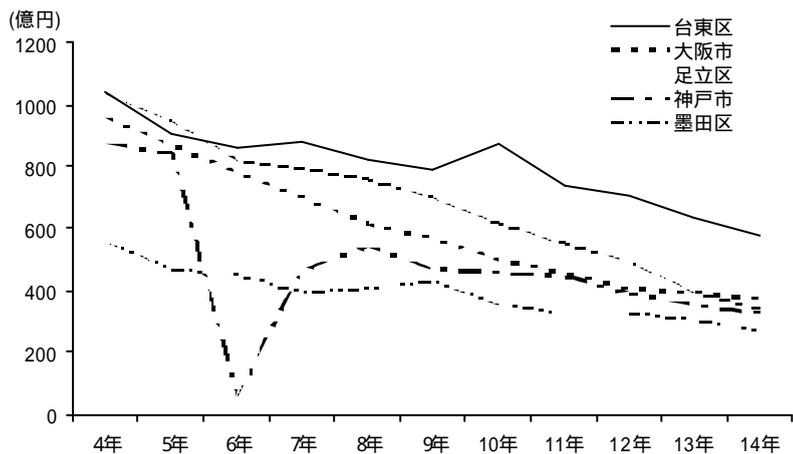
構成比をみると、政令市等は47% 47%、市は38% 38%、町村は15% 15%と変化はみられない。印刷・同関連業と同様、政令市等がほぼ半分を占めている。時系列でみると、政令市等、市町村とほぼ同様に低下している。

なめし革・同製品・毛皮製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、台東区、大阪市、足立区、神戸市、墨田区の順となっている。台東区は革靴、袋物、大阪市、足立区は革靴、かばん、袋物、神戸市は革靴、墨田区は靴、袋物、製革のウエイトが高い。

なめし革・同製品・毛皮製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況



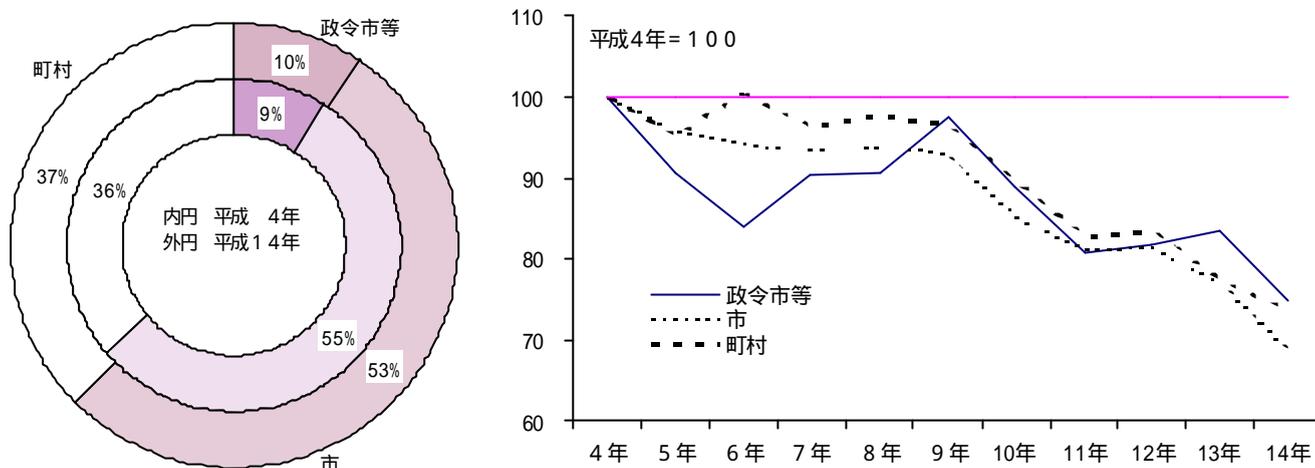
注：平成6年の神戸市の減少は、阪神・淡路大震災の発生により調査票の回収が困難となったことによる。

| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村        |
|-----------------|-------------|
| 1 ( 1)          | 台東区 (東京都)   |
| 2 ( 3)          | 大阪市 (大阪府)   |
| 3 ( 2)          | 足立区 (東京都)   |
| 4 ( 4)          | 神戸市 (兵庫県)   |
| 5 ( 5)          | 墨田区 (東京都)   |
| 6 ( 7)          | 姫路市 (兵庫県)   |
| 7 ( 8)          | 葛飾区 (東京都)   |
| 8 ( 6)          | 龍野市 (兵庫県)   |
| 9 (12)          | 荒川区 (東京都)   |
| 10 (23)         | 山形市 (山形県)   |
| 11 (17)         | 飯田市 (長野県)   |
| 12 (14)         | 京都市 (京都府)   |
| 13 (30)         | 川口市 (埼玉県)   |
| 14 (11)         | 豊岡市 (兵庫県)   |
| 15 (13)         | 東大阪市 (大阪府)  |
| 16 (10)         | 名古屋市 (愛知県)  |
| 17 (19)         | 大和郡山市 (奈良県) |
| 18 (149)        | 豊田市 (愛知県)   |
| 19 (22)         | 赤平市 (北海道)   |
| 20 (32)         | 調布市 (東京都)   |

(14) 窯業・土石製品製造業

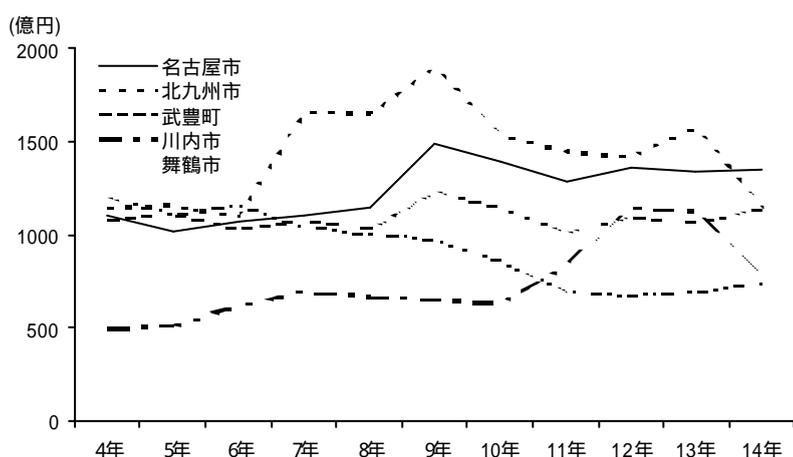
構成比をみると、市は55% 53%と縮小し、政令市等は9% 10%、町村は36% 37%と若干拡大している。時系列でみると、平成10年以降、政令市等、市、町村とも低下傾向にある。

窯業・土石製品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、名古屋市、北九州市、武豊町、高月町、川内市、舞鶴市の順となっている。名古屋市はコンクリート製品、生コン、工業用陶磁器等、北九州市はれんが、衛生用陶磁器、セメント・同製品、武豊町は板ガラス、生コン、仙台市はファインセラミック製IC基盤、パッケージ、砕石等、舞鶴市は板ガラス、生コンのウエイトが高い。

窯業・土石製品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

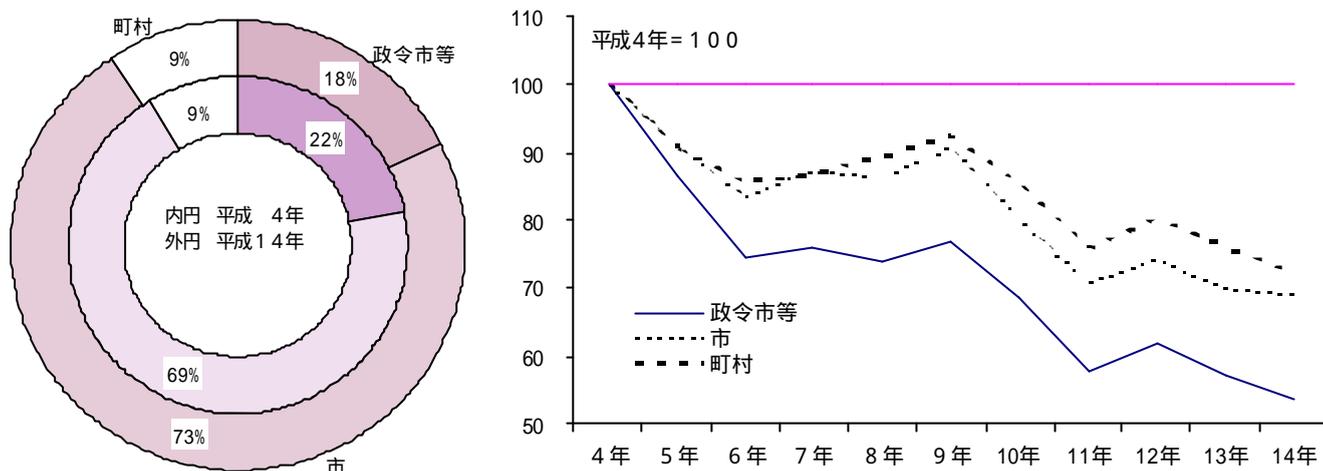


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村        |
|-----------------|-------------|
| 1 ( 8)          | 名古屋市 (愛知県)  |
| 2 ( 6)          | 北九州市 (福岡県)  |
| 3 (10)          | 武豊町 (愛知県)   |
| 4 ( 1)          | 高月町 (滋賀県)   |
| 5 (36)          | 川内市 (鹿児島県)  |
| 6 ( 2)          | 舞鶴市 (京都府)   |
| 7 (13)          | 松阪市 (三重県)   |
| 8 ( 4)          | 横浜市 (神奈川県)  |
| 9 (14)          | 常滑市 (愛知県)   |
| 10 ( 3)         | 土岐市 (岐阜県)   |
| 11 (56)         | 能登川町 (滋賀県)  |
| 12 (23)         | 甲西町 (滋賀県)   |
| 13 (30)         | 半田市 (愛知県)   |
| 14 (31)         | 京都市 (京都府)   |
| 15 ( 7)         | 相模原市 (神奈川県) |
| 16 (11)         | 瀬戸市 (愛知県)   |
| 17 (15)         | 苅田町 (福岡県)   |
| 18 (19)         | 川崎市 (神奈川県)  |
| 19 (12)         | 大阪市 (大阪府)   |
| 20 (22)         | 船橋市 (千葉県)   |

(15) 鉄鋼業

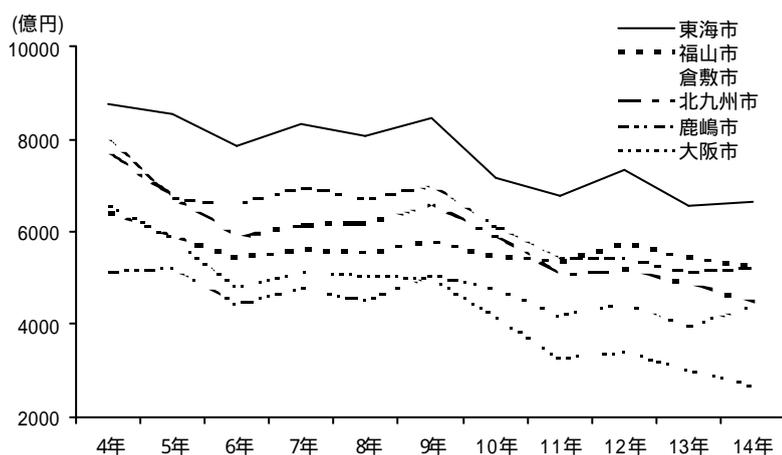
構成比をみると、政令市等は22% 18%と縮小、市は69% 73%と拡大、町村は9% 9%と変化はない。時系列でみると、平成9年、12年にはいずれも上昇しているものの、総じて低下傾向にある。

鉄鋼業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、東海市、福山市、倉敷市、北九州市、鹿嶋市の順となっている。上位市区町村は高炉を持つ鉄鋼一貫メーカーを有する市区町村となっている。

鉄鋼業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

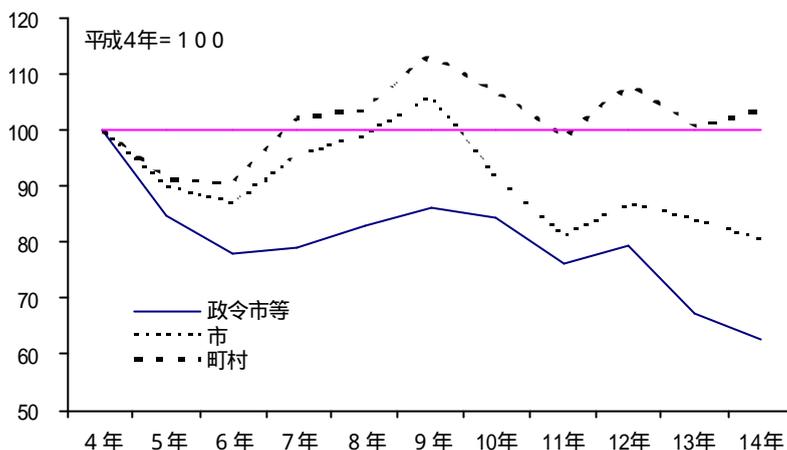
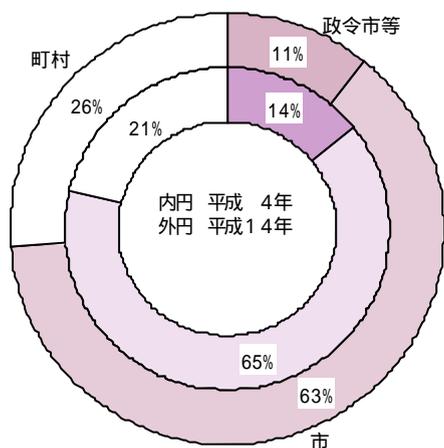


| 順位      | 市区町村        |
|---------|-------------|
| 1 ( 1)  | 東海市 (愛知県)   |
| 2 ( 5)  | 福山市 (広島県)   |
| 3 ( 2)  | 倉敷市 (岡山県)   |
| 4 ( 3)  | 北九州市 (福岡県)  |
| 5 ( 7)  | 鹿嶋市 (茨城県)   |
| 6 ( 6)  | 君津市 (千葉県)   |
| 7 ( 8)  | 川崎市 (神奈川県)  |
| 8 (11)  | 姫路市 (兵庫県)   |
| 9 (10)  | 千葉市 (千葉県)   |
| 10 (13) | 大分市 (大分県)   |
| 11 (12) | 加古川市 (兵庫県)  |
| 12 ( 4) | 大阪市 (大阪府)   |
| 13 ( 9) | 堺市 (大阪府)    |
| 14 (18) | 呉市 (広島県)    |
| 15 (15) | 和歌山市 (和歌山県) |
| 16 (16) | 尼崎市 (兵庫県)   |
| 17 (14) | 名古屋市 (愛知県)  |
| 18 (20) | 光市 (山口県)    |
| 19 (32) | 室蘭市 (北海道)   |
| 20 (17) | 市川市 (千葉県)   |

(16) 非鉄金属製造業

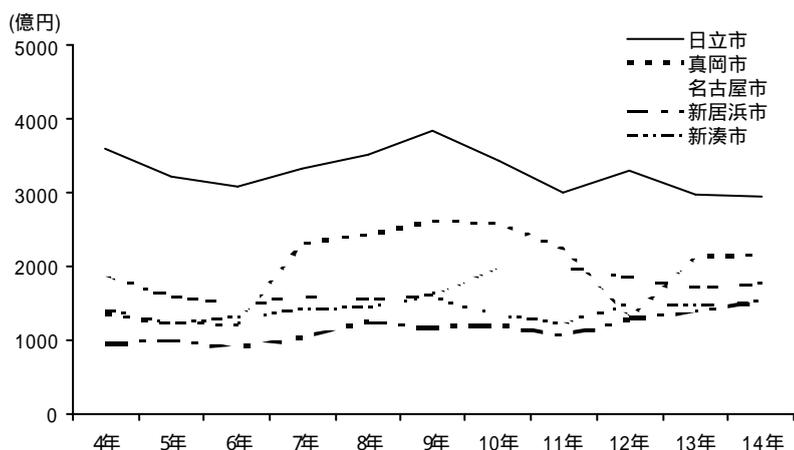
構成比をみると、政令市等は14% 11%、市は65% 63%と縮小、町村は21% 26%と拡大している。時系列でみると、町村ではほぼ平成4年水準で推移しているものの、政令市等、市では平成10年以降総じて低下している。

非鉄金属製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、日上市、真岡市、名古屋市、新居浜市、新湊市の順となっている。日上市は電線・ケーブル、銅第1次精錬・精製、真岡市はアルミ圧延、名古屋市はアルミ圧延、電線・ケーブル、新居浜市は銅第1次精錬・精製、新湊市はアルミ圧延、アルミ関連製品のウエイトが高い。

非鉄金属製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

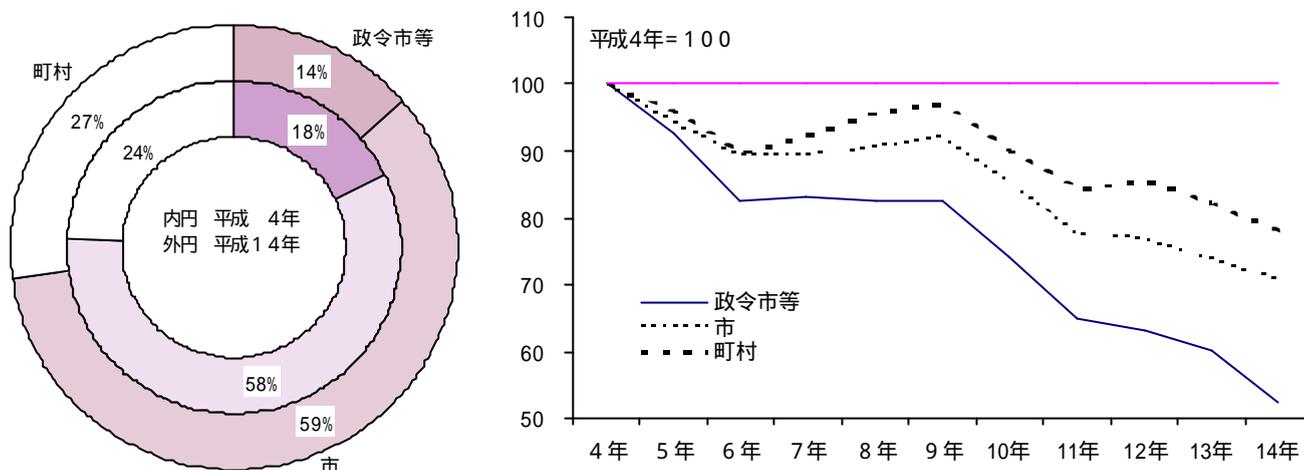


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村       |
|-----------------|------------|
| 1 ( 1)          | 日上市 (茨城県)  |
| 2 ( 7)          | 真岡市 (栃木県)  |
| 3 ( 4)          | 名古屋市 (愛知県) |
| 4 ( 16)         | 新居浜市 (愛媛県) |
| 5 ( 6)          | 新湊市 (富山県)  |
| 6 ( 14)         | 佐賀関町 (大分県) |
| 7 ( 2)          | 大阪市 (大阪府)  |
| 8 ( 9)          | 直島町 (香川県)  |
| 9 ( 20)         | 西条市 (愛媛県)  |
| 10 ( 3)         | 横浜市 (神奈川県) |
| 11 ( 11)        | 裾野市 (静岡県)  |
| 12 ( 17)        | 亀山市 (三重県)  |
| 13 ( 5)         | 堺市 (大阪府)   |
| 14 ( 13)        | 蒲原町 (静岡県)  |
| 15 ( 23)        | 三国町 (福井県)  |
| 16 ( 12)        | 府中市 (広島県)  |
| 17 ( 24)        | 深谷市 (埼玉県)  |
| 18 ( 15)        | 市原市 (千葉県)  |
| 19 ( 32)        | 八尾市 (大阪府)  |
| 20 ( 10)        | 沼津市 (静岡県)  |

(17) 金属製品製造業

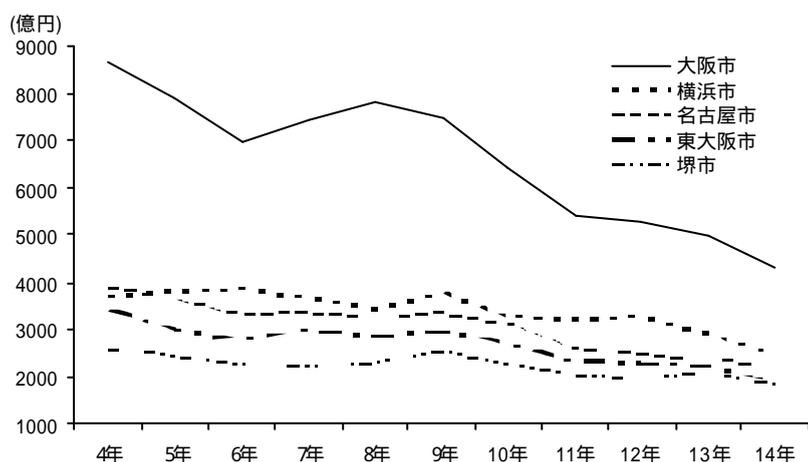
構成比をみると、政令市等は18% 14%と縮小、市は58% 59%と若干拡大、町村は24% 27%と拡大している。時系列でみると、平成10年以降、いずれも低下傾向で推移している。

金属製品製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、大阪市、横浜市、名古屋市、東大阪市、堺市の順となっている。大阪市はアルミサッシ・ドア、鉄骨、橋りょう等、横浜市は鉄骨、橋りょう、製缶、名古屋市はガス・石油機器、金属めっき・プレス等、堺市は鉄骨、橋りょうのウエイトが高い。

金属製品製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

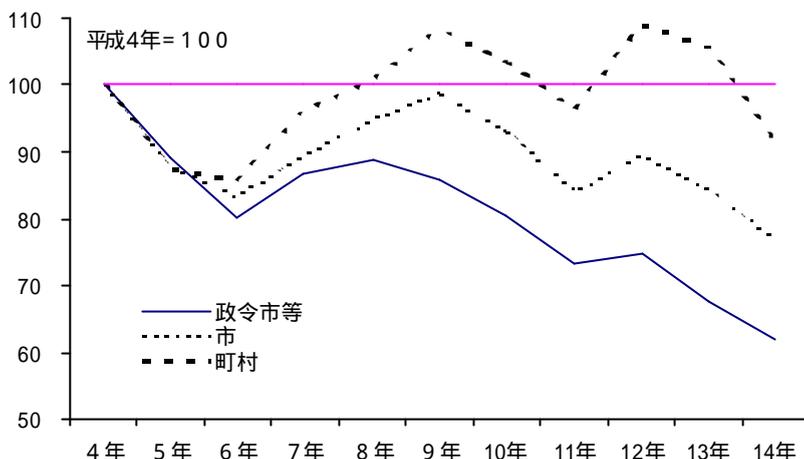
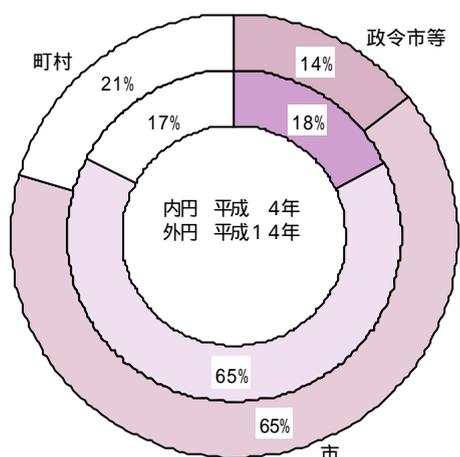


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村        |
|-----------------|-------------|
| 1 ( 1 )         | 大阪市 (大阪府)   |
| 2 ( 3 )         | 横浜市 (神奈川県)  |
| 3 ( 2 )         | 名古屋市 (愛知県)  |
| 4 ( 4 )         | 東大阪市 (大阪府)  |
| 5 ( 6 )         | 堺市 (大阪府)    |
| 6 ( 5 )         | 北九州市 (福岡県)  |
| 7 ( 19 )        | 明石市 (兵庫県)   |
| 8 ( 410 )       | 黒部市 (富山県)   |
| 9 ( 14 )        | 八尾市 (大阪府)   |
| 10 ( 7 )        | 高岡市 (富山県)   |
| 11 ( 8 )        | 尼崎市 (兵庫県)   |
| 12 ( 12 )       | 小山市 (栃木県)   |
| 13 ( 29 )       | 市原市 (千葉県)   |
| 14 ( 15 )       | 相模原市 (神奈川県) |
| 15 ( 39 )       | 足利市 (栃木県)   |
| 16 ( 11 )       | 川口市 (埼玉県)   |
| 17 ( 22 )       | 大口町 (愛知県)   |
| 18 ( 42 )       | 大和郡山市 (奈良県) |
| 19 ( 10 )       | 大田区 (東京都)   |
| 20 ( 17 )       | 浜松市 (静岡県)   |

(18) 一般機械器具製造業

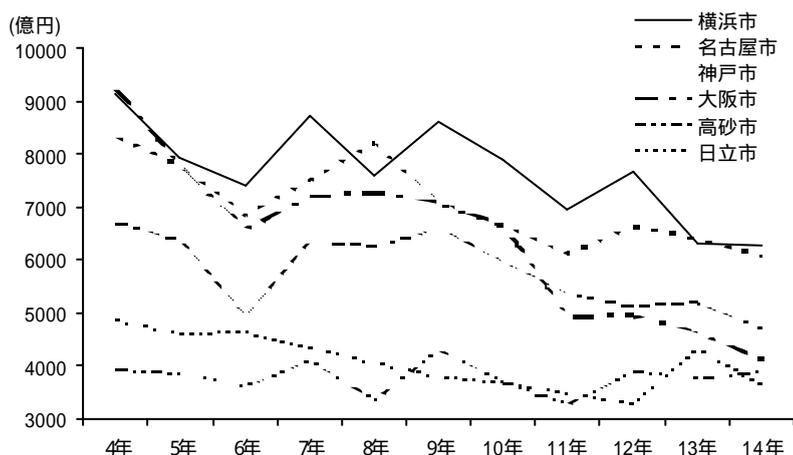
構成比をみると、政令市等は18% 14%と縮小、市は65% 65%と横ばい、町村は17% 21%と拡大している。時系列でみると、町村ではほぼ平成4年水準で推移、政令市等、市では12年に上昇したものの、13年、14年と低下に転じている。

一般機械器具製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、横浜市、名古屋市、神戸市、大阪市、高砂市の順となっている。横浜市は化学機械・装置、ボイラ・原動機、金属加工機械等の各種機械製品、名古屋市はパチンコ台、プラスチック加工機械、ミシン、半導体製造装置等、神戸市はボイラ・原動機、ポンプ、製織機械・編組機械等各種機械製品のウエイトが高い。

一般機械器具製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況



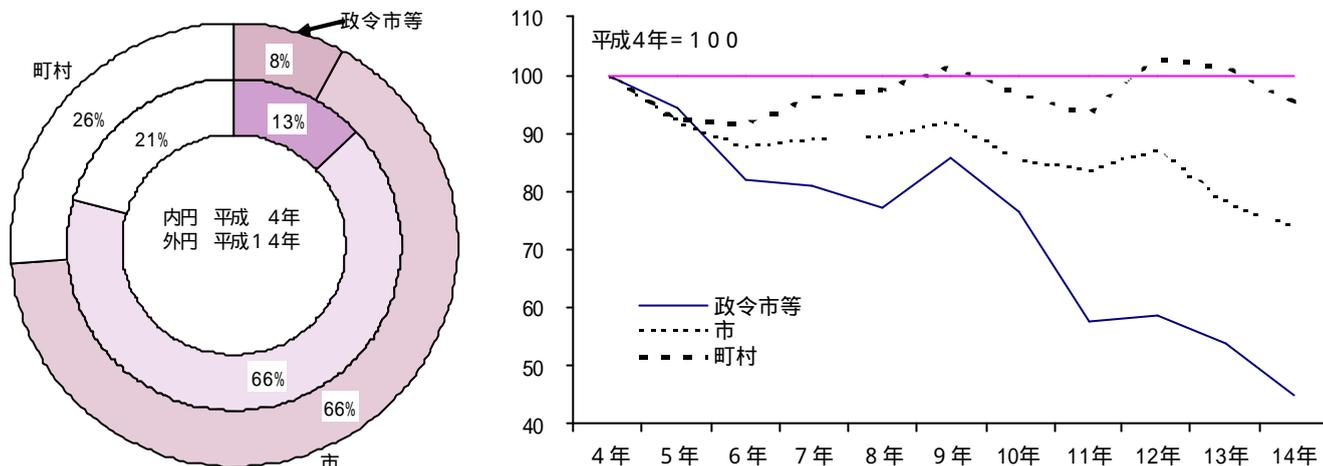
注：平成6年の神戸市の減少は、阪神・淡路大震災の発生により調査票の回収が困難となったことによる。

| 順位         | 市区町村        |
|------------|-------------|
| 1 ( 2 )    | 横浜市 (神奈川県)  |
| 2 ( 3 )    | 名古屋市 (愛知県)  |
| 3 ( 4 )    | 神戸市 (兵庫県)   |
| 4 ( 1 )    | 大阪市 (大阪府)   |
| 5 ( 9 )    | 高砂市 (兵庫県)   |
| 6 ( 5 )    | 日立市 (茨城県)   |
| 7 ( 8 )    | 堺市 (大阪府)    |
| 8 ( 7 )    | 大和郡山市 (奈良県) |
| 9 ( 11 )   | 相模原市 (神奈川県) |
| 10 ( 21 )  | 長崎市 (長崎県)   |
| 11 ( 15 )  | 広島市 (広島県)   |
| 12 ( 22 )  | 刈谷市 (愛知県)   |
| 13 ( 6 )   | 川崎市 (神奈川県)  |
| 14 ( 12 )  | 大田区 (東京都)   |
| 15 ( 10 )  | 取手市 (茨城県)   |
| 16 ( 46 )  | 海老名市 (神奈川県) |
| 17 ( 16 )  | 明石市 (兵庫県)   |
| 18 ( 14 )  | 枚方市 (大阪府)   |
| 19 ( 105 ) | 伊勢崎市 (群馬県)  |
| 20 ( 26 )  | 岡崎市 (愛知県)   |

(19) 電気機械器具製造業

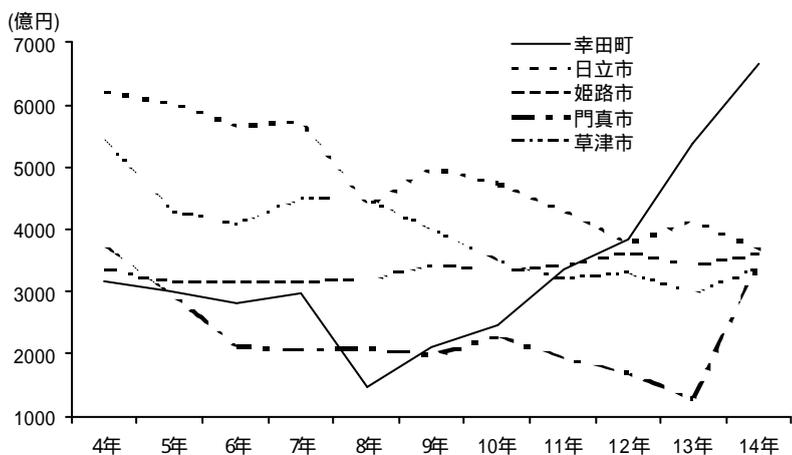
構成比をみると、政令市等は13% 8%と縮小、市は66% 66%と変化なし、町村は21% 26%と拡大している。時系列でみると、町村はほぼ平成4年水準で推移しているものの、政令市等、市では平成12年に上昇したものの、低下傾向で推移している。

電気機械器具製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、幸田町、日上市、姫路市、門真市、草津市の順となっている。幸田町はビデオ機器（VTR、ビデオカメラ、デジカメ等）、日上市は重電、家電、姫路市は内燃機関電装品（スタータ等）、電球・電気照明器具、重電（タービン発電機等）、門真市はビデオ機器（VTR、ビデオカメラ、デジカメ等）、草津市は家電（エアコン、冷蔵庫等）のウエイトが高い。

電気機械器具製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

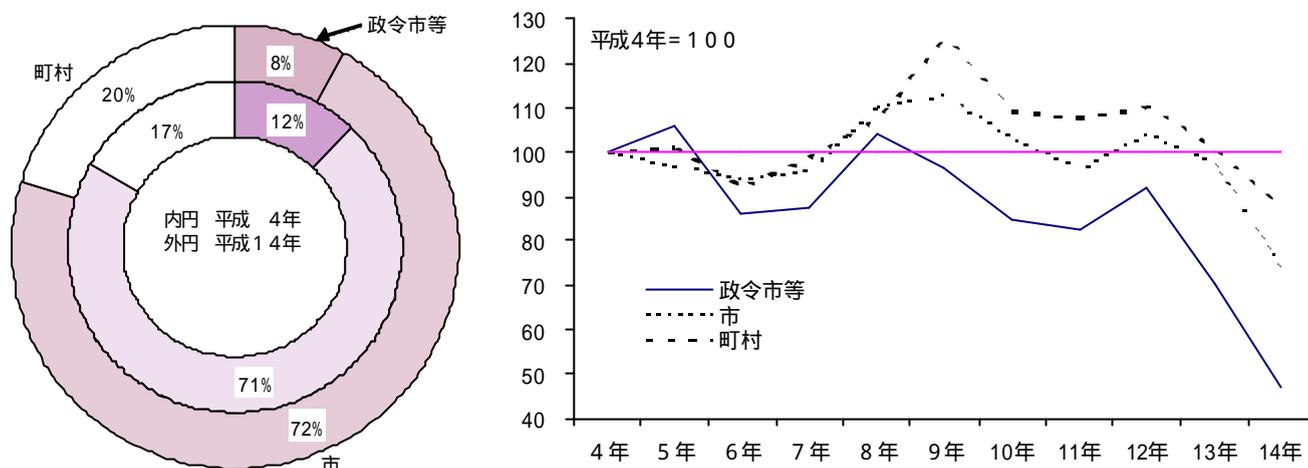


| 順位         | 市区町村        |
|------------|-------------|
| 1 ( 12)    | 幸田町 (愛知県)   |
| 2 ( 1)     | 日上市 (茨城県)   |
| 3 ( 11)    | 姫路市 (兵庫県)   |
| 4 ( 8)     | 門真市 (大阪府)   |
| 5 ( 2)     | 草津市 (滋賀県)   |
| 6 ( 15)    | 神戸市 (兵庫県)   |
| 7 ( 16)    | 湖西市 (静岡県)   |
| 8 ( 9)     | 静岡市 (静岡県)   |
| 9 ( 10)    | 八尾市 (大阪府)   |
| 10 ( 75)   | 美濃加茂市 (岐阜県) |
| 11 ( 4)    | 名古屋市 (愛知県)  |
| 12 ( 7)    | 府中市 (東京都)   |
| 13 ( 47)   | 洲本市 (兵庫県)   |
| 14 ( 1116) | 安岐町 (大分県)   |
| 15 ( 91)   | 小牧市 (愛知県)   |
| 16 ( 81)   | 小田原市 (神奈川県) |
| 17 ( 72)   | 日野市 (東京都)   |
| 18 ( 6)    | 京都市 (京都府)   |
| 19 ( 5)    | 大阪市 (大阪府)   |
| 20 ( 31)   | 津市 (三重県)    |

(20) 情報通信機械器具製造業

構成比をみると、政令市等は12% 8%と縮小、市は71% 72%と若干拡大、町村は17% 20%と拡大している。時系列でみると、平成12年まではいずれも他産業と比較して高水準で推移したものの、平成13、14年は大きな低下に転じている。

情報通信機械器具製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、府中市、米沢市、掛川市、横浜市、福島市の順となっている。府中市は汎用コンピュータ・同装置、米沢市はパソコン・同関連機器、電話機、掛川市は通信機械、携帯電話等、横浜市は通信機械等、福島市はオーディオ機器、プリンタ、通信機械、携帯電話等のウエイトが高い。

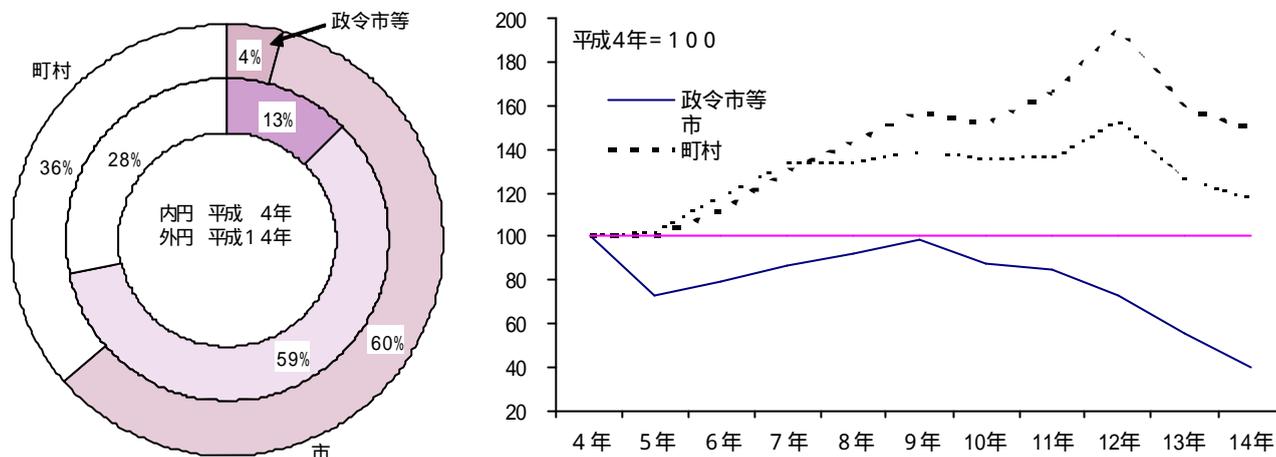
情報通信機械器具製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況



(21) 電子部品・デバイス製造業

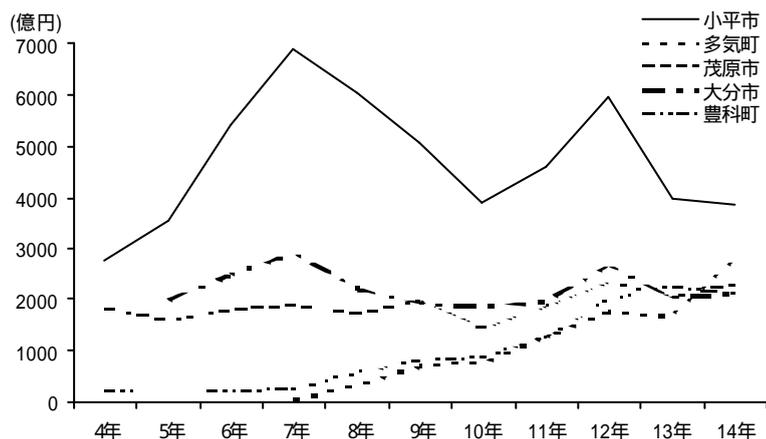
構成比をみると、政令市等は13% 4%と大幅に縮小、市は59% 60%と若干拡大、町村は28% 36%と拡大している。時系列でみると、政令市等は平成10年以降低下傾向で推移、市町村は平成12年まで上昇傾向で推移してきたものの、13年、14年と低下に転じている。

電子部品・デバイス製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、小平市、幸田町、大泉町、多気町、茂原市、里庄町、大分市、豊科町の順となっている。小平市、大分市は半導体集積回路、多気町、茂原市、豊科町は液晶素子やその他の電子部品のウエイトが高い。

電子部品・デバイス製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

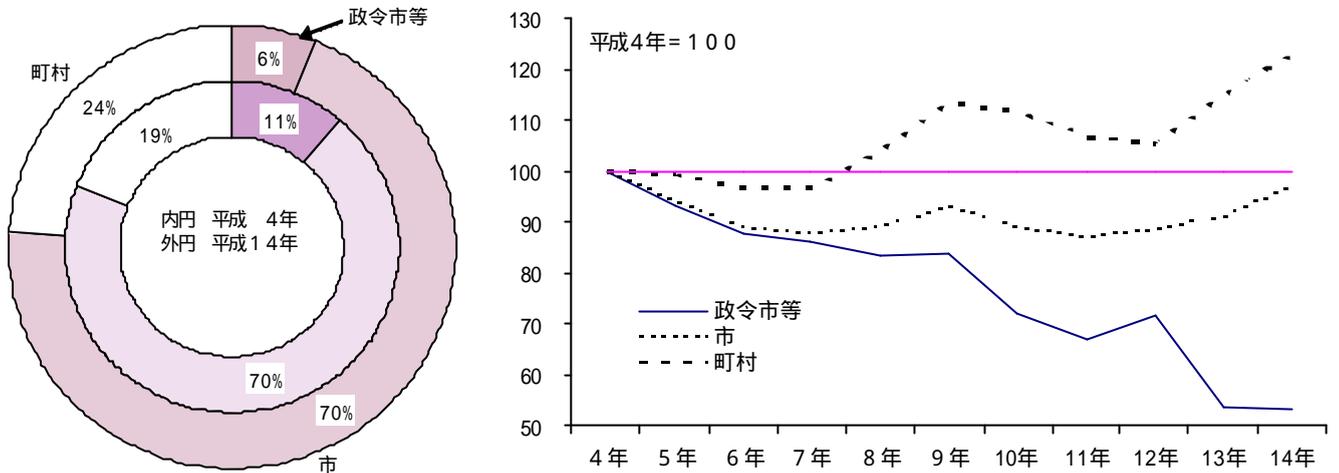


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村        |
|-----------------|-------------|
| 1 ( 4)          | 小平市 (東京都)   |
| 2 ( 542)        | 幸田町 (愛知県)   |
| 3 ( 3)          | 大泉町 (群馬県)   |
| 4 ( 1515)       | 多気町 (三重県)   |
| 5 ( 8)          | 茂原市 (千葉県)   |
| 6 ( 34)         | 里庄町 (岡山県)   |
| 7 ( 5)          | 大分市 (大分県)   |
| 8 ( 139)        | 豊科町 (長野県)   |
| 9 ( 16)         | 国分市 (鹿児島県)  |
| 10 ( 56)        | 鳥取市 (鳥取県)   |
| 11 ( 22)        | 仁賀保町 (秋田県)  |
| 12 ( 377)       | 福山市 (広島県)   |
| 13 ( 11)        | 会津若松市 (福島県) |
| 14 ( 15)        | 太子町 (兵庫県)   |
| 15 ( 400)       | 八尾市 (大阪府)   |
| 16 ( 7)         | 京都市 (京都府)   |
| 17 ( 171)       | 秦野市 (神奈川県)  |
| 18 ( 19)        | 高槻市 (大阪府)   |
| 19 ( 64)        | 大垣市 (岐阜県)   |
| 20 ( 836)       | 諫早市 (長崎県)   |

(22) 輸送用機械器具製造業

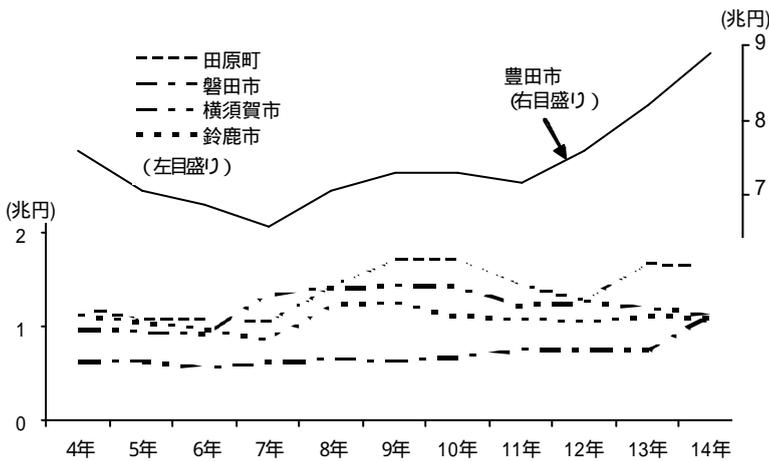
構成比をみると、政令市等は11% 6%と縮小、市は70% 70%と横ばい、町村は19% 24%と拡大している。時系列でみると、政令市等は12年は上昇したものの、13年には低下に転じている。町村は平成8年以降4年水準を上回って推移、ウエイトの大きい市は12年以降上昇している。

輸送用機械器具製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、豊田市、田原町、磐田市、横須賀市、鈴鹿市の順となっている。上位市区町村は、いずれも我が国を代表する自動車の大手メーカーが存在しており、自動車、車体、自動車部品が大半を占める。

輸送用機械器具製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

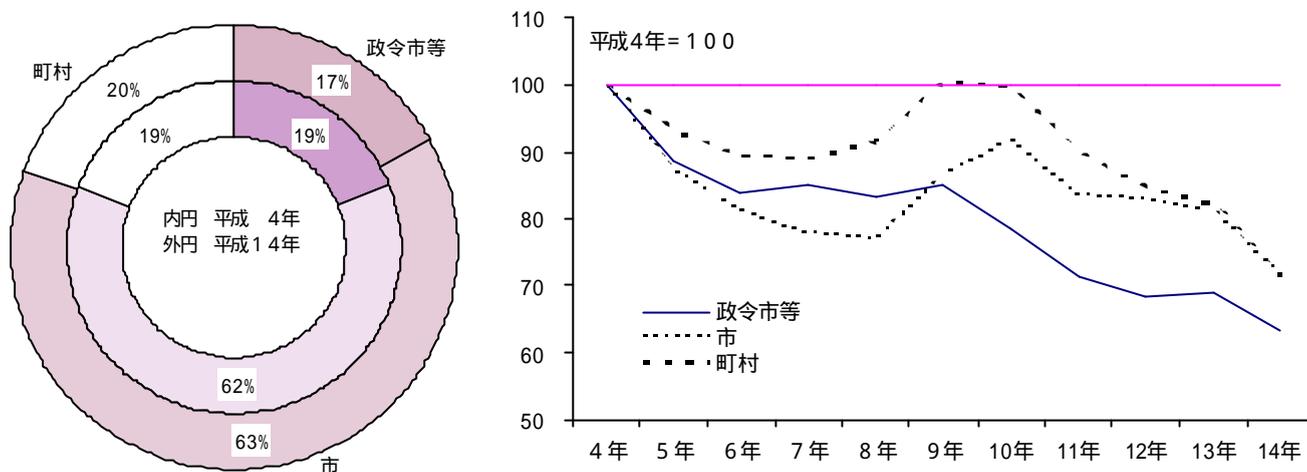


| 順位       | 市区町村        |
|----------|-------------|
| 1 ( 1)   | 豊田市 (愛知県)   |
| 2 ( 4)   | 田原町 (愛知県)   |
| 3 (22)   | 磐田市 (静岡県)   |
| 4 ( 7)   | 横須賀市 (神奈川県) |
| 5 ( 5)   | 鈴鹿市 (三重県)   |
| 6 (11)   | 浜松市 (静岡県)   |
| 7 (14)   | 刈田町 (福岡県)   |
| 8 ( 6)   | 狭山市 (埼玉県)   |
| 9 (20)   | 湖西市 (静岡県)   |
| 10 ( 9)  | 刈谷市 (愛知県)   |
| 11 (10)  | 太田市 (群馬県)   |
| 12 (12)  | 西尾市 (愛知県)   |
| 13 ( 3)  | 広島市 (広島県)   |
| 14 (15)  | 倉敷市 (岡山県)   |
| 15 (21)  | 安城市 (愛知県)   |
| 16 (23)  | 防府市 (山口県)   |
| 17 (17)  | 上三川町 (栃木県)  |
| 18 (25)  | 平塚市 (神奈川県)  |
| 19 (490) | 宮田町 (福岡県)   |
| 20 (16)  | 川崎市 (神奈川県)  |

(23) 精密機械器具製造業

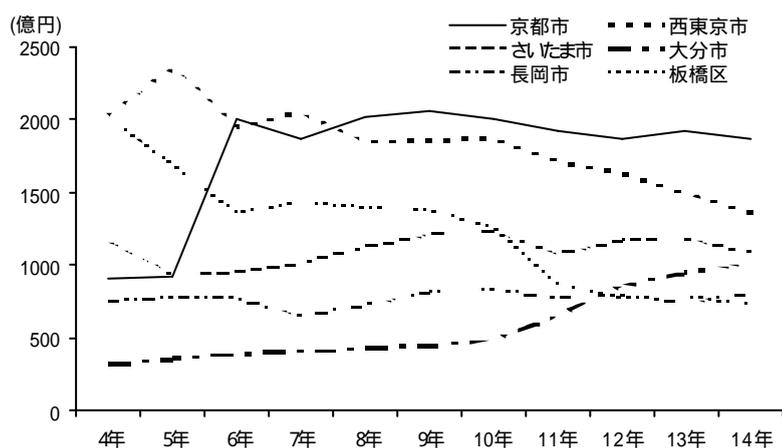
構成比をみると、政令市等は19% 17%と縮小、市は62% 63%、町村は19% 20%と若干拡大している。時系列でみると、平成9年は市町村で上昇したものの、11年以降は低下に転じている。

精密機械器具製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、京都市、西東京市、さいたま市、大分市、長岡市の順となっている。京都市は分析機器、試験機、各種計測機器、西東京市は時計、計測機器、さいたま市は光学機械、計器、大分市は医療用品、長岡市は計器のウエイトが高い。

精密機械器具製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況

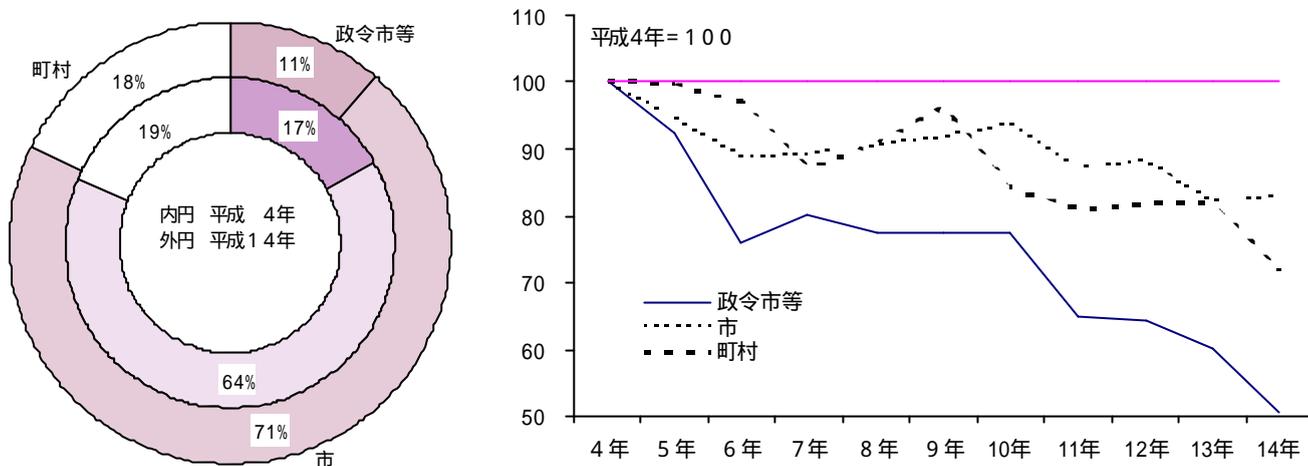


| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村         |
|-----------------|--------------|
| 1 ( 9 )         | 京都市 (京都府)    |
| 2 ( 1 )         | 西東京市 (東京都)   |
| 3 ( 4 )         | さいたま市 (埼玉県)  |
| 4 ( 34 )        | 大分市 (大分県)    |
| 5 ( 13 )        | 長岡市 (新潟県)    |
| 6 ( 11 )        | 宇都宮市 (栃木県)   |
| 7 ( 2 )         | 板橋区 (東京都)    |
| 8 ( 10 )        | ひたちなか市 (茨城県) |
| 9 ( 27 )        | 岡谷市 (長野県)    |
| 10 ( 12 )       | 鯖江市 (福井県)    |
| 11 ( 19 )       | 大田区 (東京都)    |
| 12 ( 6 )        | 横浜市 (神奈川県)   |
| 13 ( 32 )       | 昭和町 (山梨県)    |
| 14 ( 52 )       | 富士宮市 (静岡県)   |
| 15 ( 25 )       | 和歌山市 (和歌山県)  |
| 16 ( 16 )       | 岡崎市 (愛知県)    |
| 17 ( 42 )       | 蒲都市 (愛知県)    |
| 18 ( 23 )       | 塩尻市 (長野県)    |
| 19 ( 20 )       | 島田市 (静岡県)    |
| 20 ( 33 )       | 栗東市 (滋賀県)    |

(24) その他の製造業

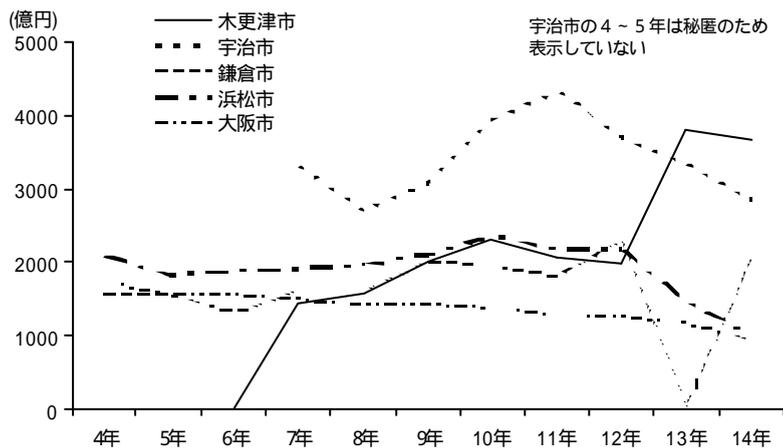
構成比をみると、政令市等は17% 11%と縮小、市は64% 71%と拡大、町村は19% 18%と微減となっている。時系列でみると、いずれも平成4年を下回って推移している。

その他の製造業の政令市等、市、町村別  
出荷額構成比、出荷額推移



平成14年の出荷額の大きなものを市区町村別にみると、木更津市、宇治市、鎌倉市、小牧市、浜松市の順となっている。木更津市、宇治市は家庭用ゲーム機、鎌倉市は武器、浜松市はピアノのウエイトが高い。

その他の製造業のおもな市区町村の推移と  
平成14年上位市区町村の状況



| 順位<br>カッコ内は平成4年 | 市区町村       |
|-----------------|------------|
| 1 ( 788 )       | 木更津市 (千葉県) |
| 2 ( 1 )         | 宇治市 (京都府)  |
| 3 ( 5 )         | 鎌倉市 (神奈川県) |
| 4 ( 2 )         | 小牧市 (愛知県)  |
| 5 ( 3 )         | 浜松市 (静岡県)  |
| 6 ( 4 )         | 大阪市 (大阪府)  |
| 7 ( 6 )         | 豊岡市 (静岡県)  |
| 8 ( 245 )       | 東根市 (山形県)  |
| 9 ( 16 )        | 佐倉市 (千葉県)  |
| 10 ( 10 )       | 御殿場市 (静岡県) |
| 11 ( 662 )      | 下館市 (茨城県)  |
| 12 ( 1174 )     | 尾西市 (愛知県)  |
| 13 ( 329 )      | 富岡市 (群馬県)  |
| 14 ( 15 )       | 豊田市 (愛知県)  |
| 15 ( 9 )        | 神戸市 (兵庫県)  |
| 16 ( 14 )       | 甲府市 (山梨県)  |
| 17 ( 835 )      | 多久市 (佐賀県)  |
| 18 ( 218 )      | 上野市 (三重県)  |
| 19 ( 13 )       | 東大阪市 (大阪府) |
| 20 ( 30 )       | 岩槻市 (埼玉県)  |

## 6.まとめ

製造業の過去 50 年間の集中度の推移と、1992年（平成 4 年）から 10 年間の地域別、産業別の動向を概観すると、

- (1) 高度成長前期には規模の拡大による効率化を求めて、製造業は都市、工業地帯に集中し、経済も毎年 10%を超えるような高成長を達成した。産業の集中は 60 年頃まで続きピークを迎えた。
- (2) 高度成長期後期には産業の成長に伴って面的な分散が進んだ。集中度が急速に低下していることから、地域的分散が伺われる。その後、2 度のオイルショックで、集中度の低下の変曲点が表れた。これは、経済成長率の鈍化に伴い地域への分散のペースが鈍化したことを表していると考えられる。
- (3) 80 年代後半は、バブル経済に移行し、海外への投資が活発化した。80 年代後半から 90 年代にかけての、生産拠点の海外への移転の動きは、産地の生産能力の減少という形で集中度の低下に寄与した可能性がある。90 年代にバブル経済が崩壊し、その後 HI でみる集中度はなだらかな低下傾向にある。
- (4) ここ 10 年の製造業を地域別（政令市等、市、町村）産業ごとにみると、事業所数、従業者数はどの地域も長期低落傾向にあるが、特に政令市等における減少が顕著である。出荷額については町村は横ばい傾向で推移している地域が多い。町村部で出荷額の増加がみられる地域は、東北、中部、九州などである。
- (5) 特徴的な産業をみると、食料品製造業は、コンビニなどに弁当、加工食品を供給する製造事業所が増加していることなどから、町村の出荷がゆるやかに増加している。繊維工業は、輸入の増加傾向により、どの地域も出荷額の減少が続いている。印刷・出版同関連産業は、以前は消費地に近いところで印刷が行われていたが、通信・交通網の発達により町村へ生産が移管しており、町村の出荷額が上昇傾向にある。電子部品・デバイス製造業は、情報機器向けの需要が強く、市、町村とも上昇傾向にある。輸送用機械器具製造業は、町村の伸びが高く、市の減少幅も小さい。

このように、この半世紀の我が国製造業の動向を工業統計でみると、集中、分散、新規立地、廃業等をダイナミックに繰り返しつつ、成長してきたことを読み取ることができる。